

履修要項・シラバス

平成29年度



TEIKYO

帝京大学大学院

公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻

専門職学位課程（専門職大学院）／博士後期課程

帝京大学建学の精神

努力をすべての基とし偏見を排し
幅広い知識を身につけ
国際的視野に立って判断ができ
実学を通して創造力および人間味豊かな
専門性ある人材の養成を目的とする

帝京大学大学院公衆衛生学研究科の目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、
患者や地域住民の健康回復・増進と、
社会全体の健全な医療体制の持続的な発展と
医療の質の継続的な向上に寄与するために、
様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で
且つ科学的判断に基づく問題解決型の対応ができる
高度専門職業人と、その活動を統括指導できる公衆衛生の
高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・
上級指導者としての人材の養成を目的とする。

専 門 職 学 位 課 程

目 次

1. 教育目的	3
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）	4
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	5
4. コンピテンシー	6
5. 課題研究について	8
6. 養成人材別の達成すべき能力	9
7. 履修の申込みと変更の届け出等について	10
8. 授業科目の履修について	11
9. 成績評価に対する質問・異議申出	13
10. 主な年間スケジュール	14
11. 事故等について	15
12. その他留意事項	16
13. 授業科目の概要	19
14. カリキュラムマップ	25
15. 成績評価および GPA 制度について	27
16. 海外提携大学との交流及び留学支援	28
17. アカデミックアドバイザー（AA）	29
18. 研究科委員会賞	29
19. 教員一覧	33
20. 授業科目一覧	36
21. 授業時間割	37
22. 授業計画（シラバス）	41
23. 履修届・履修科目変更届（見本）	142
帝京大学 組織図・規程関係	261

専 門 職 学 位 課 程

1. 教育目的
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）
4. コンピテンシー
5. 課題研究について
6. 養成人材別の達成すべき能力
7. 履修の申込みと変更の届け出について
8. 授業科目の履修について
9. 成績評価に対する質問・異議申出
10. 主な年間スケジュール
11. 事故等について
12. その他留意事項

1. 教育目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、人々の命を守り健康を増進させるとともに、健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上、健康を維持する社会づくりに寄与する。そのために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決ができる高度専門職業人を養成する。また保健医療活動に代表される、人々の生命を守る活動を統括指導できる高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ公衆衛生の上級管理者・上級指導者の養成を目的とする。このような公衆衛生の人材育成を通じた社会貢献を行うことが研究科の教育目的である。

- 公衆衛生学専攻（専門職学位課程）は、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決ができる高度専門職業人の養成を目指している。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

学位授与に要求される知識・能力を修得するために、公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 国際標準として公衆衛生専門職に求められる一定レベルの知識・技能を習得するため、米国の公衆衛生教育協会 Council on Education for Public Health（以下、CEPH）の認定基準に準拠し、「疫学」、「生物統計学」、「社会行動科学」、「保健政策・医療管理学」、「産業環境保健学」の5つの領域（科目群）を設け、養成する人材像にかかわらず、各領域の基礎科目を必修科目としている。
2. 社会や環境との関わりで人間を捉えるという疫学的な思考と公衆衛生マインドを涵養するため、養成する人材像にかかわらず、「疫学」と「生物統計学」の講義・演習、ならびに「公衆衛生倫理学」を必修科目として設定している。
3. 現場の問題に発し、現場の実践に資する能力を身につけるため、理論先行の公衆衛生教育から一步踏み出し、ケースメソッド演習やグループ討論、現場実習による実践教育に重点を置き、「調査・研究法概論」によりリテラシー教育を行い、各養成人材に適合する以下のような演習科目や実習科目を配置するとともに、「インターンシップ」科目も設けている。さらに知識の体系化を図る、言い換えれば実践の場に還元できる能力を身に付けるために、「課題研究」を必修としている。

養成する人材像と関連する科目の具体例（一部）

【総括産業医・労働衛生コンサルタント・産業衛生学会専門医】産業環境保健学実習、産業精神保健学演習

【産業・環境保健の作業環境測定士・環境計量士】産業環境保健学実習

【保健医療機関・コメディカル部門の管理者】医療経営学演習、医療管理学実習

【臨床試験・生物統計の専門家】臨床疫学、基礎生物統計学、データ解析演習、社会調査データ解析演習

【国際保健の専門家】国際保健学演習、国際保健学実習

【地域保健医療の専門家】地域保健学

【公衆衛生行政の専門家】医療保障政策論など

4. 公衆衛生上の広範かつ多様な課題に対応するための公衆衛生専門職業人に求められる資質・能力（コンピテンシー）と問題解決力を身に付けるため、「課題研究」「リーダーシップ・マネジメント論」の科目を設けている。
5. 海外の最新事情や最先端の知識に触れてグローバルな視点を身につけるため、5つの領域ごとの世界的権威であるハーバード大学やオックスフォード大学、ケンブリッジ大学等の教授陣による「特別講義（冬季集中）」を設けている。加えて、主にアジア諸国の提携校の学生も参加して実施される英語による講義科目（「Healthcare Management」、「Universal Health Coverage & Aging Society」）も設けている。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

公衆衛生学研究科専門職学位課程は、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決ができる高度専門職業人の養成を目指している。従って、高度専門職業人養成という観点から以下のような能力を身につけ、かつ2年コースの場合は2年以上、1年コースの場合は1年以上在学し、課題研究報告書の審査に合格し、所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 公衆衛生の5つのコア領域（疫学、生物統計学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学、行動社会疫学）の基本的内容を理解している。
2. 環境・社会との関わりから健康事象を理解し、健康問題に包括的な視点をもって対処できる専門的知識・技術・態度を習得する。特に今日の医学・医療や人々の健康を取り巻く状況の変化を理解し、実際の現場で対処できる専門的な技術と指導力を有している。
3. 集団を対象とした健康事象の把握手法、および因果関係推定の技法であり、根拠に基づく医療（EBM：Evidence Based Medicine）に必須である疫学を修得することにより、科学的根拠に基づく医療や公衆衛生活動を実践できる専門的な技術と指導力がある。
4. 予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に理解し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力を有している。
5. 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に把握し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力がある。
6. 対象となる活動の場が国内外の如何を問わず、公衆衛生の課題についてグローバルな視点を備えて事象の理解ができる。
7. 研究科で定めた専門職学位課程に必要なコンピテンシー（別記）を備えている。

4. コンピテンシー

学術の深奥をきわめることなく、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学術及び卓越した能力を培うことを目的とする専門職大学院として、専門職たるにふさわしい能力・資質を明示することは、学習を行う上でもその教育を行う上でも有用と考えられる。いま欧米で広がっているアウトカム基盤型教育と修得すべきコンピテンシー設定は世界的流れになっている。本学の建学の精神にある国際的視野を持つためには国際的基準に則った教育は必須である。公衆衛生専門職に求められるコンピテンシーについて、米国公衆衛生大学院協会（ASPPH）は 2006 年に 7 つの項目を提示している。本研究科ではこれらの背景も含め検討した結果、以下の 8 項目の資質・能力を専門職学位課程（MPH）のコアコンピテンシーとして定めた。

I. コミュニケーションと情報科学

データを収集、取捨選択・統合して意味のある情報とし、目的に応じて戦略的に情報提供や知識共有を進める能力

1. 他者と意思疎通し、他者から学び、他者に働きかける積極的な姿勢を持つ。
2. コミュニケーションに必用十分な文書作成と説明・会話ができる。
3. データの収集、処理、伝達のために使える手段と設備、制度を説明できる。
4. 社会、組織、個人の要因やそのヘルスリテラシーに応じたコミュニケーションができる。

II. 多様性と文化

世界及び国内、地方・地域のさまざまな個人や社会（組織）と協力して活動する能力

1. 異なる文化的価値観や社会的伝統に応じた保健計画や戦略を策定できる。
2. 公衆衛生に関係するさまざまな職種の役割を説明できる。
3. 人々が自ら参加する公衆衛生活動の成立条件を説明できる。
4. 健康格差を生み出している多様で構造的な不平等の要因を説明できる。

III. リーダーシップ

組織や社会の抱える問題の解決のために未来を見据えた目標を作り、伝え、共有させるとともに、それに向かって献身的に取り組む能力

1. 組織の使命と役割および将来目標について明確に説明できる。
2. 人々が合意形成し、協力して問題解決できるよう動機づけできる。
3. チーム作り、交渉および紛争解決ができる。
4. 全ての行動で透明性を維持し、誠実かつ勤勉に活動できる。

IV. 医学・生物学的基礎

公衆衛生の基礎に医学・生物学があることを理解しそれに基づき判断する能力

1. 生物学的、化学的、物理的な要因と健康の関わりを説明できる。
2. 疾病の予防と管理のために、生物学の原則を適用することができる。

V. 専門家としての職業意識

身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を十分に理解・共感し、公衆衛生上の倫理規範に基づいて実践する能力

1. 清廉潔白さ、熱意、誠実、すべての人を尊重するという意識を常に持つことができる。
2. 公衆衛生の倫理要項や人権規約、社会正義を公衆衛生の実践に適用できる。
3. 常に専門職としての知識と技術の維持向上に努め社会の変化に対応できる。

VI. 計画策定

個人や社会の健康向上を図るための戦略を描き、発展させ、実施し、評価するための計画(保健計画)を策定する能力

1. 保健計画における目的、測定可能な目標、関連の活動、期待される成果を説明できる。
2. 個人、組織、社会の様々な要求に優先順位をつけ、それに基づいて資源配分を行える。
3. 保健計画について「構造」、「過程」、「結果」のそれぞれ評価の相違を説明できる。
4. 定性的・定量的評価各々の信頼性と妥当性、強み、限界、適切な応用法を説明できる。

VII. システム思考

公衆衛生的事象は、人間と社会制度との動的相互作用から生まれることを理解し、システムが個人・グループ・組織・社会・環境間の関係に及ぼす影響を認識する能力

1. システムアプローチを公衆衛生的問題に応用する際の長所・短所を評価できる。
2. 公衆衛生システムの変更で生じる意図しない結果を同定、説明できる。
3. 政治的・社会経済的政策の変化に伴う地方・国家・国際レベルでの影響を分析できる。
4. 公衆衛生関連の問題やシステムの世界的潮流、相互依存の影響を分析、説明できる。

VIII. 国際通用性

公衆衛生分野の世界の最新の情報を収集・理解し、国際通用言語でコミュニケーションでき、国内外の実践活動についてグローバルな視点で述べる能力

1. 世界の最新の公衆衛生学上の成果や動向を収集、理解できる。
2. 英文で報告書などを作成することができ、国際学会等で発表・討論することができる。
3. 自分の関わる公衆衛生学上の課題についてグローバルな視点で述べることができる。

5. 課題研究について

公衆衛生の体系的知識と技能を問題解決の実践に活かす能力を会得するため、問題解決型の課題研究報告書を作成する。その際にはフィールドにおける主体的な活動も重視する。

こうした公衆衛生活動の実践能力や公衆衛生の実務家としての資質をより具体化し、8つのコンピテンシーとして明示化し、教育課程においてその各項の習得を目指す。

問題解決型アプローチは、帝京大学公衆衛生学研究科で目指す問題解決能力を備えた実務を担う高度専門職養成に必要な素養である。課題研究、特殊研究の報告形式に限らず、授業などを通じてこのアプローチで問題を考える力を育むことを目指している。問題解決型アプローチは公衆衛生上の問題を発見し、その問題の具体的な原因と結果を考えることから始まる。そして原因と結果の定式化をもとに定量的に問題を解析して問題の程度を把握する。同時に、既存の文献等の情報から当該公衆衛生課題に対する既存の知見を分析する。その中で、自らが取り組む公衆衛生の問題がいかんして検証されているか否かを把握しておく。さらに問題を取りまく社会的要因や利害関係者（ステークホルダー）を列举して、問題解決に際して配慮すべき関係者の整理を行う。このような分析を中心としたプロセスの後、問題解決の実践のために解決策の計画を立案する。複数立案された施策についてはその優先順位をつけて実行する。その後、行った施策の評価を行い、次のプロセスにつなげる。こうした一連の実践的プロセスが問題解決型アプローチで、5つのステップ（1）課題形成、（2）問題の分析、（3）解決策立案、（4）解決策実施、（5）評価 に整理している。

6. 養成人材別の達成すべき能力

高度専門職業人養成という観点から求められる主な養成人材別の達成すべき能力要件は以下のとおりである。

【総括産業医・労働衛生コンサルタントなどの指導的産業医・産業看護職】

単に医療機関から産業現場に場を移した医療活動というのではなく、環境要因が強くかわり、医療機関とは異なった法律制度や会社組織の論理も深く理解し、組織全体の健康意識を上げる（ヘルシーカンパニーを作る）活動ができる能力を身に付ける。その中には産業保健の高度な専門家である労働衛生コンサルタントの資格を取得する（試験に合格する）だけでなく、産業現場で発生する新たな問題を自ら調査・研究し、その解決ができる能力も含まれる。

【コメディカル部門の管理者】

医療専門分野の視点に加えて、医療・保健の分野を全体的に俯瞰しながら管理できる知識・技能を習得する。

【臨床試験統括責任医師】

臨床試験研究を実施する上で、それに必要な疫学・生物統計学の知識・技能を修得し、実務家として実施可能なレベルでの臨床試験計画書を作成し評価する能力を習得する。

【臨床試験看護師】

臨床試験研究を実施する上で、それに必要な疫学・生物統計学の知識・技能を習得し、試験統括医師が行う臨床試験計画書作成を支援すると同時に、円滑な試験実施のための同意説明や倫理規定を理解し管理業務の推進を図れるコーディネート能力を習得する。

【生物統計専門家】

生物統計学の実践的知識・技術は勿論のこと、国内の規制や管理体制の知識を習得していることに加えて多国間での治験や臨床試験に対応できるレベルに到達する。

【国際保健の専門家】

国際保健の現状や保健医療制度を理解することに加えて、途上国等の国際保健の現場において、全体的な視野で問題を調査・分析し意思決定するために不可欠となる科学的判断力、マネジメント能力とコミュニケーション技能を習得する。さらに国際保健の実務家として根本を成す多様な価値観、職業倫理や公共哲学の考え方を身に付ける。

【専門知識・能力を持った行政職員】

公正と効率が重視される国内外の行政機関において、自ら情報を収集・解析し、科学的な検討に基づく施策を立案するとともに、その施策を利害関係者と調整する中で実現につなげる能力を身に着ける。

【非政府組織・非営利団体等職員】

公衆衛生の問題に取り組むため、情報を収集・吟味し、科学的根拠を挙げて問題解決に取り組む、現場に適用可能なプロジェクトを計画準備・実行・評価する技能を身に着ける。
また、住民から国家レベルにいたるまでの各利害関係者とのコミュニケーション能力を養う。

7. 履修の申込みと変更の届け出等について

（１）履修の申込み

大学院生は毎年、年度始めにアカデミックアドバイザー（AA）のアドバイスを受けて、その年度内に履修を希望する科目を選び、所定の用紙（履修届）で受講を申し込む必要がある。

アカデミックアドバイザーに関しては、「17. アカデミックアドバイザー（AA）／29頁」を参照のこと。

（２）履修科目の変更

履修科目を変更する場合（年度始めに受講申請した科目の受講を取り止める場合、および、新たな科目の履修を希望する場合）には、アカデミックアドバイザーと相談して、所定の用紙（履修科目変更届）で届け出を行う必要がある。なお、年次途中に新たな科目の履修を希望する場合には、その科目の履修が可能かどうか、科目責任者に事前に問い合わせる（すでに定員を満たしている場合や、希望者がおらず講義が予定されていない場合等がありえる）。

（３）課題研究について

大学院生は指定される研究指導教員の指導のもと、課題研究報告書をまとめ、その成果を発表する（中間報告会、最終報告会）。その成果は、課題研究報告書（修士論文に該当）という形で執筆する。取り組むテーマやその具体的な内容については、指導教員とよく相談し、またその指導を受ける。テーマ決定後は、所定の期日までにその旨の届け出を行う必要がある。

（４）休学・コースの変更について

在学中に一身上の都合で、休学あるいはコース変更（1年コースから2年コースに変更）を希望する場合、アカデミックアドバイザーに相談の上、所定の用紙にて届け出を行う。

※ 上記（１）～（４）の届け出の提出先は事務部教務課（大学院担当）である。

（５）科目の聴講について

実習を除くすべての科目で単位履修を目的とせず聴講として講義を受けることができる。但し、科目責任者の許可を事前に求めること。

8. 授業科目の履修について

【2年コース】

(1) 履修の概略

医療系学部出身者（※1）	原則として、1年目に必修科目と専門科目（選択科目）を履修し、2年目は残りの専門科目（選択科目）の履修と課題研究に集中する。
非医療関係学部出身者	原則として、1年目に「医学基礎・臨床医学入門」（選択必修科目）を含む必修科目と専門科目（選択科目）を履修し、2年目は残りの専門科目（選択科目）の履修と課題研究に集中する。

（※1）医療系国家資格（医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士、等）の各免許を取得するための所定の課程を修了した者、その他研究科委員会で認めた者。

(2) 修了要件

必修科目7科目19単位（「課題研究」6単位含む）ならびに選択科目11単位以上、合計30単位以上の取得が求められる。なお、非医療関係学部出身者は、「医学基礎・臨床医学入門」（2単位）を含む合計32単位の取得が求められる。「課題研究」については、公衆衛生上の問題解決に必要な能力・資質（専門職学位課程のコアコンピテンシー／6頁参照）を有していると認められ、かつ最終報告書の審査に合格すれば修了要件が満たされる。

なお、2年コースの在学期間は4年を超えることはできない。（大学院学則第9条2項）また、履修科目の登録の上限は、年間32単位までである。

基礎疫学（演習を含む）	4単位	必修
基礎生物統計学（演習を含む）	4単位	必修
健康行動科学概論	2単位	必修
保健政策・医療管理学概論	1単位	必修
産業環境保健学概論	1単位	必修
公衆衛生倫理学	1単位	必修（共通科目）
医学基礎・臨床医学入門（※1）	2単位	選択必修（共通科目）
課題研究（※2）	6単位	必修（共通科目）

（※1）医療系学部出身者については、「医学基礎・臨床医学入門」（2単位）の受講は必要ない。

（※2）課題研究は2年次で履修登録を行う。

注意 平成29年度入学以外の者は、入学年度の修了要件を確認のこと。

【1年コース】

（１）履修の概略

医療系学部出身者（※１）	前期に必修科目と専門科目（選択科目）を履修し、後期は残りの専門科目（選択科目）と課題研究に集中する。実習科目については、夏季休業期間等を活用して集中的に履修する。
非医療関係学部出身者	前期に「医学基礎・臨床医学入門」（選択必修科目）を含む必修科目と専門科目（選択科目）を履修し、後期は残りの専門科目（選択科目）と課題研究に集中する。実習科目については、夏季休業期間を活用して集中的に履修する。

（※１）医療系国家資格（医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士、等）の各免許を取得するための所定の課程を修了した者、その他研究科委員会で認めた者。

（２）修了要件

必修科目 7 科目 19 単位（「課題研究」6 単位含む）ならびに選択科目 11 単位以上、合計 30 単位以上の取得が求められる。なお、非医療関係学部出身者は、「医学基礎・臨床医学入門」（2 単位）を含む合計 32 単位の取得が求められる。「課題研究」については、公衆衛生上の問題解決に必要な能力・資質（専門職学位課程のコアコンピテンシー／6 頁参照）を有していると認められ、かつ最終報告書の審査に合格すれば修了要件が満たされる。

なお、1 年コースの在学期間は 2 年を超えることはできない。（大学院学則第 9 条 2 項）また、履修科目の登録の上限は、年間 40 単位までである。

基礎疫学（演習を含む）	4 単位	必修
基礎生物統計学（演習を含む）	4 単位	必修
健康行動科学概論	2 単位	必修
保健政策・医療管理学概論	1 単位	必修
産業環境保健学概論	1 単位	必修
公衆衛生倫理学	1 単位	必修（共通）
医学基礎・臨床医学入門（※１）	2 単位	選択必修（共通）
課題研究	6 単位	必修（共通）

（※１）医療系学部出身者については、「医学基礎・臨床医学入門」（2 単位）の受講は必要ない。

9. 成績評価に対する質問・異議申出

1. 成績評価に対して質問がある場合は当該科目の担当教員（科目責任者）に質問をする。
2. 成績評価に対して異議がある場合は内容および理由をできる限り詳細に記入し（様式任意）事務部教務課大学院担当まで提出する。
3. 成績評価に対しての質問・異議申出は成績発表後の2週間以内まで受付ける。期間外またはやむを得ない事由で成績通知書を受領しなかった場合も、期間の延長は認めない。

10. 主な年間スケジュール

入学式	4月4日（火）午前
健康診断	4月3日（月）－5日（水），7日（金）
新年度オリエンテーション （履修手続、コンピテンシー基盤型 教育の概要、等）	4月5日（水）
前期授業の期間（a学期、b学期）	4月6日（木）－8月4日（金）
課題研究ガイダンス	4月20日（木）
履修届けの提出期限	4月20日（木）（※1）
創立記念日	6月29日（木）
課題研究 テーマ提出期限（※2）	7月3日（月）－7日（金）（予定）
課題研究 研究計画・中間報告会	7月27日（木）（予定）
夏季休業期間（※3）	8月7日（月）－9月15日（金）
後期授業の期間（c学期、d学期）	9月19日（火）－2月9日（金）
課題研究 中間報告会（※2）	10月12日（木）（予定）
課題研究 最終報告会（※2）	12月14日（木）（予定）
学位記授与式 （帝京大学グループ卒業式）	3月中旬

（※1）履修変更届けは、各学期内で実施される授業科目ごとに以下のようになる。

- ◇ 前期前半（a学期）：履修届け提出により確定 / 締切日：4月20日（木）
- ◇ 前期後半（b学期）：締切日：6月23日（金）
- ◇ 後期前半（c学期）：締切日：9月29日（金）
- ◇ 後期後半（d学期）：締切日：11月24日（金）
- ◇ 夏季（s学期）：実習科目は原則変更が認められません。
- ◇ 冬季（w学期）：実習科目は原則変更が認められません。

特別講義は開始一ヶ月前まで変更が可能です。

注）夏季（実習科目）と冬季（実習科目と特別講義）に関しては、履修届け提出前にアカデミックアドバイザーと十分に相談した上で決定すること。

（※2）1年コースおよび2年コース2年生が対象となります。なお、課題研究の授業日程（指導日程）は、指導教員と相談して個別に設定する。

- (※3) 実習科目の多くは夏季休業期間中(s 学期)に開講される。履修希望者は実習の授業日程についてアカデミックアドバイザーおよび科目担当責任者と事前に設定する。

1 1. 事故等について

実習においては指導教員または実習先の担当者の指導のもと、十分留意の上で行う。

(1) 万が一、事故等が生じた場合

- ・通学中や、実習先への移動中に転倒してケガをした場合等
- ・炎天下での実習中に熱中症となり入院した場合等

①次のいずれかまで連絡する。

- ・帝京大学 公衆衛生学研究科 受付 TEL 03-3964-2108
- ・帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課大学院担当 TEL 03-3964-3294 (直通)

②事故の報告書の提出(様式任意)が必要である。

(2) 入学時に加入している保険について

- ・「学研災」・・・学生教育研究災害傷害保険
- ・「学研賠」・・・学研災付帯賠償責任保険
- ・「こども保険」・・・こども総合保険(感染予防等)

(3) 海外への実習の場合

治療費等は立替払いである。保険請求の際は必ず領収書・診断書等を提出する。英文の場合は日本語訳が必要となる。あくまでの実習中の事故等が対象である。

通常の海外旅行保険への申し込みを勧める。

- ・取扱代理店：株式会社 帝京サービス 保険部
- ・帝京大学 大学棟 3 号館 2 階 Tel 03-5943-1988

12. その他留意事項

(1) 交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合、または台風、大雪等でキャンパスの在る地域に、暴風警報（大雨、洪水警報のみは除く）、大雪警報が発令された場合は、以下の通り休講とする。授業、実習が開始されてから発令された場合は、大学、実習先の指示に従う。

1. 埼京線、山手線、京浜東北線のすべてが不通となった場合

暴風警報または大雪警報が、**東京 23 区**に発令された場合

運転再開の時刻、警報の解除時刻	授業、実習の取扱い
午前 6 時 00 分まで	平常どおり
午前 6 時 00 分から午前 10 時 00 分まで	3 時限目より授業を行う
午前 10 時 00 分以降	1 日休講

2. 上記以外の交通機関の不通、警報が発令されている地域があっても、休講とはしない。 登校不可能な状態の場合は必ず大学あるいは実習先に連絡し、指示を受ける。

(2) 学費納入について

1. 所定の学費は、前期・後期の二期に分け、前期は 5 月末日まで、後期は 10 月末日まで、それぞれ定められた期限内に納入する。詳細は、大学から送付される振込用紙と案内を参照する。
2. 期限内に納入することが困難な場合は、納入期限までに所定の学納金延納願を事務部教務課大学院担当に提出し、許可を得る。
3. 留年した場合、及び復学した場合の学納金については、新たに定められた金額を納入する。
4. 在学中に授業料、その他納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納入する。
5. 休学中及び停学中であっても学費は全額納入しなければならない。
6. 既納の学費は如何なる理由があっても返還しない。

専 門 職 学 位 課 程

- 1 3. 授業科目の概要
- 1 4. カリキュラムマップ
- 1 5. 成績評価および GPA 制度について
- 1 6. 海外提携大学との交流及び留学支援
- 1 7. アカデミックアドバイザー (AA)
- 1 8. 研究科委員会賞

13. 授業科目の概要

① 疫学

近年の医療において常にその重要性が指摘される EBM : Evidence Based Medicine (根拠に基づく医療) は、臨床疫学から派生したものであり、過去の疫学的研究等の成果を体系的に利用することで現在の医療行為を評価し、より適切な医療を指向するための技法である。すなわち、適切な医療を目指すためには EBM の技法を用いることが極めて有益であると同時に、一方で EBM を賢明に使いこなすためには土台である臨床疫学の深く幅広い理解が不可欠であると言える。また、医療に関連した知見が証拠 (エビデンス) となるためには、発生した結果として示されることが必要であり、またそれが偶然の結果ではないことを示すためには、集団における結果として示されることが必須である。加えて倫理面での考慮が必要な人間集団での結果の解析による証拠の提示においては、データの収集や解釈における専門家としての高度な技能および正当な注意が求められる。このことは実に疫学の方法論そのものを理論的かつ実践的に学ぶことの重要性を示しており、疫学の専門家のみでなく、公衆衛生に関わるすべての専門領域において基本的な対象認識と問題解決の基礎理論として重要な科目である。

そこで、本科目区分には、「基礎疫学」、「臨床疫学」といった理論講義と共に演習を含む実践的な授業科目を設けている。さらに、「質的研究」、「スタディクリティーク」、「リスク科学」といったより実践的な技法を学ぶ授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (疫学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

② 生物統計学

厚生労働省、文部科学省のすすめる臨床研究・治験の活性化の取り組みにおいても指摘があるように、わが国において生物統計学の専門家は圧倒的に不足している。また、臨床試験の実効性を担保するための臨床試験統括医師や臨床試験看護師についても国際的なレベルからは十分な人材が確保できているとは言えない。臨床試験の実効性を担保するためには、専門的な統計手法を駆使し試験計画を立案し試験結果を科学的に解析・評価できる人材、ならびに新薬の承認に関する規制や手続においてガイドラインを遵守しながら臨床試験を統括できる人材、さらには計画書作成や実施運用の面から積極的に支援できる人材の養成が必要となる。

そこで、本科目区分には、「基礎生物統計学」、「応用生物統計学」、「臨床試験概論」、「社会調査データ解析概論」といった理論講義 (「基礎生物統計学」、「臨床試験概論」には演習を含む) の他に、「データ解析演習」、「社会調査データ解析演習」といった演習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (生物統計学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

③ 社会行動科学

近年、医療現場における患者を中心とするコミュニケーションの問題に起因する公衆衛生上の課題は増加の一途を辿っている。これに対処するためには、医師が診察で患者との関係を築く上でのコミュニケーション能力や、行動科学理論に基づく科学的な判断・指導のための専門的かつ実践的な技術が必要となる。同時に、ヘルスプロモーション（＝健康増進：人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス）といった、個人の生活行動のみでなく環境整備の双方で相乗効果をもたらすアプローチ手法についての体系的な理解も求められる。

そこで、本科目区分には、「健康行動科学概論」、「健康教育学」、「社会疫学」といった理論講義および演習の他に、「終末期医療実習」といった実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義（社会行動科学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

④ 保健政策・医療管理学

近年の自然環境や社会環境の急激な変化に伴って、新型インフルエンザなど新たに顕在化している公衆衛生上の課題は増加かつ複雑化の傾向にあり、保健政策を科学的に判断・立案・実行できる保健行政の専門家や第一線の実務者の必要性が益々高まっている。具体的には、健康危機管理などの緊急時において疫学上の迅速判断・対応ができる、また予防対策においては的確なエビデンスを選択・吟味し適切な健康情報や予防医療の考え方を提示できる高度専門職業人が求められている。すなわち、保健医療政策・公衆衛生活動・予防医学実践への適用にあたっては、EBMの基本的手続きに沿って合理的で高い効果を上げるための専門的な知識と技術が必要となる。同時に、近年のグローバルな社会構造や疾病構造の急激な変化に伴って発生している新たな公衆衛生上の課題に対しては、早急な専門的対応が国際社会から強く求められている。しかしながら国際医療協力において、政策デザイン、行動計画立案、ならびにその遂行まで指導的立場で効果的に推進できる専門家が慢性的に不足している。

さらに、わが国では超高齢社会の進展に伴って医療費が増加の一途をたどる中、医療の質を一定に保ちながら効率化を図るというトレードオフの課題に直面している。このような困難な状況下で個々の患者の方針を検討する時には医療制度の深い知識や医療経済学の方法論が必要となる。

一方で、医療システムのあり方とその管理をめぐる問題に対して、地域を含めた医療体制、医療経営、医療安全、医療の情報化といった視点からの変革とリスクマネジメントの重要性も求められている。例えば、医療構造が複雑化する今日においては、各医療機関で病院評価の基準をクリアーするためには医療体制の再構築と科学的経営手法が必要となりそこでは病院経営のプロフェッショナルが求められる。また、医療の質を向上させるためには、経営効率化や地域保健を含めた業務連携の標準化、臨床データの有効活用、医療安全の確保等が求められるが、これを実現するための情報基盤を構築・管理できる専門的な人材が必要となるし、また医療スタッフ間の意思疎通の問題解決にあたっては、相手の階

層や専門領域などの障壁を超えて有効なコミュニケーションを実現するための専門的な方法論を身に付けておく必要がある。

そこで、本科目区分には、「保健政策・医療管理学概論」、「ヘルスポリシー概論」、「医療管理学・安全管理学概論」、「医療経済学」、「医療保障政策論」、「リーダーシップ・マネジメント論」、「地域保健学」、「国際保健学概論」、「国際母子保健学」、「ヘルスデータ分析入門」、「Healthcare Management」、「Universal Health Coverage & Aging Society」といった理論講義（「地域保健学」、「Universal Health Coverage & Aging Society」には演習を含む）の他に、「医療経営学演習」、「医療管理学実習」（実習先：本学附属病院）、「国際保健学演習」、「国際保健学実習」（海外現地での訪問見学先：国際医療機関、NGO、行政機関、医療機関等）といった演習・実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義（保健政策・医療管理学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

⑤ 産業環境保健学

産業保健については国全体の疾病構造が大きく転換するとともに中高年労働者が増加してきた結果、職域においては感染症に変わって循環器疾患やがんがより大きな問題になってきた。現代における化学プラントや建築現場などの職域で発生する健康障害に対しては、業務起因性の判断といった疫学的検討が求められる。また技術革新、産業構造の変化にもなう作業態様の多様化、心理的ストレスの増大などが無視できない状況となってきた。自殺の原因となる、うつ病では多くの患者が疲れ、不眠以外に、吐き気、動悸といった身体症状を訴え、重症になるケースも多い。逆に体の病気でも心の問題、ストレスで症状を悪化させたり発症を誘発したりする。治療、予防のためには患者の心身両面から状態を把握する必要がある。そのためには、職場のメンタルヘルスについて科学的根拠に基づく有効な予防法が不可欠である。同時に、産業保健の専門家として関連法規や制度、ならびに衛生管理組織といった実務運営のための専門知識と管理能力も必要とされる。

このような状況に対して、現場で中心となって活動するのは産業医であるが、独立的に実務に対応できるだけの系統的養成が不十分であるのが現状である。作業環境測定士、衛生管理者等の養成に関しても同様のことが言えよう。

一方、環境保健学は、「人間の健康に環境が及ぼす影響」についての学問であり、大気汚染などの環境有害物質から騒音や気温など物理的環境を対象とするが、今日では温暖化現象など地球規模の環境問題とその対策についても取り扱うようになっている。そのため、有害物質による生体影響の同定や環境防御対策について特定の地域集団だけでなく国際的な枠組みで環境保健対策を計画・実行できる人材が求められている。

そこで、本科目区分には、「産業環境保健学概論」、「産業保健学」、「環境保健学」、「産業看護マネジメント論」、「産業精神保健学演習」、といった理論講義（「産業保健学」、「環境保健学」、「産業看護マネジメント論」、「産業精神保健学演習」には演習を含む）においても、アジア地域での共同研究の事例紹介や科学・物理系関係講座の環境衛生専門家と協同で、環境測定のデザインと測定の実施、環境影響評価と改善計画の立案といった実践目的

に沿った内容も含まれている。加えて「産業環境保健学実習」（現場での実習）といった実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、産業医出身の学生で希望者に対しては、関連する国家資格（特に、労働衛生コンサルタント）を受験するための養成教育を設けるとともに、作業環境測定士、衛生管理者等に対しても能力と経験に応じて労働衛生コンサルタントへの基礎教育を実施する。

さらに、海外からの招聘教授による「特別講義（産業環境保健学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

⑥ 共通科目

i 課題研究

国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場として問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の集大成として課題研究を行う。

到達目標は、講義・演習科目を通じて学んだ知識の体系化を図ることにある。すなわち、各人材養成像に沿ったコースワークの後半期間を用いて、より専門的・実務的な研究課題として取り組み、学んだ知識を実践の場に還元できる能力を身に付けるものである。この高度専門職業人に資する実務適応能力を身に付けるため、プラクティカルな要素が有効であると考え、課題研究の期間内に学習手段の一つとして短期間の現場実習、現場見学、専門家（指導教員）との協働、フィールドワーク、シミュレーションワーク等を含めるものとする。

したがって、課題研究を担当する研究指導教員により特定の研究課題について個別に研究の実践、指導がなされ、現地でのフィールドワーク、調査、情報収集、分析等を経て課題研究報告書を作成する。成績評価については、この報告書を審査して決定される。

課題研究の期間中に特定の調査や分析等の作業を行った場合には、調査結果や分析結果も含めて審査される。また、短期の実習等に参加した場合には実習報告書や実習先の評価も審査の対象となる。いずれの場合においても、課題研究達成までのプロセスも審査の対象となる。

なお、課題研究の指導方法、発表スケジュール、評価内容等については、学期中の適切な時期に院生向けに別途ガイダンスを実施する。

ii 公衆衛生倫理学

公衆衛生の現場において意思決定を行う際に必要となる以下のような公衆衛生倫理の基本的な知識・考え方を学ぶ。公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎について学ぶとともに、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。真実の告知、インフォームド・コンセント、パターンリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対しても事例を通じた討論を行う。さ

らに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。

これらは、治験等の臨床試験や病院の管理等、広く保健医療の現場での判断基準として不可欠な要素であるため、5つの科目区分とは独立した共通科目として設定する。

iii 医学基礎・臨床医学入門

臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義をする。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。そうした基礎医学の学習の中で「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるか、個人と集団それぞれの見地からアプローチする。臨床医学は、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患を理解するための基本的事項を中心として、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて学ぶ。

iv 調査・研究法概論

帝京大学出身の MPH、DrPH ホルダーが共通して身につけておくべき、業務効率化の手法、調査・研究法の基礎（Input：情報の入手・管理法、情報の分析法、Output：情報の表出法）について習得することを目的とする。加えて、本学の特徴である、問題解決型アプローチの実例についても紹介する。効率的かつ確実な業務・研究の取り回しは、仕事の成果を左右する。このような理解の上に、幅広い視点から調査・研究法の基礎を学び、実践できることを目標とする。

v 健康医療情報学

公衆衛生専門家は、様々な背景を持つ関係者に対して、最新の健康・医療情報について信頼性を踏まえてわかりやすく伝えることが求められる。本講義では、公衆衛生専門家として健康・医療情報を取り扱うために求められる知識・スキルについて、講義形式に基づいて学ぶとともに、グループワークによる演習形式にて、実際に健康・医療情報を収集し、批判的に情報を吟味し、信頼性を判断したうえで、他人にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションを行うことで、健康・医療情報を専門家として取り扱うためのスキルを身につける。

vi インターンシップ

インターンシップとは、学生が在学中に、国際機関、行政機関、企業・団体等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことを指す。これら業務に参加することにより、講義の中で学んだ知識を活かし、より実践的な問題解決能力を高め、公衆衛生の専門職にふさわしい素養（コンピテンシー）を身につけることを目的とする。また、

実務の現場において公衆衛生の基本的な実務（地域や職場の理解、チームでの勤務、プロジェクト管理、各方面へのコミュニケーション、モニタリング能力など、）の実践能力を向上させることも目的としている。

⑦ 特別講義

本学の欧米提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）より各分野の世界的権威である教授陣5名を招聘し専門領域ごとに「特別講義」（毎年1月に集中講義形式で開催）を設定する。集中講義としている理由は、特定の期間にまとめて各専門領域の海外の最新事情や最先端の知識を効率的に学習できる利便性を重視したためである。また、毎年1月に設定している理由としては、公衆衛生学について一通りの知識を習得した後にさらなる見識を深めるといった学習プロセスを提供するためである。

この特別講義は全て英語で実施されるが、本学の教員らが講義のポイントの解説や課題演習等で学生の理解をサポートするための補講が設けられる。さらに、英語力に自信のない学生や専門領域のターミノロジーを理解していない学生を対象に、希望者があれば英語力養成を目的とした事前の課外講座を開設する。

14. カリキュラムマップ(学位授与方針と開講科目との対応関係)

(公衆衛生学研究科 専門職学位課程)

M
P
H

ディプロマポリシー (DP)												
公衆衛生学研究科専門職学位課程は、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決ができる高度専門職業人の養成を目指している。従って、高度専門職業人養成という観点から以下のような能力を身につけ、かつ2年コースの場合は2年以上、1年コースの場合は1年以上在学し、課題研究報告書の審査に合格し、所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。												
DP1	公衆衛生の5つのコア領域(疫学、生物統計学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学、行動社会疫学)の基本的内容を理解している。											
DP2	環境・社会との関わりから健康事象を理解し、健康問題に包括的な視点をもって対処できる専門的知識・技術・態度を習得する。特に今日の医学・医療や人々の健康を取り巻く状況の変化を理解し、実際の現場で対処できる専門的な技術と指導力を有している。											
DP3	集団を対象とした健康事象の把握手法、および因果関係推定の技法であり、根拠に基づく医療(EBM: Evidence Based Medicine)に必須である疫学を修得することにより、科学的根拠に基づく医療や公衆衛生活動を実践できる専門的な技術と指導力がある。											
DP4	予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に理解し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力を有している。											
DP5	身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に把握し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力がある。											
DP6	対象となる活動の場が国内外の如何を問わず、公衆衛生の課題についてグローバルな視点を備えて事象の理解ができる。											
DP7	研究科で定めた専門職学位課程に必要なコンピテンシー(別記)を備えている。											

科目区分	科目名	単位			配当 年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		必修	選必	選択								
疫学	基礎疫学	4			1	◎	○	◎	○	△	△	○
	臨床疫学			4	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
	質的研究			1	1・2	○	○	○	◎	○	△	△
	スタディクリティーク			2	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
	リスク科学			1	1・2	○	◎	○	◎	○	△	◎
	特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)			1	1・2	◎	○	◎	△	○	◎	○
生物統計学	基礎生物統計学	4			1	◎	◎	○	○	○	△	○
	応用生物統計学			2	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
	データ解析演習			2	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
	臨床試験概論			2	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
	社会調査データ解析概論			1	1・2	○	○	◎	○	○	△	△
	社会調査データ解析演習			1	1・2	○	○	◎	○	○	△	△
社会行動科学	特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ)			1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○
	健康行動科学概論	2			1	◎	◎	△	○	○	△	○
	健康教育学			1	1・2	○	○	○	○	○	△	△
	社会疫学			1	1・2	○	○	○	○	◎	△	△
	終末期医療実習			1	1・2	○	○	△	○	◎	△	○
	特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ)			1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○
保健政策・医療管理学	健康行動科学概論	2			1	◎	◎	△	○	○	△	○
	健康教育学			1	1・2	○	○	○	○	○	△	△
	社会疫学			1	1・2	○	○	○	○	◎	△	△
	終末期医療実習			1	1・2	○	○	△	○	◎	△	○
	特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ)			1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○
	保健政策・医療管理学概論	1			1	◎	◎	○	○	○	△	○
	ヘルスポリシー概論			1	1	○	○	○	◎	○	△	○
	医療経済学			2	1・2	○	○	○	◎	△	△	△
	医療保障政策論			1	1・2	○	○	○	◎	○	△	○
	地域保健学			2	1・2	○	○	○	○	◎	△	△
	国際保健学概論			2	1・2	△	○	△	○	◎	◎	△
	国際保健学演習			2	1・2	△	○	○	○	◎	◎	○
	国際母子保健学			1	1・2	△	○	○	○	◎	◎	△
	国際保健学実習			1	1・2	△	○	○	○	◎	◎	○
	ヘルスデータ分析入門			2	1・2	△	○	◎	○	△	△	△
産業環境保健学	医療管理学・安全管理学概論			2	1	○	○	○	◎	△	△	◎
	リーダーシップ・マネジメント論			1	1・2	○	○	○	◎	◎	△	◎
	医療経営学演習			2	1・2	△	○	○	◎	△	△	○
	医療管理学実習			1	1・2	△	○	○	◎	△	△	○
	Healthcare Management			1	1・2	○	◎	○	○	△	◎	△
	Universal Health Coverage & Aging Society			1	1・2	○	◎	○	○	○	◎	△
	特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ)			1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○
	産業環境保健学概論	1			1	◎	◎	○	○	○	△	○
	産業保健学			2	1・2	○	◎	○	○	○	△	△
	環境保健学			2	1・2	○	◎	○	○	○	△	△
	産業看護マネジメント論			1	1・2	△	○	○	◎	○	△	◎
	産業精神保健学演習			1	1・2	△	○	○	○	◎	△	○
	産業環境保健学実習			1	1・2	△	○	△	○	◎	△	○
	特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ)			1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○
共通	公衆衛生倫理学	1			1	△	○	○	○	◎	△	◎
	医学基礎・臨床医学入門		2		1	△	◎	○	○	○	△	△
	調査・研究法概論			1	1	△	◎	○	○	○	△	△
	健康医療情報学			1	1・2	△	◎	◎	○	△	△	△
	インターンシップ			1	1・2	△	◎	◎	◎	◎	○	○
	課題研究	6			1・2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

注) ◎関連大、○関連中、△関連小

研究課題

産業環境
保健学

保健政策・医療管理学概論

倫理學
公衆衛生

15. 成績評価および GPA 制度について

成績評価については、試験・レポート等（筆記試験・口述試験・実技試験・レポート・発表内容）を中心として評価するが、科目によっては講義への参加（出席・討論への参加）等の学習状況等を加味して評価する。学外の実習に参加した場合については、実習先の外部評価も成績評価に反映させる。

成績評価制度として、GPA（Grade Point Average）制度を導入している。この制度の導入の趣旨は、1.キャンパスとして統一した基準を作成すること、2.公平性に優れた基準であること、3.国際的に通用する基準であることとし、学生諸君の学修の成果を、GPA という客観的な数値で評価するものである。

また、この制度は、欧米の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しており、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職等に際し、学力を証明する指標として、海外でも通用する成績評価制度となっています。

（1）成績等の表示および成績評価基準

区分	評価	GPA	成績評価基準	評価内容	（英文内容）
合格	S	4.0	100～90 点	特に優れた成績を表す	（Excellent）
	A	3.0	89～80 点	優れた成績を表す	（Good）
	B	2.0	79～70 点	妥当と認められる成績を表す	（Satisfactory）
	C	1.0	69～60 点	合格と認められる最低限の成績を表す	（Pass）
不合格	D	0.0	59 点以下	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表す	（Failure）
対象外	N	—	—	他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表す（既修得単位認定）	（Credits Transferred）

（2）GPA の算出方法

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{修了要件単位数における総履修登録単位数（D の単位数を含む）}}$$

16. 海外提携大学との交流及び留学支援

(1) ハーバード公衆衛生大学院の正規科目の一部受講免除

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、ハーバード公衆衛生大学院（HSPH）への留学を希望する学生への支援策として、HSPH カリキュラムのコアコース免除の可能性を提供している。但し、その場合には、公衆衛生学専攻（専門職学位課程）の正式カリキュラムである「特別講義」の修了者となり、且つ、特別講義の講師である HSPH 教員にその旨を正式に願い出る手続きが必要となる。これは、HSPH の該当科目の一部に相当する単位を公衆衛生学専攻（専門職学位課程）で取得しているため、一部の講義の受講を免除してもらうことを願い出るというものである。

ちなみに、特別講義の単位認定は、特別講義の講師の評価を最重要視し、最終的に公衆衛生学専攻（専門職学位課程）の研究科委員会にて最終決定する。

(2) 成績優秀者に対する留学推薦

成績優秀者に対しては本人が留学を希望する場合、一定の選考基準に基づきハーバード大学公衆衛生大学院等に推薦し、そこでの勉学・研究・学位取得を援助するシステムを準備している。以下の要件をおおよそその基準として、研究指導教員等との協議を経て研究科長による推薦を行う。

(ア) 語学力 (TOEFL 587 点以上)

TOEFL に関しては紙ベース 587 点、現在はコンピュータベースが主流なのでその換算だと 240 点となる。

(イ) GRE スコア

- ・ Verbal と Quantitative の合計で最低 1200
- ・ Analytical Writing で 4 以上

(ウ) 公衆衛生学専攻（専門職学位課程）での成績

17. アカデミックアドバイザー（AA）

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、学生の入学時の履修指導や学期中の勉学支援（授業の復習・補習等）、ならびに進路決定や就職活動等に必要となる情報提供・キャリア相談など多様な学生ニーズに対応するため、特定の教員がアカデミックアドバイザー（以下、AA）として、ひとりひとりの学生に対してマンツーマンで支援する。

具体的には、入学後の履修科目設定においては、入学時オリエンテーションとは別に、出身学部や希望進路に応じて、担当 AA による助言をもとに履修科目を決定できるよう個別に支援する。特に、2 年コースと 1 年コースの学生では、入学時の知識・技能・経験と卒業後の進路先（個人のキャリアアッププラン）も異なることから、入学時（入口）と卒業時（出口）の架橋となる各人の履修科目とコースワークは、その違いを反映したものとなるよう指導する。

1 年コースの学生に対しては、特に社会人学生に対する履修指導時には、修了要件や個人の目標に影響を与えない範囲で、職務への負担軽減を考慮しなるべく授業のない時間帯の確保に努める。2 年コースの学生に対しても、実務経験がないことから演習や実習の機会を経験できる科目履修を指導したり、実習先とのマッチングについても実習科目の担当教員との間に入って事前に相談に応じる。

18. 研究科委員会賞

専門職学位課程修了者のうち、特に成績が優秀であった者に対して、研究科委員会賞を授与する。授与者は、成績の最も優秀であった者（総代 1 名）および成績が優秀で、かつ、具体的な問題解決および社会変革に貢献した者等の条件を満たす者（優秀賞 1 名）とする。優秀賞は、指導教員ならびにアカデミックアドバイザーから推薦を受けた者を候補者として、研究科委員会にて決定する。

専 門 職 学 位 課 程

- 1 9．教員一覧
- 2 0．授業科目一覧
- 2 1．授業時間割

19. 教員一覧

◆専任教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
山岡 和枝	教授 (研究科長)	疫学	基礎疫学
		生物統計学	基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
			社会調査データ解析概論
			社会調査データ解析演習
		保健政策・医療管理学	国際保健学実習
矢野 榮二	教授	共通	インターンシップ
		疫学	基礎疫学
			臨床疫学
			リスク科学
		保健政策・医療管理学	国際保健学概論
		産業環境保健学	産業環境保健学概論
			産業環境保健学実習
谷原 真一	教授	疫学	臨床疫学
			リスク科学
		保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			ヘルスデータ分析入門
		産業環境保健学	産業環境保健学概論
			産業保健学
			産業環境保健学実習
中尾 睦宏	教授	共通	医学基礎・臨床医学入門
		社会行動科学	健康行動科学概論
		保健政策・医療管理学	リーダーシップ・マネジメント論
		共通	公衆衛生倫理学
中田 善規	教授（実）	保健政策・医療管理学	医学基礎・臨床医学入門
			保健政策・医療管理学概論
			医療経済学
			医療管理学・安全管理学概論
			リーダーシップ・マネジメント論
			医療経営学演習
			医療管理学実習
原 邦夫	教授（実）	共通	Healthcare Management
			医学基礎・臨床医学入門
			疫学
			リスク科学
			産業環境保健学
福田 吉治	教授	疫学	産業環境保健学概論
			産業保健学
			環境保健学
			産業環境保健学実習
		社会行動科学	基礎疫学
			臨床疫学
			リスク科学
			健康行動科学概論
		保健政策・医療管理学	健康教育学
			社会疫学
			保健政策・医療管理学概論
		産業環境保健学	ヘルスポリシー概論
			医療保障政策論
			産業環境保健学概論
			産業保健学
			産業看護マネジメント論
			産業精神保健学演習
			産業環境保健学実習
		共通	公衆衛生倫理学
		共通	医学基礎・臨床医学入門

氏名	役職	科目区分	授業科目
松浦 正明	教授	生物統計学	基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
山本 秀樹	教授（実）	保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
		共通	国際保健学概論
			医学基礎・臨床医学入門
井上まり子	准教授	社会行動科学	社会疫学
		保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			国際保健学概論
			Universal Health Coverage & Aging Society
		共通	公衆衛生倫理学
崎坂香屋子	准教授（実）	保健政策・医療管理学	調査・研究法概論
			国際保健学概論
			国際保健学演習
高橋 謙造	准教授（実）	疫学	質的研究
		保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			地域保健学
			国際保健学概論
			国際保健学演習
			国際母子保健学
		産業環境保健学	産業環境保健学実習
		共通	医学基礎・臨床医学入門
根本明日香	講師（実）	生物統計学	調査・研究法概論
			基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
		共通	臨床試験概論
桑原 恵介	講師	疫学	基礎疫学
		共通	臨床疫学
			調査・研究法概論
			健康医療情報学
堀内 清香	助教	保健政策・医療管理学	地域保健学
			国際保健学演習
			国際母子保健学

※（実）実務家教員

◆他学部（兼担）

氏名	役職	科目区分	授業科目
野村 恭子	准教授	疫学	基礎疫学
内田 俊也	教授	生物統計学	スタディクリティーク
		共通	臨床試験概論
松井 範惇	教授	保健政策・医療管理学	医学基礎・臨床医学入門
河内 正治	教授	保健政策・医療管理学	国際保健学演習
松野 彰	教授	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
松永 直久	講師	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
渡邊真知子	教授	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
岩田佐知子	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
上野 京子	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
川崎 義隆	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
宮内賢三郎	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
宮川 宗之	教授	産業環境保健学	環境保健学
山崎 恭子	教授	産業環境保健学	産業看護マネジメント論

◆非常勤教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
Murry Mittleman	客員教授	疫学	特別講義（疫学Ⅰ～Ⅲ）
Garrett Fitzmaurice	客員教授	生物統計学	特別講義（生物統計学Ⅰ～Ⅲ）
Ichiro Kawachi	客員教授	社会行動科学	特別講義（社会行動科学Ⅰ～Ⅲ）
Alastair Gray	客員教授	保健政策・医療管理学	特別講義（保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ）
Rose Goldman	客員教授	産業環境保健学	特別講義（産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ）
丹後 俊郎	客員教授	生物統計学	基礎生物統計学 応用生物統計学
井口 直樹	客員教授	保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論 医療保障政策論
大嶽 浩司	客員教授	保健政策・医療管理学	医療経営学演習
田中 剛	客員准教授	保健政策・医療管理学	ヘルスポリシー概論 国際保健学概論
小木 和孝	客員教授	産業環境保健学	産業保健学
河野 啓子	客員教授	産業環境保健学	産業看護マネジメント論
吉川 徹	客員准教授	産業環境保健学	産業保健学
大脇 和宏	非常勤講師	疫学	臨床疫学
高木 廣文	非常勤講師	疫学	質的研究
長谷川貴大	非常勤講師	生物統計学	臨床試験概論
石川ひろの	非常勤講師	社会行動科学 保健政策・医療管理学	健康行動科学概論 リーダーシップ・マネジメント論
川越 厚	非常勤講師	社会行動科学	終末期医療実習
橋本 英樹	非常勤講師	社会行動科学 保健政策・医療管理学	社会疫学 保健政策・医療管理学概論
小林 廉毅	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療経済学
石崎 達郎	非常勤講師	保健政策・医療管理学	地域保健学
山本 真	非常勤講師	保健政策・医療管理学	地域保健学
渋谷 健司	非常勤講師	保健政策・医療管理学	国際保健学概論
錦織 信幸	非常勤講師	保健政策・医療管理学	国際保健学概論
野村真利香	非常勤講師	保健政策・医療管理学	国際保健学演習 国際母子保健学
田村 桂一	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
成松 宏人	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療管理学・安全管理学概論
中澤 達	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療経営学演習
中原 浩彦	非常勤講師	産業環境保健学	産業環境保健学概論 産業保健学 環境保健学
東川 麻子	非常勤講師	産業環境保健学	産業環境保健学概論
神山 宣彦	非常勤講師	産業環境保健学	環境保健学
猪股 久美	非常勤講師	産業環境保健学	産業看護マネジメント論
磨田百合子	非常勤講師	産業環境保健学	産業看護マネジメント論 産業精神保健学演習
北村 尚人	非常勤講師	産業環境保健学	産業精神保健学演習
高辻(戸谷)由布子	非常勤講師	産業環境保健学	産業精神保健学演習
吉川 悦子	非常勤講師	産業環境保健学	産業精神保健学演習
竹内由利子	非常勤講師	産業環境保健学	産業精神保健学演習
瀧本 禎之	非常勤講師	共通	公衆衛生倫理学
中澤 栄輔	非常勤講師	共通	公衆衛生倫理学

20. 授業科目一覧 (専門職学位課程)

科目 区分	授業科目の名称	単位数			授業 形態	授業時間割				科目責任者		備考
		必修	選択	選択		配当 年次	学期	曜日	時限			
疫学	基礎疫学	4			講義 演習	1	a・b	木	3,4	矢野 榮二	教授	
	臨床疫学			4	講義 演習	1・2	c・d	木	3,4	矢野 榮二	教授	
	質的研究			1	講義	1・2	s	8月		高橋 謙造	准教授	集中講義
	スタディクリティーク			2	演習	1・2	a・d	木	5	野村 恭子	准教授	
	リスク科学			1	講義	1・2	d	月	1	矢野 榮二	教授	
	特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1・2	w	1月		Murry Mittleman	客員教授	集中講義
生物統計学	基礎生物統計学	4			講義 演習	1	a・b	水	1,2	山岡 和枝	教授	
	応用生物統計学			2	講義	1・2	c・d	火	1	山岡 和枝	教授	
	データ解析演習			2	演習	1・2	c・d	火	2	松浦 正明	教授	
	臨床試験概論			2	講義 演習	1・2	c・d	火	3	根本明日香	講師	
	社会調査データ解析概論			1	講義	1・2	a	火	5	山岡 和枝	教授	
	社会調査データ解析演習			1	演習	1・2	a	火	6	山岡 和枝	教授	
	特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1・2	w	1月		Garrett Fitzmaurice	客員教授	集中講義
社会行動科学	健康行動科学概論	2			講義	1	a・b	水	3	中尾 睦宏	教授	
	健康教育学			1	講義	1・2	d	月	2	福田 吉治	教授	
	社会疫学			1	講義	1・2	d	水	2	福田 吉治	教授	
	終末期医療実習			1	実習	1・2	s	個別設定		中尾 睦宏	教授	
	特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1・2	w	1月		Ichiro Kawachi	客員教授	集中講義
保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論	1			講義	1	a	火	3	中田 善規	教授	
	ヘルスポリシー概論			1	講義	1	b	水	4	福田 吉治	教授	
	医療経済学			2	講義	1・2	b	月	3,4	中田 善規	教授	
	医療保障政策論			1	講義	1・2	c	火	4	福田 吉治	教授	
	地域保健学			2	講義 演習	1・2	b	火	1,2	高橋 謙造	准教授	
	国際保健学概論			2	講義	1・2	b	火	3,4	井上まり子	准教授	
	国際保健学演習			2	演習	1・2	c	水	3,4	高橋 謙造	准教授	
	国際母子保健学			1	講義	1・2	b	火	5	高橋 謙造	准教授	
	国際保健学実習			1	実習	1・2	w	個別設定		山岡 和枝	教授	
	ヘルスデータ分析入門			2	講義	1・2	d	月	3,4	谷原 真一	教授	
	医療管理学・安全管理学概論			2	講義	1	a	月	3,4	中田 善規	教授	
	リーダーシップ・マネジメント論			1	講義	1・2	c	水	2	中尾 睦宏	教授	
	医療経営学演習			2	演習	1・2	c	月	3,4	中田 善規	教授	
	医療管理学実習			1	実習	1・2	s	個別設定		中田 善規	教授	
	Healthcare Management			1	講義	1・2	s	8月		中田 善規	教授	集中講義
	Universal Health Coverage & Aging Society			1	講義 演習	1・2	s	8月		井上まり子	准教授	集中講義
	特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1・2	w	1月		Alastair Gray	客員教授	集中講義
産業環境保健学	産業環境保健学概論	1			講義	1	a	火	1	原 邦夫	教授	
	産業保健学			2	講義 演習	1・2	c	月	1,2	原 邦夫	教授	
	環境保健学			2	講義 演習	1・2	c・d	水	1	原 邦夫	教授	
	産業看護マネジメント論			1	講義 演習	1・2	s	8月		福田 吉治	教授	集中講義
	産業精神保健学演習			1	講義 演習	1・2	s	8月		福田 吉治	教授	集中講義
	産業環境保健学実習			1	実習	1・2	s	個別設定		原 邦夫	教授	
	特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ)			1	講義	1・2	w	1月		Rose Goldman	客員教授	集中講義
共通	公衆衛生倫理学	1			講義	1	a	水	4	中尾 睦宏	教授	
	医学基礎・臨床医学入門		2		講義	1	a・b	月	1,2	山本 秀樹	教授	
	調査・研究法概論			1	講義	1	a	4月初旬		高橋 謙造	准教授	集中講義
	健康医療情報学			1	講義 演習	1・2	a	火	2	桑原 恵介	助教	
	インターンシップ			1	実習	1・2	s・w	個別設定		山岡 和枝	教授	
	課題研究	6			演習	1・2	通年	個別設定		各指導教員		実習含む

21. 授業時間割

平成29年度 公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 専門職学位課程

			前期		後期	
曜日	時限		前半8週(a学期)	後半8週(b学期)	前半8週(c学期)	後半8週(d学期)
			4/6(木)～6/8(木)	6/12(月)～8/4(金)	9/19(火)～11/9(木)	11/13(火)～2/9(金)
月	1	9:00 10:30	医学基礎・臨床医学入門		産業保健学	リスク科学
	2	10:45 12:15				健康教育学
	3	13:05 14:35	医療管理学・ 安全管理学概論	医療経済学	医療経営学演習	ヘルスデータ分析入門
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
火	1	9:00 10:30	産業環境保健学概論	地域保健学	応用生物統計学	
	2	10:45 12:15	健康医療情報学		データ解析演習	
	3	13:05 14:35	保健政策・医療管理学概論	国際保健学概論	臨床試験概論	
	4	14:50 16:20			医療保障政策論	
	5	16:35 18:05	社会調査データ解析概論	国際母子保健学		
	6	18:20 19:35	社会調査データ解析演習			
水	1	9:00 10:30	基礎生物統計学		環境保健学	
	2	10:45 12:15			リーダーシップ・マネジメント論	社会疫学
	3	13:05 14:35	健康行動科学概論		国際保健学演習	
	4	14:50 16:20	公衆衛生倫理学	ヘルスポリシー概論		
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
木	1	9:00 10:30				
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	基礎疫学		臨床疫学	
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05	スタディクリティーク（隔週）			
	6	18:20 19:35				
金	1	9:00 10:30	課題研究・補講		課題研究・補講	
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35				
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				

※課題研究(必修)については、2年コースは2年目、1年コースは後期に集中して行う。

春季(a学期)		
集中	4月初旬	調査・研究法概論
夏季(s学期)		
夏季休業期間	8月上旬 ～ 9月上旬 (予定)	終末期医療実習
		医療管理学実習
		インターンシップ
		産業環境保健学実習
		質的研究
		産業看護マネジメント論
		産業精神保健学演習
		Healthcare Management
		Universal Health Coverage & Aging Society
冬季(w学期)		
	12月下旬	国際保健学実習
集中講義	1月上旬 ～ 1月下旬 (予定)	Harvard Special Sessions 2018
		特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ)
		特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ)

※特別講義は年度により内容が異なることがあり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。

大学院公衆衛生学研究科 専門職学位課程 時間割表

平成29年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
4月				入学式		調査研究	調査研究			調査研究		基礎生物					医学基礎	産環概論	基礎生物					医学基礎	産環概論	基礎生物					
						調査研究	調査研究			調査研究		基礎生物					医学基礎	健康医療	基礎生物					医学基礎	健康医療	基礎生物					
						調査研究	調査研究			調査研究		健康行動	基礎疫学				管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学				管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学				
						調査研究	調査研究					公衛倫理	基礎疫学				管理安全		公衛倫理	基礎疫学				管理安全		公衛倫理	基礎疫学				
													スタディ						調査概論						調査概論						
																				調査演習						調査演習					
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
5月	医学基礎	産環概論						医学基礎	産環概論	基礎生物					医学基礎	産環概論	基礎生物					医学基礎	産環概論	基礎生物					医学基礎	産環概論	基礎生物
	医学基礎	健康医療						医学基礎	健康医療	基礎生物					医学基礎	健康医療	基礎生物					医学基礎	健康医療	基礎生物					医学基礎	健康医療	基礎生物
	管理安全	政策管理						管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学				管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学				管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学				管理安全	政策管理	健康行動
	管理安全							管理安全		公衛倫理	基礎疫学				管理安全		公衛倫理	基礎疫学				管理安全		公衛倫理	基礎疫学				管理安全		公衛倫理
		調査概論							調査概論		スタディ					調査概論							調査概論		スタディ				管理安全	調査概論	
		調査演習								調査演習							調査演習							調査演習						調査演習	
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
6月					医学基礎	産環概論	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物				医学基礎	地域保健	基礎生物						医学基礎	地域保健	基礎生物			
					医学基礎	健康医療	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物				医学基礎	地域保健	基礎生物						医学基礎	地域保健	基礎生物			
		基礎疫学				政策管理	健康行動	基礎疫学				医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学			医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学				医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学			
		基礎疫学					公衛倫理	基礎疫学				医療経済	国際概論	ヘルス・ポリシー	基礎疫学			医療経済	国際概論	ヘルス・ポリシー	基礎疫学				医療経済	国際概論	ヘルス・ポリシー	基礎疫学			
						調査概論		スタディ					国際母子						国際母子												
						調査演習														国際母子											
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
7月				医学基礎	地域保健	基礎生物				医学基礎	地域保健	基礎生物						地域保健	基礎生物			看護マネ		医学基礎	地域保健	基礎生物			看護マネ		医学基礎
				医学基礎	地域保健	基礎生物				医学基礎	地域保健	基礎生物						地域保健	基礎生物			看護マネ		医学基礎	地域保健	基礎生物			看護マネ		医学基礎
				医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学			医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学					国際概論	健康行動	基礎疫学		看護マネ		医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学		看護マネ		医療経済
				医療経済	国際概論	ヘルス・ポリシー	基礎疫学			医療経済	国際概論	ヘルス・ポリシー	基礎疫学					国際概論	ヘルス・ポリシー	基礎疫学		看護マネ		医療経済	国際概論	ヘルス・ポリシー	基礎疫学		看護マネ		医療経済
					国際母子						国際母子		スタディ					国際母子							国際概論						
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
8月		地域保健	基礎生物				産環実習	産環実習				Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	精神保健	産環実習	産環実習			Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.						精神保健		
			基礎生物				産環実習	産環実習				Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	精神保健	産環実習	産環実習			Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.					精神保健		
		国際母子					産環実習	産環実習		質的研究	質的研究			質的研究	質的研究	精神保健	産環実習	産環実習		Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.					精神保健			
		国際母子	ヘルス・ポリシー				産環実習	産環実習		質的研究	質的研究			質的研究	質的研究	精神保健	産環実習	産環実習		Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.					精神保健			
																					Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.					精神保健		
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
9月																		応用生物	環境保健		産業保健				産業保健	応用生物	環境保健				
																		データ解析	リサーチ		産業保健				産業保健	データ解析	リサーチ				
																		臨床概論	国際演習	臨床疫学					医療経営	臨床概論	国際演習	臨床疫学			
																		医療保障	国際演習	臨床疫学					医療経営	医療保障	国際演習	臨床疫学			
																				スタディ											

大学院公衆衛生学研究科 専門職学位課程 時間割表

平成29年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	
10月			産業保健	応用生物	環境保健					応用生物	環境保健		産業保健			産業保健	応用生物	環境保健					産業保健	応用生物	環境保健					産業保健	応用生物	
			産業保健	データ解析	リーダーマネ					データ解析	リーダーマネ		産業保健			産業保健	データ解析	リーダーマネ					産業保健	データ解析	リーダーマネ					産業保健	データ解析	
			医療経営	臨床概論	国際演習	臨床疫学				臨床概論	国際演習	臨床疫学				医療経営	臨床概論	国際演習	臨床疫学					臨床概論	国際演習	臨床疫学					医療経営	臨床概論
			医療経営	医療保障	国際演習	臨床疫学				医療保障	国際演習	臨床疫学				医療経営	医療保障	国際演習	臨床疫学					医療保障	国際演習	臨床疫学					医療経営	医療保障
			医療経営			スタディ										医療経営			スタディ												医療経営	
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木		
11月	環境保健					産業保健	応用生物	環境保健					リスク科学	応用生物	環境保健				リスク科学	応用生物	環境保健						リスク科学	応用生物	環境保健			
	リーダーマネ						データ解析	リーダーマネ					健康教育	データ解析	社会疫学				健康教育	データ解析	社会疫学						健康教育	データ解析	社会疫学			
	国際演習	臨床疫学				医療経営	臨床概論		臨床疫学				ヘルスデータ	臨床概論		臨床疫学			ヘルスデータ				臨床疫学				ヘルスデータ	臨床概論		臨床疫学		
	国際演習	臨床疫学				医療経営	医療保障		臨床疫学				ヘルスデータ			臨床疫学			ヘルスデータ				臨床疫学				ヘルスデータ			臨床疫学		
	国際演習	スタディ				医療経営										スタディ														スタディ		
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
12月					リスク科学	応用生物	環境保健				リスク科学	応用生物	環境保健					リスク科学	応用生物	環境保健					リスク科学	応用生物	環境保健					
					健康教育	データ解析	社会疫学				健康教育	データ解析	社会疫学					健康教育	データ解析	社会疫学					健康教育	データ解析	社会疫学					
					ヘルスデータ	臨床概論		臨床疫学			ヘルスデータ	臨床概論		臨床疫学				ヘルスデータ	臨床概論		臨床疫学			ヘルスデータ	臨床概論		臨床疫学				臨床疫学	
					ヘルスデータ			臨床疫学			ヘルスデータ			臨床疫学				ヘルスデータ			臨床疫学			ヘルスデータ			臨床疫学				臨床疫学	
								スタディ													スタディ										スタディ	
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	
1月																																
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28				
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水				
2月					リスク科学							基礎疫学	基礎疫学					応用生物	応用生物統計学					健康教育	健康教育学							
					健康教育		社会疫学					臨床疫学	臨床疫学					データ解析	データ解析演習					社会疫学	社会疫学							
					ヘルスデータ							質的研究	質的研究					臨床試験概論	臨床試験概論					政策管理	保健政策・医療管理学概論							
												スタディ	スタディ	クリティーク				調査概論	社会調査データ解析概論					ヘルスポリシー	ヘルスポリシー概論							
												リスク科学	リスク科学					調査演習	社会調査データ解析演習					医療経済	医療経済学							
												基礎生物	基礎生物	統計学				健康行動	健康行動科学概論					医療保障	医療保障政策論							
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
3月					地域保健	地域保健学						リーダーマネ	リーダーシップ・マネジメント論					環境保健	環境保健学					調査研究	調査・研究法概論							
					国際概論	国際保健学概論						医療経営	医療経営学演習					看護マネ	産業看護マネジメント論					健康医療	健康医療情報学							
					国際演習	国際保健学演習						Heal. Mana.	Healthcare Management					精神保健	産業精神保健学演習													
					国際母子	国際母子保健学						Uni. Heal.	Universal Health Coverage & Aging Society					産環実習	産業環境保健学実習													
					ヘルスデータ	ヘルスデータ分析入門						産環概論	産業環境保健学概論					公衛倫理	公衆衛生倫理学													
					管理安全	医療管理学・安全管理学概論						産業保健	産業保健学					医学基礎	医学基礎・臨床医学入門													

M
P
H

専門職学位課程

22. 授業計画（シラバス）

No	科目名	ページ
01.	基礎疫学	… 44
02.	臨床疫学	… 46
03.	質的研究	… 48
04.	スタディクリティーク	… 50
05.	リスク科学	… 52
06.	特別講義（疫学Ⅰ～Ⅲ）	… 54
07.	基礎生物統計学	… 56
08.	応用生物統計学	… 58
09.	データ解析演習	… 60
10.	臨床試験概論	… 62
11.	社会調査データ解析概論	… 64
12.	社会調査データ解析演習	… 66
13.	特別講義（生物統計学Ⅰ～Ⅲ）	… 68
14.	健康行動科学概論	… 70
15.	健康教育学	… 72
16.	社会疫学	… 74
17.	終末期医療実習	… 76
18.	特別講義（社会行動科学Ⅰ～Ⅲ）	… 78
19.	保健政策・医療管理学概論	… 80
20.	ヘルスポリシー概論	… 82
21.	医療経済学	… 84
22.	医療保障政策論	… 86
23.	地域保健学	… 88
24.	国際保健学概論	… 90

No	科目名	ページ
25.	国際保健学演習	… 92
26.	国際母子保健学	… 94
27.	国際保健学実習	… 96
28.	ヘルスデータ分析入門	… 98
29.	医療管理学・安全管理学概論	… 100
30.	リーダーシップ・マネジメント論	… 102
31.	医療経営学演習	… 104
32.	医療管理学実習	… 106
33.	Healthcare Management	… 108
34.	Universal Health Coverage & Aging Society	… 110
35.	特別講義（保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ）	… 112
36.	産業環境保健学概論	… 114
37.	産業保健学	… 116
38.	環境保健学	… 118
39.	産業看護マネジメント論	… 120
40.	産業精神保健学演習	… 122
41.	産業環境保健学実習	… 124
42.	特別講義（産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ）	… 126
43.	公衆衛生倫理学	… 128
44.	医学基礎・臨床医学入門	… 130
45.	調査・研究法概論	… 132
46.	健康医療情報学	… 134
47.	インターンシップ	… 136
48.	課題研究	… 138

科目名	基礎疫学	code number : EPI 201	必修	4 単位
-----	------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	木曜 3,4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

疫学研究方法論の基礎について学ぶ。問題解決の基礎としての疫学であることを認識したうえで、因果関係の立証法、記述疫学研究と仮説検証研究(観察研究と介入研究)の違いといった研究の分類を学ぶ。観察研究では横断研究、縦断研究(コホート研究、症例対照研究)における疫学指標、各種バイアス、研究デザイン上の特徴について学ぶ。また、介入研究では無作為化比較試験を含む患者臨床試験についてその構造や疫学指標について、システムティックレビュー、メタアナリシスについてもその構造や問題となる各種バイアスについて学ぶ。疫学研究の倫理指針(同意・個人情報保護を含む)にもふれる。なお各日、講義の後半は演習にあて、練習問題や質疑を通して理解を確実なものにする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 保健医療問題を解決するための基礎的な論理である疫学を学び、論理的な問題解決の道筋を理解する。
2. 疫学研究の主要なタイプを学ぶとともに、誤った判断のメカニズムをタイプ分けして理解する。
3. 疫学研究論文を批判的に精読する技法を学び、疫学研究立案の体系を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 自分が解決しようとする保健医療問題について、問題の本質を定式化して述べることができる。
2. 問題とその解決のための対策を具体的に測定評価できる。
3. 研究論文等における推論の誤りを見抜き、その防護策を提示できる。
4. 問題解決につながる疫学研究を計画立案し、実施できる。

期末テスト(90分筆記)の得点率6割以上をもって合格とする。
ただし、期末テストの粗点は講義の欠席回数に応じて2割まで減点し、講義への積極的な参加度に応じて1割まで加点する。

4. 教科書・テキスト

・ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版 篠原出版新社(疫学部分の縮刷版を配布予定)

5. 参考書

- ・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル
- ・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・講義ごとに3時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

基礎疫学

回数	日付	時限	担当者		授業内容
1	4/13(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	医学と疫学：今日の医学の主流である生物医学的考え方と対比しつつ疫学的考え方の位置づけを学ぶ。
2	4/20(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	仮説と因果関係：科学的思考の基礎として仮説の一般構造を考え、それを証明する因果関係の考え方を学ぶ。
3	4/27(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	疫学研究の分類：仮説を証明する論理的方法として疫学研究のタイプ分けを学ぶ。
4	5/11(木)	3-4	山岡 和枝	教授	疫学と統計学：疫学で用いられる主要な統計手法を学ぶ。
5	5/18(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	チャンスとバイアス：誤った判断を引き起こす原因を分類し、そのうちのバイアスのタイプ分けを学ぶ。
6	5/25(木)	3-4	福田 吉治	教授	健康指標：疫学で用いられる健康指標の定義、算出方法、活用手法について学ぶ。
7	6/1(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 講師	記述疫学と横断研究：記述疫学と横断研究の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
8	6/8(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 講師	症例対照研究：症例対照研究(case-control study)の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
9	6/15(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 講師	コホート研究：コホート研究(cohort study)の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
10	6/22(木)	3	山岡 和枝 桑原 恵介	教授 講師	介入試験、無作為比較対象試験：介入試験(intervention study)および無作為比較対象試験(RCT)の方法と実例を学ぶ。
		4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 講師	
11	6/30(金)	3-4	山岡 和枝 桑原 恵介	教授 講師	メタアナリシス：メタアナリシス(metaanalysis)・システムティックレビュー(系統的レビュー)の手法と実例を学ぶ。
12	7/6(木)	3-4	野村 恭子 桑原 恵介	准教授 講師	スクリーニング：スクリーニングの考え方、信頼性、応用について学ぶ。
13	7/13(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	Study Critique：疫学研究・論文の批判的吟味の考え方と方法を学ぶ。
14	7/20(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	疫学研究計画立案：具体的な研究計画の立案手法を学び、実際の計画の立案を行う。
15	7/27(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	疫学と公衆衛生：まとめのために問題演習を行い、学習の確認をする。

科目名	臨床疫学	code number : EPI 221	選択	4 単位
-----	------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	木曜 3,4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

科学的な保健医療(Evidence Based Public Health)の実践のために、疫学を臨床医学に適用した臨床疫学を学ぶ。ここでは現場実践上のプロセスから生じるテーマ(異常、診断、頻度、リスク、予後、治療、予防)に基づきアプローチし、データの取り扱い・異常の判断基準、検査の有効性(感度、特異度、事後確率、ROC曲線)、リスクの評価、研究デザインとバイアス、臨床研究で用いられる統計解析結果の解釈(ロジスティック回帰分析、生存分析)、ランダム化比較試験、論文検索(系統的レビュー、コクランライブラリー)、臨床データ管理、臨床ガイドラインの検索と利用法、などについて、Fletcherの教科書を読みながら実例を用いて学習する。実例は教科書内のコラムや教員が示すものを用いる。

毎回の講義は3部構成を基本とし、第1部は教科書を用いて学習し、第2部は教科書の巻末問題を議論する。第3部は担当学生が前週までに紹介した疫学論文を用い、論文の批判的精読(スタディクリティーク)を担当学生の司会で行う。その議論のために学生は各自またはグループで講義の2日前までに形式にのっとった論文精読解析レポートを提出する。講義には小グループでの討論を取り入れ、そこでの積極参加を重視する。なおスタディクリティークは別に独立の科目としてもあるので、合わせて履修することが望ましい。取り扱う話題は臨床医学上のものが多いがそれに限定せず、受講も医療関係者に限るものでなく、逆に非医療者が臨床医学の現場での思考方法に触れる機会にもなる。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 臨床医学を中心にした保健医療の現場での実例について判断の論理と誤った判断のメカニズムを理解する。
2. 現場の意思決定において疫学の論理を適用する必要性を学ぶ。
3. 疫学研究論文を批判的に精読する技法を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 臨床医学を中心にした保健医療の現場の実際場面で疫学の論理に従った判断ができる。
2. 臨床医学を中心にした保健医療の現場の実際場面で誤った判断を指摘できる。
3. 疫学研究論文を批判的に精読できる。
4. 臨床研究を計画立案できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 各回の講義出席と論文解析レポート提出(グループ提出も可) (80%)
- (2) 論文選択と全体での検討会の司会 (20%)

4. 教科書・テキスト

Clinical Epidemiology: The Essentials 5th edition Robert H. Fletcher, Suzanne W. Fletcher
Lippincott Williams & Wilkins, 2012 - 255 pg.・「臨床疫学」ロバート・H・フレッチャー他著 メディカルサイエンスインターナショナル

5. 参考書

- ・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル
- ・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版社

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・スタディクリティーク分担当者は各自の課題研究テーマに関連した疫学研究論文を前週までに提示し、講義当日までに他の受講者のスタディ・クリティークの内容を整理し論評する。
- ・講義ごとに3時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

臨床疫学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/21(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	臨床疫学序論 臨床疫学、根拠に基づいた医療のアウトラインについて学ぶ。 臨床疫学研究に関する基本的な知識を再確認するとともに、全体のコースの流れを確認する。
2	9/28(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	頻 度 頻度について、表し方、取得方法、妥当性に関する解釈などを学ぶ。
3	10/5(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	異 常 データの種類、測定性能・変動、異常の判定基準等について学ぶ。
4	10/12(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:基礎的な概念 リスクの認知、予測、評価及びその応用について学ぶ。
5	10/19(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:曝露から疾患 コホート研究を中心に、集団を前向きに観察することにより、リスクを評価する方法及び交絡について学ぶ。
6	10/26(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:疾患から曝露 症例対照研究を中心に、時間をさかのぼって観察することにより、リスクを評価する方法やオッズ比について学ぶ。
7	11/2(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	予 後 疾患の転帰としての予後の評価方法について学ぶ。
8	11/9(木)	3-4	大脇 和宏 講師(非) 矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	診 断 検査の正確さ、感度、特異度、予測値、尤度、繰り返し検査の評価について学ぶ。
9	11/16(木)	3-4	谷原 真一 教授 桑原 恵介 講師	治 療 仮説の検定、介入研究など治療が有効であるかの判断、特にランダム化比較試験を解釈する上で必要となる知識について学ぶ。
10	11/24(金)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	予 防 予防に関連する原理・戦略方法について学ぶ。
11	11/30(木)	3-4	谷原 真一 教授 桑原 恵介 講師	偶 然 仮説検定、必要標本数、信頼区間、多重比較、サブグループ解析、多変量解析、ベイズ理論について学ぶ。
12	12/7(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	因 果 因果関係の基本原則、因果関係を支持または否定する根拠について学ぶ。
13	12/14(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	エビデンスの集約 システマティック・レビューの方法、メタ分析、エビデンスの内容を吟味する方法について学ぶ。
14	12/21(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	知識管理 臨床の知識管理に対する最新のアプローチ、臨床診療ガイドラインの利用方法などについて学ぶ。
15	12/28(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	全体のまとめ、予備日

科目名	質的研究	code number : EPI 241	選択	1 単位
-----	------	--------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造	准教授					
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	4日間	授業方法	講義

1. 授業の概要

地域保健に関する研究において、

- 1) 科学的な質的研究法についての知識の習得
- 2) 研究課題に即した情報提供者からの情報収集とテキスト解釈方法についての知識および技術の習得
- 3) 公衆衛生専門家として課題発見、解決、研究活動を行うことができるようになることをめざし、質的研究に関して講師および受講生同士でディスカッションを行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 地域における健康と保健・医療に関する課題の発見、コミュニティづくり、ステークホルダーと協働した問題解決を行うのに必要な、質的研究方法についての理論的知識、実践能力、および研究手法を習得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 質的な研究手法の、量的な研究法との関連を説明できる。
2. 実際のインタビュー素材を用いて、質的な分析を行うことが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業への積極的な参加 (50%)
- (2) レポート提出評価 (50%)

4. 教科書・テキスト

特に指定しない。

5. 参考書

1. 質的研究を科学する(高木廣文) 医学書院
2. 質的研究実践ガイド(キャサリン・ホープ、ニコラス・メイス) 医学書院
3. グラウンデッド・セオリー・アプローチ分析ワークブック 第2版(戈木クレイグ・ヒル・滋子編) 日本看護協会出版会
4. 新版 質的研究入門<人間の科学>のための方法論(ウヴェ・フリック) 春秋社+B28

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・履修学生に事前に配布する。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

質的研究

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/10(木)	3	高橋 謙造 准教授 高木 廣文 講師(非)	質的研究概論(混合研究法・疫学調査・質的調査)
2	8/10(木)	4	高木 廣文 講師(非)	質的研究と量的研究
3	8/11(金)	3	高木 廣文 講師(非)	さまざまな質的研究の方法について
4	8/11(金)	4	高木 廣文 講師(非)	質的研究の科学性に関する諸問題
5	8/14(月)	3	高木 廣文 講師(非)	質的研究のテキスト解釈に関する諸問題
6	8/14(月)	4	高木 廣文 講師(非)	グラウンデッド・セオリー・アプローチによるテキスト解釈(原則編)
7	8/15(火)	3	高木 廣文 講師(非)	グラウンデッド・セオリー・アプローチによるテキスト解釈(実践編)
8	8/15(火)	4	高木 廣文 講師(非)	発表・討論・まとめ

科目名	スタディクリティーク	code number : EPI 301	選択	2 単位
-----	------------	--------------------------	----	------

科目責任者	野村 恭子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	通年	曜日・時限	木曜 5 時限	授業方法	演習

1. 授業の概要

Study Critiqueとは日本語で批判的吟味を意味する。我々が必要な情報について科学的根拠を得るときに読む疫学論文は、結果を鵜呑みにするのではなく、何が正しく、またどこに弱点(バイアスやチャンス)がかかっているのか整理しながら情報を取捨選択しなければならない。本科目では、海外の一流雑誌New England Journal of Medicine, British Medical Journal, JAMAなどに掲載された疫学研究を批判的に読み解きエビデンスについて学ぶ。用いる論文は、歴史的に有名な疫学論文から最新の論文、あるいは参加者の希望する論文をも扱う。なお本科目は本学の女性医師・研究者支援センターが開催しているジャーナルクラブと合同で開催する。場所は病院6階医局内の女性医師・研究者支援センターにて行うので、医局の入り口で女性センターの内線(34670-2)を鳴らすようにしてください。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.疫学研究論文を実際に読んで討論し、論文を批判的に吟味する能力を実践的に習得する。

【行動目標(SBO)】

1.各種疫学研究の技法を修得し、研究論文の批判的吟味と研究計画立案の方法を学ぶ。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)授業への積極的な参加 (50%)
- (2)演習の課題 (50%)

4. 教科書・テキスト

・毎回事前配布する。

5. 参考書

- ・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル
- ・「疫学」木原正博他訳 メディカルサイエンスインターナショナル

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・毎回事前配布される論文を事前に読んでおくこと。
- ・講義ごとに30分程度の予習が重要。

7. その他履修上の注意事項

- ・演習の課題に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

スタディクリティーク

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/13(木)	5	野村 恭子 准教授	オリエンテーションと批判的吟味の方法
2	5/11(木)	5	野村 恭子 准教授	横断研究の批判的吟味の方法
3	5/25(木)	5	野村 恭子 准教授	ケースコントロール研究の批判的吟味の方法
4	6/8(木)	5	野村 恭子 准教授	コホート研究の批判的吟味の方法
5	6/22(木)	5	野村 恭子 准教授	ランダム化比較試験の批判的吟味の方法
6	7/13(木)	5	野村 恭子 准教授	メタアナリシスの批判的吟味の方法
7	9/7(木)	5	野村 恭子 准教授	ゲストによる批判的吟味
8	9/21(木)	5	野村 恭子 准教授	トップジャーナルに掲載された疫学研究の批判的吟味を持ち回りで行う。
9	10/5(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
10	10/19(木)	5	野村 恭子 准教授	ゲストによる批判的吟味
11	11/2(木)	5	野村 恭子 准教授	トップジャーナルに掲載された疫学研究の批判的吟味を持ち回りで行う。
12	11/16(木)	5	野村 恭子 准教授	ゲストによる批判的吟味
13	11/30(木)	5	野村 恭子 准教授	トップジャーナルに掲載された疫学研究の批判的吟味を持ち回りで行う。
14	12/7(木)	5	野村 恭子 准教授	Study Critique
15	12/21(木)	5	野村 恭子 准教授	トップジャーナルに掲載された疫学研究の批判的吟味を持ち回りで行う。

科目名	リスク科学	code number : OEH 251	選択	1 単位
-----	-------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	月曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

人々の健康問題の解決をめざす公衆衛生活動は、見方を変えれば健康リスクの把握と対処と考えられる。健康リスクの把握には疫学の体系が必須であるが、特に対処についてはリスク科学から学べるところが大きい。リスク科学の基本となる米科学アカデミーの体系的なリスクアセスメント・リスクマネジメントの考え方を出発点とし、教員から提示されるいくつかの例を参考にしつつ、学生が各自の課題の問題解決にリスク科学の考え方や方法を適用できるようにする。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. リスク概念の基本であるリスクアセスメントとリスクマネジメントの関係を理解する。
2. リスクの把握にあたって、情報の不確かさとその対処法を理解し、リスクを質的だけでなく量的視点で把握し、代替策のリスクも考慮することの重要性を理解する。
3. 専門家としてリスク対処を進めていくうえで核となるリスクコミュニケーションを自分の課題研究のテーマにあてはめることができる。

【行動目標 (SBO)】

1. リスクアセスメントとリスクマネジメントの違いとその相互関係を説明できる。
2. リスクの把握にあたって、情報の不確かさとその対処法を説明できる。
3. 質的だけでなく量的視点を持ち、代替策のリスクも評価することができる。
4. リスクコミュニケーションの基本概念と手法を理解し、自分の課題研究のテーマにあてはめ説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

講義中に求められる各自の課題のリスク科学を踏まえた報告で評価する(100%)

4. 教科書・テキスト

- ・FDA Communicating Risks and Benefits: An Evidence-Based User's Guide Food and Drug Administration (日本語訳有)
<http://www.fda.gov/downloads/AboutFDA/ReportsManualsForms/Reports/UCM268069.pdf>
- ・Making Health Communication Programs Work, National Cancer Institute (NCI) (日本語訳有)
<https://www.cancer.gov/publications/health-communication/pink-book.pdf>

5. 参考書

- ・Risk Assessment in the Federal Government. the National Research Council
<https://www.nap.edu/catalog/366/risk-assessment-in-the-federal-government-managing-the-process> (Free download 可能)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・基礎疫学(2016年までは疫学概論)の単位を修得していることが履修の要件
- ・講義ごとに3時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

リスク科学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/13(月)	1	矢野 榮二 教授	低線量放射線の健康影響:問題提起
2	11/20(月)	1	矢野 榮二 教授	リスクアセスメントとリスクマネジメント:許容濃度を例として
3	11/27(月)	1	谷原 真一 教授	危機管理体制・危機発生時の緊急時対応のあり方
4	12/4(月)	1	福田 吉治 教授	感染症・食中毒
5	12/11(月)	1	矢野 榮二 教授	Precautionary Principleと代替策のリスク
6	12/18(月)	1	原 邦夫 教授	労働災害
7	12/25(月)	1	矢野 榮二 教授	リスク科学と意思決定
8	2/5(月)	1	矢野 榮二 教授	リスクコミュニケーション

科目名	特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ) ^(※)	code number : EPI 401～403 ^(※)	選択	1 単位
-----	----------------------------	---	----	------

科目責任者	Murry Mittleman 客員教授 ^(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

取り上げる主な主題には次のようなものがある。考え方は生物医学的・公衆衛生学的論文の批判的精読を通して論じられる。

- ・疫学研究の解釈: 関連性と因果性の概念; a研究結果の別の角度からの説明(偶然、バイアス、交絡を含む); 因果成立の条件
- ・疫学研究デザインの方法: 各方法の特徴、長所、限界。記述研究、観察研究(症例対照研究、コホート研究)無作為化臨床試験
- ・疾病頻度の指標、関連の指標: 疾病頻度指標(有病率、累積発生率、罹患率)と関連指標(相対危険度、寄与危険度)の特徴及び指標の利用法・解釈・相互関係。
- ・スクリーニング: スクリーニングテストの有効性(感度、特異度); スクリーニング事業の有用性(適中度); スクリーニング事業の解釈におけるバイアスの原因

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 疫学は臨床や公衆衛生上の問題への量的な対処法を示す公衆衛生と臨床医学の基礎となる科学であることを理解し、基礎的な疫学の理論と方法を理解する。
2. 疫学を公衆衛生学的課題評価にどう適用するか理解する。
3. 疫学的臨床論文の批判的精読の進め方を学ぶ。

【行動目標(SBO)】

1. 疾病のリスク要因である可能性のあるものを見つけ、検証するために疫学的な結果を解釈できる。
2. 疾患(アウトカム)の指標、関連の指標、研究デザインの選択、バイアス、交絡、効果の修飾などの疫学の基礎理論と方法を説明できる。
3. 公衆衛生や医学の論文を批判的に読み、現場での実務に利用できる。
4. 公衆衛生や臨床上の問題に取り組む有効で効果的な手順を立案することができる。

最終試験の点数で評価し、60%以上を合格とするが、授業への積極的な関与で10%程度加算する。

4. 教科書・テキスト

・Hennekens CH, Buring JE. Epidemiology in Medicine. Boston; Little, Brown and Company. 1987.

5. 参考書

・講義で紹介する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/15(月)	1	Murry Mittleman 教授(客)	導入と授業の目的 疫学研究の解釈: 関連と因果
2	1/15(月)	2	Murry Mittleman 教授(客)	疫学研究のデザイン法: 記述研究と分析研究の概要
3	1/16(火)	1	Murry Mittleman 教授(客)	疾患頻度の指標
4	1/16(火)	2	Murry Mittleman 教授(客)	関連の指標
5	1/17(水)	1	Murry Mittleman 教授(客)	介入研究: 無作為化臨床試験
6	1/17(水)	2	Murry Mittleman 教授(客)	特論 ・信頼区間 / ・効果修飾
7	1/18(木)	1	Murry Mittleman 教授(客)	疾患対策のためのスクリーニング
8	1/18(木)	2	Murry Mittleman 教授(客)	疫学研究の批判的検討

科目名	基礎生物統計学	code number : BIO 201	必修	4 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授
-------	----------

配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	水曜 1,2時限	授業方法	講義・演習
------	-----	------	----	-------	----------	------	-------

1. 授業の概要

講義前半は実際の健診データなどの実例を挙げながら、医学研究で得られる様々なデータについて、データの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフ表示の方法を学ぶ。推定(信頼区間)と仮説検定の概念を無作為割付の意味も含めて理解する。臨床研究で頻出である、反応変数が連続変数、2値変数および生存時間であるそれぞれの場合について、2群比較の方法とその際の共変量の調整方法を学ぶ。講義後半ではサンプルサイズの設定、相関や回帰、多群比較および多重性の調整について学ぶ。より応用的な解析手法については、幅広く入門的な知識を学習する。さらに講義では演習として主要な統計手法について、統計解析ソフトウェアを用いて実際にデータの解析を行う。課題に対するレポートを作成し、発表する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 医学研究論文を批判的に読むために必要な、統計解析手法に関する基本的な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 医学研究で得られる様々なデータについて、データの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフ表示することができる。
2. 臨床試験をはじめ、医学研究における統計学と疫学方法論の基礎について説明できる。
3. 基礎的な統計学的仮説検定について理解し、統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータに適用し、データ解析を行うことができる。

3. 成績評価の方法および基準

(1) 講義・演習の課題・レポート(70点)

(2) 参加態度 (30点)

注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・丹後俊郎:医学への統計学 第3版、朝倉書店、2013

・適宜資料を配布する。

5. 参考書

・丹後俊郎:統計学のセンス、医学統計学シリーズNo.1、朝倉書店、1998

・医学研究における実用統計学. DJ Altman 著 木船義久・佐久間昭訳(サイエンティスト社)

・はじめて学ぶ医療統計学. TDV Swinscow, MJ Campbell 著 折笠秀樹監訳(総合医学社)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

・講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。

・2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行い、前回までの内容について不明な点は質問し理解すること。

・当該期間に30時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。

・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

基礎生物統計学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/12(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	医学研究における調査研究デザイン、無作為割付と統計学 SASの使い方
2	4/19(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データの種類、データの要約
3	4/26(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データのグラフ表示
4	5/10(水)	1-2	山岡 和枝 教授	統計的推定と仮説検定(信頼区間とP値)
5	5/17(水)	1-2	山岡 和枝 教授	連続変数の2群比較
6	5/24(水)	1-2	山岡 和枝 教授	回帰分析
7	5/31(水)	1-2	山岡 和枝 教授	2値変数(割合)の2群比較
8	6/7(水)	1-2	山岡 和枝 教授	疫学研究における2値変数の解析
9	6/14(水)	1-2	松浦 正明 教授	生存時間の2群比較
10	6/21(水)	1-2	根本明日香 講師	サンプルサイズ設定
11	6/28(水)	1-2	根本明日香 講師	分散分析・多重性の調整
12	7/5(水)	1-2	丹後 俊郎 教授(客)	反応が2値変数の場合の共変量調整(ロジスティック回帰分析)
13	7/12(水)	1-2	松浦 正明 教授	反応が生存時間の場合の共変量調整(コックス比例ハザード分析)
14	7/19(水)	1-2	根本明日香 講師	反応が連続変数の場合の共変量調整(共分散分析・重回帰分析)
15	7/26(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	学習内容のまとめ・補充・演習、または試験
補習	8/2(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	講義を受けてわからなかった点、もう少し詳しく知りたい点についての 質問を受け付ける。また、課題研究であるなしにかかわらず自分の研究 についての統計相談を受け付ける。

科目名	応用生物統計学	code number : BIO 211	選択	2 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	火曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法についての基礎を学ぶ。特に統計モデルに重点を置く。各モデルの仮定を理解し、仮定が満たされているかの確認方法、仮定が満たされない場合の対処方法を学ぶ。交互作用、変数選択、モデルの当てはまり、結果の解釈などについて、医学論文でどのように報告されるかなど、実例を中心として学習する。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法に関する基本的な知識を修得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 医学研究で統計解析手法を応用することができる。
2. 臨床試験や医学研究において頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法の基本について説明できる。
3. 統計モデルについて理解し、その特性について説明でき、解析結果を正しく解釈できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 講義・演習の課題・レポート(70点)
 - (2) 参加態度 (30点)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・新版ロジスティック回帰分析. 丹後俊郎、山岡和枝、高木晴良 朝倉書店、2013
- ・統計モデル入門. 丹後俊郎 医学統計学シリーズNo.2、朝倉書店、2000
- ・Cox比例ハザードモデル. 中村剛. 医学統計学シリーズ No.3、朝倉書店、2001

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。
- ・2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行い、前回までの内容について不明な点は質問し理解すること。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/19(火)	1	根本明日香 講師	統計モデル入門
2	9/26(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(基礎)
3	10/3(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(理論)
4	10/10(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(応用)
5	10/17(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(基礎)
6	10/24(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(理論)
7	10/31(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(応用)
8	11/7(火)	1	松浦 正明 教授	コックス比例ハザードモデル(基礎・理論)
9	11/14(火)	1	松浦 正明 教授	コックス比例ハザードモデル(応用)
10	11/21(火)	1	山岡 和枝 教授	関連性の分析
11	11/28(火)	1	丹後 俊郎 教授(客)	空間集積性
12	12/5(火)	1	根本明日香 講師	ポアソン回帰モデル
13	12/12(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(基礎)
14	12/19(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(理論)
15	12/26(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(応用)

科目名	データ解析演習	code number : BIO 301	選択	2 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	松浦 正明 教授
-------	----------

配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	火曜 2時限	授業方法	演習
------	-------	------	----	-------	--------	------	----

1. 授業の概要

グループ演習により、実際のデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、(1)解析用データの説明、(2)解析計画の立案と発表、(3)解析の実施、(4)解析の継続と発表資料の作成および(5)発表と解析報告の作成を行う。基礎統計学および応用生物統計学で学んだ各種統計手法を用いて、交絡要因の調整を含むデータ解析演習およびコンペティションにより理解を深める。基礎的データ(I)から複雑なデータ(III)に関して演習を行い、欠損値等を含むデータハンドリングについて実践に則した技術を学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 実際の医学研究におけるデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、研究目的に応じた解析を実行することができ、報告書としてまとめる能力を習得する。

【行動目標(SBO)】

1. 研究デザインやデータの特性に応じた解析計画の立案ができる。
2. 議論を通して解析計画の再検討・修正を行うことができる。
3. 統計解析ソフトウェアを用いてデータに応じた解析を実行できる。
4. 解析報告資料および解析結果に対するレポートを適切に作成することができる。
5. 基本的能力としてのデータハンドリングを行うことができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 演習の課題・レポート(60%)
- (2) 発表、議論・参加態度、議論(40%)

4. 教科書・テキスト

・適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・臨床試験ハンドブック. 丹後俊朗・上坂浩之編(朝倉書店)
- ・臨床試験の計画と解析. 上坂浩之(朝倉書店)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・グループ演習に際して次回の授業までに解析および発表資料作成を行ってくるなど、授業時間外の取り組みを求める。
- ・当該期間に15時間以上の解析法などの調査・実施が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・解析案や解析結果に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

データ解析演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/19(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅰ(1) 第1回目解析用データの説明、解析計画立案
2	9/26(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅰ(2) 解析計画案の発表(各グループ)とディスカッション
3	10/3(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅰ(3) データ解析の実施
4	10/10(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅰ(4) 解析の継続と発表資料の作成
5	10/17(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅰ(5) 解析結果の発表(各グループ)
6	10/24(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅱ(1) 第2回目解析用データの説明、解析計画立案
7	10/31(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅱ(2) 解析計画案の発表(各グループ)とディスカッション
8	11/7(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅱ(3) データ解析の実施
9	11/14(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅱ(4) 解析の継続と発表資料の作成
10	11/21(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅱ(5) 解析結果の発表(各グループ)
11	11/28(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅲ(1) 第3回目解析用データの説明、解析計画立案
12	12/5(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅲ(2) 解析計画案の発表(各グループ)とディスカッション
13	12/12(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅲ(3) データ解析の実施
14	12/19(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅲ(4) 解析の継続と発表資料の作成
15	12/26(火)	2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	データ解析演習Ⅲ(5) 解析結果の発表(各グループ)

科目名	臨床試験概論	code number : BIO 221	選択	2 単位
-----	--------	--------------------------	----	------

科目責任者	根本明日香 講師						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	火曜 3時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

臨床試験の計画に必要な知識として、各種研究デザイン(2群間比較試験、クロスオーバー試験、非劣性試験)について学び、臨床試験に特徴的な概念(被験者保護・倫理、対照群、プラセボ、無作為化、盲検化、非劣性、エンドポイントの設定、分析対象(ITTとPPS)、部分集団解析)を学ぶ。臨床試験の実施と報告に必要な知識として、研究計画書(プロトコル)、典型的に用いられる解析手法、結果の報告、メタアナリシスについて学ぶ。

CONSORT、SPRIT等チェックリスト(声明)の活用、各自の考えた研究仮説についてのプロトコル作成演習を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 臨床試験に関して基礎的知識を身につける。
2. 医学・薬学・看護・栄養における臨床試験の計画、実施、解析および報告を行うために必要な理論および実践的事項を知る。

【行動目標(SBO)】

1. リサーチクエスションと臨床試験のデザイン、対象集団、介入方法、評価項目と解析方法との関係を説明できる。
2. 臨床試験の結果について適切に解釈でき、バイアスの可能性を指摘できる。
3. 研究仮説を明らかにするために適した臨床試験の計画を立て、プロトコル(研究実施計画書)を作成することができる。

3. 成績評価の方法および基準

講義への積極的な参加(40%)、課題(60%)により評価する。

4. 教科書・テキスト

適宜資料を配布する。講義資料は日本語だが、教材は実際の医学論文等であり英語のものが多い。

5. 参考書

- ・無作為化比較試験. 丹後俊朗(朝倉書店)
- ・医学的介入の研究デザインと統計 MH Katz著 木原/木原訳(メディカル・サイエンス・インターナショナル)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・前回までの内容について不明な点は質問し理解するまで復習することが望まれる。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

臨床試験概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/19(火)	3	根本明日香 講師	臨床試験概論
2	9/26(火)	3	根本明日香 講師	臨床試験における倫理
3	10/3(火)	3	根本明日香 講師	試験デザイン(1) (KW:2群間比較試験、クロスオーバー試験)
4	10/10(火)	3	根本明日香 講師	試験デザイン(2) (KW:非劣性試験)
5	10/17(火)	3	根本明日香 講師	演習(1)
6	10/24(火)	3	根本明日香 講師	研究計画書(プロトコル)(1) (KW:プロトコルの役割、内容)
7	10/31(火)	3	根本明日香 講師	研究計画書(プロトコル)(2) (KW:サンプルサイズ設計)
8	11/7(火)	3	根本明日香 講師	無作為化・盲検化・登録・割り付け
9	11/14(火)	3	根本明日香 講師	演習(2)
10	11/21(火)	3	根本明日香 講師	演習(3)
11	11/28(火)	3	根本明日香 講師	公衆衛生の領域における臨床試験
12	12/5(火)	3	根本明日香 講師	メタアナリシス
13	12/12(火)	3	内田 俊也 教授	医師による臨床研究
14	12/19(火)	3	長谷川貴大 講師(非)	医薬品の開発における臨床試験
15	12/26(火)	3	根本明日香 講師	演習(4)

科目名	社会調査データ解析概論	code number : BIO 241	選択	1 単位
-----	-------------	--------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 5時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

社会調査データの解析に必要な最小限の内容について、実際の解析例に基づきながら分析していく過程として、調査項目の策定から連関分析、構造分析、信頼性・妥当性の評価を概観し、実際にSASを用いて分析する手順を講義・演習を交えて講義・演習を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.社会調査のデータ解析を行う際に必要な統計学的解析方法や図表現を行うための基礎を修得する。

【行動目標(SBO)】

- 1.社会調査研究で用いる主な統計学的解析手法について説明できる。
- 2.社会調査研究の解析で用いる統計モデルについて理解し、実際のデータを用いて解析することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 講義・演習の課題・レポート(70点)
 - (2) 参加態度 (30点)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・適宜資料やデータを配布する。

5. 参考書

- ・調査の実際 不完全なデータから何を読みとるか 林 文・山岡和枝 著(朝倉書店)
- ・社会調査事典 社会調査協会編 丸善出版
- ・国際比較データの解析 意識調査の実践と活用 吉野諒三・林 文・山岡和枝 著(朝倉書店)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・基礎生物統計学、応用生物統計学を履修済みあるいは同等の能力をもつことを前提とする。
- ・事前資料の配布があった場合には事前に内容を読んでおくこと。グループ討論の場で発表すること。
- ・SASを用いたデータ解析を行うので、その準備をしておくこと。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

社会調査データ解析概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	5	山岡 和枝 教授	統計的調査の方法
2	4/25(火)	5	山岡 和枝 教授	社会調査データの測定と集計、信頼性・妥当性の分析
3	5/2(火)	5	山岡 和枝 教授	調査票の作り方と構造分析
4	5/9(火)	5	山岡 和枝 教授	項目の連関分析
5	5/16(火)	5	山岡 和枝 教授	欠測値の取り扱い
6	5/23(火)	5	山岡 和枝 教授	質問票の構造分析： 林の数量化法
7	5/30(火)	5	山岡 和枝 教授	質問票の構造分析： 主成分分析と因子分析
8	6/6(火)	5	山岡 和枝 教授	質問票の構造分析： その他の分析法

科目名	社会調査データ解析演習	code number : BIO 321	選択	1 単位
-----	-------------	--------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 6時限	授業方法	演習

1. 授業の概要

社会調査データの解析に必要な最小限の内容について、実際の解析例に基づきながら分析していく過程として、調査項目の策定から連関分析、構造分析、信頼性・妥当性の評価を概観し、実際にSASを用いて分析する手順について演習を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 社会調査データの解析に必要な解析における応用的能力を修得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 実際のデータを用いて分析していく過程での様々な問題点を把握することができる。
2. 主として調査項目の策定過程での分析、データ獲得後の情報を要約し、そこから新しい知見を導きだすための分析を、実際にSASを用いて分析することができる。

3. 成績評価の方法および基準

(1) 講義・演習の課題・レポート(70点)
(2) 参加態度 (30点)
注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・適宜資料やデータを配布する。

5. 参考書

・調査の実際 不完全なデータから何を読みとるか 林 文・山岡和枝 著(朝倉書店)
・社会調査事典 社会調査協会編 丸善出版
・国際比較データの解析 意識調査の実践と活用 吉野諒三・林 文・山岡和枝 著(朝倉書店)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

・社会調査法および基礎生物統計学、応用生物統計学を履修済みあるいは同等の能力をもつことを前提とする。
・事前資料の配布があった場合には事前に内容を読んでおくこと。グループ討論の場で発表すること。
・SASを用いたデータ解析を行うので、その準備をしておくこと。
・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。
・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

社会調査データ解析演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 社会調査における調査票と質問項目の確定過程における分析
2	4/25(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 調査票の構造分析: 主成分分析、因子分析、数量化3類
3	5/2(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 関連性の分析
4	5/9(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 健康意識と関連要因の分析
5	5/16(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 欠測値の取り扱いと感度分析
6	5/23(火)	6	山岡 和枝 教授	国際比較調査データの分析: 国別質問票の構造分析
7	5/30(火)	6	山岡 和枝 教授	国際比較調査データの分析: 国別関連性の分析
8	6/6(火)	6	山岡 和枝 教授	国際比較調査データの分析: 階層構造を取り入れた分析

科目名	特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ) ^(※)	code number : BIO 401～403 ^(※)	選択	1 単位
-----	-------------------------------	---	----	------

科目責任者	Garrett Fitzmaurice 客員教授 ^(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

この講義では、継時的データの基礎概念および混合効果モデルによる解析を理解する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 解析目的に応じて継時的データのモデルの構築法を習得する。

【行動目標(SBO)】

1. 定量的方法、特に推測の基本原理を学び、公衆衛生及び医学文献を理解できる。
2. 研究課題に対処するために有効かつ効率的に研究を分析できる。
3. 確率変数、測定スケール、記述統計、確率分布、サンプリングの使用を説明できる。
4. 確率論の基礎を応用できる。
5. 推論が行なえ、仮説を構築し、信頼区間を構成し、研究結果と説明要因を定義できサンプルサイズの計算ができる。
6. 表形式と離散データ(分割表)の解析のための方法を解釈し適用できる。
7. 線形回帰分析のための方法を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)筆記試験100%
コース終了後に筆記試験を行う。

4. 教科書・テキスト

- ・事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。

5. 参考書

- ・Applied Longitudinal Analysis, 2nd Edition. G.M. Fitzmaurice, N.M. Laird, J.H. Ware, Wiley. (2011)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・カイ2乗検定や回帰分析などの統計学的手法の基礎に関する事前知識を前提とする。
- ・参考書程度の事前知識を前提とする。
- ・講義ごとに1時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/10(水)	1	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	イントロ: 基本的概念、関連データ
2	1/10(水)	2	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	平均のモデル化: 反応プロファイルの解析
3	1/11(木)	1	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	平均のモデル化: 反応プロファイルの解析 パラメトリック&ノンパラメトリックなトレンド
4	1/11(木)	2	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	共分散のモデル化: 平均と共分散のモデル化の方法
5	1/12(金)	1	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	経時的データの線形混合効果モデル
6	1/12(金)	2	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	継時的データに対する一般化線形混合モデルの概観
7	1/13(土)	1	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	経時的データのマージナルモデル: 一般化推定方程式
8	1/13(土)	2	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	一般化線形混合モデル

科目名	健康行動科学概論	code number : HBS 201	必修	2 単位
-----	----------	--------------------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	水曜 3時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動などを導くための基本知識を学習する。古典的条件付け、オペラント条件付け、自己効力感、ローカス・オブ・コントロールといった行動科学の概念が健康評価にどのように役立つか討論する。医学・医療分野においては、認知行動療法がうつ病、社交(社会)不安障害、摂食障害、腰痛、高血圧など各精神・身体疾患において有効であることを示すエビデンスが蓄積されている。そうした最新の行動医学理論・手法を紹介し、心理社会的ストレスが心身に及ぼす影響について理解できるようにする。さらに社会行動学的な見地に立って、様々な公衆衛生学問題に対して解決策を提示し、具体的に問題解決ができる人材の養成を目指す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 行動の成り立ち、動機付け、ストレス、生涯発達に関する基礎知識が身につく。
2. 健康を維持、促進するための基礎理論、方法論、社会的ストレスと健康についての基礎知識が身につく。
3. 社会要因や文化的要因が健康におよぼす影響についての基礎知識が身につく。
4. コミュニケーションが、健康維持、促進、医療で果たす役割を知り、促進のための方法を身につける。
5. ストレスに対する対応(ストレス・コーピング、ストレスマネジメント)に関する理論と実際の知識を身につける。

【行動目標(SBO)】

1. 上記の知識や理論的理解を用いて、困難な状況にある模擬症例にたいする治療的対応についての方略を作成できたり、健康維持、促進のための指導方略を作成できるようになる。
2. 人々が、健康な生活を送れるような行動をとることができるよう動機付けをおこない、指導できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・講義の課題、期末試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。

4. 教科書・テキスト

- ・日本行動医学会編集(野村忍、島津明人、堤明純、中尾睦宏、吉内一浩). 行動医学テキスト, 中外医学社, 2015年

5. 参考書

- ・筒井 末春(著), 大谷 純(著), 久住 眞理(監修). 行動科学概論(心身健康科学シリーズ). 人間総合科学大学, 2008年
- ・松本千明(著). 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎:生活習慣病を中心に. 医歯薬出版株式会社, 2002年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・下記のテキストにそって講義を進めていく。行動医学について予備知識のない者は(例:各回のKey wordsの意味が不明)、自分に合った健康行動科学関連の書籍(下記の参考書など)を事前に1通り読んでおくことが望ましい。
- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・講義ごとに2時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/12(水)	3	中尾 睦宏 教授	行動の成り立ち Key words: 刷り込み, 古典的(レスポナント)条件づけ, オペラント(道具的)条件づけ, 認知学習, 社会的学習(観察学習、模倣学習), 脳内神経伝達物質
2	4/19(水)	3	中尾 睦宏 教授	行動の動機づけ Key words: 動機づけ(内発的、外発的), 欲求, フラストレーション, 葛藤, 適応機制, 防衛機制
3	4/26(水)	3	中尾 睦宏 教授	ストレス(心理) Key words: ストレッサー, ストレス反応, 心理学的ストレスモデル, 認知的評価, コーピング, ライフイベント, リラクゼーション法
4	5/10(水)	3	中尾 睦宏 教授	ストレス(環境)と健康 Key words: 職場のストレス, その他のストレス(子供のストレス、育児ストレスなど), ストレス対策, ソーシャルサポート
5	5/17(水)	3	中尾 睦宏 教授	生涯発達 Key words: こころの発達, ライフサイクル, 遺伝-環境相互作用, ライフタスク(人生課題)
6	5/24(水)	3	中尾 睦宏 教授	個人差 Key words: パーソナリティ, 類型論, 特性論, ビッグファイブ, 知能, 役割論, ジェンダー
7	5/31(水)	3	中尾 睦宏 教授	対人関係 Key words: 対人認知, 欲求と葛藤, 集団心理, 社会適応, 対人コミュニケーション, 文化
8	6/7(水)	3	中尾 睦宏 教授	行動変容の理論 Key words: 動機づけ, 行動療法, 認知行動療法, 刺激統制, セルフ・エフィカシー, 多理論統合モデル, エンパワーメント
9	6/14(水)	3	中尾 睦宏 教授	行動変容の技法 Key words: 生活習慣指導, 保健指導(禁煙指導/服薬指導), ティーチングとコーチング
10	6/21(水)	3	中尾 睦宏 教授	医療コミュニケーション Key words: 保健医療情報の普及(ガイドライン、健診受診率), 患者-医師コミュニケーション, 医療者間コミュニケーション
11	6/28(水)	3	中尾 睦宏 教授	Active learning演習「公衆衛生現場における行動科学アプローチ」
12	7/5(水)	3	石川 ひろの 講師(非)	ヘルスコミュニケーション特論 Key words: ヘルスコミュニケーション、ヘルスリテラシー、説得的コミュニケーション、リスク認知、リスクコミュニケーション
13	7/12(水)	3	中尾 睦宏 教授	社会と健康 Key words: 格差と健康, ソーシャルキャピタル, 社会参加, 社会疫学, 健康の社会的決定要因, 文化能力(Cultural competence)
14	7/19(水)	3	福田 吉治 教授	社会疫学特論 Key words: 社会階層・SES、健康格差、ソーシャルキャピタル、行動経済学
15	7/26(水)	3	中尾 睦宏 教授	まとめ

科目名	健康教育学	code number : HBS 211	選択	1 単位
-----	-------	--------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	月曜 2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

健康教育・ヘルスプロモーションの基礎となる行動科学等の理論とモデルを学び、主に、個人、集団、社会の3つのレベルに分けて、健康教育・ヘルスプロモーションの方法を習得する。演習として、得られた知識と技術を用いて、具体的な健康教育・ヘルスプロモーションの企画(評価計画含む)ならびに模擬的な実践を行う。これらを通じて、地域、職域、学校等において効果的な健康教育・ヘルスプロモーションを実践できる専門家の育成を目指す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 地域、職域、学校等のセッティングで、個人、集団、社会の異なるレベルにおいて、行動変容、健康教育、ヘルスプロモーションに関する理論を応用し、健康教育・ヘルスプロモーションを実践できる知識と能力を身に着ける。

【行動目標(SBO)】

1. 健康教育・ヘルスプロモーションに関する主な理論・モデルを説明できる。
2. 個人、集団、社会の3つのレベルの分けて、健康教育・ヘルスプロモーションの方法論を説明できる。
3. 3つのレベルでの健康教育・ヘルスプロモーションを企画、実施、評価できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 演習の課題・レポート(50%)
 - (2) 参加態度 (50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・国立保健医療科学院. 一目でわかるヘルスプロモーション. 2008年. (「一目でわかるヘルスプロモーション」で検索。無料ダウンロード可)

5. 参考書

- ・Egger G, et al. Health Promotion Strategies and Methods, McGraw-Hill Australia, 2013年
- ・日本健康教育学会. 健康教育—ヘルスプロモーションの展開(単行本). 保健同人社, 2003年
- ・曾根 智史, 他. 健康行動と健康教育—理論、研究、実践. 医学書院, 2006年 (原書最新版) Glanz K, Rimer BK. Health Behavior: Theory, Research, and Practice, Jossey-Bass, 2015.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・テキスト、参考書および各授業で指定する資料に可能な範囲で目を通しておくこと。
- ・これまで実践・関係してきた健康教育・ヘルスプロモーション活動があれば、その内容をまとめておくこと。
- ・1コマにつき約2時間の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・課題やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- ・実際の健康教育の実践を行う場合がある。

<授業計画>

健康教育学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/13(月)	2	福田 吉治 教授	健康教育・ヘルスプロモーションの理論 健康教育・ヘルスプロモーションの基本的な理論・モデルについて説明を行う。
2	11/20(月)	2	福田 吉治 教授	個人を対象にした健康教育・ヘルスプロモーション 生活習慣予防の面接・保健指導、カウンセリング等、個人を対象とした健康教育・ヘルスプロモーションの基本的考え方、方法論等を学ぶ。
3	11/27(月)	2	福田 吉治 教授	集団を対象にした健康教育・ヘルスプロモーション 地域、職域、学校等での健康教育・健康講話など、小集団を対象とした健康教育の基本的な考え方、方法論等を学ぶ。
4	12/4(月)	2	福田 吉治 教授	社会を対象にした健康教育・ヘルスプロモーション ソーシャルマーケティング、ヘルスコミュニケーション、コミュニティオーガニゼーションなど、社会全体を対象とした健康教育の基本的な考え方、方法論等を学ぶ。
5	12/11(月)	2	福田 吉治 教授	演習1:個人を対象にした健康教育・ヘルスプロモーション 生活習慣病予防の保健指導等、個人を対象にした健康教育について、プログラムの立案、ロールプレイなどを通じて学習する。
6	12/18(月)	2	福田 吉治 教授	演習2:集団を対象にした健康教育・ヘルスプロモーション 地域、職域、学校等の小集団を対象にした健康教育を企画し、模擬的実践を行う。
7	12/25(月)	2	福田 吉治 教授	演習3:社会を対象にした健康教育・ヘルスプロモーション ソーシャルマーケティングやヘルスコミュニケーションの考え方を応用し、社会全体を対象にした健康教育・ヘルスプロモーションのプログラムを企画する。
8	2/5(月)	2	福田 吉治 教授	まとめ

科目名	社会疫学	code number : HBS 212	選択	1 単位
-----	------	--------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

社会疫学について理解を深めるため、その背景と重要な概念を整理する。国内外の健康の社会的決定要因に関する事例や研究成果を取り上げて検討する。問題となりうる所得や教育水準などの社会経済的要因、子どもや女性の貧困、職業上の階層や雇用形態に起因する労働者の健康、地域の結びつきなどのソーシャル・キャピタルと健康について重点的に学ぶ。さらに、社会疫学の成果を根拠とした健康への介入について理解できるようにする。健康の社会的決定要因の解決策として注目される行動経済学と社会疫学との結びつき等について理解を深め、社会格差の縮小、集団の健康水準の向上を目的とした政策提言を議論する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 社会疫学および健康の社会的決定要因の基本的な考え方と研究知見を理解し、公衆衛生の実践に応用できる知識と技術を身に付ける。

【行動目標(SBO)】

1. 社会経済的要因が健康に及ぼす影響を検証する社会疫学の概念や理論を説明できる。
2. 社会疫学の研究成果を理解し、説明できる。
3. 健康の社会的決定要因の実例を挙げて問題を整理できる。
4. 社会疫学の結果を根拠にした健康を守る対策を提案できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業内での発言・発表・討議参加(50%)
 - (2) 課題レポート・発表(50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

各授業で事前の資料等を配布する。

5. 参考書

Berkman LF, Kawachi I, Glymour MM. Social Epidemiology 2nd edition. Oxford University Press. 2014
Wilkinson R & Marmot M. Social Determinants of Health 2nd edition. Oxford University Press. 2005

川上憲人、橋本英樹、近藤尚己 『社会と健康:健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』東京大学出版会. 2015年
イチロー・カワチ 『命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業』小学館. 2013年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定する文献・副読本を事前に読んで理解すること
- ・事例に関する議論の際には事例に関わる諸問題について事前に調べておくこと
- ・1コマにつき約2時間程度の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・課題やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

社会疫学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/15(水)	2	福田 吉治 教授 井上まり子 准教授	オリエンテーション 社会疫学を学ぶ人のために ―背景と概念―
2	11/22(水)	2	福田 吉治 教授	社会経済的地位 (Socioeconomic Status)と健康
3	11/29(水)	2	福田 吉治 教授	地域の社会経済的環境と健康
4	12/6(水)	2	井上まり子 准教授	働く人と健康格差 ―職業階層・雇用形態と健康―
5	12/13(水)	2	井上まり子 准教授	ソーシャル・キャピタルと健康
6	12/20(水)	2	橋本 英樹 講師(非)	健康格差の縮小に向けて:健康格差の理論
7	12/27(水)	2	福田 吉治 教授	行動経済学の社会疫学への応用
8	2/7(水)	2	福田 吉治 教授 井上まり子 准教授	まとめ 社会疫学からの政策提言

科目名	終末期医療実習	code number : HBS 310	選択	1 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

終末期医療やホスピス・緩和ケアの臨床現場における在宅での実習を通じて、人生のターミナル期にある人とその家族に対して、尊厳ある人生を完結できるように支えるためには、医師としてどのような援助をしたら良いのか、について学習する。人間が人生の終焉を迎えるのは定めであるが、発達段階やその人の置かれた環境などによって、残された生や死の迎え方の意味が変わってくることを理解する。

具体的には疼痛管理、ホスピスケア、デスエデュケーション、スピリチュアルケア、グリーフケアなどの考え方や手法を実習で学んでいくが、その中でターミナル期にある人の全人的苦痛、家族の悲嘆、ターミナルケアのチームアプローチ、ターミナル医療の倫理的課題についても理解を深めていく。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. がん治療における「末期がん患者」の位置づけを理解する。
2. ホスピスケア、緩和ケアの概念、歴史的な変遷などを理解し、医療における両者の位置づけを理解する。
3. 「末期がん患者」を支える医療、特に家で過ごす末期がん患者に対する医療のあり方について理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 在宅ホスピスケア(Home hospice care)の歴史・概念を踏まえて、施設ホスピスケア(Institutional hospice care)と連携できるようになる。
2. 地域における在宅ホスピスケアの実際に触れ、在宅ホスピスケアに貢献できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・講義や実習に関するレポート、面接

4. 教科書・テキスト

- ・川越厚『在宅ホスピス・緩和ケアー演習形式で学ぶケアの指針』メジカルフレンド社 2004年

5. 参考書

- ・川越厚『家族で看取る癌患者ー在宅ホスピス入門』メジカルフレンド社 1991年
- ・川越厚『在宅ホスピスケアを始める人のために』医学書院 1996年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定したテキストを事前に読んでおくこと。
- ・講義ごとに2時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ※尚、授業日時については、夏季休業前に本科目履修希望者と指導担当教員にて個別に設定する。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
 - ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	個別設定		川越 厚 講師(非)	緩和医療、ホスピスケアの概念 両者の歴史を学び、現場実習を通して在宅ホスピス緩和ケアの概念を理解する。
2			川越 厚 講師(非)	法的・倫理的課題 在宅ホスピス緩和ケアにおける法的・倫理的課題、および在宅ホスピス緩和ケアに関わる専門職の法的根拠と役割について理解する。
3			川越 厚 講師(非)	介護保険と地域ケアシステム 在宅ホスピスケアに必要な介護保険の知識、地域ケアシステムを理解する。
4			川越 厚 講師(非)	チームケア 在宅ホスピスケアのチームケアの原則を理解し、ケアチームの一員としてカンファレンスで意見を述べる。
5			川越 厚 講師(非)	末期がん患者に対するケア(1) 末期がん患者を苦しめる症状の緩和、特に疼痛管理の方法と死までの病状経過を理解する。
6			川越 厚 講師(非)	末期がん患者に対するケア(2) チーム(interdisciplinary team)として関わることを学び、在宅での末期がん患者に必要な医療計画を立案し、発表する。
7			川越 厚 講師(非)	末期がん患者に対するケア(3) 末期がん患者と家族が抱える心理・社会・霊的な問題、および家族を失った人の悲嘆を理解し、悲嘆のケアについて述べるができる。
8			川越 厚 講師(非)	末期がん患者に対するケア(4) 在宅死を前提とした「死の教育」および末期がん患者と家族とのコミュニケーションの原則を理解した上で、コミュニケーションをとることができる。

科目名	特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ) ^(※)	code number : HBS 401～403 ^(※)	選択	1 単位
-----	--------------------------------	---	----	------

科目責任者	Ichiro Kawachi 客員教授 ^(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

人々の健康状態を評価しその理論モデルを構造化するための基本知識を網羅する講義を行う。疫学研究を実証的に進めるために必要な概念や手法を学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.社会階級、性別、貧困、収入格差、ソーシャルネットワーク/サポート、コミュニティの結束、心理社会的な仕事環境、近隣関係など社会的要因が人々の健康に及ぼす影響について理解する。

【行動目標(SBO)】

1.上記の考え方をを用いながらハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明し、コミュニティレベルの健康決定要因、ソーシャルキャピタル、職場ストレスモデルなどに基づいた人々の健康問題への介入方法を提言できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

(1)筆記試験(100%)

4つのショートエッセイ形式の問題を含めた2時間の筆記試験を行う(最終日の午後に実施予定)。

4. 教科書・テキスト

・Berkman LF & Kawachi I (eds). Social Epidemiology. New York: Oxford University Press, 2000.

5. 参考書

- ・講義で紹介する。
- ・カワチ イチロー. 命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業, 小学館101新書, 2013年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員とTAによる補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/6(土)	1	Ichiro Kawachi 教授(客)	健康の社会決定要因の概説
2	1/6(土)	2	Ichiro Kawachi 教授(客)	社会経済状態、測定と原因とみなせるエビデンス
3	1/7(日)	1	Ichiro Kawachi 教授(客)	収入格差と健康
4	1/7(日)	2	Ichiro Kawachi 教授(客)	ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートと健康
5	1/8(月)	1	Ichiro Kawachi 教授(客)	ソーシャルキャピタル、社会の結束と健康
6	1/8(月)	2	Ichiro Kawachi 教授(客)	心理社会的な仕事環境と健康
7	1/9(火)	1	Ichiro Kawachi 教授(客)	行動経済学と公衆衛生
8	1/9(火)	2	Ichiro Kawachi 教授(客)	健康格差の是正:政策の観点から

科目名	保健政策・医療管理学概論	code number : HPM 203	必修	1 単位
-----	--------------	--------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 3時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

保健行政・医療管理学分野は公衆衛生学の中でも多岐にわたり、すべての分野を十分に把握するのは困難である。各分野の専門家でも自分の専門外を十分に理解できないことも多い。そこで本講義ではオムニバス形式で保健行政・医療管理学分野内の各専門家がそれぞれのサブスペシャリティの入門部分を解りやすく解説し、初学者にとっても保健行政・医療管理学分野全般を概観できるようになる手助けをすることを目的とする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.保健行政・医療管理分野を概観する。

【行動目標(SBO)】

- 1.保健行政・医療管理学分野の各サブスペシャリティを理解できる。
- 2.保健行政・医療管理学分野を今後の学習に役立てることができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (30%)

4. 教科書・テキスト

各授業で予習すべき文献を指定する。

5. 参考書

各授業ごとに指定する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

保健政策・医療管理学概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	3	中田 善規 教授	導入および医療経営学
2	4/25(火)	3	山本 秀樹 教授	保健医療政策学(資源の配分に関する基本的な考え方)
3	5/2(火)	3	福田 吉治 教授	ヘルスプロモーション・ポリシー
4	5/9(火)	3	橋本 英樹 講師(非)	貧困と健康
5	5/16(火)	3	井上 まり子 准教授	国際保健学
6	5/23(火)	3	高橋 謙造 准教授	地域保健学
7	5/30(火)	3	谷原 真一 教授	医療経済学
8	6/6(火)	3	井口 直樹 教授(客)	医療保障政策学

科目名	ヘルスポリシー概論	code number : HPM-POL 251	選択	1 単位
-----	-----------	------------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

まず、ヘルス・ポリシーの基本的な理論やモデル、根拠の基づく政策立案の手法を説明する。後に、実際の行政に関わっている非常勤講師より、わが国の厚生行政の仕組み等について講義を行う。さらに、個別な政策として、NCD対策(健康づくり、健康増進計画等)、がん対策、医師等の人材育成・確保対策、母子保健、精神保健、障害者保健、学校保健、地域医療構想、地域包括ケアシステム等について概要を説明する。まとめとして、各受講生が関心のある領域あるいはこれまでに経験した領域についての現状と課題、今後のあり方の提言をまとめてもらう。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.ヘルスポリシーの基本的な考え方と理論、現在行われている健康政策を理解し、その課題を抽出し、課題解決のために必要な政策を提言できるための知識と技術を習得する。

【行動目標(SBO)】

- 1.ヘルス・ポリシーの理論・モデル、根拠に基づく政策立案の基本的な考え方を理解し、説明できる。
- 2.わが国の保健医療福祉制度、公衆衛生行政システム、主な公衆衛生法規を理解し、説明できる。
- 3.NCD対策、地域医療等、国や地方自治体の主な公衆衛生施策の背景、現状、課題を説明できる。
- 4.人口・保健・医療等に関する主な統計調査およびその政策への活用について説明できる。
- 5.公衆衛生施策の立案、実施、または評価を行うことができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)授業への積極的な参加(50%)
 - (2)発表およびレポート提出評価(50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

- ・厚生労働統計協会、国民衛生の動向(毎年8月ごろに最新号が出版される)

5. 参考書

- ・Buse K, Mays N, Walt G. Making Health Policy. Open Univerisy Press, 2012.
- ・週刊保健衛生ニュース(研究科として購入し、院生室に蔵書している。最新の厚生行政の動向のチェックを)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・学生間での討論を重視するので、講義中に指示された資料・参考書・文献を事前に熟読しておくこと。
- ・1コマにつき2時間程度の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

ヘルスポリシー概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/14(水)	4	福田 吉治 教授	ヘルス・ポリシーの理論1:アジェンダ設定、プランニング
2	6/21(水)	4	福田 吉治 教授	ヘルス・ポリシーの理論2:ステークホルダー分析、評価
3	6/28(水)	4	田中 剛 准教授(客)	日本の厚生行政の仕組みと政策決定メカニズム
4	7/5(水)	4	田中 剛 准教授(客)	公衆衛生危機管理(国内のコーディネーションを中心に)
5	7/12(水)	4	福田 吉治 教授	歴史からみた公衆衛生行政 人口・保健・医療統計とその政策への活用
6	7/19(水)	4	福田 吉治 教授	日本の公衆衛生施策1:NCD対策、がん対策、人材育成・確保、等
7	7/26(水)	4	福田 吉治 教授	日本の公衆衛生施策2:母子保健、精神保健、障害者保健、自殺対策、等
8	8/2(水)	4	福田 吉治 教授	日本の公衆衛生施策3:医療、社会保障、地域医療構想、地域包括ケアシステム、等

科目名	医療経済学	code number : HPM-BIZ 211	選択	2 単位
-----	-------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医療は大きな社会システムの一部である。その医療を正確に分析するには社会システム分析ツールである経済学が必要である。特にミクロ経済学は絶対不可欠な分析ツールである。また医療経済学で語られる言葉も大半は厳密な経済学的定義があり、それを正確に理解しておくことが有意義な議論の第一歩となる。本講ではすべての基礎となるこの古典的ミクロ経済学を初歩から徹底的に理解し、それを医療に的確に応用できるようになることを目標とする。具体的には初級ミクロ経済学を医療者向けにアレンジして解りやすく時間をかけて講義する。さらに現在社会問題となっている医療問題を取り上げて、ミクロ経済学的分析を応用して問題の経済学的原因を議論する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.経済学的思考を公衆衛生学に応用する。

【行動目標(SBO)】

1.ミクロ経済学的ツールを用いて医療問題を分析できる。

2.現在日本が直面する医療に関する問題を経済学的視点から理解し、解決方法を提示できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力:50%
(2)講義内でのテスト:50%

4. 教科書・テキスト

・Mankiw NG. Principles of microeconomics. 5th Ed. Cengage Learning, Mason, OH. 2008 (訳本:マンキュー経済学第2版Iミクロ編、東洋経済新報社)

5. 参考書

- ・柿原浩明 入門医療経済学。日本評論社、2005年
・その他一般的なミクロ経済学教科書

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
(①②などは教科書の予習すべき章を示す。)
・当該期間に30時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ※授業計画:講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。
・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医療経済学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/12(月)	3	中田 善規 教授	導入:医療と経済学①
2	6/12(月)	4	中田 善規 教授	経済学的思考・相互依存と交易の利益②③
3	6/19(月)	3	中田 善規 教授	医療の需要・供給と平衡④⑥
4	6/19(月)	4	中田 善規 教授	医療の弾力性⑤
5	6/26(月)	3	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険1
6	6/26(月)	4	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険2
7	7/3(月)	3	中田 善規 教授	医療消費者・医療生産者と市場効率⑦
8	7/3(月)	4	中田 善規 教授	税のコスト⑥⑧
9	7/10(月)	3	中田 善規 教授	外部性・公共財と共有資源⑩⑪
10	7/10(月)	4	中田 善規 教授	患者の需要理論(消費者選択理論)⑫
11	7/24(月)	3	中田 善規 教授	医療の生産理論・生産費用⑬
12	7/24(月)	4	中田 善規 教授	完全競争市場での医療の価格と生産⑭
13	7/31(月)	3	中田 善規 教授	独占での医療の価格と生産⑮
14	7/31(月)	4	中田 善規 教授	独占的競争と寡占の下での医療の価格と生産⑯⑰
15	7/31(月)	5	中田 善規 教授	まとめとテスト

科目名	医療保障政策論	code number : HPM-BIZ 212	選択	1 単位
-----	---------	------------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	火曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

我が国の社会保障制度全体における保健医療制度の位置づけを理解しつつ、我が国の保健医療制度の現状、課題につき医療提供体制及び公的医療保険制度のあり方を中心に検討する。また併せて介護保険制度など他の福祉制度との連携の在り方についても考えていく。なお、授業はなるべく双方向的に進めたいと考えているので積極的意欲をもった参加者を期待する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.保健医療(とくに医療)分野における行政制度・政策の概要、政策課題について理解し、今後保健医療の現場において指導的な役割を果たすための基礎的知識を得るとともに、今後の保健医療政策のあり方について自ら考え提案できる力を養うことを目標とする。

【行動目標(SBO)】

- 1.社会保障の概念と基本的な考え方について説明できる。
- 2.日本の保健医療政策の特徴(諸外国との比較含む)について説明できる。
- 3.医療施設、医療マンパワー、地域医療計画、介護保険制度について説明できる。
- 4.日本の保健医療政策の抱える課題およびその解決策について検討し、提示することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)課題・レポート(50%)
 - (2)授業への参加態度(50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

それぞれの授業にあたり、資料を配布する。

5. 参考書

上記文献のほか、厚生労働省『厚生労働白書』(厚生労働省HP)、厚生労働協会『国民衛生の動向』など

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に椋野・田中『はじめての社会保障』(有斐閣)、池上直己『ベーシック医療問題』(日本経済新聞社)、島崎謙治『医療政策を問う』(ちくま新書)などを読んでおくことを期待する。
- ・講義ごとに2時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医療保障政策論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/19(火)	4	福田 吉治 教授 井口 直樹 教授(客)	社会保障とは～歴史と理論・日本の社会保障制度の現状と課題
2	9/26(火)	4	井口 直樹 教授(客)	日本の保健医療政策～政策体系と政策立案プロセスを考える
3	10/3(火)	4	井口 直樹 教授(客)	医療サービスの特性と医療保障政策(公的関与)の必要性
4	10/10(火)	4	井口 直樹 教授(客)	必要な医療提供体制の整備 (医療施設と医療マンパワー・地域医療計画)
5	10/17(火)	4	井口 直樹 教授(客)	持続可能な公的医療保険制度の確立 (安定財源の確保と医療費適正化)
6	10/24(火)	4	井口 直樹 教授(客)	諸外国の医療保障制度～ドイツ・英国・米国
7	10/31(火)	4	井口 直樹 教授(客)	公的医療保険制度と介護保険制度～在宅医療・介護を考える
8	11/7(火)	4	福田 吉治 教授 井口 直樹 教授(客)	「あるべき医療のあり方」について～討論

科目名	地域保健学	code number : HPM-CH 241	選択	2 単位
-----	-------	-----------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 1,2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

地域保健に関して、

- 1) 住民／患者の視点:健康づくり、医療の利用、患者医師関係、医療情報利用の観点
 - 2) 医療提供者の視点:家庭医療、地域医療の現場における医療活動、住民・患者との関係構築の観点
 - 3) 地域社会の視点:さまざまなステークホルダーの協働による健康なまちづくり、コミュニティづくりの観点
- から、公衆衛生専門家として課題発見、解決、研究活動を行うことができるようになることをめざし、講師および受講生同士でディスカッションを行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 知識習得型の座学ではなく、地域保健に関わっていく上で、解決策、実践案を案出し得る能力・ツールを修得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 地域における健康と保健・医療に関する課題の発見、コミュニティづくり、ステークホルダーと協働した問題解決を行うことができる。
2. コミュニティ・コーディネートの手法について説明できる。
3. プロジェクト・サイクル・マネジメントを活用した問題分析、活動案案出を行うことが出来る。

- (1) 授業への積極的な参加 (40%)
 - (2) レポート提出評価 (60%)
- ただし、無断欠席については減点の対象となる。

4. 教科書・テキスト

1. 開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント:参加型計画編
http://www.fasid.or.jp/publication/6_index_detail.shtml

5. 参考書

1. 日本の保健医療の経験
http://jica-ri.jica.go.jp/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jica/field/200403_02.html
2. Supportive supervision/mentoring and monitoring for community IYCF
http://www.unicef.org/nutrition/files/Supervision_monitoring_module_Nov_2012.pdf
3. Guidelines for Implementing Supportive Supervision. A step-by-step guide with tools to support immunization
http://www.path.org/vaccineresources/files/Guidelines_for_Supportive_Supervision.pdf

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・履修学生に事前に配布する。
- ・希望に応じて、実習(海外での調査、離島、僻地等)も行う。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

地域保健学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/13(火)	1	高橋 謙造 准教授	地域保健学概論・コミュニティと健康
2	6/13(火)	2	高橋 謙造 准教授	日本の地域保健発展の歴史(人材はどう育っていったか?)
3	6/20(火)	1	高橋 謙造 堀内 清香 准教授 助教	プライマリ・ヘルス・ケアからヘルス・プロモーションへ
4	6/20(火)	2	高橋 謙造 堀内 清香 准教授 助教	地域におけるフィールド調査概論/地域診断の概要
5	6/27(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(講義/実習)
6	6/27(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習1)
7	7/4(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習2)
8	7/4(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習3)
9	7/11(火)	1	石崎 達郎 講師(非)	高齢社会における地域保健医療と研究事例
10	7/11(火)	2	石崎 達郎 講師(非)	高齢社会における地域保健医療と研究事例
11	7/18(火)	1	山本 真 講師(非)	これからのコミュニティと地域保健:コミュニティ・コーディネートについて
12	7/18(火)	2	山本 真 講師(非)	コミュニティ・コーディネートについての実践ワークショップ
13	7/25(火)	1	高橋 謙造 准教授	地域包括ケアについて考える
14	7/25(火)	2	高橋 謙造 准教授	地域包括ケアへの介入案
15	8/1(火)	1	高橋 謙造 堀内 清香 准教授 助教	発表・討論・まとめ

科目名	国際保健学概論	code number : HPM-GH 231	選択	2 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	井上まり子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生は今や国際的な視点を抜きに語ることができないほどに世界との関連が強くなっている。国際的な視点から保健医療を理解するうえで重要な健康指標と各種疾病の現状について学び、統計情報を用いて問題の程度を説明できるようにする。さらに、医療人類学の素養、保健医療システムの評価、財政、保健医療サービスについて多角的に議論する基本を学び、グローバルヘルスを考えるうえで重要な論点の整理と理解につとめる。

今も継続して対策が講じられている母子保健や感染症に関する問題から、現在特に注目されている課題、たとえば、非感染性疾患(Non-Communicable Diseases)や健康の社会的決定要因、環境問題、タバコ等にも理解を深める。テーマは多様であるが、国際社会におけるグローバル・ヘルス領域のガバナンス、日本や国際機関の方針や合意など、共通した世界の動向として理解する。

事例に基づく演習なども一部取り入れ、実務経験が方法な非常勤講師や教員と共に、現場での実際の課題への取り組みを学ぶ。

【一般目標(GIO)】

1. 国際社会における公衆衛生領域の重点課題を理解する。
2. グローバル・ヘルスに関する日本などの各国、国際機関、民間企業、NGOなどさまざまなステークホルダーの動向を知る。

【行動目標(SBO)】

1. 世界での代表的な公衆衛生の課題を人口統計や健康指標を用いて説明できる。
2. 国際的な公衆衛生の課題である貧困、乳児死亡・妊産婦死亡、感染症、環境衛生、健康の社会的決定要因や非感染性疾患、タバコなどの課題の概況を述べられる。
3. 上記課題に関するステークホルダーの役割を整理できる。
4. 日本政府の国際保健政策を説明できる。
5. 世界におけるグローバル・ヘルスの優先課題など、海外や国際機関などの動向を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

授業で行う課題や宿題 30%、授業中の発言 30%、最終課題 40%

4. 教科書・テキスト

授業開始前に配布する資料・文献等 授業第1回目で指示する。

5. 参考書

World Health Organization 各年次報告書、World Development Report、学術論文等 授業第1回目で指示する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- (1) 事前に指定する資料や文献を授業前に読み、ディスカッションに参加できるようにしておくこと。
- (2) 当該期間に約10時間の予復習と課題への準備が必要。

7. その他履修上の注意事項

- (1) 試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- (2) この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

国際保健学概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/13(火)	3	井上まり子 准教授	授業オリエンテーション グローバル・ヘルスの優先課題 ―国際的取組の変遷― ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (Universal Health Coverage) など
2	6/13(火)	4	井上まり子 准教授	疫学転換と非感染性疾患 (Non-communicable diseases)
3	6/20(火)	3	高橋 謙造 准教授	国際保健の理解に必要な人類学の素養
4	6/20(火)	4	高橋 謙造 准教授	母子保健
5	6/27(火)	3	高橋 謙造 准教授	子どもと地域の健康 ―世界の学校保健の取り組み―
6	6/27(火)	4	崎坂香屋子 准教授	国際的枠組みとしての災害対策
7	7/4(火)	3	田中 剛 准教授(客)	感染症 国際社会での取り組みと日本政府の対策
8	7/4(火)	4	矢野 榮二 教授	世界のタバコ対策 過去・現在・未来
9	7/11(火)	3	山本 秀樹 教授	世界の環境問題と健康
10	7/11(火)	4	山本 秀樹 教授	日本に住む外国人の保健医療問題
11	7/18(火)	3	渋谷 健司 講師(非)	Global Burden of Diseases/Global Health Policy and Practices
12	7/18(火)	4	渋谷 健司 講師(非)	グローバル・ヘルスが世界を動かす
13	7/25(火)	3	錦織 信幸 講師(非)	国際機関で公衆衛生課題に取り組む ―WHOでの経験から―
14	7/25(火)	4	錦織 信幸 講師(非)	現場の公衆衛生課題解決に関する演習
15	7/25(火)	5	井上まり子 准教授	まとめ 最終課題の報告会

科目名	国際保健学演習	code number : HPM-GH 321	選択	2 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 3,4時限	授業方法	演習

1. 授業の概要

国際保健分野の特定の課題を取り上げ、
 1)何が問題なのか？についてディスカッションに基づいて特定し、
 2)どのような議論が交されてきたかを把握し、
 3)具体的な政策提言を英語で作って行く。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.国際保健分野のHot issueの概要について全般的に理解し、国際保健の現場にて活用しうる計画立案手法について修得することを目指す。

【行動目標(SBO)】

- 1.特定分野(感染症対策、非感染症対策、PHC、UHC等)について、その概要を説明できる。
- 2.Social Business等について説明できる。
- 3.政策提言を、英語で創出することが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業への積極的な参加(事前学習の理解度、討議での発言など) (20%)
 - (2) プレゼンテーション(文献レビュー、演習結果、課題活動報告等) (40%)
 - (3) レポート (40%)
- ただし、無断欠席に関しては、減点の対象となる。

4. 教科書・テキスト

指定する文献・副読本を事前に読んで理解すること

5. 参考書

後日指定します

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・当日、簡潔な背景説明は行うが、文献類(事前に配布する)は読み込んでおくことが望ましい。
- ・本演習で特に関心を持った部分に関して学びを深める。各個人がパワーポイントを用いて5分程度で紹介、解説し、自らの主張を含めて纏めて述べていただく。またそれに対し、質疑応答の時間を5分程度とる。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

国際保健学演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	3	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	世界の健康格差と難民問題をBreak throughするための演習 ～100人村ワークショップとチャドの難民対策プロジェクトから～
2	9/20(水)	4	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(難民対策)
3	9/27(水)	3	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	Resource limited countriesの保健政策 ～貿易ゲームを使って国家改善のための処方箋を考える～
4	9/27(水)	4	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション (資源の極めて少ない国家の保健政策)
5	10/4(水)	3	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	緊急非常事態である災害の発災と地域リーダーの役割(人のマネジメント) ～HUG, 避難所運営ゲームを使って～
6	10/4(水)	4	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(災害被災者対策)
7	10/11(水)	3	野村真利香 講師(非)	災害対応とソフィア基準(避難所のマネジメント)
8	10/11(水)	4	野村真利香 講師(非)	政策提言立案・プレゼンテーション(給水事業、衛生施設)
9	10/18(水)	3	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	Water and Sanitation:開発途上国の子どもの命、健康を守る社会サービスとは
10	10/18(水)	4	高橋 謙造 准教授 崎坂香屋子 准教授	政策提言立案・プレゼンテーション(給水事業、衛生施設)
11	10/25(水)	3	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	EPI(拡大予防接種計画)のトレンド
12	10/25(水)	4	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	政策提言立案・プレゼンテーション(災害)
13	11/1(水)	3	松井 範惇 教授	Social Business for Quality of Life: 途上国などを中心に
14	11/1(水)	4	松井 範惇 教授	Social Businessの活用
15	11/1(水)	5	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	まとめ、ディスカッション

科目名	国際母子保健学	code number : HPM-GH 241	選択	1 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 5時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

- ・母子保健分野の課題を理解するための視座を獲得し、数多い政策課題を理解できる能力を身につける。
- ・そのための視点、ツールを習得する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 母子保健に関する課題を、先進国、途上国にかかわらず俯瞰して、世界的な母子保健政策に関する知見を備えた実務家となることを目標とする。

【行動目標(SBO)】

1. 先進国、途上国の母子保健医療政策の現状・課題を把握し、制度や課題について説明出来る。
2. 国際的な視点から、政策を相対化し、評価出来る。
3. 実務に従事する際に、学びを活かすことが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

- ・プレゼンテーション資料(70%)、講義における議論の参加度(30%)で総合評価する。
- ・毎回の講義の担当者を決定し、資料を配布するので、その内容に関してプレゼンテーションできる準備をして臨むこと。発表されたプレゼンテーション資料が評価の対象となる。
- ・ただし、無断欠席に関しては、減点の対象となる。

4. 教科書・テキスト

- ・特に指定しない

5. 参考書

講義前にLMSに参考文献を掲載するので、熟読して参加すること。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・本コースでは、受講生の間での討論を重視するので、指示された資料・参考書・文献は、担当者以外も事前に熟読しておくこと。
- ・当該期間に12時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

国際母子保健学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/13(火)	5	高橋 謙造 准教授 堀内 清香 助教	世界的母子保健政策のOverview (データで観る母子保健課題)
2	6/20(火)	5	高橋 謙造 准教授	日本における母子保健課題1 (少子化対策、待機児童の現状)
3	6/27(火)	5	高橋 謙造 准教授	日本における母子保健課題2 (小児の貧困、児童虐待の現状)
4	7/4(火)	5	高橋 謙造 准教授	Midwifery trend
5	7/11(火)	5	高橋 謙造 准教授 野村真利香 講師(非)	Newborn health
6	7/18(火)	5	高橋 謙造 准教授	Continuum of Careについて考える (母子健康手帳が担保するサービス)
7	8/1(火)	4	高橋 謙造 准教授	災害対応とChild Protection
8	8/1(火)	5	高橋 謙造 准教授	総合討論、発表

科目名	国際保健学実習	code number : HPM-GH 371	選択	1 単位
-----	---------	-----------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

近年、国際的な公衆衛生の課題は人口や疾病の構造転換、そして国際協力に携わる組織の多様化など、変化がみられる。そうしたグローバルヘルス分野での俯瞰的な潮流変化を把握すると共に、実際のフィールドにおける情報収集から現状分析を行う。地域から国レベル、そして国際的な取り組みとしての公衆衛生問題解決の仕組みを学び、各ステークホルダーのかかわりについて実践の場で理解する。

詳細な現地のプログラムは履修者の国際保健での経験や希望を考慮し個別に企画する。訪問国の政情や自然災害等の状況により実習実施が困難である場合については実習場所と内容を変更することがある。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 国際協力のフィールドにおける問題認知とその分析方法や解決能力の素養を知る。
2. 専門職として組織のマネジメント・運営について基礎を身につける。
3. 公衆衛生に関わる国際社会のステークホルダーの機能を実践の場で知る。
4. 海外協力の専門家らと意見交換し、将来のキャリア形成について考える。
5. 国際保健における社会的起業(entrepreneurship)の考え方を学ぶ。

【行動目標(SBO)】

1. 国際協力のフィールドにおける問題を認知し分析して、解決するための基本的な方法について説明できる。
2. 専門職として組織のマネジメント・運営についての基礎や関わる国際社会のステークホルダーについて説明できる。
3. 海外協力の専門家らと意見交換し、将来のキャリア形成、国際保健における社会的起業の考え方について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・実習への参加態度(50点)、帰国後のレポート(50点)
- ・実習の形態によっては受け入れ先機関からの評価を考慮する。

4. 教科書・テキスト

- ・実習前に指示する。

5. 参考書

- ・実習前に分野に応じて指示する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・実習に必要な関連知識について調べておくこと。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・本実習を履修するには、国際保健学概論、国際保健学演習の履修することを推奨する。
- ・本実習への参加の費用(渡航費・滞在費・海外旅行傷害保険料)は基本的に各自の負担である。
- ・レポートを提出し、実習報告会で発表する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
本実習は、海外のフィールドならびに国際的な活動を行う現場に滞在する中で、その地域や現場での問題を見出し、解決する方策を実践の場で考えることを目的としている。主に夏季・冬季に海外のフィールドで現地の受け入れ先との調整によって決定する。 今年度は個別に実習の機会を設ける。履修希望者は4月中に科目責任者に連絡をとること。 過去の実習例： バングラデシュでの実習 近年、国際保健を取り巻く潮流の変化が生じており、従来の国連機関・政府機関が実施する国際協力から、民間の機関が果たす役割が大きくなっている。本実習では、従来最貧国といわれてきたが、近年経済発展も著しく、社会的起業(entrepreneurship)やBOPビジネスのメッカともいえるバングラデシュ国を訪問し、同国における新しい国際協力のあり方について学んだ。訪問先はバングラデシュ国際下痢研究所、BRAC大学公衆衛生大学院、UNICEF等の組織であった。各地での観察等を通じて現地の問題を把握し、その解決の方策を検討した。 フィリピン共和国での実習 実習参加者は事前学習において期間中に注目するテーマを決めて実習に臨んだ(例:結核)。 同国タルラック州の自治体において、Barangay Health Worker宅にホームステイして住民の生活の中から事前に設定した問題について考えた。またヒアリングを通じて情報を得て、どのような要因が関係しているのかを把握した。Barangay(最小行政単位)、町、州、国、世界全体での問題の公的統計による現状把握と対策についても情報を得て分析した。 国のレベルとして保健省を訪れ、現在の保健医療政策に関して情報を得、参加者のテーマに即した分野の保健医療政策とその遂行状況を学んだ。そのほかのステークホルダーとして世界保健機関(WHO)西太平洋事務局と複数のNGOを訪れ、参加者が設定した問題の解決のためにいかに異なる組織が活動しているのかを体験する機会を得た。				

科目名	ヘルスデータ分析入門	code number : HPM-INF 231	選択	2 単位
-----	------------	------------------------------	----	------

科目責任者	谷原 真一 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

保健医療福祉分野では日常業務を通じて大量のデータが集積される。まず、これらの既存データの特性について説明する。後に、保健医療福祉分野の各分野で実際に集積されるデータについて、より具体的な説明を行う。さらに、それぞれの既存データの利活用の現状と課題について概要を説明する。まとめとして、各受講生が関心のある領域において既存データを活用した調査研究事例を検討することを通じて、保健医療福祉分野における既存データの利活用に関する提言をまとめてもらう。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.保健医療福祉分野における各種データの利活用ができる。

【行動目標(SBO)】

- 1.保健医療福祉分野において日常業務を通じて集積されるデータの特性について説明できる。
- 2.保健医療福祉分野における各種データの現状と課題について説明できる。
- 3.保健医療福祉分野における各種データを用いた調査研究について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)レポート(80%)
- (2)講義への積極的な参加(20%)

4. 教科書・テキスト

なし(原則として講義資料を使用する。)

5. 参考書

- 1)厚生労働統計協会. 国民衛生の動向(毎年8月ごろに最新号が出版される)
- 2)篠原出版新社. 医療情報サブノート

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・授業では、受講生の間での討論も行うので、指示された資料・参考書・文献を事前に読んでおくこと。
- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

ヘルスデータ分析入門

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/13(月)	3	谷原 真一 教授	ヘルスデータの種類と特性
2	11/13(月)	4	谷原 真一 教授	政府統計
3	11/20(月)	3	谷原 真一 教授	診療報酬明細書(レセプト) 1)DPC (Diagnosis Procedure Combination)
4	11/20(月)	4	谷原 真一 教授	診療報酬明細書(レセプト) 2)DPC以外のレセプト
5	11/27(月)	3	谷原 真一 教授	感染症サーベイランス
6	11/27(月)	4	谷原 真一 教授	健康診断データ
7	12/4(月)	3	谷原 真一 教授	診療録およびその他の医療記録
8	12/4(月)	4	谷原 真一 教授	医療情報の標準化
9	12/11(月)	3	谷原 真一 教授	保健医療福祉情報システム
10	12/11(月)	4	谷原 真一 教授	ヘルスデータ分析と個人情報保護法および倫理指針
11	12/18(月)	3	谷原 真一 教授	ヘルスデータ分析に用いる疫学指標
12	12/18(月)	4	谷原 真一 教授	ヘルスデータ分析に用いるソフトウェア
13	12/25(月)	3	谷原 真一 教授	事例検討1)
14	12/25(月)	4	谷原 真一 教授	事例検討2)
15	2/5(月)	3	谷原 真一 教授	まとめ

科目名	医療管理学・安全管理学概論	code number : HPM-BIZ 213	選択	2 単位
-----	---------------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医療現場では様々な問題が日々起こり、それに対して適切な対応を適時に求められる。そのためには医療現場の現状を知り、起こりうる問題の根本原因を見いだせることが必要となる。本講では医療現場の現実やその問題点を管理者の立場で理解する。また、医療管理に必要な経営学・経済学なども身につけることを目標にする。具体的には医療管理上必要な医療組織・法律・医療制度・医療安全管理・医療倫理等を概観し、それぞれの問題点について議論し理解を深めてゆく。また昨今マスコミなどで話題となっている医療問題についても適宜取り上げて、その根本原因を議論しながら複雑な医療制度・体制・組織を理解する一助とし、将来医療管理者の立場に立ったときに応用できるように準備する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.医療管理・安全管理の基礎を概観する。

【行動目標(SBO)】

- 1.医療管理の基本的経営手法を理解できる。
- 2.医療安全上の問題点を正確に把握し、解決方法を提示できる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力:50%
- ・レポート提出:50%

4. 教科書・テキスト

・なし

5. 参考書

- ・第1回講義時に指定する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・第1回講義時に指定する書籍(参考書・論文など)を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

※帝京大学医学部附属病院安全管理部会のメンバーを招聘しての講義またはスモール・グループ・ディスカッションなどの形式で議論する。
 ・プレゼンテーションに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
 ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医療管理学・安全管理学概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/17(月)	3	中田 善規 教授	導入
2	4/17(月)	4	河内 正治 教授	医療安全と医療訴訟の基本 (医学部麻酔科学講座・安全管理部長)
3	4/24(月)	3	田村 桂一 講師(非)	会計学の基礎
4	4/24(月)	4	上野 京子 講師(非)	有害事象の未然防止 (安全管理部専従看護師)
5	5/1(月)	3	田村 桂一 講師(非)	医療と会計学
6	5/1(月)	4	松野 彰 教授	発生した有害事象への適切な対応 (医学部脳神経外科学講座・管理担当副院長)
7	5/8(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制①
8	5/8(月)	4	宮内 賢三郎 講師(非)	暴力対応・刑事事件化対応など (安全管理部渉外担当)
9	5/15(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制②
10	5/15(月)	4	川崎 義隆 講師(非)	医療機器に関する安全管理 (医療機器安全ME)
11	5/22(月)	3	成松 宏人 講師(非)	分子疫学と医療体制③
12	5/22(月)	4	岩田 佐知子 講師(非)	苦情相談への対応 (医療サービス課課長)
13	5/29(月)	3	松永 直久 講師	感染症に関する安全管理 (医学部内科学講座・感染制御部部长)
14	5/29(月)	4	渡邊 真知子 教授	薬剤に関する安全管理 (薬学部臨床薬学講座臨床薬学分野・薬剤部部长)
15	5/29(月)	5	中田 善規 教授	組織行動管理・まとめ

科目名	リーダーシップ・マネジメント論	code number : HPM-BIZ 214	選択	1 単位
-----	-----------------	------------------------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医療は大きな社会システムの一部である。その医療も人間から成り立つ組織であることには変わりはない。そうした医療に関する組織でリーダーシップを発揮し組織に貢献するには人間組織の理解が不可欠である。本講義では、組織一般の理解を深めるために一般の経営学を基礎にした学習を行う。また、いわゆる正解のない分野であるため、異なる視点からの討論を中心に講義を進める。これらの内容を通じて、公衆衛生分野で将来のリーダーとなるべき人材として必須の知識・技能を修得することを基本目標とする。また、最近ではインターネットの普及やマスメディアの情報発信機能の向上により、ヘルスコミュニケーションのあり方は大きく変化している。そこで、医療専門家から国民に広く発信する情報提供(診療実績、診療ガイドライン、疫学調査報告、臨床試験登録など)、医療専門家でなくマスメディアから国民に広く発信する情報提供(ニュース、健康番組など)、医療専門家の間での情報交流(専門誌、学会、研究会、インターネットなど)、患者を含む国民の間での情報交流など様々なレベルでのヘルスコミュニケーションについてその意義や課題について討論する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 人間組織一般について理解する。
2. その一般理論を保健医療の分野に応用できる・個人や社会として最適な健康上のアウトカムを得るために必要な医学・医療に関する知識や情報を正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうヘルスコミュニケーションの理論体系を理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 具体的な状況をシミュレーションしながら、ヘルスコミュニケーションが実践できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (15%)
- (4)レポート (15%)

4. 教科書・テキスト

- ・各授業で予習すべき文献を指定する。

5. 参考書

- ・Drucker PF. Management: tasks, responsibilities, practices. Harper, 1973
- ・岩崎夏海:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら ダイアモンド社, 2009年
- ・P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳「エッセンシャルズ版マネジメント―基本と原則」ダイアモンド社, 2013年
- ・石川 ひろの、武田 裕子(翻訳). 患者と医師のコミュニケーション. 篠原出版新社, 2007年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
- ・講義ごとに2時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

リーダーシップ・マネジメント論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	2	中田 善規 教授	導入（組織マネジメント論と事業マネジメントの基本）
2	9/27(水)	2	中田 善規 教授	リーダーシップ（リーダーシップの種類と自己分析）
3	10/4(水)	2	中尾 睦宏 教授	医療や職域における保健指導と健康教育の実際 ヘルスコミュニケーション理論に基づいた質問紙や面接法による評価方法について学び、代表的な評価方法の幾つかをマニュアルにそって実施する。
4	10/11(水)	2	中尾 睦宏 教授	健康づくり政策における保健指導・健康教育の実際 特定健診・保健指導、データヘルス計画等、現在の健康づくり施策における保健指導や健康教育の考え方と実際について学ぶ。
5	10/18(水)	2	石川ひろの 講師(非)	患者・医療者間のコミュニケーション 患者・医療者関係に関する理論と概念を学び、患者とのコミュニケーションのあり方について考える。
6	10/25(水)	2	石川ひろの 講師(非)	ヘルスコミュニケーションの評価と実証研究 医療コミュニケーションの評価方法と実証研究を紹介し、臨床や教育への応用について考える。
7	11/1(水)	2	石川ひろの 講師(非)	グループ・組織内コミュニケーション グループ・組織におけるコミュニケーションの理論を紹介し、保健医療スタッフ間のコミュニケーションについて考える。
8	11/8(水)	2	石川ひろの 講師(非)	メディアを通じたコミュニケーション 健康医療情報の普及におけるマスメディアの役割及び影響を考えるとともに、エンターテインメント・エデュケーション、シリアスゲームなど、新しいヘルスコミュニケーションの手法について紹介する。

科目名	医療経営学演習	code number : HPM-BIZ 301	選択	2 単位
-----	---------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	演習

1. 授業の概要

医療経営においては通常の経営学の知識のみならず、医療現場の現実にも精通していることが重要である。特に医療従事者はほぼすべて免許を持つ専門職であるため、通常の経営学的手法での管理は困難な場合がある。さらに外部要因として医療は厳しく規制された産業である。この制約の中で医療従事者たちが本来の専門能力を十分に発揮できるシステム・仕組みを構築し状況に合わせて維持してゆくことが医療経営の要であり、ひいては患者が医療の恩恵を十分に享受できるようになる。本講では、通常の経営学的な知識(ミクロ経済学・会計学・人材管理学・組織行動学など)を医療現場でどのように適応させるかについて理解することを目標とする。同時に医療現場の現実に関する知識も身につける。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.医療・公衆衛生に経済学を応用する。

【行動目標(SBO)】

- 1.医療経済学の標準的理論を学習し、基本的分析ツールを理解できる。
- 2.医療経営上の具体的問題点を経済学的観点から把握し、これを分析できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (30%)

4. 教科書・テキスト

・Folland S, Goodman AC, Stano M. The economics of health and health care. 7th Ed. Pearson, Upper saddle River, NJ. 2013

5. 参考書

・橋本英樹、泉田信行:医療経済学講義 東京大学出版会 2011

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
- ・当該期間に30時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ※授業出席者全員による分担報告、相互討論と教官による補足コメント等を組み合わせる(輪読形式)。
教科書の第5章から第13章を順番に学生が報告する。
- ・それぞれのプレゼンテーションに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
 - ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医療経営学演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/25(月)	3	中田 善規 教授	導入・解説・輪読分担当決定(第1章)
2	9/25(月)	4	中田 善規 教授	医療経済学のためのミクロ経済学ツール(第2章)
3	9/25(月)	5	中田 善規 教授	健康の生産(第5章)
4	10/2(月)	3	中田 善規 教授	医療の生産・費用・技術(第6章)
5	10/2(月)	4	中田 善規 教授	健康資本の需要(第7章)
6	10/2(月)	5	中澤 達 講師(非)	DPCに関する諸問題
7	10/16(月)	3	中田 善規 教授	健康保険の需要と供給(第8章)
8	10/16(月)	4	中田 善規 教授	消費者選択と需要(第9章)
9	10/16(月)	5	中田 善規 教授	非対称情報とエージェンシー(第10章)
10	10/30(月)	3	中田 善規 教授	健康保険市場の構成(第11章)
11	10/30(月)	4	中田 善規 教授	マネージド・ケア(第12章)
12	10/30(月)	5	中田 善規 教授	非営利組織(第13章)
13	11/6(月)	3	中田 善規 教授	病院と長期ケア(第14章)
14	11/6(月)	4	中田 善規 教授	医師開業(第15章)
15	11/6(月)	5	大嶽 浩司 教授(客)	医療を取りまく経済と経営

科目名	医療管理学実習	code number : HPM-BIZ 351	選択	1 単位
-----	---------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

医療経営・管理・経済学の理論を踏まえたうえで、現実の医療現場を経営・管理・経済学の視点から見て、その問題点を把握することが重要である。一専門職としてではなく、一步離れた立場から問題点を俯瞰し、全体最適化を目指すトレーニングを行う。本実習では医療現場が実際に直面する問題を例として取り上げ、その解決の可能性をグループ・プロジェクトとして議論・提示して、現代の医療の抱える問題点を実感することを目標とする。実習する医療現場としては下記の2つの選択肢の中から選ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.医療を医療管理の観点から実習する。

【行動目標(SBO)】

- 1.医療管理上の問題を実地体験し、説明できる。
- 2.管理上の問題点を的確に把握し、解決方法を提示できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)実習への積極的参加:50%
- (2)実習テーマに関するレポート:50%

4. 教科書・テキスト

・特になし

5. 参考書

・特になし

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・それぞれの実習課程で決められた事前課題を予習する。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・本実習を履修する場合には、医療管理学・安全管理学概論の履修を前提とする。
- ・レポートに対し、実習の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
I. 帝京大学医学部附属病院での医療管理学実習 1. 事務次長または実習担当者の指示に従い、病院各部門の実務を見学する。 2. 単位認定希望者のみ附属病院における医療管理上の問題点を発見しその解決案を報告する(A4版2～3枚程度)。 3. 提出された報告書は、附属病院幹部にも配布して実際の業務改善につなげる予定である。 II. 他施設での医療管理学実習 1. 医療管理学実習は1単位なので、それ相当のコミットメントが必要となる。 2. 単位認定希望者のみ実習施設における医療管理上の問題点を発見しその解決案を報告する(A4版3枚程度)。 尚、授業日時については、夏季休業前に本科目履修希望者と指導教員にて個別に設定する。				

科目名	Healthcare Management	code number : HPM-POL 411	選択	1 単位
-----	-----------------------	------------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要 Course Overview

This course will introduce you to the basic principles of organizational behavior. These principles have become increasingly important in research, practice and policy making in the public health sector. The course is composed of three parts: a) individual in the organization, b) groups in the organization, and c) organization system. The course will cover the standard topics studied in introductory organizational behavior, but will emphasize issues of particular relevance to public health sector, and will use examples and problems taken from the public health sector.

2. 授業の到達目標 Objective of the course

This course is designed to meet the following GIOs and SBOs.

General Instructive Objectives (GIOs)

1. The main objective of the course is to familiarize the students with the basic concepts and tools of organizational behavior used in research and in practice, and to serve as an introduction to more advanced courses in public health leadership.

Specific Behavioral Objectives (SBOs): Participants can

1. apply theory of organizational behavior to health care and public health.
2. manage health care organization based on scientific evidence.

3. 成績評価の方法および基準 Evaluation

Participation in class discussion (50%), Oral examination (50%)

4. 教科書・テキスト Textbook

The course textbook is: Robbins SP, Judge TA. Essentials of Organizational Behavior, 13th ed. Pearson, 2015. The students are required to read the designated chapters before each class. 8 sessions x 90 min each.

5. 参考書 Recommended readings

Suggested readings:Healthcare Management

- 1 Walshe K, Smith J. (eds): Healthcare Management, Open University Press, London, 2006.
- 2 Kovner AR, McAlearney AS, Neuhauser D: Health Services Management, Cases Readings and Commentary, 9th ed., Health Administration Press, Chicago, 2009
- 3 Lombardi DM, Schermerhorn JR: Health Care Management, John Wiley & Sons, Hoboken, 2007
- 4 Buchbinder SB, Shanks NH: Introduction to Health Care Management, Jones and Bartlett Publishers, Sudbury, 2007
- 5 Dunn RT: Haimann's Healthcare Management, 8th ed., Health Administration Press, Chicago, 2007
- 6 Ozcan YA: Quantitative Methods in Health Care Management, 2nd ed., Jossey-Bass, San Francisco, 2009

Leadership

- 7 Leadership Berry LL, Seltman KD: Management Lessons from Mayo Clinic, McGraw-Hill, New York, 2008
- 8 Bass BM: The Bass Handbook of Leadership, 4th ed., Free Press, New York, 2008

Healthcare System

- 9 Brown ER: Rockefeller Medicine Men, University of California Press, Berkeley, 1979
- 10 Reid TR: The Healing of America, The Penguin Press, New York, 2009
- 11 Herzlinger R: Who Killed Health Care?, McGraw-Hill, New York, 2007
- 12 Porter ME, Teisberg EO: Redefining Health Care, Harvard Business Press, Boston, 2006

General Management

- 13 Milgrom P, Roberts J: Economics, Organization and Management, Prentice Hall, Englewood Cliff, 1992
- 14 Jacobs CS: Management Rewired, Penguin Group, New York, 2009
- 15 Lundin SC, Paul H, Christensen J: Fish!, Hodder and Stoughton, London, 2000
- 16 van Vugt M, Ahuja A. Naturally Selected, HarperCollins, New York, 2011
- 17 Martin R. The Responsibility Virus, Basic Books, New York, 2002

- 18 Dixit AK, Nalebuff BJ. Thinking Strategically: The Competitive Edge in Business, Politics, and Everyday Life. W W Norton, 1993
 19 Levy S. In the Plex: How Google Thinks, Works, and Shapes Our Lives. Simon & Schuster, New York, 2011
 20 Gonzales L. Deep Survival. Norton, New York, 2003
 21 Christensen CM. The Innovator's Dilemma. Harper Business, New York, 1997
 22 Burrough B, Helyar J. Barbarians at the Gate. Harper Business, 1988
 23 Covey SR. The Seven Habits of Highly Effective People. Free Press, 1989
 24 Peter LJ, Hull R. The Peter Principle. Harper Business, 2009
 25 Robbins SP, Judge TA. Essentials of Organizational Behavior, 12th ed. Pearson Education Limited, 2012
 26 Slywotzky A, Wise R. How to Grow When Markets Don't. Warner Books, 2003
 Ethics and Legal Issues
 27 Showalter JS: The Law of Healthcare Administration, 5th ed., Health Administration Press, Chicago, 2008
 28 Gawande A. The Checklist Manifesto, Metropolitan Books, New York, 2009
 29 Miller GW. King of Hearts: The True Story of the Maverick Who Pioneered Open Heart Surgery. Crown Publishers, New York, 2000
 30 Harbin T. Waking Up Blind. Langdon Street Press, 2009
 31 Marx D. Whack-a-Mole: The Price We Pay for Expecting Perfection. By Your Side Studios, 2009
 32 Marx D. Dave's Subs. By Your Side Studios, 2015.
 33 Woodford M. Exposure: Inside the Olympus Scandal. Penguin, 2012.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間 Expected time to accomplish homework assignments

- Study technical terminology before class.
- Sixteen hour preparation will be necessary for all the sessions.

7. その他履修上の注意事項 Others

- May give feedbacks on exams in class.
- Must understand the relation between this class and overall curriculum policy.

<授業計画>

Healthcare Management

回数	日付	時限	担当者		授業内容
1	8/12(土)	1	Yoshinori Nakata	Professor	Introduction (Ch1)
2	8/12(土)	2	Yoshinori Nakata	Professor	Individual Perception and Decision Making (Ch6)
3	8/13(日)	1	Yoshinori Nakata	Professor	Motivation I and II (Ch7+8)
4	8/13(日)	2	Yoshinori Nakata	Professor	Communication Process (Ch11)
5	8/14(月)	1	Yoshinori Nakata	Professor	Leadership (Ch12)
6	8/14(月)	2	Yoshinori Nakata	Professor	Power and Politics (Ch13)
7	8/15(火)	1	Yoshinori Nakata	Professor	Conflict and Negotiation (Ch14)
8	8/15(火)	2	Yoshinori Nakata	Professor	Organizational Change (Ch17)

科目名	Universal Health Coverage & Aging Society	code number : HPM-BIZ 421	選択	1 単位
-----	---	------------------------------	----	------

科目責任者	井上まり子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要 Course Overview

Universal Health Coverage (UHC) is an important element of the global health agenda in ensuring that all people obtain necessary health services without financial hardship. Moreover, ageing of the population is a continuing problem around the world regardless of the each individual country's level of development. This means that UHC must be achieved in a world facing both demographic and epidemiological transitions. With regard to discussions on UHC in ageing societies, a simple focus on the elderly population is insufficient. We need a grand social design to promote the reforms necessary to overcome changes related to the ageing population. A wide range of public health skills and knowledge is required to support a cross-spectral approach to achieving UHC through a better understanding of good practices.

The purpose of this course is to provide students with an understanding of the global health agenda in terms of Universal Health Coverage, particularly in an ageing society. Japan is one of the countries experiencing a rapid growth in the elderly population. Through a combination of in-class lectures, discussions, and site visits, we would like to use the situation in Japan as a case study of how UHC can be achieved in an ageing society.

2. 授業の到達目標 Objective of the course

This course is designed to meet the following GIOs and SBOs.

General Instructive Objectives (GIOs)

- (1) To understand the current state of UHC and population ageing in Japan and around the world
- (2) To identify the stakeholders and their role in achieving UHC
- (3) To develop effective strategies for achieving UHC in an ageing society

Specific Behavioral Objectives (SBOs): Participants can

- (1) Describe the background and trends to setting the global agenda on UHC
- (2) Understand the statistical data related to demographic and epidemiological transitions.
- (3) Define and provide an overview of UHC in Japan and around the world.
- (4) Perform stakeholder analysis and explain each stakeholder's role in achieving UHC, particularly in a local setting.
- (5) Understand the policies and projects related to UHC in Japan from multiple perspectives, such as the health insurance system, health human resources, health financing, regulation, social welfare, community development, and other relevant areas.
- (6) Develop effective alternative strategies for achieving UHC in an ageing society in their own region or countries.

3. 成績評価の方法および基準 Evaluation

In-class discussion 70%, Final report/presentation 30%

4. 教科書・テキスト Textbook

Textbooks and reading materials will be announced on the first day of the class.

5. 参考書 Recommended readings

- (1) World Health Organization. *World report on ageing and health*. Geneva: WHO; 2015

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間 Expected time to accomplish homework assignments

- Study technical terminology before class.
- Five hour preparation will be necessary for all the sessions.

7. その他履修上の注意事項 Others

- May give feedbacks on exams in class.
- Must understand the relation between this class and overall curriculum policy.

<授業計画>

Universal Health Coverage & Aging Society

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/21(月)	3	Mariko Inoue Associate Professor	Introduction
2	8/21(月)	4	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 1. Universal Health Coverage
3	8/22(火)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 2. Ageing in Japan
4	8/22(火)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 3. Japan Vision Health Care 2035
5	8/22(火)	3	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 4. Role of local government in Japan
6	8/22(火)	4	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 5. The power of innovation
7	8/23(水)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Case 1 Health policy for ageing society in Japan
8	8/23(水)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Site visit 1.
9	8/23(水)	3	Mariko Inoue Associate Professor	
10	8/23(水)	4	Mariko Inoue Associate Professor	
11	8/24(木)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Case 2 Good practices to achieve UHC of Japanese local government
12	8/24(木)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Site visit 2
13	8/24(木)	3	Mariko Inoue Associate Professor	
14	8/24(木)	4	Mariko Inoue Associate Professor	
15	8/25(金)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Wrap up

科目名	特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ) ^(※) code number : HPM 401～403 ^(※)	選択	1 単位
-----	---	----	------

科目責任者	Alastair Gray 客員教授(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

経済学とは、また医療経済学とは何か。本講義ではコストを軸とした健康と豊かさの評価、費用対効果の概念を中心に、公衆衛生の経済学的側面の基礎を身につける。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 医療経済学をコスト・効果の対比で理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 保健と医療の文脈における経済学および経済学的手法について説明できる
2. コストの概念を説明できる
3. クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)を測定し、評価するための技術を説明できる
4. 費用対効果分析の概念を理解できる

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業における議論への参加度(50%)
- (2) 最終の口頭試験(50%)

4. 教科書・テキスト

・特に指定しない。

5. 参考書

・講義で紹介。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に16時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※) 年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※) 担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※) また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/20(土)	1	Alastair Gray 教授(客)	経済、医療、そして医療経済学
2	1/20(土)	2	Alastair Gray 教授(客)	経済学の手法を医療分野に適用する
3	1/21(日)	1	Alastair Gray 教授(客)	コスト
4	1/21(日)	2	Alastair Gray 教授(客)	疾病のコストと負担
5	1/22(月)	1	Alastair Gray 教授(客)	クオリティ・オブ・ライフの測定と評価
6	1/22(月)	2	Alastair Gray 教授(客)	疾病のモデリングと意思決定モデル
7	1/23(火)	1	Alastair Gray 教授(客)	優先順位決定のための費用対効果分析の導入
8	1/23(火)	2	Alastair Gray 教授(客)	還付決定のための費用対効果の導入(英国のNICEを例に)

科目名	産業環境保健学概論	code number : OEH 201	必修	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

産業保健の対象は5千万労働者であり、公衆衛生の個別領域としては最も大きな集団を対象とすることになる。50人以上の事業所全てに義務づけられた産業医制度をはじめ各種の職域健診制度により、産業保健学は、それを専門としない者も含め多くの医師や公衆衛生専門職にとって学ぶ必要のある領域となった。そこで必ずしも産業保健を専門としない公衆衛生の実務家のために、基本的な産業保健の制度、法、組織等の概要を学ぶ必要がある。また、環境保健学とは、様々な環境中の有害要因による健康影響を制御して健康を保つことを目的としている。環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解する必要がある。

後期の選択科目である産業保健学および環境保健学の基礎的部分について、各担当教官が包括的に解説する。より専門的・実践的には、夏期および後期開講の選択科目の「産業保健学」、「環境保健学」および「産業環境保健学実習」で学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 産業環境保健分野の第一線級の経験を聞くことを通じ、産業保健・環境保健を専門としない公衆衛生専門職が様々な形で関わることの多い産業保健・環境保健について、包括的認識を持って解説できる。

【行動目標(SBO)】

1. 職場および環境中の有害要因と健康障害の関係を理解し、予防対策が検討できる。
2. 産業保健の5管理:作業環境管理、作業管理、健康管理、教育管理、総括管理を理解し、各管理の考え方を活用できる。
3. リスクアセスメントの手順を理解し、基準等のあるリスク因子の管理方法について検討できる。
4. 環境中のいくつかの有害リスク要因を測定することを通じ、定量的な管理方法について検討できる。

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

4. 教科書・テキスト

・毎回授業開始時に資料として配布する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2016.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』の第III章・最近の労働衛生対策の展開の部分に事前に目を通しておく。
- ・前回までに学んだ5管理からなる産業保健の内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業環境保健学概論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	1	矢野 榮二 教授	職場・環境中の有害要因による健康障害 健康概念、健康障害と予防対策
2	4/25(火)	1	谷原 真一 教授	総括管理1(企業規模別の管理体制) 産業医による産業保健1
3	5/2(火)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生法令と3管理、作業環境管理(作業環境測定・評価)
4	5/9(火)	1	原 邦夫 教授	環境保健学(公害対策、環境リスク学)
5	5/16(火)	1	福田 吉治 教授	健康管理 健康診断、健康保持増進、快適職場
6	5/23(火)	1	中原 浩彦 講師(非)	作業管理と人間工学
7	5/30(火)	1	東川 麻子 講師(非)	総括管理2(中小企業の産業保健活動の立ち上げ方) 産業医による産業保健2
8	6/6(火)	1	原 邦夫 教授 中原 浩彦 講師(非)	環境測定(簡易測定器による測定と評価)

科目名	産業保健学	code number : OEH 221	選択	2 単位
-----	-------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	月曜 1,2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

労働を取り巻く環境に対する社会の要求がより厳しくなるなか、事業者の期待に応えられるだけの高い能力を持った産業医・産業看護職・産業衛生技術職等の必要性が高まっている一方で、特に実務能力に関して高度な教育・訓練を受ける機会を提供できる機関は絶対的に不足している。そこでこうした社会的要請に応えられるだけの実践的な専門知識を持った産業医・産業看護職・産業衛生技術職を育成するためのカリキュラムを提供する。ケースを踏まえた議論も行い、労働衛生関連法規並びに国の指針・通達についての専門的な知識と理解、労働衛生管理体制の確立、労働衛生マネジメントシステムの構築と運用、有害業務の自主的な管理の方法、健診の実施と事後措置、職場改善を含めた作業管理実務、より効果的な衛生教育の実施のための方法等を学ぶ。選任産業医のみならず専属産業医としてはもちろん、労働衛生コンサルタントとしても活躍できる人材、あるいは自立した産業保健活動ができる高度な産業看護職、産業衛生技術職としての人材育成を目指す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 産業医・産業看護職・産業衛生技術職など産業保健(労働衛生)を専門とする者が、当該領域の経験や知識を体系化し、より高度な専門実務能力を身につけ、産業現場の問題を解決できる。

【行動目標(SBO)】

1. 労働基準法・労働安全衛生法を中心とする労働法の重要な考え方を理解し、活用できる。
2. 産業保健の5管理:作業環境管理、作業管理、健康管理、教育管理、総括管理を理解し、管理方法を適用できる。
3. 健康診断結果等のデータを解析し、職場の産業保健活動に活用できる。
4. 産業医、産業看護職、産業衛生技術職等の職務を理解し、共同して産業保健活動ができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(60%)
- (2) 発表(30%)
- (3) 議論への参加(10%)

4. 教科書・テキスト

・毎回授業開始時に資料として配布する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2017.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』を通読する。
- ・前回までに学んだ5管理からなる産業保健の内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。
- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業保健学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/22(金)	1	原 邦夫 教授	産業保健学とは何か ・安全配慮義務／労働安全衛生法令と5管理／産業保健専門職の役割
2	9/22(金)	2	谷原 真一 教授	総括管理 労働衛生スタッフとの連携
3	9/25(月)	1	谷原 真一 教授	職場のデータ管理・分析 (健康診断データなどの具体的なデータの取り扱い)
4	9/25(月)	2	谷原 真一 教授	レセプト分析の基礎と応用1
5	10/2(月)	1	谷原 真一 教授	レセプト分析の基礎と応用2
6	10/2(月)	2	谷原 真一 教授	健康管理1 (休職者復職支援)
7	10/13(金)	1	小木 和孝 教授(客)	産業保健の世界動向
8	10/13(金)	2	吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 人間工学を利用したメンタルヘルスの一次予防対策の「職場ドック」方法による職場の良好事例に学ぶ取り組み
9	10/16(月)	1	福田 吉治 教授	健康管理2
10	10/16(月)	2	福田 吉治 教授	職場巡視・安全衛生委員会
11	10/23(月)	1	福田 吉治 教授	メンタルヘルス対策
12	10/23(月)	2	福田 吉治 教授	各種専門職の役割 (産業保健専門職のマネジメント能力、産業看護職の役割)
13	10/30(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生法令の体系 作業環境管理(労働衛生工学)
14	10/30(月)	2	中原 浩彦 講師(非)	作業管理
15	11/6(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生マネジメントシステムとリスク判定 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度など様々な基準

科目名	環境保健学	code number : OEH 211	選択	2 単位
-----	-------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期	曜日・時限	水曜 1時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

人は様々な環境からの影響を制御して健康を保っている。とくに産業革命以降は自ら作り出した有害な環境をも制御し、健康を維持せざるをえなくなっている。現在、地球自身の限界も踏まえた世界的な取り組みも進められている。環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から体系的に理解し、対策を検討することを目的としている。環境リスク論をベースに環境保健学を理解し、環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解することを狙いとする。また、日本の経験である公害からも学び、公害健康被害補償法、発生者負担原則(PPP原則)や環境基本法と関連法令についても体系的に理解することも狙いとする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 人間の健康と環境の関係、とくに物理的、化学的、生物学的有害要因と疾病との関係を理解し、それらへの対策を含めて例を挙げて説明することができる。

【行動目標(SBO)】

1. 米国NRC(全米研究評議会)が提示したリスクアセスメント・リスクマネジメントの手順と各ステップを理解し、環境リスク管理に活用できる。
2. 有害性の特定、曝露評価、量反応関係およびリスク判定の基本的な考え方を理解し、適用できる。
3. リスクコミュニケーション方法について理解し、適用できる。
4. 環境マネジメントシステムを理解し、活用できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

- ・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－、コロナ社、2011.
- ・中西準子、他. 演習 環境リスクを計算する. 岩波書店、2003.
- ・その他、講義の中で紹介する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・森澤眞輔の『環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－』を事前に通読し、環境リスク管理の考え方を大まかに理解しておく。
- ・前回までに学んだ環境リスク管理のステップ内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

環境保健学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	1	原 邦夫 教授	環境保健学とは ・環境有害因子と健康／・健康影響メカニズム／基準値／・疫学・毒性学・リスク学との関連
2	9/27(水)	1	原 邦夫 教授	リスク管理の考え方 ・有害性特定・量反応関係評価・曝露評価・リスク判定・リスク管理・リスクコミュニケーション ・1983年の米国科学アカデミー／EPA白書 ・化審法／・良好事例(化学物質管理のCOSH Essentialsなど)
3	10/4(水)	1	中原 浩彦 講師(非)	有害性の特定 ・物理的・化学的・生物的・社会心理的な危険性・有害性 ・GHS(分類とラベル化)・SDS(ハザード・コミュニケーションツール)
4	10/11(水)	1	原 邦夫 教授	量反応関係評価 ・量反応関係と疫学・動物実験 ・外挿法(Benchmark dose),安全係数,不確実係数,NOAEL,LOAEL
5	10/18(水)	1	中原 浩彦 講師(非)	曝露評価 ・曝露とは何か・環境曝露と職業性ばく露、曝露の評価と測定／・大気汚染、室内汚染／・曝露評価モデル
6	10/25(水)	1	原 邦夫 教授	リスク判定__産業衛生学会・許容濃度委員会 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度、環境基準など様々な基準
7	11/1(水)	1	原 邦夫 教授	環境疫学 ・環境疫学の基本的事項の解説 ・環境疫学の適用例の紹介
8	11/8(水)	1	原 邦夫 教授	リスクコミュニケーション ・ラベル化とSDS／・ファンシレーター論
9	11/15(水)	1	原 邦夫 教授	一般環境管理論 ・環境影響評価とその課題／・環境法体系、環境基準、排出基準、条例
10	11/22(水)	1	原 邦夫 教授	環境マネジメントシステム ・マネジメントシステムの規格化の流れ／・ISO規格／・環境アセスメント法 ・一般環境管理の実践、排ガス処理・管理__公害管理者／・環境計量士
11	11/29(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅰ ・戦後の最大規模の労災／・分析から対策まで
12	12/6(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅱ ・石綿のリスクと対策
13	12/13(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅲ ・国の豊かさ対策の関係性
14	12/20(水)	1	宮川 宗之 教授	毒性学Ⅰ ・国連GHS文書の分類基準と実際の分類作業の紹介 ・栄養と毒性／・摂取、分布、代謝、排泄；解毒代謝／・PBPKモデル
15	12/27(水)	1	宮川 宗之 教授	毒性学Ⅱ ・神経毒性(含発達神経毒性・生殖毒性)の評価(OECDガイダンス文書等に記載された生物試験法・行動試験の紹介)

科目名	産業看護マネジメント論	code number : OEH 241	選択	1 単位
-----	-------------	--------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	2日間	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

まず、前半では、産業保健師・看護師の基本的な考え方や役割、職域を対象にしたアセスメントの方法、対策の立案とマネジメントについて主に講義形式にて授業を行う。これらをもとにして、後半では、仮想的な事例を対象にして、グループワーク形式にて、アセスメントを行い、具体的な対策づくりを行う。担当教員を交えたグループ内でのディスカッションおよび全体発表・質疑を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 企業における産業保健業務を遂行するにあたって多種多様な能力が要請されることから、産業保健師・看護師として職場の産業保健課題を抽出し、対策案を考え、他職種と合意形成を図り、対策実施をリードし、対策実現ができる能力を獲得する。すなわち、職場の個人の問題を超え、職場や工場あるいは事業場全体の健全性をアセスメントし、対策を検討し、その対策案を実施するための科学的分析能力やコミュニケーション能力およびリーダーシップ・マネジメント能力を獲得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 産業保健師・看護師の基本的な考え方、役割等を説明できる。
2. 職場の産業保健の課題を把握 (アセスメント) できる。
3. 把握した課題から優先的な課題を抽出し、その対策を立案できる。
4. 対策を効果的に行うために他職種との合意形成をし、対策をマネジメントして実践できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 演習の課題・レポート (50%)
 - (2) 参加態度 (50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

特に指定しない。必要に応じて配布する。

5. 参考書

・河野啓子監修『新版 すぐに役立つ産業看護アセスメントツール』法研

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・1コマにつき2時間程度の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業看護マネジメント論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	7/22(土)	1	河野 啓子 教授(客)	産業保健における看護職の役割
2	7/22(土)	2	河野 啓子 教授(客)	企業の中でのシステムづくりとマネジメント
3	7/22(土)	3	猪股 久美 講師(非)	職域のアセスメントの方法
4	7/22(土)	4	磨田百合子 講師(非)	ケースを用いたアセスメントの実際
5	7/29(土)	1	福田 吉治 教授 山崎 恭子 教授 河野 啓子 教授(客) 猪股 久美 講師(非) 磨田百合子 講師(非)	職場のアセスメント演習 (情報の取り方)
6	7/29(土)	2		職場のアセスメント演習 (情報の分析)
7	7/29(土)	3		職場のアセスメント演習 (課題の抽出と計画)
8	7/29(土)	4		職場のアセスメント演習 (グループ発表)

科目名	産業精神保健学演習	code number : OEH 301	選択	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	2日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

わが国の産業構造が変化した結果、精神的な緊張を伴う業務に従事するものが増えるなど就業の中身も変化し、過重労働による健康障害、特に精神障害の労災認定申請者数は大幅に増加している。本授業では、職場のメンタルヘルス対策として、ストレスチェック等の国の勤める対策ならびに産業ストレスに関する理論を理解したうえで、「職場ドック」等の1次予防、2次予防、復職支援等の3次予防の具体的な方法論を学ぶ。これらを通じて、個々の職場におけるメンタルヘルス対策を進めるための知識、技術、コンピテンシーを習得する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.1次予防から3次予防まで、職場においてメンタルヘルス対策が効果的に実践できる知識と能力を習得する。

【行動目標(SBO)】

- 1.職場におけるメンタルヘルスの重要性、メンタルヘルス対策の動向、職場におけるメンタルヘルスの進め方について説明できる。
- 2.職業ストレスに関連した理論やモデルとその現場への応用について説明できる。
- 3.職場のメンタルヘルス対策に対する組織、関係者の役割と連携について説明でき、実際の現場に応用できる。
- 4.職場のメンタルヘルスの1次予防、2次予防、3次予防の方法を説明でき、実際の現場に応用できる。
- 5.ストレスチェック制度を説明し、ストレスチェック後のフォローなどの実務を運用できる。
- 6.具体的な職場を対象に、メンタルヘルス対策の計画・事業の立案ができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 演習の課題・レポート(50%)
 - (2) 参加態度 (50%)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・関連する事業場等のメンタルヘルス対策について事前に調べておくこと。
- ・1コマにつき2時間程度の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

産業精神保健学演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/16(水)	1	福田 吉治 教授	職場のメンタルヘルス対策の現状と国の取組
2	8/16(水)	2	北村 尚人 講師(非)	職場におけるメンタルヘルス不調者への対応
3	8/16(水)	3	磨田百合子 講師(非)	職場のメンタルヘルス対策における保健師の役割／復職支援の実際
4	8/16(水)	4	高辻(戸谷) 由布子 講師(非)	過労死, メンタルヘルス不調者等に関連した訴訟および対処方法
5	8/30(水)	1	福田 吉治 教授	産業ストレスの理論と応用
6	8/30(水)	2	吉川 悦子 講師(非) 竹内由利子 講師(非)	職場ドックの解説・実施方法
7	8/30(水)	3	吉川 悦子 講師(非) 竹内由利子 講師(非)	職場ドックの適用演習1:グループワーク
8	8/30(水)	4	福田 吉治 教授 吉川 悦子 講師(非) 竹内由利子 講師(非)	職場ドックの適用演習2:グループワークのまとめ、発表、質疑 科目全体のまとめ

科目名	産業環境保健学実習	code number : OEH 351	選択	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

4日間を実習日とする。
 初日の午前、「職場巡視」とは何か、「安全衛生委員会」とは何か、「職場巡視」における事前準備、当日の視点およびツールの利用方法の講義を行う。
 初日の午後、第2日目、第3日目にいくつかの職場を対象として「職場巡視」を行う。
 最終日の第4日目は、午前中に職場巡視を行った職場ごとにグループの意見をまとめ、模擬安全衛生委員会で各職場での課題に対する対策を決定する。午後に、職場巡視を行った職場ごとで、職場巡視対象職場に対するレポートをまとめ、総合討論を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 産業環境保健学概論の講義で学んだ成果を活かす場として実際の現場を巡視し、環境を評価・改善するための視点を獲得し、実践力を磨き、現場の問題解決のための提案ができる。

【行動目標(SBO)】

1. 「職場巡視」の事前準備ができて、当日の視点を説明できる。
2. 「職場巡視」で現場の問題点を発見し問題解決の対策を考えられる。
3. 「安全衛生委員会」を理解し、運営することができる。
4. 「職場巡視」対象職場に対策提言ができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(60%)
- (2) 発表(30%)
- (3) 実習中の主体的学習態度(10%)

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会. 2017.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』の作業環境管理の章を事前に読んでおく。
- ・安全衛生委員会や職場巡視などの実習時に必要な組織や方法について理解しておく。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・最終レポートは実習先に提出することを予定していることを踏まえてまとめる。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

産業環境保健学実習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/7(月)	1	原 邦夫 教授 高橋 謙造 准教授	職場の有害要因と健康障害およびその対策案／職場巡視と安全衛生委員会
2	8/7(月)	2	福田 吉治 教授 高橋 謙造 准教授	ケースに基づく模擬安全衛生委員会A
3	8/7(月)	3	高橋 謙造 准教授 矢野 榮二 教授	職場巡視A
4	8/7(月)	4	高橋 謙造 准教授 矢野 榮二 教授	職場巡視A
5	8/8(火)	1	福田 吉治 教授	A職場についての模擬安全衛生委員会
6	8/8(火)	2	福田 吉治 教授	A職場についての模擬安全衛生委員会
7	8/8(火)	3	原 邦夫 教授	全体討論
8	8/8(火)	4	原 邦夫 教授	A職場についてのまとめ
9	8/17(木)	1	原 邦夫 教授	職場の有害因子と健康障害およびその対策案／職場巡視と安全衛生委員会
10	8/17(木)	2	福田 吉治 教授	ケースに基づく模擬安全衛生委員会B
11	8/17(木)	3	谷原 真一 教授	職場巡視B
12	8/17(木)	4	谷原 真一 教授	職場巡視B
13	8/18(金)	1	福田 吉治 教授	B職場についての模擬安全衛生委員会
14	8/18(金)	2	福田 吉治 教授	B職場についての模擬安全衛生委員会
15	8/18(金)	3	原 邦夫 教授	全体討論
16	8/18(金)	4	原 邦夫 教授	B職場についてのまとめ

科目名	特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ) ^(※)	code number : OEH 401～403 ^(※)	選択	1 単位
-----	---------------------------------	---	----	------

科目責任者	Rose Goldman 客員教授(※)						
配当年次	1・2年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

エネルギー消費量の増大により地球温暖化が進むなど、ヒトの健康への環境の影響が大きくなっている。環境保健の基本的コースとして、毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題について、評価し政策決定できることを目指す。

事前に教科書の関連する章を読む予習を前提に、ケースを用いてグループ討論をする。また、参加者自身の国および居住地域の環境相互関係や、他の要因(年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙など)の修飾影響について理解を促す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 環境保健の基本的な考え方および方法を学び、その考え方や方法を実際の環境問題に適用できる。

【行動目標(SBO)】

1. 環境有害要因のヒトの健康への影響を理解し、説明できる。
2. 環境保健の基礎として毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、説明できる。
3. 大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題に対して対策案を検討できる。
4. 環境有害要因によるヒトへの健康有害影響に対する、年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙などの修飾要因の影響を評価できる。

3. 成績評価の方法および基準

最終試験の点数で評価し、60%以上を合格とするが、グループ討議・発表等への積極的参加で10%程度加算する。

4. 教科書・テキスト

・Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury; sixth edition. Barry S. Levy, David H. Wegman, Sherry L. Baron, and Rosemary K. Sokas. Oxford University Press, 2011.

5. 参考書

・関連する読むべき資料を専用ホームページに掲載する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前にテキスト「Frumkin H, Editor. Environmental Health: From Global to Local. San Francisco: Jossey-Bass, 2016」や、専用HP上に公開される講義用資料を授業前に読んでおく。
- ・当日の講義内容に関連するキーワードの概念を理解して講義に臨む。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・積極的なグループ討論への参加を求める。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ)(※)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/25(木)	1	Rose Goldman 教授(客)	環境保健学入門(ケース1:妊婦はツナ缶を食べるべきか?)
2	1/25(木)	2	Rose Goldman 教授(客)	中毒学(基本的な中毒学、ケース2:妊婦はツナ缶を食べるべきか?(継続))
3	1/26(金)	1	Rose Goldman 教授(客)	環境疫学と大気汚染(ケース3:各地のPM2.5濃度と死亡率への影響、その発生源および対策)
4	1/26(金)	2	Rose Goldman 教授(客)	リスクアセスメントと政策決定(ケース4:妊婦はツナ缶を食べるべきか?水銀の影響と魚摂取の効果 (継続))
5	1/27(土)	1	Rose Goldman 教授(客)	産業保健:災害防止(ケース5:Haddon Matrixを用いた災害分析)
6	1/27(土)	2	Rose Goldman 教授(客)	水と衛生(ケース6:飲料水と健康—バングラデッシュの経験)
7	1/28(日)	1	Rose Goldman 教授(客)	建造環境とエネルギー選択(ケース7:エネルギー選択のためのライフサイクルアセスメントと健康影響予測評価アプローチ、エコロジカル・フットプリント)
8	1/28(日)	2	Rose Goldman 教授(客)	地球温暖化(ケース8:地球温暖化と健康)

科目名	公衆衛生倫理学	code number : ID 201	必修	1 単位
-----	---------	-------------------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎について学ぶ。ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。真実の告知、インフォームド・コンセント、パターナリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対して、事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 保健医療の現場において意思決定を行う際に必要な医療倫理の基本的な知識・考え方を身に付ける。

【行動目標 (SBO)】

1. 倫理的観点から対応が困難と想定される事例において、自分の考えを述べることができる。

3. 成績評価の方法および基準

- ・上記到達目標を確認するレポートやディスカッションを課す。
講義の課題(50%)、レポート(30%)、ディスカッションの内容(20%)

4. 教科書・テキスト

- ・特定のテキストは設けない。必要に応じて資料を配布する。

5. 参考書

- ・赤林 朗・児玉 聡 編
『入門・医療倫理III 公衆衛生倫理』 勁草書房 2015年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・講義ごとに2時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

公衆衛生倫理学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/12(水)	4	中尾 睦宏 教授	医療・公衆衛生倫理学総論 医療倫理に関する歴史的背景を中心に、概略について学ぶ。
2	4/19(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	医療従事者・患者関係 医療従事者が患者関係を築く上で必要となる基本的事項について学ぶ。
3	4/26(水)	4	井上まり子 准教授	公衆衛生倫理(1) 公衆衛生倫理学の沿革、主要な倫理的課題の事例の紹介、公衆衛生倫理学のアプローチ方法について学ぶ。
4	5/10(水)	4	井上まり子 准教授	公衆衛生倫理(2) パターンリズム、個人の自由と集団の利益など、具体的な事例をもとに政治哲学の理論を紹介する。理解を深めるためケーススタディを用いて討論する。
5	5/17(水)	4	中澤 栄輔 講師(非)	インフォームド・コンセント 患者の権利、インフォームドコンセントについて、その歴史的背景、法的根拠などについて学ぶ。
6	5/24(水)	4	中澤 栄輔 講師(非)	ケース・アプローチ 臨床現場で遭遇する具体的な倫理的問題を分析する手法を学ぶ。
7	5/31(水)	4	中尾 睦宏 教授	利益相反とオーサーシップ 公衆衛生学専門家として利益相反や客観的な視点とは何かを討論する。またPublicationの真実性や透明性、公平性といった倫理的要素についても学ぶ。
8	6/7(水)	4	福田 吉治 教授	公衆衛生専門職の研究倫理の実践 医学的研究を行うに当たって必要な倫理的知識、具体的な倫理申請の手続きなどについて学ぶ。

科目名	医学基礎・臨床医学入門	code number : ID 101	選択必修	2 単位
-----	-------------	-------------------------	------	------

科目責任者	山本 秀樹 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	月曜 1,2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義を行う。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。そうした基礎医学の学習の中で「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるか、個人と集団それぞれの見地からアプローチする。臨床医学は、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患を理解するための基本的事項を中心として、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて学ぶ。理解を助けるためにビデオ学習を積極的に取り入れる。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 公衆衛生の実務者となるうえで必要とされる必要最小限の医学・生物学的知識を包括的に理解すること。
2. 公衆衛生の実践の場で必要となる基本的な疾患の病因・病態を理解する。

【行動目標 (SBO)】

1. 獲得した医学・生物学的知識を基に保健医療専門家と共に公衆衛生活動ができるようになる。
2. 公衆衛生上の課題を一般市民にわかりやすく説明することが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 最終試験(70%)
- (2) 課題レポート(20%)
- (3) 講義での参加度(10%)

上記、評価にて合格基準に達しない場合には再試験/レポート再提出を別途指示する。その場合、評価は70点未満とする。

4. 教科書・テキスト

- ・医学概論 (コメディカルのための専門基礎分野テキスト) [単行本] 北村 諭 (著)
出版社: 中外医学社; 5版

5. 参考書

- ・適時、担当教員より講義時に紹介する。
- ・図書館に人体解剖/生理、病態入門のビデオ教材を用意しているので利用すること。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・テキストの各項目と事前配布資料(ある場合)を講義前に必ず熟読してくること。
- ・講義ごとに1時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・医療系の国家資格を有しない非医療系の学生のみ履修すること。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医学基礎・臨床医学入門

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/17(月)	1	山本 秀樹 教授	医学の使命と歴史
2	4/17(月)	2	山本 秀樹 教授	人の生と死〔脳死を含む〕および倫理問題
3	4/24(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 人体の発生〔受精卵から誕生〕
4	4/24(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 総論—主要症状とその原因
5	5/1(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 呼吸器系
6	5/1(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 呼吸器疾患・中毒性疾患
7	5/8(月)	1	谷原 真一 教授	人体の構造と機能: 細胞・人体の構成(骨・筋肉)
8	5/8(月)	2	谷原 真一 教授	臨床医学: 骨/筋肉〔外傷と疾患〕
9	5/15(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 血液/造血系
10	5/15(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 血液疾患
11	5/22(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 感染・免疫系・遺伝
12	5/22(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 感染・アレルギー疾患・遺伝性疾患
13	5/29(月)	1	中田 善規 教授	人体の構造と機能: 循環器系
14	5/29(月)	2	中田 善規 教授	臨床医学: 循環器系疾患
15	6/5(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 消化器系
16	6/5(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 消化器系疾患
17	6/12(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 神経系
18	6/12(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 神経筋疾患
19	6/19(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 眼疾患・耳鼻科疾患
20	6/19(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 感覚器の異常(耳鼻咽喉科、眼科)
21	6/26(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能: 生殖器系
22	6/26(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学: 婦人科疾患・小児疾患
23	7/3(月)	1	福田 吉治 教授	人体の構造と機能: 皮膚および軟部組織
24	7/3(月)	2	福田 吉治 教授	臨床医学: 皮膚疾患
25	7/10(月)	1	中尾 睦宏 教授	人体の構造と機能: 心理/ストレス
26	7/10(月)	2	中尾 睦宏 教授	臨床医学: 精神疾患
27	7/24(月)	1	内田 俊也 教授	人体の構造と機能: 泌尿器系・内分泌系
28	7/24(月)	2	内田 俊也 教授	臨床医学: 代謝内分泌疾患・腎泌尿器疾患
29	7/31(月)	1	山本 秀樹 教授	全体のまとめと補足
30	7/31(月)	2	山本 秀樹 教授	最終試験

科目名	調査・研究法概論	code number : ID 211	選択	1 単位
-----	----------	-------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造 准教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	3日間	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生の実践に必要な素養としての調査研究の全体像を理解する。
MPH取得の上で是非身に付けておくべき、調査・研究法の基礎(Input:情報の入手・管理法、情報の分析法、Output:情報の表出法)について習得することを目的とする。
加えて、本学の特徴である、問題解決型アプローチの実例についても紹介する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 研究を大学院で初めて行う学生が、その概要と流れを把握できるようにする。特に課題研究を進めるにあたっての基礎を修得する。
2. 効率のかつ確実な業務・研究の取り回しは、仕事の成果を左右する。このような理解の上に、幅広い視点から調査・研究法の基礎を学び、実践できることを目標とする。

【行動目標(SBO)】

1. 調査研究を行う意義とその全体像の概要を説明できる。
2. 調査研究に必要な情報について
 - ・適切に情報入手、管理ができる。
 - ・適切に基礎的な集計ができる。
 - ・適切に情報発信する方法が理解できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)授業への積極的な参加(40%)
 - (2)レポート提出評価(60%)
- ただし、無断欠席に際しては、減点の対象となる。

4. 教科書・テキスト

・特に指定しない。

5. 参考書

- ・考える・まとめる・表現する-アメリカ式「主張の技術」- 大庭コテイさち子 NTT出版
- ・論理が伝わる世界標準の「書く技術」「パラグラフ・ライティング」入門 -倉島保美 講談社
- ・アカデミック・スキルズ、佐藤望ほか、慶應義塾大学出版会
- ・わかりやすい医学統計の報告-医学論文作成のためのガイドライン、大橋靖雄ほか、中山書店

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・当日、簡潔な背景説明は行うが、文献類(事前に配布する)は読み込んでおくことが望ましい。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・調査研究に必要な倫理的配慮については、詳しくは公衆衛生倫理学等で学ぶ。
- ・調査研究に用いるデータ、質問票とスケール等について、詳しくは社会調査データ解析概論で学ぶ。
- ・学術論文を読む方法について、詳しくはスタディクリティークで学ぶ。
- ・文献検索の方法について、詳しくは健康医療情報学講義で学ぶ。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/6(木)	1	井上まり子 准教授	はじめに 1. 調査研究をはじめるあなたへ 2. 日常の問題意識をリサーチ・クエスチョンにする 3. 公衆衛生の問題解決型アプローチとは *詳しくは疫学講義で学ぶ
2	4/6(木)	2	桑原 恵介 講師	調査研究の実践 1. 研究計画立案と研究デザイン 2. 調査研究に必要な倫理的配慮:実践者の倫理、倫理審査の心得と手順
3	4/6(木)	3	桑原 恵介 講師	調査研究の実践 3. 何をどう測定するのか。 調査研究に用いるデータ、質問票とスケール
4	4/6(木)	4	高橋 謙造 准教授 桑原 恵介 講師	調査研究の実践 4. 質問票調査の手順 (研究対象のサイズ決定、サンプリング法、フィールドとの交渉法)
5	4/7(金)	1	高橋 謙造 准教授 井上まり子 准教授	調査研究の実践 5. 過去の調査研究紹介 ―教員の実践例から―
6	4/7(金)	2	井上まり子 准教授	情報整理の技術 1. 学術論文の種類と構成 収集した学術論文を読む方法
7	4/7(金)	3	高橋 謙造 准教授	情報整理の技術 2. 研究で得られたデータの管理 データを入力する: Excelシートのデザイン、 ダブル・エントリーと代替法、データクリーニング Excel活用法(関数、ピボットテーブルなど)
8	4/7(金)	4	高橋 謙造 准教授 桑原 恵介 講師	情報整理の技術 3. 情報の整理のために必要なこと ファイルの行方不明をなくす―ファイル名管理法 PDCAを意識した業務管理 論文管理データベースとJournal Alert登録 図書館とデータベースの利用・文献検索の基礎
9	4/10(月)	1	根本明日香 講師	人に伝える 1. 調査研究成果の報告: 論理的思考と文章の書き方、図表の描き方
10	4/10(月)	2	井上まり子 准教授	人に伝える 2. プレゼンテーション方法(学会等での報告)と論文の書き方
11	4/10(月)	3	高橋 謙造 准教授	人に伝える 3. 行政への報告書の書き方, Academic Writing, Paragraph writingの手法

科目名	健康医療情報学	code number : ID 221	選択	1 単位
-----	---------	-------------------------	----	------

科目責任者	桑原 恵介 講師						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

公衆衛生専門家は、様々な背景を持つ関係者に対して、最新の健康・医療情報について信頼性を踏まえてわかりやすく伝えることが求められる。本講義では、最初の2コマで、公衆衛生専門家として健康・医療情報を取り扱うために必要な知識について、主に講義形式にて授業を行う。3コマ目以降から、主にグループワークによる演習形式にて、(1)検索テーマ設定、(2)文献検索に基づく健康・医療情報の収集、(3)文献管理、(4)情報の批判的吟味、(5)発表を行う。研究の批判的吟味については、「基礎疫学」や「臨床疫学」、「スタディクリティーク」においてより発展的に学習する。また、ヘルスコミュニケーションについては「健康教育学」や「リーダーシップ・マネジメント論」で深く学ぶことができる。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 本科目では、公衆衛生専門家として、最新の健康・医療情報を系統的に収集し、収集した情報を批判的に検討し、まとめ、情報の信頼性を考慮して人にわかりやすく伝えるための基本的な考え方を体系的に理解し、その能力を身につけることを目標とする。

【行動目標(SBO)】

- 健康・医療情報の収集法、文献の管理方法、効果的なプレゼンテーションの方法について説明できる。
- 情報の信頼性や問題点を判断することができる。
- 最新の健康・医療情報について、その信頼性も考慮して、他者にわかりやすく説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

授業中の貢献(40%)、演習(30%)、レポート(30%)により評価し、判定する。

4. 教科書・テキスト

適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・ 中山健夫「健康情報学への招待第2版」丸善出版(2014年)
- ・ 大木秀一「文献レビューのきほん-看護研究・看護実践の質を高める-」医歯薬出版株式会社(2013年)
- ・ 福田洋、江口泰正「ヘルスリテラシー-健康教育の新しいキーワード-」大修館書店(2016年)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・ 各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・ 各講義の受講前に1時間の予習、受講後に1時間の復習すること。

7. その他履修上の注意事項

- ・ 試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・ この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

健康医療情報学

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	2	桑原 恵介 講師	- 健康・医療情報とは: データから情報へ - 情報の収集・管理・活用 - レポートについての説明
2	4/25(火)	2	桑原 恵介 講師	- 健康・医療情報の信頼性の評価 - 情報に基づく意思決定 - 文献レビューの基本 - 検索テーマの設定演習
3	5/2(火)	2	桑原 恵介 講師	文献検索演習1(日本語による検索): 医中誌Web、CiNii
4	5/9(火)	2	桑原 恵介 講師	文献検索演習2(英語による検索): PubMed、Web of Science、Scopus
5	5/16(火)	2	桑原 恵介 講師	- 文献の管理方法: 紙媒体、エクセル、Endnote等の活用 - 文献管理演習: エクセルの活用
6	5/23(火)	2	桑原 恵介 講師	- 情報を批判的に吟味するための要点: 研究デザイン、偶然、バイアス等 - 実例に基づく、情報の批判的吟味の演習
7	5/30(火)	2	桑原 恵介 講師	- プレゼンテーションのポイント: ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、ナラティブ情報 - プレゼンテーション演習: 最新の健康・医療情報の説明
8	6/6(火)	2	桑原 恵介 講師	- グループごとの成果発表と受講生間評価 - 全体のまとめ

科目区分：

共 通

(専門職学位課程)

科目名	インターンシップ	code number : ID 351	選択	1 単位
-----	----------	-------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	(個別設定)	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	実習

1. 授業の概要

実際の公衆衛生活動を行う現場(国際機関、行政機関、NGO、企業・団体等)において一定期間就業体験を行う。その実務を通じて公衆衛生に必要な5つの領域の知識の定着度を確認し、不足を補う。また、MPHのコンピテンシーである情報処理能力とコミュニケーション能力、専門家としての職業意識、計画策定能力、システム思考などを鍛える。チームでの仕事やプロジェクトに実際に関わる中で実践能力を向上させる。

公衆衛生にかかわるステークホルダーの実社会での機能と役割について学び、社会での公衆衛生の問題解決にインターンシップ先と共に取り組む。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. インターンシップ(学生が在学中に、国際機関、行政機関、企業・団体等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと)に参加することにより、講義の中で学んだ知識を活かし、より実践的な問題解決能力を高め、公衆衛生の専門職にふさわしい素養(コンピテンシー)を身につける。
2. 実務の現場において公衆衛生の基本的な実務(地域や職場の理解、チームでの勤務、プロジェクト管理、各方面へのコミュニケーション、モニタリング能力など、)の実践能力を向上させる。

【行動目標(SBO)】

1. より実践的な問題解決能力を高め、公衆衛生の専門職にふさわしいコンピテンシーを身につけることができる。
2. 実務の現場において公衆衛生の基本的な実務の実践で必要な事項について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 現地での担当指導関係者による評価(50点)
- (2) 本人が提出するインターンシップ終了後報告書(50点)

4. 教科書・テキスト

- ・各インターンシップ指導教員より指示あり

5. 参考書

- ・各インターンシップ指導教員より指示あり

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・実習前に事前研修の一環として、各自実習先に対する機能や役割について情報を収集する。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・本インターンシップへの参加の費用(渡航費・滞在費・海外旅行傷害保険料等)は基本的に各自の負担である。
- ・レポートを提出し、実習報告会で発表する。レポートに対し、解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
				1. 授業の流れ (1) 履修を目指す大学院生は、過去の経験や現在の関心をもとにしてアカデミックアドバイザーと相談のうえ、インターンシップを実施する受け入れ機関を探す。 (2) 科目責任者である研究科長はそのインターンシップ先の分野や専門性を検討したうえで、教員の中から個別のインターンシップ担当者を選定する。選定された個別のインターンシップ担当者はインターン先との連絡や事前学習、現地での活動、安全と危機管理に対する窓口、受け入れ先との大学側の窓口となり、大学院生のインターンシップを支援する。 (3) 各大学院生はインターンシップ担当者らと事前学習を行い、インターンシップ開始後の作業を円滑に行う準備をする。 (4) インターンシップ実施中は中間報告などにより随時インターンシップ担当者への連絡を行う。 (5) インターンシップ終了後には最終報告書を提出する。 (6) 受け入れ先から評価書を得る。 2. 想定される受け入れ先 ※ 期間は原則として通算2週間以上とし、夏期または冬期休暇期間中に実施する。 国際機関、中央省庁・地方自治体などの行政機関、国際協力に関する諸機関(国際協力機構(JICA)など)、NGO・NPO、公衆衛生に関連する民間企業など 3. 単位認定の条件 (1) 研究科が認める実習先であったこと (2) 事前準備を十分に行っていると認められていること (3) インターンシップ先からの事後評価が研究科の基準を満たしていること (4) 本人の成果と報告書の提出とインターンシップ担当者による評価を得られること 4. 履修登録・単位認定の時期について 履修登録は、インターンシップ開始前までに必ず教務課へ諸手続きを行うこと。単位認定は、インターンシップ終了後、最も近いセメスターのみ有効である。夏休みに実習を行った場合は、後期期間中に報告書の提出を行う。同様に、春休みに実習を行った場合は、次年度前期期間に報告書の提出を行う。

科目区分：

共 通

(専門職学位課程)

科目名	課題研究	code number : ID 500	必修	6 単位
-----	------	-------------------------	----	------

科目責任者	各指導教員						
配当年次	1・2年次	配当学期	通年	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

1. 授業の概要

特定の課題について個別に研究の実践、指導を行い、現地でのフィールドワーク、調査、情報収集、分析等を経て研究報告書を作成する。実習先での現場実習や現場見学を含む場合には実習報告書を提出する。課題研究を指導する教員(学内)・指導者(学外)を定め、受講生は研究指導を受ける。

2. 授業の到達目標

国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場で問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の集大成として課題研究を行う。
到達目標は、講義・演習科目を通じて学んだ知識の体系化を図ることにある。各人材養成像に沿ったコースワークの後半期間を用いて、より専門的・実務的な研究課題として取り組み、学んだ知識を実践の場に還元できる能力を身に付けるものである。この高度専門職業人に資する実務適応能力を身に付けるため、プラクティカルな要素が有効であると考え、課題研究の期間内に学習手段の一つとして短期間の現場実習、現場見学、専門家(指導教員)との協働、フィールドワーク、シミュレーションワーク等を含めるものとする。

3. 成績評価の方法および基準

- ・課題研究指導教員による指導のほか、授業計画に示す各報告会の前後においてグループ指導として複数の専任教員による評価、指導を行う。審査は各グループ指導での専任教員が担当グループの審査を行う。外部での実習・現場調査を含む場合は報告書と受け入れ先の評価結果も審査の対象となる。
- ・コンピテンシーを満たしていることを前提に発表会ならびに課題研究報告書により評価する(100%)

4. 教科書・テキスト

- ・各指導教員より指示あり

5. 参考書

- ・各指導教員より指示あり

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・各指導教員より指示あり
- ・課題研究の達成に必要な予復習の時間を十分に確保するように努めること。

7. その他履修上の注意事項

- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画欄に記載のある分野別のテーマ毎に研究指導教員と学生間にて授業日程(指導日程)を個別に設定する。 課題研究に関する中間報告会と最終報告会を実施し、報告内容を専任教員が評価を行う。 ○オリエンテーション : 平成29年 4月 5日(水) ○合同ガイダンス : 平成29年 4月20日(木) ○課題研究テーマ提出 : 平成29年 7月 3日(月)～ 7日(金) 予定 ○研究計画・中間報告会 : 平成29年 7月27日(木) 予定 ○中間報告会 : 平成29年10月12日(木) 予定 ○最終報告会 : 平成29年12月14日(木) 予定 (上記日程に関しての詳細は別途指示)				
【疫学・臨床疫学の課題研究/指導教員:矢野榮二・谷原真一・福田吉治・桑原恵介・野村恭子・大脇和浩(非常勤講師)】 講義・演習で学んだ臨床疫学研究の知識を用い、関心のあるテーマで研究を行う。実際にPubMedやコクランライブラリーを用いて、系統的レビューを行い、研究仮説を立てる。研究対象は自分の持つデータから厚生労働省統計局ホームページで入手できる二次データまで広範囲に扱い、データセットを作成するという実務と同様の作業を経験する。統計学的な処理・結果の解釈を加えたのちに研究報告書としてまとめる。従って、本課題研究では研究報告書と作成したデータセットをその研究成果とする。 なお、本課題研究は、臨床疫学専門家を志す学生を対象とする。				
【生物統計学の課題研究/指導教員:山岡和枝・松浦正明・根本明日香】 講義・演習で学んだ生物統計の知識を用い、臨床研究等、医薬分野のテーマについて、研究計画・解析計画をたて、データを収集し、データの特性に応じた要約、解析を行い、報告書としてまとめるまでの一連の研究を行う。 課題においては、解析は統計ソフトを用いて行う。自分で収集したデータを課題研究対象とする。一連の解析結果を発表し、質疑応答の結果をふまえ、統計解析報告書を作成する。データ解析の内容及びそれぞれのテーマに応じ作成した統計解析報告書をもとに研究報告書を作成する。従って、本課題研究では研究報告書と統計解析報告書(解析結果)をその研究成果とする。研究解析報告書を作成するまでの一連の過程は、臨床試験に係わる実務家(臨床試験統括医師、臨床試験看護師、解析実務家)が理解し報告書作成の技能を修得することが必要であるが、一方で臨床試験におけるそれぞれの職能に応じた役割・責任や、他職能との連携の重要性についても作業プロセスを通じて身に付ける。				
【行動科学・健康教育学の課題研究/指導教員:中尾睦宏・福田吉治】 講義・演習で学んだ行動科学・健康教育の知識を用い、下記のような現実発生している問題(テーマ)に対して実際の情報・活動に触れながら研究を行う。 行動科学系テーマ:日本の自殺予防対策の現状と将来戦略 日本では1997年より自殺者数が年間3万人を超える状況が続いており、その対策は公衆衛生学的に重要な問題となっている。国立精神神経センターにある自殺予防総合対策センターでは地域での取り組みや医療機関での取り組みについて情報の収集・分析をしているので、その活動に参加して課題研究(実習を含む)を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。 なお、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(メンタルヘルス)を志す学生を対象とする。 健康教育学系テーマ がん、循環器疾患等、今日の多くの疾病が、個人の生活習慣を原因または背景として発症する。したがって、個人の生活習慣の改善や行動変容が疾病予防と疾病管理の基本となる。また、個人の生活習慣には、個人の社会経済的状況、個人のおかれた環境(家庭、職域、地域等)、さらには、社会の制度やシステムが強く影響している。本課題研究は、個人のみならずよりマクロな視点を踏まえて、個人の行動変容を促し、疾病の予防と管理のための健康教育・ヘルスプロモーションの理論と手法を、地域や職域等での実践を通じて習得することを目的とする。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。 なお、本課題研究は、行動科学・健康教育・ヘルスプロモーションの専門家を志す学生を対象とする。				
【社会疫学の課題研究/指導教員:福田吉治・井上まり子】 講義・演習で学んだ社会疫学の知識を用い、健康の社会的格差とその縮小ならびに公衆衛生の向上を課題とした研究を行う。特に、(1)健康の社会的格差の状況と背景の把握ならびに機序の解明を基にした政策の立案・実施・評価、(2)非正規雇用者、高齢者、一人親家庭等の個別集団の健康問題とその解決、(3)健康の地域格差に関連する医療・保健等のヘルスケアの質的および量的評価に基づく政策立案、(4)健康の社会的格差を縮小させるための行動経済学の応用、などを個別テーマとする。本研究課題では、エビデンスの蓄積だけでなく、具体的な政策立案から評価までの過程を含めた研究報告書を研究成果とする。 なお、本課題研究は、医療、地域保健、産業保健等を含む保健行政と実務の専門家を志す学生を対象とする。				

【医療管理学の課題研究/指導教員:中田善規】

講義・演習で学んだ医療管理や医療経済、医療経営の知識を用い、帝京大学医学部附属病院での実習を通じて、管理経営者が日常直面する医療管理上の問題点を実際に体験し、その解決策を優先順位を付けて提案できる能力を身につけることを目標とする。さらにその解決策のコストとベネフィットを理解し、組織運営上の最適解を決定し、その具体的な実行方法まで踏み込んで考えられるようにする。こうした経営分析手法の科学的根拠となるのは、医療経済学の講義で学んだミクロ経済学や医療管理学の講義で学んだ組織行動学などが中心となる。こうした病院管理者の活動に参加して課題研究を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

なお、本課題研究は、医療管理(医療経営、コメディカル部門管理、病院事務管理)の専門家を志す学生を対象とする。

【保健行政の課題研究/指導教員:谷原真一・福田吉治・高橋謙造】

講義で学んだ保健医療政策の知識を用い、日本の医療・保健・福祉政策の現状を分析し、問題を抽出し、問題解決策の立案・実施ならびに評価(PDCサイクル)を通じて課題研究を行う。具体的には、高齢者の医療制度・介護保険制度、生活習慣病対策、母子保健対策等をテーマに設定し、指導教員が関わっている自治体や施設をフィールドに、医療レセプト、国民生活基礎調査等の公的データを利用した分析と政策研究の実務を経験しながら研究を行う。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

なお、本課題研究は、保健行政の専門家を志す学生を対象とする。

【国際保健の課題研究/指導教員:高橋謙造・井上まり子・堀内清香】

国際的課題となる公衆衛生の問題を認知して、その課題の解決のために取り組む方策を学び、実務遂行上生じる問題解決能力を養う。国際保健に関する講義や演習を履修して知識と議論を深めることを推奨する。

課題研究のためには実務に即した特定のテーマを設定して調査研究を行う。フィールド調査を通じた情報収集、国際的な公的統計分析、政策関連資料や学術論文を活用して現状把握と情報分析に務める。調査実施に際しては、本学の学術提携校(インドネシアのアトマジャヤ大学、インドネシア大学、フィリピン大学マニラ校、タイのチュラロンコン大学・マヒドン大学など)と協力して現地調査研究を行うこともできる。課題研究期間中に国際保健の関連機関でのインターンシップ(別途履修)を行い、実務経験の内容を基盤にした課題研究報告書を成果とすることも可能である。

なお、本課題研究は国際保健の専門家を志す学生を対象とする。

【地域保健学の課題研究/指導教員:高橋謙造・谷原真一・福田吉治・井上まり子・堀内清香・石崎達郎(非常勤講師)】

講義・演習で学んだ、実践において生じた疑問や仮説に対して行うPractice based researchの方法論を用いて、(保健、福祉などを含む広義の)地域医療の現場で発生している臨床あるいは社会医学的テーマについての研究を行う。そのことにより、学習者が将来業務を行う中での研究テーマに気づき、それについての解明を現場で自らが行え、その成果を情報発信する能力を取得することを目指す。また、Practicebased researchは研究の端緒から主体的に行えることから、研究における自己研鑽能力を涵養することも主眼とする。

研究テーマは、本来的には学生自身がこれまでの経験から得られた研究仮説・疑問を基に学生自身のデータに対して行う。しかしながら、当課題研究においては、①実践を通じて得られた疑問や仮説を、2次的データを使用して解明する、②指導教員との討論のもとに、提供するデータについての疑問や仮説を主体に作成し解明する、これらのタイプの研究も含める。

本課題研究は、将来においても主体的にPractice based researchを実践する地域保健の専門家たる志を持つ学生を対象とする。

【医療情報の課題研究/指導教員:中田善規】

講義・演習で学んだ各分野の知識を用いて、情報の観点から公衆衛生の向上をめざす研究を行う。「医療と情報」の分野が扱う主題はさまざまに多岐にわたる。例えば、医療のIT化におけるシステム構築やインフラのあり方、個人のプライバシーを侵害しない医療情報に特化したセキュリティ施策、医療情報管理のための規格とメタデータの標準化、情報資源をナレッジ化し役立てるための実践的コミュニケーションの手法、公衆衛生の実践や医療情報普及のためのメディア戦略など、が挙げられよう。本課題研究では、これまでの経験から得られた問題意識を実践的なテーマとして絞り込み、先行研究のレビューを行い、実証的研究のプロセスを経て評価・勧告につながるような実践的研究としてまとめることを目指す。

なお、本課題研究は、医療情報の専門家を志す学生を対象とする。

【環境衛生の課題研究/指導教員:原邦夫・矢野榮二】

講義や実習で学んだ環境衛生の知識や技術を用い、既に基礎となるデータが一定ある下記の3領域のテーマの中から選択し、関連論文検索・レビュー、研究仮説設定、データ解析、結果をとりまとめ、研究報告書を作成する。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

なお、本課題研究は、環境衛生の専門家(作業環境測定士受験希望者も対象)を志す学生を対象とする。

1) 大気汚染物質の動態・大気汚染の健康影響

国内もしくはタイ・バンコクにおける大気汚染測定データを用いて汚染物質の濃度と変動に影響を与える要因を解析する。また行政的な保健衛生統計や医療機関のデータを用いて、大気汚染との関係を調べる。可能であれば現地での環境測定や健康影響調査にも参加する。

2) 産業有害物質の健康影響

国内鉛取り扱い作業場の作業環境測定データと健診データまたは中国石綿取り扱い工場の作業環境測定データと作業者の長期の死因観察データとの関連を調べる。可能であれば現地の調査にも参加する。

3) 事業所の健康管理データ

10年以上の長期に観察されている事業所の健康診断データを経時的に観察し、労働者の就業・雇用状況と生活習慣の影響を、年齢、コホート、時代モデルを用いて解析する。

【産業保健の課題研究/指導教員:矢野榮二・谷原真一・原邦夫・福田吉治】

講義や実習で学んだ産業保健の知識や技術を用い、指導教員と相談し個別にテーマ設定し課題研究を行い研究報告書としてまとめる。また、希望者に対しては、企業の工場内の労働衛生管理・産業保健担当部署における実際の作業現場で実務を見学、可能な範囲で自ら参画し、現場における実務を経験・学習する。従って、本課題研究では研究報告書(実習参加者は実習報告書も含む)をその研究成果とする。

なお、本課題研究は、産業保健の専門家(労働衛生コンサルタント受験希望者も対象)を志す学生を対象とする。

注) 本シラバスに掲載されていない専任教員は、グループ指導の指導教員担当。

平成29年度 公衆衛生学研究科 履修届

専門職学位課程
学籍番号

提出日 平成 年 月 日

学生氏名

㊞

アカデミックアドバイザー

職位

氏名

㊞

	分野名	Code	number	科目名	単位数	登録	登録単位	特記事項	
必修・選択必修科目	疫学	EPI	201	基礎疫学	4		0		
	生物統計学	BIO	201	基礎生物統計学	4		0		
	社会行動科学	HBS	201	健康行動科学概論	2		0		
	保健政策・医療管理学	HPM	203	保健政策・医療管理学概論	1		0		
	産業環境保健学	OEH	201	産業環境保健学概論	1		0		
	共通	ID	201	公衆衛生倫理学	1		0		
		ID	101	医学基礎・臨床医学入門	2		0		
		ID	500	課題研究	6		0		
選択科目	疫学	EPI	221	臨床疫学	4		0		
		EPI	241	質的研究	1		0		
		EPI	301	スタディクリティーク	2		0		
		EPI	251	リスク科学	1		0		
		EPI	401～403	特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)	1		0	Ⅰ～Ⅲいずれかを開講	
	生物統計学	BIO	211	応用生物統計学	2		0		
		BIO	301	データ解析演習	2		0		
		BIO	221	臨床試験概論	2		0		
		BIO	241	社会調査データ解析概論	1		0		
		BIO	321	社会調査データ解析演習	1		0		
		BIO	401～403	特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ)	1		0	Ⅰ～Ⅲいずれかを開講	
	社会行動科学	HBS	211	健康教育学	1		0		
		HBS	212	社会疫学	1		0		
		HBS	310	終末期医療実習	1		0		
		HBS	401～403	特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ)	1		0	Ⅰ～Ⅲいずれかを開講	
	保健政策・医療管理学	HPM-POL	251	ヘルスポリシー概論	1		0		
		HPM-BIZ	211	医療経済学	2		0		
		HPM-BIZ	212	医療保障政策論	1		0		
		HPM-CH	241	地域保健学	2		0		
		HPM-GH	231	国際保健学概論	2		0		
		HPM-GH	321	国際保健学演習	2		0		
		HPM-GH	241	国際母子保健学	1		0		
		HPM-GH	371	国際保健学実習	1		0		
		HPM-INF	231	ヘルスデータ分析入門	2		0		
		HPM-BIZ	213	医療管理学・安全管理学概論	2		0		
		HPM-BIZ	214	リーダーシップ・マネジメント論	1		0		
		HPM-BIZ	301	医療経営学演習	2		0		
		HPM-BIZ	351	医療管理学実習	1		0		
		HPM-POL	411	Healthcare Management	1		0		
		HPM-BIZ	421	Universal Health Coverage & Aging Society	1		0		
		HPM	401～403	特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ)	1		0	Ⅰ～Ⅲいずれかを開講	
		産業環境保健学	OEH	221	産業保健学	2		0	
			OEH	211	環境保健学	2		0	
	OEH		241	産業看護マネジメント論	1		0		
	OEH		301	産業精神保健学演習	1		0		
	OEH		351	産業環境保健学実習	1		0		
	OEH		401～403	特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ)	1		0	Ⅰ～Ⅲいずれかを開講	
	共通	ID	211	調査・研究法概論	1		0		
		ID	221	健康医療情報学	1		0		
		ID	351	インターンシップ	1		0		
※提出は4月20日(木)まで【提出ボックスNo.39】							総単位数	0	

研究科長	教務部長

履修科目変更届(願)

平成 年 月 日

公衆衛生学研究科長 殿

学籍番号 _____

学生氏名 _____ (印)

アカデミックアドバイザー

職 位 _____

氏 名 _____ (印)

下記のとおり履修科目の変更を申請いたします。

	科目区分	科目名称	単位数	変更後(該当に○印)
1				履修 ・ 取り消し
2				履修 ・ 取り消し
3				履修 ・ 取り消し
4				履修 ・ 取り消し
5				履修 ・ 取り消し
6				履修 ・ 取り消し
7				履修 ・ 取り消し
8				履修 ・ 取り消し

事務部記入欄

受付日:

処理日:

--	--

公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 専門職学位課程

博士後期課程

目 次

1. 教育目的	147
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）	148
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	149
4. コンピテンシー	150
5. 学位論文について	153
6. 履修の申込みと変更の届け出、学位申請等について	154
7. 授業科目の履修について	155
8. 成績評価に対する質問・異議申出	157
9. 主な年間スケジュール	158
10. 事故等について	159
11. その他留意事項	160
12. 授業科目の概要	161
13. カリキュラムマップ	164
14. 成績評価および GPA 制度について	166
15. 学位授与について（学位運用規程の要約）	167
16. 成績優秀者に対する留学推薦	169
17. 教員一覧	173
18. 授業科目一覧	176
19. 授業時間割	177
20. 授業計画（シラバス）	181
21. 履修届・履修科目変更届（見本）	258
帝京大学 組織図・規程関係	261

博士後期課程

1. 教育目的
2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）
3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）
4. コンピテンシー
5. 学位論文について
6. 履修の申込・変更届け、学位申請等について
7. 授業科目の履修について
8. 成績評価に対する質問・異議申出
9. 主な年間スケジュール
10. 事故等について
11. その他留意事項
12. 授業科目の概要
13. カリキュラムマップ
14. 成績評価および GPA 制度について
15. 学位授与について（学位運用規程の要約）
16. 成績優秀者に対する留学推薦

1. 教育目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、人々の命を守り健康を増進させるとともに、健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上、健康を維持する社会づくりに寄与する。そのために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決ができる高度専門職業人を養成する。また保健医療活動に代表される、人々の生命を守る活動を統括指導できる高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ公衆衛生の上級管理者・上級指導者の養成を目的とする。このような公衆衛生の人材育成を通じた社会貢献を行うことが研究科の教育目的である。

- 公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとする。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

学位授与に要求される知識・能力を修得するために、公衆衛生学研究科は、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 公衆衛生の現場における問題解決のために、公衆衛生の 5 つのコア領域を総合的に理解し、かつ分野横断的な組織や活動を率いる人材を養成するために、共通科目として国際標準として公衆衛生高等教育に求められる 5 つの領域の科目を設け、さらに 3 つの専門分野（「疫学・生物統計学分野」、「産業環境保健学分野」、「保健政策・医療管理学分野」）の授業科目を設ける。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題を発見し、それに対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる人材を目指し、各専門分野の研究指導教員による「特殊研究」科目を設ける。「特殊研究」は個別の課題に実際の現場で取り組むことを通じて、公衆衛生の総合力、問題解決能力、コンピテンシーの向上を図る。
3. 公衆衛生の実践と教育・研究を行う実施チームのリーダーとして適切かつ迅速に対応できるリーダーシップを核とする能力を身につけるため、養成する人材像にかかわらず、3 分野共通の必修科目（「リーダーシップ・マネジメント特論」）を設ける。
4. 国際通用性の観点から、海外の最新事情や最先端の知識に触れグローバルな視点を身につけるため、公衆衛生学の 5 つのコア領域について海外提携校の教授陣による授業科目を設ける。加えて、主にアジア諸国の提携校の学生も参加して実施される英語による講義科目（「Seminar on Healthcare Management」、「Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society」）も設けている。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

公衆衛生学研究科博士後期課程は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとする。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。従って、本公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻の博士後期課程においては、そのような上級管理職・上級指導者という観点から以下のような能力を身につけ、原則 3 年以上在学し、学位論文の審査に合格し所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 公衆衛生の実際の場合における問題解決のために公衆衛生の 5 つのコア領域（疫学、生物統計学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学、行動社会疫学）の総合的な能力を持ち、分野横断的な組織や活動を率いる能力がある。
2. 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することのできる能力がある。
3. 公衆衛生の実践において指導的立場の専門家に求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシー（別記）を有している。
4. 人々の命を守り健康を増進させるために、そして健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決を行い、その活動を統括指導する能力を有している。
5. 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。
6. グローバルな視点をもって指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。
7. 上記 1 から 6 を通じて、社会や組織、保健医療課題の変化に貢献しうる総合的な能力と資質を培っている。

4. コンピテンシー

公衆衛生活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする大学院公衆衛生学専攻（博士後期課程）は、そのような上級管理職・上級指導者にふさわしい能力・資質を明示することが、学習を行う上でもその教育を行う上でも有用と考えられる。いま欧米で広がっているアウトカム基盤型教育と修得すべきコンピテンシー設定は世界的流れになっている。大学院公衆衛生学専攻（博士後期課程）に求められるコンピテンシーについて、米国公衆衛生大学院協会（ASPPH）は2009年に7つの項目を提示している。本研究科ではこれらの背景も含め検討した結果、以下の8項目の資質・能力を博士後期課程（DrPH）コアコンピテンシーとして定めた。

I. 職業意識と倫理

倫理的問題を同定し分析する能力

個人の自由の追求と集団の健康をまもり増進するという専門職としての責任のバランスを取り、公衆衛生の研究や実践において、社会正義や人権の概念に基づいて行動する能力

1. 肉体的・精神的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を十分に理解し、公衆衛生上の倫理規範に基づいて公衆衛生の実践を指導することができる。
2. 公衆衛生実践者、研究者、機関が遭遇する可能性のある利益相反について適切に対処することができる。
3. 公衆衛生活動、研究、法律、政策、における倫理的懸念を解決するための戦略を策定できる。
4. 保健事業、政策、研究に関わる個人や共同体のプライバシーを保護するための方法を実施できる。

II. 批判的分析

論理的かつエビデンスに基づいて公衆衛生活動を行う能力

1. 医学公衆衛生学領域の学術的成果・広範な領域からの考え方・健康関連データを統合し適用することによって、公衆衛生の向上のためのプログラム・施策・しくみを発展させることができる。
2. 地域と住民の公衆衛生上のニーズと資源の評価、健康サーベイランスシステムの開発、健康増進プログラム・施策の評価など一連のプロセスを主導することができる。
3. 問題を定式化し、データを定量的かつ定性的に解釈し、リスク・ベネフィットを見積もり、多様な情報を統合して実践することができる。
4. 実践の過程や結果として得られた新規性・普遍性・発展性のある情報を広く利用できる形で発信し、その普及を図ることができる。

Ⅲ. 地域・文化交流

公衆衛生活動において、多様な地域に属する人々や異なる文化背景にある人々と交流し、相互活性化する能力

1. 地域、職域、その他のグループや行政組織と交流し共に活動できる。
2. 地域の健康面における文化、環境及び社会的公正性の現状を評価し、改善策を探究できる。
3. 地域等での人々の活動を参加者の主体性の観点から評価し、主導できる。

Ⅳ. コミュニケーション

個人・集団・地域・政策に情報を提供し公衆衛生活動の方向性を示す目的で、人々に対してどのようにコミュニケーション戦略を立てれば良いのかを提案・評価し活用する能力

1. ヘルスリテラシーが異なる様々な集団に働きかけるため、理論と戦略に基づいたコミュニケーションのゴール、目的、優先度を設定できる。
2. 個人どうし、ならびに集団と社会を対象にしたヘルスコミュニケーションとソーシャルマーケティングについて説明し、活用することができる。
3. 専門家や政策策定者などに対して、コミュニケーションプログラムの提案を行い、その評価方法について説明できる。
4. 内外の協力者を含めた必要な人的ネットワークを構築できる。

Ⅴ. 運営管理

現状の法令や社会制度と調整しつつ、構成員の積極的参加をはかり、目標達成に向けて保健医療組織を運営できる能力

1. 戦略的に決められたプロセスに沿って保健計画及びその実施のための財政・事業計画を策定できる。
2. 保健計画の策定・実施のための方策・手順と法令上の制約との調整を行える。
3. 責任、権限、コミュニケーション及びガバナンス（統率）が明確化かつ体系化された組織を構築するとともに適正な人事管理を行える。
4. 組織の活動目標の達成度を適正に評価できる。

Ⅵ. リーダーシップ

公衆衛生活動を強化するために共有できる展望(価値)を創造して伝え、他者からの信頼感を高めてやる気を出させ、根拠に基づく戦略を用いる能力

1. 共有できる展望を創造できる。
2. 新たな保健活動の取り組みを実施するための効果的なチームを構築して率いることができる。
3. 内外の状況調査に基づいて組織の意思決定と企画立案を指導できる。
4. 個人、組織、地域社会ごとの能力向上戦略を開発できる。

VII. アドボカシー

公衆衛生を増進する政策やその実践のための意思決定に影響を与える能力

1. 健康問題に関して法律や政策の役割を説明して利用できる。
2. 科学的根拠・利害関係者からの視点・世論データに基づき健康政策やプログラムの意思決定に影響を与えることができる。
3. 合意形成・交渉・対立回避などの決議技術を利用できる。
4. 健康政策や法律を変更するために根拠に基づく戦略を立案できる。

VIII. 国際通用性

国際水準の活動、国際的な場でのコミュニケーションができ、国際機関・NGO 等で専門家としての役割を果たす能力

1. 公衆衛生にかかわる最新の国際的専門知識や現場の実務的情報を把握し、活用できる。
2. 公衆衛生活動の内容・成果を海外向けに口頭や文書で情報発信できる。
3. 関連国の保健医療政策・制度の知識を有し、国際機関・NGO 等において公衆衛生の専門家としての役割を果たすことができる。

5. 学位論文について

博士後期課程ではその最終成果として、「学位論文」の提出を求める。5つのコア領域の知識と技能を体系的に活かして、現在の公衆衛生上の実践課題の分析に取り組み、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価する。そのうえで、主体的にフィールドでの実際の活動、介入やその事後評価といった社会を動かす上級管理職たる素養を示す成果物（学位論文）とする。

こうした上級管理職・上級指導者としての公衆衛生活動を指導的立場から実践する能力をより具体化し、8つのコンピテンシーとして明示化し、教育課程においてその各項の習得を目指す。

問題解決型アプローチは、帝京大学公衆衛生学研究科で目指す問題解決能力を備えた実務を担う高度専門職養成に必要な素養である。課題研究、特殊研究の報告形式に限らず、授業などを通じてこのアプローチで問題を考える力を育むことを目指している。問題解決型アプローチは公衆衛生上の問題を発見し、その問題の具体的な原因と結果を考えることから始まる。そして原因と結果の定式化をもとに定量的に問題を解析して問題の程度を把握する。同時に、既存の文献等の情報から当該公衆衛生課題に対する既存の知見を分析する。その中で、自らが取り組む公衆衛生の問題がいかんにして検証されているか否かを把握しておく。さらに問題を取りまく社会的要因や利害関係者（ステークホルダー）を列挙して、問題解決に際して配慮すべき関係者の整理を行う。このような分析を中心としたプロセスの後、問題解決の実践のために解決策の計画を立案する。複数立案された施策についてはその優先順位をつけて実行する。その後、行った施策の評価を行い、次のプロセスにつなげる。こうした一連の実践的プロセスが問題解決型アプローチで、5つのステップ（1）課題形成、（2）問題の分析、（3）解決策立案、（4）解決策実施、（5）評価 に整理している。

6. 履修の申込みと変更の届け出、学位申請等について

(1) 履修の申込み

大学院生は毎年、年度始めに、研究指導教員のアドバイスを受けて、その年度内に履修を希望する科目を選び、所定の用紙（履修届）で受講を申し込むことが必要である。

(2) 履修科目の変更

履修科目を変更する場合（年度始めに受講申請した科目の受講を取り止める場合、および、新たな科目の履修を希望する場合）には、研究指導教員と相談して、所定の用紙（履修変更届）で届け出を行う必要がある。なお、年次途中に新たな科目の履修を希望する場合には、その科目の履修が可能かどうか、科目責任者に事前に問い合わせる（すでに定員を満たしている場合や、希望者がおらず講義が予定されていない場合等がありえる）。

(3) 学位申請

大学院生は第3学年の11月中旬頃までに、学位申請書類の提出が必要である。

ただし、優れた研究業績を上げた者については、1年間の在学で学位授与を申請することができる。

なお、具体的な学位申請の手続き内容やスケジュール、学位授与までの流れ等の詳細に関しては、第3学年の5月中旬に対象者に対して別途ガイダンスが行われる。

(4) 休学について

在学中に一身上の都合で、休学を希望する場合、研究指導教員に相談の上、所定の用紙にて届け出を行う。

※ 上記(1)～(4)の届け出・申請の提出先は事務部教務課（大学院担当）となる。

(5) 科目の聴講について

実習を除くすべての科目で単位履修を目的とせず聴講として講義を受けることができる。但し、科目責任者の許可を事前に求めること。

7. 授業科目の履修について

(1) 履修の概略

①公衆衛生学に関する 専門職学位課程 または修士課程出身者	原則として、1年目に必修1科目と分野別の選択必修科目を履修し、1年目後期からは学位論文作成のための研究活動に集中する。
②上記①以外の 医療系出身者（※1）	原則として、1年目に共通科目の選択必修科目6科目（医学基礎・臨床医学特論を除く）と必修1科目、分野別の選択必修科目を履修し、2年目以降は学位論文作成のための研究活動に集中する。
③非医療系出身者（※2）	原則として、1年目に共通科目の選択必修科目7科目と必修1科目、分野別の選択必修科目を履修し、2年目以降は学位論文作成のための研究活動に集中する。

（※1）医療系出身者とは、医療系国家資格（医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士、等）の各免許を取得するための所定の課程を修了し、かつ修士（および専門職学位）課程を修了した者（6年制課程修了者はここでいう修士課程修了者に含まれる）。

（※2）非医療系出身者とは、上記①②以外の修士（および専門職学位）課程修了者。

(2) 修了要件（＝学位授与の要件）

- i) 共通科目として必修1科目（1単位）を取得する。なお、公衆衛生学に関する専門職学位課程または修士課程出身以外の者は、選択必修7科目11単位（ただし、医療系国家資格を有する者は、「医学基礎・臨床医学特論」2単位を除く）を取得すること。
- ii) 「疫学・生物統計学」、「産業環境保健学」、「保健政策・医療管理学」の3分野から1分野を選択し、専門科目として各分野の選択必修3科目（14単位）を取得する。また、履修科目の登録の上限は、年間20単位までである。
- iii) 選択科目4単位以上を取得すること。

上記の合計19単位以上を取得すれば卒業要件を満たすことになり、公衆衛生の実践において求められる職業意識と倫理、批判的分析、地域・文化交流、コミュニケーション、運営管理、リーダーシップ、アドボカシー、国際通用性のDrPHコアコンピテンシーを有しているとみなされ、その上で学位論文審査と学位申請者に対する最終試験に合格すれば学位授与の要件が満たされる。

◆共通科目

リーダーシップ・マネジメント特論	1 単位	必修
基礎疫学特論	2 単位	選択必修 (※1) (※2)
基礎生物統計学特論	2 単位	選択必修 (※1) (※2)
健康行動科学特論	2 単位	選択必修 (※1) (※2)
保健政策・医療管理学特論	1 単位	選択必修 (※1) (※2)
産業環境保健学特論	1 単位	選択必修 (※1) (※2)
公衆衛生倫理学特論	1 単位	選択必修 (※1) (※2)
医学基礎・臨床医学特論	2 単位	選択必修 (※2)

- (※1) 公衆衛生学に関する専門職学位課程または修士課程出身以外の者で、医療系出身者は、共通科目の選択必修科目 6 科目(医学基礎・臨床医学特論を除く)の取得も求められる。
- (※2) 教育的配慮の観点から非医療系出身者は、共通科目の選択必修科目 7 科目の取得も求められる。

なお、在学期間は 6 年を超えることはできない。(大学院学則第 9 条)

◆専門科目 (疫学・生物統計学分野)

臨床疫学特論	1 単位	選択必修 (分野指定)
応用生物統計学特論	1 単位	選択必修 (分野指定)
疫学・生物統計学特殊研究	1 2 単位	選択必修 (分野指定) (※3)

◆専門科目 (産業保健・環境保健学分野)

産業保健学特論	1 単位	選択必修 (分野指定)
産業環境工学特論	1 単位	選択必修 (分野指定)
産業環境保健学特殊研究	1 2 単位	選択必修 (分野指定) (※3)

◆専門科目 (保健政策・医療管理学分野)

保健政策学特論	1 単位	選択必修 (分野指定)
医療経済・経営学特論	1 単位	選択必修 (分野指定)
保健政策・医療管理学特殊研究	1 2 単位	選択必修 (分野指定) (※3)

- (※3) 各分野の特殊研究は各年次で毎年履修登録を行い、修了年度に 1 2 単位が認定される。(4 単位相当/年)

8. 成績評価に対する質問・異議申出

1. 成績評価に対して質問がある場合は当該科目の担当教員（科目責任者）に質問をする。
2. 成績評価に対して異議がある場合は内容および理由をできる限り詳細に記入し（様式任意）事務部教務課大学院担当まで提出する。
3. 成績評価に対しての質問・異議申出は成績発表後の2週間以内まで受付ける。期間外またはやむを得ない事由で成績通知書を受領しなかった場合も、期間の延長は認めない。

9. 主な年間スケジュール

内容	対象学年	日程
入学式	1 年生	4 月 4 日（火）午前
健康診断	全学年	4 月 3 日（月）－ 5 日（水）、7 日（金）
オリエンテーション （学生証の発行、科目履修の手続き、アウトカム 基盤型教育とコアコンピテンシーの概要、等）	1 年生	4 月 5 日（水）
前期授業の期間 （a 学期、b 学期）	全学年	4 月 6 日（木）－ 8 月 4 日（金）
学位論文 研究計画報告会 研究経過報告会 中間報告会	全学年	4 月上旬から順次開始
履修届けの提出期限	全学年	4 月 2 0 日（木）（※ 1）
学位論文に関するガイダンス	1 年生	5 月 1 1 日（木）
学位申請に関するガイダンス （申請手続き）	3 年生	5 月 1 1 日（木）
学位論文審査 申請受付開始	3 年生 （※ 2）	5 月中旬
創立記念日（休校日）	全学年	6 月 2 9 日（木）
夏季休業期間	全学年	8 月 7 日（月）－ 9 月 1 5 日（金）
後期授業の期間 （c 学期、d 学期）	全学年	9 月 1 9 日（火）－ 2 月 9 日（金）
学位論文審査 申請受付終了	3 年生 （※ 2）	1 1 月中旬
学位論文 最終報告会	3 年生 （※ 2）	1 2 月中旬
学位授与式 （帝京大学グループ卒業式）	学位授与者	3 月中旬

（※ 1） 履修変更届けは、各学期内で実施される授業科目ごとに以下のようになる。

- ◇ 前期前半（a 学期）： 履修届け提出により確定 / 締切日： 4 月 2 0 日（木）
- ◇ 前期後半（b 学期）： 締切日： 6 月 2 3 日（金）
- ◇ 後期前半（c 学期）： 締切日： 9 月 2 9 日（金）

◇ 後期後半（d 学期）： 締切日： 1 1 月 2 4 日（金）

注）w 学期の 1 月に実施される冬季集中講義（海外客員教授による特論）に関しては、履修届け提出前に研究指導教員と十分に相談した上で決定する。変更可能時期は講義開始の 1 ケ月前までである。

（※ 2）早期修了を希望する者（1 年生もしくは 2 年生）は、研究指導教員にその旨を相談するとともに、学位論文審査の受付時期等について事務部教務課（大学院担当）へ詳細を問合わせる。

10. 事故等について

実習においては指導教員または実習先の担当者の指導のもと、十分留意の上で行う。

（1）万が一、事故等が生じた場合

- ・通学中や、実習先への移動中に転倒してケガをした場合等
- ・炎天下での実習中に熱中症となり入院した場合等

①次のいずれかまで連絡する。

- ・帝京大学 公衆衛生学研究科 受付 TEL 03-3964-2108
- ・帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課大学院担当 TEL 03-3964-3294（直通）

②事故の報告書の提出（様式任意）が必要である。

（2）入学時に加入している保険について

- ・「学研災」・・・学生教育研究災害傷害保険
- ・「学研賠」・・・学研災付帯賠償責任保険
- ・「こども保険」・・・こども総合保険（感染予防等）

（3）海外への実習の場合

治療費等は立替払いである。保険請求の際は必ず領収書・診断書等を提出する。英文の場合は日本語訳が必要となる。あくまでの実習中の事故等が対象である。

通常の海外旅行保険への申し込みを勧める。

取扱代理店：株式会社 帝京サービス 保険部

帝京大学 大学棟 3 号館 2 階 Tel 03-5943-1988

11. その他留意事項

(1) 交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合、または台風、大雪等でキャンパスの在る地域に、暴風警報（大雨、洪水警報のみは除く）、大雪警報が発令された場合は、以下の通り休講とする。授業、実習が開始されてから発令された場合は、大学、実習先の指示に従う。

1. 埼京線、山手線、京浜東北線のすべてが不通となった場合

暴風警報または大雪警報が、**東京 23 区**に発令された場合

運転再開の時刻、警報の解除時刻	授業、実習の取扱い
午前 6 時 00 分まで	平常どおり
午前 6 時 00 分から午前 10 時 00 分まで	3 時限目より授業を行う
午前 10 時 00 分以降	1 日休講

2. 上記以外の交通機関の不通、警報が発令されている地域があっても、休講とはしない。登校不可能な状態の場合は必ず大学あるいは実習先に連絡し、指示を受ける。

(2) 学費納入について

1. 所定の学費は、前期・後期の二期に分け、前期は 5 月末日まで、後期は 10 月末日まで、それぞれ定められた期限内に納入する。詳細は、大学から送付される振込用紙と案内を参照する。
2. 期限内に納入することが困難な場合は、納入期限までに所定の学納金延納願を事務部教務課大学院担当に提出し、許可を得る。
3. 留年した場合、及び復学した場合の学納金については、新たに定められた金額を納入する。
4. 在学中に授業料、その他納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納入する。
5. 休学中及び停学中であっても学費は全額納入しなければならない。
6. 既納の学費は如何なる理由があっても返還しない。

12. 授業科目の概要

①共通科目

公衆衛生の5つのコア領域を統合し、実践と教育・研究を行う実施組織のリーダーとして適切かつ迅速に対応することのできる管理職・指導者としての能力等を修得するため、研究者・科学者としての思考、リーダーシップ、コミュニケーション能力等に優れていることが重要である。

そこで、選択する専門分野にかかわらず、共通科目として、「リーダーシップ・マネジメント特論」の必修科目を設ける。

また、公衆衛生学専門職学位（MPH）保有者以外の入学生に対しての配慮から、すなわち専門職学位課程との接続性の観点から「基礎疫学特論」、「基礎生物統計学特論」、「健康行動科学特論」、「保健政策・医療管理学特論」、「産業環境保健学特論」、「公衆衛生倫理学特論」の選択必修科目を設けている。さらに、医療系修士課程修了者以外の入学者に対しての配慮から「医学基礎・臨床医学特論」の選択必修科目を設けている。

②専門科目（疫学・生物統計学分野）

生物統計学分野の幅広い専門性から、生物統計学のテクニカルサイエンスのもとに公衆衛生学分野の知識・技能を有し、研究者・科学者としての思考、リーダーシップに優れていること、交渉能力といったコミュニケーション能力が高いことが重要であり、そのため講義および演習ではインターラクティブな教員・学生との連携に重点を置く。

必要な場合には個別教員による適切な指導も行い、この際、研究能力の育成および優れた指導力を備えた大学教員の育成という視点にも配慮した教育を行う。

また、研究論文の指導にあたっては、そのために必要となる知識・技能の習得を広く深く行えるよう、学生のそれまでの過程、能力に応じて、コアコンピテンシーや研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について、補完的な指導を適切に実施するよう配慮して指導する。

そこで本博士後期課程では、研究指導目的の「疫学・生物統計学特殊研究」に加えて、「臨床疫学特論」、「応用生物統計学特論」といった3科目を、本分野を選択した学生への選択必修科目（分野指定科目）としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「リスク科学特論」、「統計モデル特論」、「データ解析特別演習」、「臨床試験デザイン特論」、「カテゴリーカルデータ解析特論」、「社会調査データ解析特論」、「社会調査データ解析特別演習」の7科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）」と「特別講義（生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ）」と「特別講義（社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ）」の3科目（選択科目）も設けている。

③専門科目（産業環境保健学分野）

博士後期課程の教育内容として、環境産業保健学分野の実践性からケーススタディを重視し、実例とその対処を考える中で公衆衛生学分野の知識・技能を有し、研究者・科学者としての思考、リーダーシップに優れていること、交渉にあたっての高いコミュニケーション能力があることが重要であり、講義および演習ではインターラクティブな教員・学生との連携に重点を置く。

必要な場合には個別教員による適切な指導も行い、この際、研究能力の育成および優れた指導力を備えた大学教員の育成という視点にも配慮した教育を行う。

また、学位論文の指導にあたっては、そのために必要となる知識・技能の習得を広く深く行えるよう、学生のそれまでの過程、能力に応じて、コアコンピテンシーや研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について、補完的な指導を適切に実施するよう配慮して指導する。

産業保健・環境保健が取り扱うべき健康影響要因は様々である。ヒトへの有害な健康影響が分かっている要因に対してはリスクを評価する判定指標が示されているが、そもそもヒトへの影響がはっきりしない要因も多い。そのような未解明の要因も多い産業保健・環境保健分野では、現在までに培われてきた産業保健学・環境保健学の知識の習得だけではなく、習得した知識を組み替えて新たな課題に対応する能力（研究能力）が必要である。そのような能力の習得には、これまでの論文・書籍の理解とともに、産業現場（工場でありオフィス）・自然環境というフィールドでの新たな課題に対する研究を通じた能力向上が必要である。

そこで本博士後期課程では、研究指導目的の「産業環境保健学特殊研究」に加えて、「産業保健学特論」、「産業環境工学特論」といった3科目を、本分野を選択した学生への選択必修科目（分野指定科目）としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「産業中毒学特論」、「環境保健学特論Ⅰ」、「環境保健学特論Ⅱ」の3科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「特別講義（産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ）」の1科目（選択科目）も設けている。

④専門科目（保健政策・医療管理学分野）

我が国では人口構造や経済環境が変化する中で、増加する一途の医療費の問題、社会保障制度など保健医療制度の見直しは喫緊の課題である。さらに、新興再興感染症や災害への取組などの危機管理の点からも保健医療政策が果たすべき役割は大きい。国際的にみても、現在は人口の高齢化や疫学転換と呼ばれる疾病構造の変化が起こっており、高齢社会や非感染性疾患の対策を国際機関も主導している。社会問題の中でも特に人々の生活や生命に直結する保健医療政策での取り組みは、人々への説明責任が問われる。その際に事実

をデータで実証し、論理的に政策を検証して社会の変革に資する学術界の貢献に対する期待は高い。

医療管理学では、医療経済学、医療経営学の知識と共に、医療の質を向上させながらも経営の効率化、臨床データの有効活用、医療安全の確保等が求められている。これを実現するためには各種医療と経営情報を分析する能力と多業種に説明する力が求められる。そのため、保健医療政策と医療管理学の基本理論や基礎知識を活かし、実際に日本国内や世界での医療システムと保健医療制度、もしくは病院管理上の問題を探し出して研究を行うことを念頭に置いている。その際、病院や住民の行動といった個人レベルのデータ分析とともに、地域や国単位でのデータ分析方法も指導する。さらに政策分析手法や経営学などの量的データ分析以外の研究手法の教育にも配慮する。研究は論文として公表し、実際の保健医療政策や医療管理に影響を与えうる水準の科学的根拠を目指すよう指導する。

そこで、本博士後期課程では、研究指導目的の「保健政策・医療管理学特殊研究」に加えて、「保健政策学特論」、「医療経済・経営学特論」といった3科目を、本分野を選択した学生への選択必修科目（分野指定科目）としている。また、その他の専門特化した科目は選択科目として設定し研究テーマに沿った学習の機会を与える。具体的には、「医療経済分析特論」、「地域保健学特論」、「国際保健政策学特論」、「Seminar on Healthcare Management」、「Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society」の5科目を設定している。

また、国際的な視野での教育機会を与えるため海外提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）に在籍する世界的権威である客員教授による「特別講義（保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ）」（選択科目）の1科目も設けている。

⑤特殊研究

特殊研究は専門科目として設けられており、その目的は「現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、またそれを達成するための能力（コンピテンシー）、ならびに学位論文の作成能力を身に付ける」ことにある。すなわち、本科目では学位の申請に先立って申請者がそのための能力水準を満たしているかの評価を実施することを主眼としている。具体的には、科目責任者（＝研究指導教員）によりコンピテンシー基盤型教育と問題解決型アプローチの考え方に沿って在学期間中（1年次～3年次）継続的な指導が行われると共に、本研究科内に設置される内部審査会による計画審査と中間審査により学位申請前の評価が行われる。

そこで、本博士後期課程では、「疫学・生物統計学特殊研究」「産業環境保健学特殊研究」「保健政策・医療管理学特殊研究」の3つの科目を設けており、学生はいずれか1つの分野の特殊研究を選択（分野指定科目）する必要がある。

13. カリキュラムマップ(学位授与方針と開講科目との対応関係)

(公衆衛生学研究科 博士後期課程)

ディプロマポリシー (DP) 公衆衛生学研究科博士後期課程は、公衆衛生学研究科の目的に則り、変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力の獲得を必須のものとす。加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者の養成を目指している。従って、本公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻の博士後期課程においては、そのような上級管理職・上級指導者という観点から以下のような能力を身につけ、原則3年以上在学し、学位論文の審査に合格し所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。												
DP1 公衆衛生の実際の場における問題解決のために公衆衛生の5つのコア領域(疫学、生物統計学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学、行動社会疫学)の総合的な能力を持ち、分野横断的な組織や活動を率いる能力がある。												
DP2 変動発展する社会と科学技術に対応した新たな問題に対して科学的な分析を行い、その解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価することのできる能力がある。												
DP3 公衆衛生の実践において指導的立場の専門家に求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等のコンピテンシー(別記)を有している。												
DP4 人々の命を守り健康を増進させるために、そして健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決を行い、その活動を統括指導する能力を有している。												
DP5 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。												
DP6 グローバルな視点をもって指導的立場から公衆衛生活動を実践する能力を有している。												
DP7 上記1から6を通じて、社会や組織、保健医療課題の変化に貢献しうる総合的な能力と資質を培っている。												

科目 区分	授業科目の名称	単位数			配当 年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
		必修	選必	選択								
共通 科目	リーダーシップ・マネジメント特論	1			1	○	△	◎	◎	○	○	○
	基礎疫学特論		2		1	◎	◎	△	△	△	△	△
	基礎生物統計学特論		2		1	◎	◎	○	○	△	△	△
	健康行動科学特論		2		1	◎	○	○	○	△	△	△
	保健政策・医療管理学特論		1		1	◎	○	◎	◎	○	○	△
	産業環境保健学特論		1		1	◎	○	○	○	○	○	△
	公衆衛生倫理学特論		1		1	○	△	◎	○	○	○	△
	医学基礎・臨床医学特論		2		1	○	○	○	○	○	○	○
専門 科目	臨床疫学特論		1		1	○	◎	△	△	△	△	△
	リスク科学特論			1	1	○	◎	○	◎	◎	○	△
	応用生物統計学特論		1		1	◎	◎	○	○	○	○	△
	統計モデル特論			1	1	○	◎	○	○	△	△	△
	データ解析特別演習			1	1	○	◎	○	○	△	△	△
	臨床試験デザイン特論			1	1	○	◎	○	○	△	△	△
	カテゴリカルデータ解析特論			1	1・2	○	◎	○	○	△	△	△
	社会調査データ解析特論			1	1・2	○	◎	○	○	△	△	△
	社会調査データ解析特別演習			1	1・2	○	◎	○	○	△	△	△
	特別講義(疫学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	◎	○	○	△	◎	△
	特別講義(生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	◎	○	○	△	◎	△
	特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	○	○	○	◎	◎	△
	疫学・生物統計学特殊研究		12		1～3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	産業保健学特論		1		1	◎	○	○	○	○	○	△
	産業環境工学特論		1		1	◎	○	○	△	○	○	△
	産業中毒学特論			1	1	△	◎	△	△	△	△	△
	環境保健学特論Ⅰ			1	1	○	○	○	○	○	○	△
	環境保健学特論Ⅱ			1	1	○	○	○	○	○	○	△
	特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	○	○	○	△	◎	△
	産業環境保健学特殊研究		12		1～3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	保健政策学特論		1		1	◎	○	◎	◎	○	○	△
	医療経済・経営学特論		1		1	◎	○	◎	○	○	○	△
	医療経済分析特論			1	1	○	◎	○	○	○	○	△
	地域保健学特論			1	1	○	○	◎	◎	○	○	△
	国際保健政策学特論			1	1	○	○	◎	◎	◎	◎	△
	Seminar on Healthcare Management			1	1・2	○	○	◎	◎	◎	◎	△
	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society			1	1・2	○	○	◎	◎	◎	◎	△
	特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ)			1	1	◎	○	○	○	△	◎	△
	保健政策・医療管理学特殊研究		12		1～3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

注) ◎関連大、○関連中、△関連小

DrPH

DP 1
コア領域の統合

DP 2
科学的根拠

DP 3
リーダーシップ/マネジメント/
コミュニケーション能力

DP 4・5
社会全体の活動の
統括指導

DP 6
グローバルな視点

特 殊 研 究

疫学・生物統計学分野		
カテゴリカルデータ解析特論		
社会調査データ解析特別演習		
社会調査データ解析特論		
特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）		
特別講義（生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ）		
特別講義（社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ）		
データ解析特別演習	臨床試験デザイン特論	
リスク科学特論	統計モデル特論	
臨床疫学特論	応用生物統計学特論	

選択
科目

産業環境保健学分野		
特別講義（産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ）		
環境保健学特論Ⅱ		
環境保健学特論Ⅰ		
産業中毒学特論		
産業保健学特論	産業環境工学特論	

保健政策・医療管理学分野		
Seminar on Healthcare Management		
Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society		
特別講義（保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ）		
国際保健政策学特論		
地域保健学特論		
医療経済分析特論		
保健政策学特論	医療経済・経営学特論	

選択
必修
科目

リーダーシップ・マネジメント特論	基礎疫学特論	基礎生物統計学特論	健康行動科学特論	保健政策・医療管理学特論	産業環境保健学特論	公衆衛生倫理学特論	医学基礎・臨床医学特論
------------------	--------	-----------	----------	--------------	-----------	-----------	-------------

共通
科目

1.4. 成績評価およびGPA制度について

授業科目の成績評価については、試験・レポート等（筆記試験・口述試験・実技試験・レポート・発表内容）を中心として評価するが、科目によっては講義への参加（出席・討論への参加）等の学習状況等を加味して評価する。学外の実習に参加した場合については、実習先の外部評価も成績評価に反映させる。

成績評価制度として、GPA（Grade Point Average）制度を導入している。この制度の導入の趣旨は、1.キャンパスとして統一した基準を作成すること、2.公平性に優れた基準であること、3.国際的に通用する基準であることとし、学生諸君の学修の成果を、GPA という客観的な数値で評価するものである。

また、この制度は、欧米の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しており、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職等に際し、学力を証明する指標として、海外でも通用する成績評価制度となっています。

（1）成績等の表示および成績評価基準

区分	評価	GPA	成績評価基準	評価内容	（英文内容）
合格	S	4.0	100～90 点	特に優れた成績を表す	（Excellent）
	A	3.0	89～80 点	優れた成績を表す	（Good）
	B	2.0	79～70 点	妥当と認められる成績を表す	（Satisfactory）
	C	1.0	69～60 点	合格と認められる最低限の成績を表す	（Pass）
不合格	D	0.0	59 点以下	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表す	（Failure）
対象外	N	—	—	他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表す （既修得単位認定）	（Credits Transferred）

（2）GPA の算出方法

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{修了要件単位数における総履修登録単位数（D の単位数を含む）}}$$

15. 学位授与について（学位運用規程の要約）

本博士後期課程の教育目的に沿って、現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、また、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有すると認められた者に学位を授与する。

学位を申請できる者は、第3学年に在学し所要の単位を修得（見込みを含む）している者とする。ただし、優れた研究業績をあげた者については、在学年限に関わらず学位を申請することができる。また、満期退学した後に学位申請する場合は、満期退学後3年以内であれば随時学位を申請することができる。

学位審査は、審査委員会により学位論文の審査と最終試験により実施される。

本博士後期課程において学位論文とは、公衆衛生課題の対策に向けた計画（以下、「プロジェクト」という）の策定ならびにこれについての調査・研究、さらに可能な場合は部分的な対策実施を行い、これら全ての活動の結果をまとめた成果報告書をいう。審査のため必要があるときは、学位論文の一部としてプロジェクトの成果に関連する参考論文、さらに学位論文とは別に参考資料の提出も求められる。

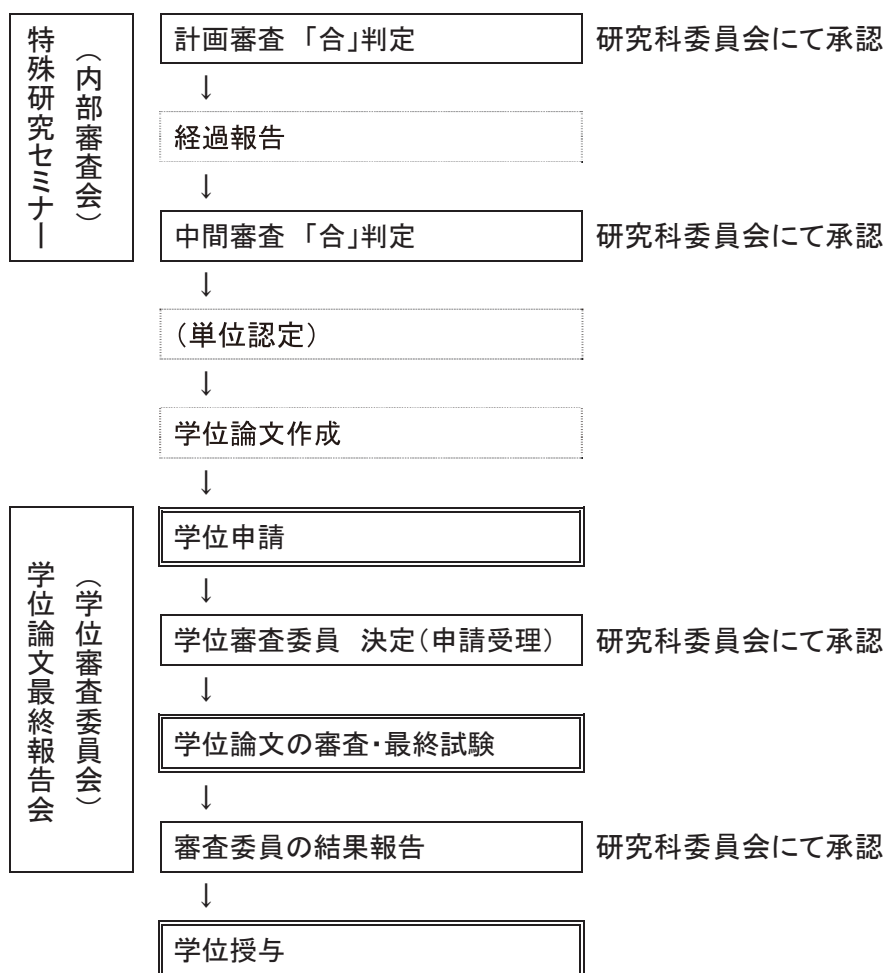
学位論文の審査は、学位申請者がその専攻分野において、プロジェクトと具体的な成果をまとめた成果報告書が、学位申請者自らの計画と調査・研究、対策実施に基づいたものであることを確認するとともに、本学が博士（公衆衛生学）の学位を授与するにふさわしい、成果の達成状況や、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有することを確認するものである。最終試験は、学位論文を中心とし、審査委員全員により原則として口答（必要に応じて筆答）にて行い、その判定結果は可または否のいずれかとなる。

なお、特殊研究の単位は、内部審査会による計画審査および中間審査に合格することで認められる。これらの審査は、特殊研究セミナーとして公開で行われる。加えて、プロジェクトの進捗状況と学習到達度を確認するため、経過報告を特殊研究セミナーとして実施する。原則として、少なくとも年に1回、計画審査での報告、中間審査での報告または経過報告を行うものとする。

詳細については、巻末の学位運用規程を参照のこと。

なお、学位申請の手続きや提出書類、論文作成のための指導方法とその過程、評価内容、および公表方法等については、学期中の適切な時期に院生向けに別途ガイダンスを実施する。

学位申請の流れ



16. 成績優秀者に対する留学推薦

成績優秀者に対しては本人が留学を希望する場合、一定の選考基準に基づきハーバード大学公衆衛生大学院等に推薦し、そこでの勉学・研究・学位取得を援助するシステムを準備している。以下の要件をおおよその基準として、研究指導教員等との協議を経て研究科長による推薦を行う。

(ア) 語学力 (TOEFL 587 点以上)

TOEFLに関しては紙ベース 587 点、現在はコンピュータベースが主流なのでその換算だと 240 点となる。

(イ) GREスコア

- ・ Verbal と Quantitative の合計で最低 1200
- ・ Analytical Writing で 4 以上

(ウ) 公衆衛生学専攻 (博士後期課程) での成績

博士後期課程

- 17. 教員一覧
- 18. 授業科目一覧
- 19. 授業時間割

17. 教員一覧

◆専任教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
山岡 和枝	教授 (研究科長)	共通科目	基礎疫学特論
			基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			臨床試験デザイン特論
			カテゴリカルデータ解析特論
			社会調査データ解析特論
			社会調査データ解析特別演習
			疫学・生物統計学特殊研究
矢野 榮二	教授	共通科目	基礎疫学特論
			産業環境保健学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			リスク科学特論
		産業環境保健学分野	産業中毒学特論
			産業環境保健学特殊研究
保健政策・医療管理学分野	保健政策・医療管理学特殊研究		
	谷原 真一	共通科目	保健政策・医療管理学特論
産業環境保健学特論			
医学基礎・臨床医学特論			
臨床疫学特論			
疫学・生物統計学分野		リスク科学特論	
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
産業環境保健学特殊研究			
中尾 睦宏		教授	共通科目
	健康行動科学特論		
	公衆衛生倫理学特論		
	医学基礎・臨床医学特論		
	疫学・生物統計学分野		疫学・生物統計学特殊研究
中田 善規	教授	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
			保健政策・医療管理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
			医療経済分析特論
			Seminar on Healthcare Management
			保健政策・医療管理学特殊研究
原 邦夫	教授	共通科目	産業環境保健学特論
		疫学・生物統計学分野	リスク科学特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業環境工学特論
			環境保健学特論Ⅰ
			環境保健学特論Ⅱ
			産業環境保健学特殊研究
福田 吉治	教授	共通科目	基礎疫学特論
			健康行動科学特論
			保健政策・医療管理学特論
			産業環境保健学特論
			公衆衛生倫理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			リスク科学特論
			疫学・生物統計学特殊研究
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業環境保健学特殊研究
保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論		
	保健政策・医療管理学特殊研究		
松浦 正明	教授	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			臨床試験デザイン特論
			疫学・生物統計学特殊研究
山本 秀樹	教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
		医学基礎・臨床医学特論	

氏名	役職	科目区分	授業科目
井上まり子	准教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
			公衆衛生倫理学特論
		保健政策・医療管理学分野	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
			保健政策・医療管理学特殊研究
崎坂香屋子	准教授	保健政策・医療管理学分野	保健政策・医療管理学特殊研究
高橋 謙造	准教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
			医学基礎・臨床医学特論
		保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
			国際保健政策学特論
根本明日香	講師	共通科目	保健政策・医療管理学特殊研究
			基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
			統計モデル特論
			データ解析特別演習
			臨床試験デザイン特論
桑原 恵介	講師	共通科目	疫学・生物統計学特殊研究
			基礎疫学特論
		疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
			疫学・生物統計学特殊研究

◆他学部（兼任）

氏名	役職	科目区分	授業科目
内田 俊也	教授	共通科目	医学基礎・臨床医学特論
野村 恭子	准教授	共通科目	基礎疫学特論
宮川 宗之	教授	産業環境保健学分野	産業中毒学特論
			環境保健学特論Ⅱ

◆非常勤教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
Murry Mittleman	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Garrett Fitzmaurice	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Ichiro Kawachi	客員教授	疫学・生物統計学分野	特別講義（社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Rose Goldman	客員教授	産業環境保健学分野	特別講義（産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ）
Alastair Gray	客員教授	保健政策・医療管理学分野	特別講義（保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ）
丹後 俊郎	客員教授	共通科目	基礎生物統計学特論
		疫学・生物統計学分野	応用生物統計学特論
小木 和孝	客員教授	産業環境保健学分野	産業保健学特論
吉川 徹	客員准教授	産業環境保健学分野	産業保健学特論
井口 直樹	客員教授	共通科目	保健政策・医療管理学特論
大嶽 浩司	客員教授	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
石川ひろの	非常勤講師	共通科目	リーダーシップ・マネジメント特論
			健康行動科学特論
中原 浩彦	非常勤講師	共通科目	産業環境保健学特論
		産業環境保健学分野	産業保健学特論
			産業環境工学特論
			産業中毒学特論
			環境保健学特論Ⅰ
東川 麻子	非常勤講師	共通科目	産業環境保健学特論
橋本 英樹	非常勤講師	共通科目	保健政策・医療管理学特論
瀧本 禎之	非常勤講師	共通科目	公衆衛生倫理学特論
中澤 栄輔	非常勤講師	共通科目	公衆衛生倫理学特論
大脇 和宏	非常勤講師	疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論
橋本 晴男	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業環境工学特論
熊谷 信二	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業中毒学特論
村田 勝敬	非常勤講師	産業環境保健学分野	産業中毒学特論
神山 宣彦	非常勤講師	産業環境保健学分野	環境保健学特論Ⅱ
小林 康毅	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
中澤 達	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	医療経済・経営学特論
石崎 達郎	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
山本 真	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	地域保健学特論
野村真利香	非常勤講師	保健政策・医療管理学分野	国際保健政策学特論

18. 授業科目一覧 (博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	単位数			授業 形態	授業時間割				科目責任者	備考
		必修	選 必	選 択		配当 年次	学期	曜日	時限		
共通 科目	リーダーシップ・マネジメント特論	1			講義	1	c	水	2	中尾 睦宏 教授	
	基礎疫学特論		2		講義 演習	1	a,b	木	3,4	矢野 榮二 教授	
	基礎生物統計学特論		2		講義 演習	1	a,b	水	1,2	山岡 和枝 教授	
	健康行動科学特論		2		講義	1	a,b	水	3	中尾 睦宏 教授	
	保健政策・医療管理学特論		1		講義	1	a	火	3	中田 善規 教授	
	産業環境保健学特論		1		講義	1	a	火	1	原 邦夫 教授	
	公衆衛生倫理学特論		1		講義	1	a	水	4	中尾 睦宏 教授	
	医学基礎・臨床医学特論		2		講義	1	a,b	月	1,2	山本 秀樹 教授	
専門 科目	疫学・生物統計学分野	臨床疫学特論		1	講義 演習	1	c,d	木	3,4	矢野 榮二 教授	
		リスク科学特論		1	講義	1	d	月	1	矢野 榮二 教授	
		応用生物統計学特論		1	講義	1	c,d	火	1	山岡 和枝 教授	
		統計モデル特論		1	講義 演習	1	a	火	4	松浦 正明 教授	
		データ解析特別演習		1	演習	1	c,d	火	2	松浦 正明 教授	
		臨床試験デザイン特論		1	講義	1	b	火	3	山岡 和枝 教授	
		カテゴリカルデータ解析特論		1	講義	1・2	d	月	4	山岡 和枝 教授	
		社会調査データ解析特論		1	講義	1・2	a	火	5	山岡 和枝 教授	
		社会調査データ解析特別演習		1	演習	1・2	a	火	6	山岡 和枝 教授	
		特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）		1	講義	1	w	個別設定		Murry Mittleman 客員教授	集中講義
		特別講義（生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ）		1	講義	1	w	個別設定		Garrett Fitzmaurice 客員教授	集中講義
		特別講義（社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ）		1	講義	1	w	個別設定		Ichiro Kawachi 客員教授	集中講義
		疫学・生物統計学特殊研究		12	演習	1～3	通年	個別設定		山岡 和枝 教授	
	産業環境保健学分野	産業保健学特論		1	講義 演習	1	c	月	1,2	原 邦夫 教授	
		産業環境工学特論		1	講義	1	c	水	4	原 邦夫 教授	
		産業中毒学特論		1	講義	1	d	水	3,4	矢野 榮二 教授	
		環境保健学特論Ⅰ		1	講義 演習	1	c	水	1	原 邦夫 教授	
		環境保健学特論Ⅱ		1	講義	1	d	水	1	原 邦夫 教授	
		特別講義（産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ）		1	講義	1	w	個別設定		Rose Goldman 客員教授	集中講義
		産業環境保健学特殊研究		12	演習	1～3	通年	個別設定		矢野 榮二 教授	
	保健政策・医療管理学分野	保健政策学特論		1	講義	1	c	火	3,4	福田 吉治 教授	
		医療経済・経営学特論		1	講義 演習	1	b,c	月	3,4	中田 善規 教授	
		医療経済分析特論		1	講義	1	d	水	2	中田 善規 教授	
		地域保健学特論		1	講義 演習	1	b	火	1,2	高橋 謙造 准教授	
		国際保健政策学特論		1	講義 演習	1	b	火	5,6	高橋 謙造 准教授	
		Seminar on Healthcare Management		1	講義	1・2	s	8月		中田 義規 教授	集中講義
		Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society		1	講義 演習	1・2	s	8月		井上まり子 准教授	集中講義
		特別講義（保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ）		1	講義	1	w	個別設定		Alastair Gray 客員教授	集中講義
		保健政策・医療管理学特殊研究		12	演習	1～3	通年	個別設定		中田 善規 教授	

19. 授業時間割

平成29年度 公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 博士後期課程

			前期		後期	
曜日	時限		前半8週(a学期)	後半8週(b学期)	前半8週(c学期)	後半8週(d学期)
			4/6(木)～6/8(木)	6/12(月)～8/4(金)	9/19(火)～11/9(木)	11/13(月)～2/9(金)
月	1	9:00 10:30	医学基礎・臨床医学特論		産業保健学特論	リスク科学特論
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	医療経済・経営学特論	医療経済・経営学特論		
	4	14:50 16:20			カテゴリカルデータ解析特論	
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
火	1	9:00 10:30	産業環境保健学特論	地域保健学特論	応用生物統計学特論	
	2	10:45 12:15			データ解析特別演習	
	3	13:05 14:35	保健政策・医療管理学特論	臨床試験デザイン特論	保健政策学特論	
	4	14:50 16:20	統計モデル特論			
	5	16:35 18:05	社会調査データ解析特論	国際保健政策学特論		
	6	18:20 19:35	社会調査データ解析特別演習			
水	1	9:00 10:30	基礎生物統計学特論		環境保健学特論Ⅰ	環境保健学特論Ⅱ
	2	10:45 12:15			リーダーシップ・マネジメント特論	医療経済分析特論
	3	13:05 14:35	健康行動科学特論			産業中毒学特論
	4	14:50 16:20	公衆衛生倫理学特論		産業環境工学特論	
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
木	1	9:00 10:30				
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	基礎疫学特論		臨床疫学特論	
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
金	1	9:00 10:30	特殊研究		特殊研究	
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35				
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				

冬季(w学期)

1月集中講義	特別講義(疫学の展開Ⅰ～Ⅲ)	特別講義(生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ)
	特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ)	特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ)
	特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ)	

夏季(s学期)

8, 9月集中講義	Seminar on Healthcare Management	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society
-----------	----------------------------------	--

大学院公衆衛生学研究科 博士後期課程 時間割表

平成29年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	
4月				入学式 ガイダンス								基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物					
													基礎生物					医学基礎		基礎生物				医学基礎		基礎生物					
													健康行動	基礎疫学				政策管理	健康行動	基礎疫学				政策管理	健康行動	基礎疫学					
												統計モデル	公衛倫理	基礎疫学				統計モデル	公衛倫理	基礎疫学				統計モデル	公衛倫理	基礎疫学					
																			調査特論						調査特論						
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
5月	医学基礎	産環特論						医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎	産環特論	基礎生物
	医学基礎							医学基礎		基礎生物					医学基礎		基礎生物					医学基礎		基礎生物					医学基礎		基礎生物
		政策管理							政策管理	健康行動	基礎疫学					政策管理	健康行動	基礎疫学					政策管理	健康行動	基礎疫学				政策管理	健康行動	
		統計モデル							統計モデル	公衛倫理	基礎疫学					統計モデル	公衛倫理	基礎疫学					統計モデル	公衛倫理	基礎疫学				統計モデル	公衛倫理	
		調査特論								調査特論							調査特論						調査特論							調査特論	
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	
6月					医学基礎	産環特論	基礎生物					医学基礎		基礎生物				医学基礎		基礎生物						医学基礎	地域保健	基礎生物			
					医学基礎		基礎生物					医学基礎		基礎生物				医学基礎		基礎生物						医学基礎	地域保健	基礎生物			
	基礎疫学					政策管理	健康行動	基礎疫学				経済経営	臨床デザイン	健康行動	基礎疫学			経済経営	臨床デザイン	健康行動	基礎疫学				経済経営	臨床デザイン	健康行動		基礎疫学		
	基礎疫学						公衛倫理	基礎疫学				経済経営			基礎疫学			経済経営			基礎疫学				経済経営				基礎疫学		
						調査特論													国際政策								国際政策				
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
7月			医学基礎	地域保健	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物						地域保健	基礎生物					医学基礎		基礎生物					医学基礎
			医学基礎	地域保健	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物						地域保健	基礎生物					医学基礎		基礎生物					医学基礎
			経済経営	臨床デザイン	健康行動	基礎疫学				経済経営	臨床デザイン	健康行動	基礎疫学					臨床デザイン	健康行動	基礎疫学				経済経営	臨床デザイン	健康行動	基礎疫学				経済経営
			経済経営			基礎疫学				経済経営			基礎疫学						基礎疫学					経済経営			基礎疫学				経済経営
											国際政策							国際政策													経済経営
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
8月												Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.							Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.							
												Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.							Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.						
	臨床デザイン																					Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.						
	国際政策																					Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.						
	国際政策																														
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
9月																		応用生物	環境保健Ⅰ		産業保健				産業保健	応用生物	環境保健Ⅰ				
																		データ解析	リーダーマネ		産業保健				産業保健	データ解析	リーダーマネ				
																				臨床疫学					経済経営	保健政策		臨床疫学			
																			産環工学	臨床疫学					経済経営	保健政策	産環工学	臨床疫学			
																									経済経営						

大学院公衆衛生学研究科 博士後期課程 時間割表

平成29年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火			
10月			産業保健	応用生物	環境保健Ⅰ					応用生物	環境保健Ⅰ		産業保健			産業保健	応用生物	環境保健Ⅰ					産業保健	応用生物	環境保健Ⅰ					産業保健	応用生物			
			産業保健	データ解析	リーダーマネ					データ解析	リーダーマネ		産業保健			産業保健	データ解析	リーダーマネ					産業保健	データ解析	リーダーマネ					産業保健	データ解析			
			経済経営			臨床疫学				保健政策		臨床疫学			経済経営			臨床疫学					保健政策		臨床疫学					経済経営	保健政策			
			経済経営		産環工学	臨床疫学				保健政策	産環工学	臨床疫学			経済経営		産環工学	臨床疫学					保健政策	産環工学	臨床疫学					経済経営	保健政策			
			経済経営												経済経営																経済経営			
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木				
11月	環境保健Ⅰ					産業保健	応用生物	環境保健Ⅰ					リスク科学	応用生物	環境保健Ⅱ					リスク科学	応用生物	環境保健Ⅱ					リスク科学	応用生物	環境保健Ⅱ					
	リーダーマネ						データ解析	リーダーマネ						データ解析	経済分析						データ解析	経済分析						データ解析	経済分析					
		臨床疫学				経済経営			臨床疫学				カテゴリカル	産業中毒	臨床疫学							産業中毒	臨床疫学						産業中毒	臨床疫学				
	産環工学	臨床疫学				経済経営		産環工学	臨床疫学			カテゴリカル	産業中毒	臨床疫学					カテゴリカル	産業中毒	臨床疫学					カテゴリカル	産業中毒	臨床疫学						
						経済経営																												
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日			
12月				リスク科学	応用生物	環境保健Ⅱ					リスク科学	応用生物	環境保健Ⅱ					リスク科学	応用生物	環境保健Ⅱ					リスク科学	応用生物	環境保健Ⅱ							
				データ解析	経済分析						データ解析	経済分析						データ解析	経済分析						データ解析	経済分析								
					産業中毒	臨床疫学						産業中毒	臨床疫学					産業中毒	臨床疫学						産業中毒	臨床疫学								
				カテゴリカル	産業中毒	臨床疫学					カテゴリカル	産業中毒	臨床疫学					カテゴリカル	産業中毒	臨床疫学					カテゴリカル	産業中毒	臨床疫学							
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水			
1月																																		
Harvard Special Session 2018（第7回ハーバード特別講義）																																		
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28						
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水						
2月					リスク科学		環境保健Ⅱ					リーダーマネ	リーダーシップ・マネジメント特論					公衛倫理	公衆衛生倫理学特論						データ解析	データ解析特別演習								
							経済分析					基礎疫学	基礎疫学特論					医学基礎	医学基礎・臨床医学特論						臨床データ解析	臨床試験デザイン特論								
							産業中毒					基礎生物	基礎生物統計学特論					臨床疫学	臨床疫学特論						カテゴリカル	カテゴリカルデータ解析特論								
												健康行動	健康行動科学特論					リスク科学	リスク科学特論						調査特論	社会調査データ解析特論								
												政策管理	保健政策・医療管理学特論					応用生物	応用生物統計学特論						調査演習	社会調査データ解析特別演習								
												産環特論	産業環境保健学特論					統計モデル	統計モデル特論						産業保健	産業保健学特論								
日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
曜日	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土			
3月												産環工学	産業環境工学特論						経済分析	医療経済分析特論														
												産業中毒	産業中毒学特論						地域保健	地域保健学特論														
												環境保健Ⅰ	環境保健学特論Ⅰ						国際政策	国際保健政策学特論														
												環境保健Ⅱ	環境保健学特論Ⅱ						Heal. Mana.	Seminar on Healthcare Management														
												保健政策	保健政策学特論						Uni. Heal.	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society														
												経済経営	医療経済・経営学特論																					

D
P
H

博士後期課程

20. 授業計画（シラバス）

No	科目名	ページ
01	リーダーシップ・マネジメント特論	… 184
02	基礎疫学特論	… 186
03	基礎生物統計学特論	… 188
04	健康行動科学特論	… 190
05	保健政策・医療管理学特論	… 192
06	産業環境保健学特論	… 194
07	公衆衛生倫理学特論	… 196
08	医学基礎・臨床医学特論	… 198
09	臨床疫学特論	… 200
10	リスク科学特論	… 202
11	応用生物統計学特論	… 204
12	統計モデル特論	… 206
13	データ解析特別演習	… 208
14	臨床試験デザイン特論	… 210
15	カテゴリカルデータ解析特論	… 212
16	社会調査データ解析特論	… 214
17	社会調査データ解析特別演習	… 216
18	特別講義（疫学の展開Ⅰ～Ⅲ）	… 218
19	特別講義（生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ）	… 220
20	特別講義（社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ）	… 222
21	疫学・生物統計学特殊研究	… 224
22	産業保健学特論	… 226
23	産業環境工学特論	… 228
24	産業中毒学特論	… 230

No	科目名	ページ
25	環境保健学特論Ⅰ	… 232
26	環境保健学特論Ⅱ	… 234
27	特別講義（産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ）	… 236
28	産業環境保健学特殊研究	… 238
29	保健政策学特論	… 240
30	医療経済・経営学特論	… 242
31	医療経済分析特論	… 244
32	地域保健学特論	… 246
33	国際保健政策学特論	… 248
34	Seminar on Healthcare Management	… 250
35	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society	… 252
36	特別講義（保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ）	… 254
37	保健政策・医療管理学特殊研究	… 256

科目名	リーダーシップ・マネジメント特論	code number : HPM 214	必修	1 単位
-----	------------------	--------------------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医療は大きな社会システムの一部である。その医療も人間から成り立つ組織であることには変わりはない。そうした医療に関する組織でリーダーシップを発揮し組織に貢献するには人間組織の理解が不可欠である。本講義では、組織一般の理解を深めるために一般の経営学を基礎にした学習を行う。また、いわゆる正解のない分野であるため、異なる視点からの討論を中心に講義を進める。これらの内容を通じて、公衆衛生分野で将来のリーダーとなるべき人材として必須の知識・技能を修得することを基本目標とする。また、最近ではインターネットの普及やマスメディアの情報発信機能の向上により、ヘルスコミュニケーションのあり方は大きく変化している。そこで、医療専門家から国民に広く発信する情報提供(診療実績、診療ガイドライン、疫学調査報告、臨床試験登録など)、医療専門家でなくマスメディアから国民に広く発信する情報提供(ニュース、健康番組など)、医療専門家の間での情報交流(専門誌、学会、研究会、インターネットなど)、患者を含む国民の間での情報交流など様々なレベルでのヘルスコミュニケーションについてその意義や課題について討論する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 人間組織管理一般について理解する。
2. その一般理論を保健医療の分野に応用できる・個人や社会として最適な健康上のアウトカムを得るために必要な医学・医療に関する知識や情報を正確かつ効果的に伝達し、受け手に理解してもらうヘルスコミュニケーションの理論体系を理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 具体的な状況をシミュレーションしながら、ヘルスコミュニケーションが実践できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (15%)
- (4)レポート (15%)

4. 教科書・テキスト

- ・各授業で予習すべき文献を指定する。

5. 参考書

- ・Drucker PF. Management: tasks, responsibilities, practices. Harper, 1973
- ・岩崎夏海:もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら ダイアモンド社, 2009年
- ・P.F.ドラッカー著、上田惇生編訳「エッセンシャルズ版マネジメント―基本と原則」ダイアモンド社, 2013年
- ・石川 ひろの、武田 裕子(翻訳). 患者と医師のコミュニケーション. 篠原出版新社, 2007年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

リーダーシップ・マネジメント特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	2	中田 善規 教授	組織マネジメント論と事業マネジメントの基本
2	9/27(水)	2	中田 善規 教授	リーダーシップの種類と自己分析
3	10/4(水)	2	中尾 睦宏 教授	医療や職域における保健指導と健康教育の実際 ヘルスコミュニケーション理論に基づいた質問紙や面接法による評価方法について学び、代表的な評価方法の幾つかをマニュアルにそって実施する。
4	10/11(水)	2	中尾 睦宏 教授	健康づくり政策における保健指導・健康教育の実際 特定健診・保健指導、データヘルス計画等、現在の健康づくり施策における保健指導や健康教育の考え方と実際について学び、リーダーシップマネジメントを行う。
5	10/18(水)	2	石川ひろの 講師(非)	患者・医療者間のコミュニケーション 患者・医療者関係に関する理論と概念を学び、患者とのコミュニケーションのあり方について考える。
6	10/25(水)	2	石川ひろの 講師(非)	ヘルスコミュニケーションの評価と実証研究 医療コミュニケーションの評価方法と実証研究を紹介し、臨床や教育への応用について考える。
7	11/1(水)	2	石川ひろの 講師(非)	グループ・組織内コミュニケーション グループ・組織におけるコミュニケーションの理論を紹介し、保健医療スタッフ間のコミュニケーションについて考える。
8	11/8(水)	2	石川ひろの 講師(非)	メディアを通じたコミュニケーション 健康医療情報の普及におけるマスメディアの役割及び影響を考えるとともに、エンターテインメント・エデュケーション、シリアスゲームなど、新しいヘルスコミュニケーションの手法について紹介する。

科目名	基礎疫学特論	code number : EPI 201	選択必修	2 単位
-----	--------	--------------------------	------	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	木曜 3,4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

疫学の定義、因果関係の立証法、疫学研究の倫理指針(同意・個人情報保護を含む)にはじまり、記述疫学研究と仮説検証研究(観察研究と介入研究)の違いといった研究の分類を説明できる。
観察研究では横断研究、縦断研究(コホート研究、症例対照研究)における疫学指標、各種バイアス、研究デザイン上の特徴について説明できる。
介入研究では無作為化比較試験を含む患者臨床試験についてその構造や疫学指標について、システマティックレビュー、メタアナリシスについてもその構造や問題となる各種バイアスについて説明できる。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 保健医療問題を解決するための基礎的な論理である疫学を学び、論理的な問題解決の道筋を理解する。
2. 疫学研究の主要なタイプを学ぶとともに、誤った判断のメカニズムをタイプ分けして理解する。
3. 疫学研究論文を批判的に精読する技法を学び、疫学研究立案の体系を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 自分が解決しようとする保健医療問題について、問題の本質を定式化して述べることができる。
2. 問題とその解決のための対策を具体的に測定評価できる。
3. 研究論文等における推論の誤りを見抜き、その防護策を提示できる。
4. 問題解決につながる疫学研究を計画立案し、実施できる。

3. 成績評価の方法および基準

筆記試験(100%) 期末テスト(90分筆記)の得点率6割以上をもって合格とする。
ただし、期末テストの粗点は講義の欠席回数に応じて2割まで減点し、講義への積極的な参加度に応じて1割まで加点する。

4. 教科書・テキスト

・ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版 篠原出版新社

5. 参考書

- ・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル
- ・「ロスマンの疫学」第2版Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・講義ごとに3時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

基礎疫学特論

回数	日付	時限	担当者		授業内容
1	4/13(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	医学と疫学：今日の医学の主流である生物医学的考え方と対比しつつ疫学的考え方の位置づけを学ぶ。
2	4/20(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	仮説と因果関係：科学的思考の基礎として仮説の一般構造を考え、それを証明する因果関係の考え方を学ぶ。
3	4/27(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	疫学研究の分類：仮説を証明する論理的方法として疫学研究のタイプ分けを学ぶ。
4	5/11(木)	3-4	山岡 和枝	教授	疫学と統計学：疫学で用いられる主要な統計手法を学ぶ。
5	5/18(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	チャンスとバイアス：誤った判断を引き起こす原因を分類し、そのうちのバイアスのタイプ分けを学ぶ。
6	5/25(木)	3-4	福田 吉治	教授	健康指標：疫学で用いられる健康指標の定義、算出方法、活用手法について学ぶ。
7	6/1(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 講師	記述疫学と横断研究：記述疫学と横断研究の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
8	6/8(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 講師	症例対照研究：症例対照研究(case-control study)の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
9	6/15(木)	3-4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 講師	コホート研究：コホート研究(cohort study)の手法、利点と欠点、実例を学ぶ。
10	6/22(木)	3	山岡 和枝 桑原 恵介	教授 講師	介入試験、無作為比較対象試験：介入試験(intervention study)および無作為比較対象試験(RCT)の方法と実例を学ぶ。
		4	福田 吉治 桑原 恵介	教授 講師	
11	6/30(金)	3-4	山岡 和枝 桑原 恵介	教授 講師	メタアナリシス：メタアナリシス(metaanalysis)・システマティックレビュー(系統的レビュー)の手法と実例を学ぶ。
12	7/6(木)	3-4	野村 恭子 桑原 恵介	准教授 講師	スクリーニング：スクリーニングの考え方、信頼性、応用について学ぶ。
13	7/13(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	Study Critique：疫学研究・論文の批判的吟味の考え方と方法を学ぶ。
14	7/20(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	疫学研究計画立案：具体的な研究計画の立案手法を学び、実際の計画の立案を行う。
15	7/27(木)	3-4	矢野 榮二 桑原 恵介	教授 講師	疫学と公衆衛生：まとめのために問題演習を行い、学習の確認をする。

科目名	基礎生物統計学特論	code number : BIO 201	選択必修	2 単位
-----	-----------	--------------------------	------	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	水曜 1,2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

講義前半は実際の健診データなどの実例を挙げながら、医学研究で得られる様々なデータについて、データの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフ表示の方法を学ぶ。推定(信頼区間)と仮説検定の概念を無作為割付の意味も含めて理解する。臨床研究で頻出である、反応変数が連続変数、2値変数および生存時間であるそれぞれの場合について、2群比較の方法とその際の共変量の調整方法を学ぶ。講義後半ではサンプルサイズの設定、相関や回帰、多群比較および多重性の調整について学ぶ。より応用的な解析手法については、幅広く入門的な知識を学習する。さらに講義では演習として主要な統計手法について、統計解析ソフトウェアを用いて実際にデータの解析を行う。課題に対するレポートを作成し、発表する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 医学研究論文を批判的に読むために必要な、統計解析手法に関する基本的な知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 医学研究で得られる様々なデータについて、データの種類や分布の特徴を理解し、適切なデータの要約やグラフ表示することができる。
2. 臨床試験をはじめ、医学研究における統計学と疫学方法論の基礎について説明できる。
3. 基礎的な統計学的仮説検定について理解し、統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータに適用し、データ解析を行うことができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 講義・演習の課題・レポート(70点)
 - (2) 参加態度 (30点)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

- ・丹後俊郎: 医学への統計学 第3版、朝倉書店、2013
- ・適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・丹後俊郎: 統計学のセンス、医学統計学シリーズNo.1、朝倉書店、1998
- ・医学研究における実用統計学. DJ Altman 著 木船義久・佐久間昭訳(サイエンティスト社)
- ・はじめて学ぶ医療統計学. TDV Swinscow, MJ Campbell 著 折笠秀樹監訳(総合医学社)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。
- ・2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行い、前回までの内容について不明な点は質問し理解すること。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

基礎生物統計学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/12(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	医学研究における調査研究デザイン、無作為割付と統計学
2	4/19(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データの種類、データの要約
3	4/26(水)	1-2	山岡 和枝 教授	データのグラフ表示
4	5/10(水)	1-2	山岡 和枝 教授	統計的推定と仮説検定(信頼区間とP値)
5	5/17(水)	1-2	山岡 和枝 教授	連続変数の2群比較
6	5/24(水)	1-2	山岡 和枝 教授	相関分析、回帰分析、分散分析
7	5/31(水)	1-2	山岡 和枝 教授	2値変数(割合)の2群比較
8	6/7(水)	1-2	山岡 和枝 教授	疫学研究における2値変数の解析
9	6/14(水)	1-2	松浦 正明 教授	生存時間の2群比較
10	6/21(水)	1-2	根本明日香 講師	サンプルサイズ設定
11	6/28(水)	1-2	根本明日香 講師	多群比較・多重性の調整
12	7/5(水)	1-2	丹後 俊郎 教授(客)	反応が連続変数の場合の共変量調整(共分散分析・重回帰分析)
13	7/12(水)	1-2	松浦 正明 教授	反応が2値変数の場合の共変量調整(ロジスティック回帰分析)
14	7/19(水)	1-2	根本明日香 講師	反応が生存時間の場合の共変量調整(コックス比例ハザード分析)
15	7/26(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	その他の統計解析手法(経時データ解析など)
補講	8/2(水)	1-2	山岡 和枝 教授 松浦 正明 教授 根本明日香 講師	講義を受けてわからなかった点、もう少し詳しく知りたい点についての質問を受け付ける。また、課題研究であるなしにかかわらず自分の研究についての統計相談を受け付ける。

科目名	健康行動科学特論	code number : HBS 201	選択必修	2 単位
-----	----------	--------------------------	------	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	水曜 3時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

行動科学理論に基づいた生活習慣の変容、健康増進活動などを導くための基本知識を学習する。古典的条件付け、オペラント条件付け、自己効力感、ローカス・オブ・コントロールといった行動科学の概念が健康評価にどのように役立つか討論する。医学・医療分野においては、認知行動療法がうつ病、社交(社会)不安障害、摂食障害、腰痛、高血圧など各精神・身体疾患において有効であることを示すエビデンスが蓄積されている。そうした最新の行動医学理論・手法を紹介し、心理社会的ストレスが心身に及ぼす影響について理解できるようにする。さらに社会行動学的な見地に立って、様々な公衆衛生学問題に対して解決策を提示し、具体的に問題解決ができる人材の養成を目指す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 行動の成り立ち、動機付け、ストレス、生涯発達に関する基礎知識が身につく。
2. 健康を維持、促進するための基礎理論、方法論、社会的ストレスと健康についての基礎知識が身につく。
3. 社会要因や文化的要因が健康におよぼす影響についての基礎知識が身につく。
4. コミュニケーションが、健康維持、促進、医療で果たす役割を知り、促進のための方法を身につける。
5. ストレスに対する対応(ストレス・コーピング、ストレスマネジメント)に関する理論と実際の知識を身につける。

【行動目標(SBO)】

1. 上記の知識や理論的理解を用いて、困難な状況にある模擬症例に対する治療的対応についての方略を作成でき、健康維持、促進のための指導方略を作成できるようになる。
2. 人々が、健康な生活を送れるような行動をとることができるよう動機付けを行い、指導できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 講義の課題(50%)
- (2) 課題レポート(50%)

4. 教科書・テキスト

・日本行動医学会編集(野村忍、島津明人、堤明純、中尾睦宏、吉内一浩). 行動医学テキスト, 中外医学社, 2015年

5. 参考書

- ・筒井 末春(著), 大谷 純(著), 久住 眞理(監修). 行動科学概論(心身健康科学シリーズ). 人間総合科学大学, 2008年
- ・松本千明(著). 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎:生活習慣病を中心に. 医歯薬出版株式会社, 2002年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・下記のテキストにそって講義を進めていく。行動医学について予備知識のない者は(例:各回のKey wordsの意味が不明)、自分に合った健康行動科学関連の書籍(下記の参考書など)を事前に1通り読んでおくことが望ましい。
- ・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
- ・当該期間に15時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

健康行動科学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/12(水)	3	中尾 睦宏 教授	行動の成り立ち Key words: 刷り込み, 古典的(レスポナント)条件づけ, オペラント(道具的)条件づけ, 認知学習, 社会的学習(観察学習、模倣学習), 脳内神経伝達物質
2	4/19(水)	3	中尾 睦宏 教授	行動の動機づけ Key words: 動機づけ(内発的、外発的), 欲求, フラストレーション, 葛藤, 適応機制, 防衛機制
3	4/26(水)	3	中尾 睦宏 教授	ストレス(心理) Key words: ストレッサー, ストレス反応, 心理学的ストレスモデル, 認知的評価, コーピング, ライフイベント, リラクゼーション法
4	5/10(水)	3	中尾 睦宏 教授	ストレス(環境)と健康 Key words: 職場のストレス, その他のストレス(子供のストレス、育児ストレスなど), ストレス対策, ソーシャルサポート
5	5/17(水)	3	中尾 睦宏 教授	生涯発達 Key words: こころの発達, ライフサイクル, 遺伝-環境相互作用, ライフタスク(人生課題)
6	5/24(水)	3	中尾 睦宏 教授	個人差 Key words: パーソナリティ, 類型論, 特性論, ビッグファイブ, 知能, 役割論, ジェンダー
7	5/31(水)	3	中尾 睦宏 教授	対人関係 Key words: 対人認知, 欲求と葛藤, 集団心理, 社会適応, 対人コミュニケーション, 文化
8	6/7(水)	3	中尾 睦宏 教授	行動変容の理論 Key words: 動機づけ, 行動療法, 認知行動療法, 刺激統制, セルフ・エフィカシー, 多理論統合モデル, エンパワーメント
9	6/14(水)	3	中尾 睦宏 教授	行動変容の技法 Key words: 生活習慣指導, 保健指導(禁煙指導/服薬指導), ティーチングとコーチング
10	6/21(水)	3	中尾 睦宏 教授	医療コミュニケーション Key words: 保健医療情報の普及(ガイドライン、健診受診率), 患者-医師コミュニケーション, 医療者間コミュニケーション
11	6/28(水)	3	中尾 睦宏 教授	Active learning演習「公衆衛生現場における行動科学アプローチ」
12	7/5(水)	3	石川 ひろの 講師(非)	ヘルスコミュニケーション特論 Key words: ヘルスコミュニケーション、ヘルスリテラシー、説得的コミュニケーション、リスク認知、リスクコミュニケーション
13	7/12(水)	3	中尾 睦宏 教授	社会と健康 Key words: 格差と健康, ソーシャルキャピタル, 社会参加, 社会疫学, 健康の社会的決定要因, 文化能力(Cultural competence)
14	7/19(水)	3	福田 吉治 教授	社会疫学特論 Key words: 社会階層・SES、健康格差、ソーシャルキャピタル、行動経済学
15	7/26(水)	3	中尾 睦宏 教授	まとめ

科目名	保健政策・医療管理学特論	code number : HPM 201	選択必修	1 単位
-----	--------------	--------------------------	------	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 3時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

保健行政・医療管理学分野は公衆衛生学の中でも多岐にわたり、すべての分野を十分に把握するのは困難である。各分野の専門家でも自分の専門外を十分に理解できないことも多い。そこで本講義ではオムニバス形式で保健行政・医療管理学分野内の各専門家がそれぞれのサブスペシャリティの入門部分を解りやすく解説し、初学者にとっても保健行政・医療管理学分野全般を概観できるようになる手助けをすることを目的とする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.保健行政・医療管理分野を概観する。

【行動目標(SBO)】

- 1.保健行政・医療管理学分野の各サブスペシャリティを理解できる。
- 2.保健行政・医療管理学分野を今後の学習に役立てることができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (30%)

4. 教科書・テキスト

・各授業で予習すべき文献を指定する。

5. 参考書

・各授業ごとに指定する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定文献を授業出席者全員が事前に読むことを求める。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

保健政策・医療管理学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	3	中田 善規 教授	導入および医療経営学
2	4/25(火)	3	山本 秀樹 教授	保健医療政策学(資源の配分に関する基本的な考え方)
3	5/2(火)	3	福田 吉治 教授	ヘルスプロモーション・ポリシー
4	5/9(火)	3	橋本 英樹 講師(非)	貧困と健康
5	5/16(火)	3	井上 まり子 准教授	国際保健学
6	5/23(火)	3	高橋 謙造 准教授	地域保健学
7	5/30(火)	3	谷原 真一 教授	医療経済学
8	6/6(火)	3	井口 直樹 教授(客)	医療保障政策学

科目名	産業環境保健学特論	code number : OEH 211	選択必修	1 単位
-----	-----------	--------------------------	------	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

産業保健の対象は5千万労働者であり、公衆衛生の個別領域としては最も大きな集団を対象とすることになる。50人以上の事業所全てに義務づけられた産業医制度をはじめ各種の職域健診制度により、産業保健学は、それを専門としない者も含め多くの医師や公衆衛生専門職にとって学ぶ必要のある領域となった。そこで必ずしも産業保健を専門としない公衆衛生の実務家のために、基本的な産業保健の制度、法、組織等の概要を学ぶ必要がある。また、環境保健学とは、様々な環境中の有害要因による健康影響を制御して健康を保つことを目的としている。環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解する必要がある。

後期の選択科目である産業保健学および環境保健学の基礎的部分について、各担当教官が包括的に解説する。より専門的・実践的には、夏期および後期開講の選択科目の「産業保健学」、「環境保健学」および「産業環境保健学実習」で学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 産業環境保健分野の第一線級の経験を聞くことを通じ、産業保健・環境保健を専門としない公衆衛生専門職が様々な形で関わることの多い産業保健・環境保健について、包括的認識を持って解説できる。

【行動目標(SBO)】

1. 職場および環境中の有害要因と健康障害の関係を理解し、予防対策が検討できる。
2. 産業保健の5管理:作業環境管理、作業管理、健康管理、教育管理、総括管理を理解し、各管理の考え方を活用できる。
3. リスクアセスメントの手順を理解し、基準等のあるリスク因子の管理方法について検討できる。
4. 環境中のいくつかの有害リスク要因を測定することを通じ、定量的な管理方法について検討できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

4. 教科書・テキスト

・毎回授業開始時に資料として配布する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2016.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』の第Ⅲ章・最近の労働衛生対策の展開の部分に事前に目を通しておく。
- ・前回までに学んだ5管理からなる産業保健の内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業環境保健学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	1	矢野 榮二 教授	職場・環境中の有害要因による健康障害 健康概念、健康障害と予防対策
2	4/25(火)	1	谷原 真一 教授	総括管理1(企業規模別の管理体制) 産業医による産業保健1
3	5/2(火)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生法令と3管理、作業環境管理(作業環境測定・評価)
4	5/9(火)	1	原 邦夫 教授	環境保健学(公害対策、環境リスク学)
5	5/16(火)	1	福田 吉治 教授	健康管理 健康診断、健康保持増進、快適職場
6	5/23(火)	1	中原 浩彦 講師(非)	作業管理と人間工学
7	5/30(火)	1	東川 麻子 講師(非)	総括管理2(中小企業の産業保健活動の立ち上げ方) 産業医による産業保健2
8	6/6(火)	1	原 邦夫 教授 中原 浩彦 講師(非)	環境測定(簡易測定器による測定と評価)

科目名	公衆衛生倫理学特論	code number : ID 201	選択必修	1 単位
-----	-----------	-------------------------	------	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎について学ぶ。ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。真実の告知、インフォームド・コンセント、パターナリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対して、事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 保健医療の現場において意思決定を行う際に必要な医療倫理の基本的な知識・考え方を身に付ける。

【行動目標 (SBO)】

1. 倫理的観点から対応が困難と想定される事例において、自分の考えを述べることができる。

3. 成績評価の方法および基準

・上記到達目標を確認するレポートやディスカッションを課す。
講義の課題(50%)、レポート(30%)、ディスカッションの内容(20%)

4. 教科書・テキスト

・特定のテキストは設けない。必要に応じて資料を配布する。

5. 参考書

・赤林 朗・児玉 聡 編
『入門・医療倫理III 公衆衛生倫理』 勁草書房 2015年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

・各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。
・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

公衆衛生倫理学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/12(水)	4	中尾 睦宏 教授	医療・公衆衛生倫理学総論 医療倫理に関する歴史的背景を中心に、概略について学ぶ。
2	4/19(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	医療従事者・患者関係 医療従事者が患者関係を築く上で必要となる基本的事項について学ぶ。
3	4/26(水)	4	井上まり子 准教授	公衆衛生倫理(1) 公衆衛生倫理学の沿革、主要な倫理的課題の事例の紹介、公衆衛生倫理学のアプローチ方法について学ぶ。
4	5/10(水)	4	井上まり子 准教授	公衆衛生倫理(2) パターンリズム、個人の自由と集団の利益など、具体的な事例をもとに政治哲学の理論を紹介する。理解を深めるためケーススタディを用いて討論する。
5	5/17(水)	4	中澤 栄輔 講師(非)	インフォームド・コンセント 患者の権利、インフォームドコンセントについて、その歴史的背景、法的根拠などについて学ぶ。
6	5/24(水)	4	中澤 栄輔 講師(非)	ケース・アプローチ 臨床現場で遭遇する具体的な倫理的問題を分析する手法を学ぶ。
7	5/31(水)	4	中尾 睦宏 教授	利益相反とオーサーシップ 公衆衛生学専門家として利益相反や客観的な視点とは何かを討論する。またPublicationの真実性や透明性、公平性といった倫理的要素についても学ぶ。
8	6/7(水)	4	福田 吉治 教授	公衆衛生専門職の研究倫理の実践 医学的研究を行うに当たって必要な倫理的知識、具体的な倫理申請の手続きなどについて学ぶ。

科目名	医学基礎・臨床医学特論	code number : ID 101	選択必修	2 単位
-----	-------------	-------------------------	------	------

科目責任者	山本 秀樹 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	月曜 1,2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義を行う。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。そうした基礎医学の学習の中で「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるか、個人と集団それぞれの見地からアプローチする。臨床医学は、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患を理解するための基本的事項を中心として、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて学ぶ。理解を助けるためにビデオ学習を積極的に取り入れる。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 公衆衛生の実務者となるうえで必要とされる必要最小限の医学・生物学的知識を包括的に理解すること。
2. 公衆衛生の実践の場で必要となる基本的な疾患の病因・病態を理解する。

【行動目標 (SBO)】

1. 獲得した医学・生物学的知識を基に保健医療専門家と共に公衆衛生活動ができるようになる。
2. 公衆衛生上の課題を一般市民にわかりやすく説明することが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 最終試験(70%)
 - (2) 課題レポート(20%)
 - (3) 講義での参加度(10%)
- 上記、評価にて合格基準に達しない場合には再試験/レポート再提出を別途指示する。その場合、評価は70点未満とする。

4. 教科書・テキスト

- ・医学概論 (コメディカルのための専門基礎分野テキスト) [単行本] 北村 論 (著)
出版社: 中外医学社; 5版

5. 参考書

- ・適時、担当教員より講義時に紹介する。
- ・図書館に人体解剖/生理、病態入門のビデオ教材を用意しているので利用すること。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・テキストの各項目と事前配布資料(ある場合)を講義前に必ず熟読してくること。
- ・講義ごとに1時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・医療系の国家資格を有しない非医療系の学生のみ履修すること。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医学基礎・臨床医学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/17(月)	1	山本 秀樹 教授	医学の使命と歴史
2	4/17(月)	2	山本 秀樹 教授	人の生と死〔脳死を含む〕および倫理問題
3	4/24(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 人体の発生〔受精卵から誕生〕
4	4/24(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 総論—主要症状とその原因
5	5/1(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 呼吸器系
6	5/1(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 呼吸器疾患・中毒性疾患
7	5/8(月)	1	谷原 真一 教授	人体の構造と機能: 細胞・人体の構成(骨・筋肉)
8	5/8(月)	2	谷原 真一 教授	臨床医学: 骨/筋肉〔外傷と疾患〕
9	5/15(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 血液/造血系
10	5/15(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 血液疾患
11	5/22(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 感染・免疫系・遺伝
12	5/22(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 感染・アレルギー疾患・遺伝性疾患
13	5/29(月)	1	中田 善規 教授	人体の構造と機能: 循環器系
14	5/29(月)	2	中田 善規 教授	臨床医学: 循環器系疾患
15	6/5(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 消化器系
16	6/5(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 消化器系疾患
17	6/12(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 神経系
18	6/12(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 神経筋疾患
19	6/19(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能: 眼疾患・耳鼻科疾患
20	6/19(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学: 感覚器の異常(耳鼻咽喉科、眼科)
21	6/26(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能: 生殖器系
22	6/26(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学: 婦人科疾患・小児疾患
23	7/3(月)	1	福田 吉治 教授	人体の構造と機能: 皮膚および軟部組織
24	7/3(月)	2	福田 吉治 教授	臨床医学: 皮膚疾患
25	7/10(月)	1	中尾 睦宏 教授	人体の構造と機能: 心理/ストレス
26	7/10(月)	2	中尾 睦宏 教授	臨床医学: 精神疾患
27	7/24(月)	1	内田 俊也 教授	人体の構造と機能: 泌尿器系・内分泌系
28	7/24(月)	2	内田 俊也 教授	臨床医学: 代謝内分泌疾患・腎泌尿器疾患
29	7/31(月)	1	山本 秀樹 教授	全体のまとめと補足
30	7/31(月)	2	山本 秀樹 教授	最終試験

科目名	臨床疫学特論	code number : EPI 221	選択必修	1 単位
-----	--------	--------------------------	------	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期	曜日・時限	木曜3,4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

科学的な医療の実践に当たり、その根幹となるEBMを学ぶ上で学問的基盤となるのが臨床疫学である。ここでは臨床上のプロセスから生じるテーマ(異常、診断、頻度、リスク、予後、治療、予防)に基づきアプローチし、臨床疫学について学んでいく。具体的にはデータの取り扱い・異常の判断基準、臨床医学的検査の有効性(感度、特異度、事後確率、ROC曲線)、リスクの評価、研究デザインとバイアス、臨床研究で用いられる統計解析結果の解釈(ロジスティック回帰分析、生存分析)、ランダム化比較試験、論文検索(系統的レビュー、コクランライブラリー)、臨床データ管理、臨床ガイドラインの検索と利用法、などについて知識と技能を身に付けることを基本目標とする。そのため、講義時間の後半は、関連する既存臨床疫学研究論文(英文)を順番に学生が選んできて全員で読み、系統的に批判的吟味を行い、論文の適切な読み方、正しい臨床研究の方法を実践的に身に付けていく。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 臨床医学を中心にした保健医療の現場での実例について判断の論理と誤った判断のメカニズムを理解する。
2. 現場の意思決定において疫学の論理を適用する必要性を学ぶ。
3. 疫学研究論文を批判的に精読する技法を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 臨床医学を中心にした保健医療の現場の実際場面で疫学の論理に従った判断ができる。
2. 臨床医学を中心にした保健医療の現場の実際場面で誤った判断を指摘できる。
3. 疫学研究論文を批判的に精読できる。
4. 臨床研究を計画立案できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 各回の講義への積極的な参加と論文解析レポート提出(グループ提出も可) (80%)
- (2) 論文選択と全体での検討会の司会 (20%)

4. 教科書・テキスト

Clinical Epidemiology: The Essentials 5th edition Robert H. Fletcher, Suzanne W. Fletcher
Lippincott Williams & Wilkins, 2014 - 255 pg.・「臨床疫学」ロバート・H・フレッチャー他著 メディカルサイエンスインターナショナル

5. 参考書

- ・「医学的研究のデザイン」木原雅子他訳 メディカルサイエンスインターナショナル
- ・「ロスマンの疫学」第2版 Kenneth J. Rothman著 篠原出版新社

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・全15回(30コマ)の講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時は事前にどの講義を受講するかを事前に科目責任者とよく相談をすること。
- ・教材の該当箇所を事前に読んでおくこと。
- ・講義ごとに3時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

臨床疫学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/21(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	臨床疫学序論 臨床疫学、根拠に基づいた医療のアウトラインについて学ぶ。 臨床疫学研究に関する基本的な知識を再確認するとともに、全体のコースの流れを確認する。
2	9/28(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	頻 度 頻度について、表し方、取得方法、妥当性に関する解釈などを学ぶ。
3	10/5(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	異 常 データの種類、測定性能・変動、異常の判定基準等について学ぶ。
4	10/12(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:基礎的な概念 リスクの認知、予測、評価及びその応用について学ぶ。
5	10/19(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:曝露から疾患 コホート研究を中心に、集団を前向きに観察することにより、リスクを評価する方法及び交絡について学ぶ。
6	10/26(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	リスク:疾患から曝露 症例対照研究を中心に、時間をさかのぼって観察することにより、リスクを評価する方法やオッズ比について学ぶ。
7	11/2(木)	3-4	福田 吉治 教授 桑原 恵介 講師	予 後 疾患の転帰としての予後の評価方法について学ぶ。
8	11/9(木)	3-4	大脇 和宏 講師(非) 矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	診 断 検査の正確さ、感度、特異度、予測値、尤度、繰り返し検査の評価について学ぶ。
9	11/16(木)	3-4	谷原 真一 教授 桑原 恵介 講師	治 療 仮説の検定、介入研究など治療が有効であるかの判断、特にランダム化比較試験を解釈する上で必要となる知識について学ぶ。
10	11/24(金)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	予 防 予防に関連する原理・戦略方法について学ぶ。
11	11/30(木)	3-4	谷原 真一 教授 桑原 恵介 講師	偶 然 仮説検定、必要標本数、信頼区間、多重比較、サブグループ解析、多変量解析、ベイズ理論について学ぶ。
12	12/7(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	因 果 因果関係の基本原則、因果関係を支持または否定する根拠について学ぶ。
13	12/14(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	エビデンスの集約 システムティック・レビューの方法、メタ分析、エビデンスの内容を吟味する方法について学ぶ。
14	12/21(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	知識管理 臨床の知識管理に対する最新のアプローチ、臨床診療ガイドラインの利用法などについて学ぶ。
15	12/28(木)	3-4	矢野 榮二 教授 桑原 恵介 講師	全体のまとめ、予備日

科目名	リスク科学特論	code number : EPI 251	選択	1 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	月曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

公衆衛生学博士課程の全員に必須とされる共通科目として、環境と健康の関わりを理解することを大きな目的としつつ、その科学的な理解分析の体系として、リスク科学をリスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションそれぞれについて実例を用いつつ学ぶ。有害性の認知と評価、曝露評価の基礎、環境疫学、許容濃度の設定、許容濃度とリスク管理、リスク認知とリスク回避行動、リスクリテラシーおよび医療判断学の各セッションを含む。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. リスク概念の基本であるリスクアセスメントとリスクマネジメントの関係を理解する。
2. リスクの把握にあたって、情報の不確かさとその対処法を理解し、リスクを質的だけでなく量的視点で把握し、代替策のリスクも考慮することの重要性を理解する。
3. 専門家としてリスク対処を進めていくうえで核となるリスクコミュニケーションを自分の課題研究のテーマにあてはめることができる。

【行動目標(SBO)】

1. リスクアセスメントとリスクマネジメントの違いとその相互関係を説明できる。
2. リスクの把握にあたって、情報の不確かさとその対処法を説明できる。
3. 質的だけでなく量的視点を持ち、代替策のリスクも評価することができる。
4. リスクコミュニケーションの基本概念と手法を理解し、自分の課題研究のテーマにあてはめ説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 発表等の主体的学習態度(20%)

4. 教科書・テキスト

- ・毎回授業開始時に資料として配布する。

5. 参考書

- ・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－, コロナ社, 2011.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・森澤眞輔の「環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－(コロナ社, 2011.)」を事前に通読しておく。
- ・講義ごとに3時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/13(月)	1	矢野 榮二 教授	低線量放射線の健康影響:問題提起
2	11/20(月)	1	矢野 榮二 教授	リスクアセスメントとリスクマネジメント:許容濃度を例として
3	11/27(月)	1	谷原 真一 教授	危機管理体制・危機発生時の緊急時対応のあり方
4	12/4(月)	1	福田 吉治 教授	感染症・食中毒
5	12/11(月)	1	矢野 榮二 教授	Precautionary Principleと代替策のリスク
6	12/18(月)	1	原 邦夫 教授	労働災害
7	12/25(月)	1	矢野 榮二 教授	リスク科学と意思決定
8	2/5(月)	1	矢野 榮二 教授	リスクコミュニケーション

科目名	応用生物統計学特論	code number : BIO 211	選択必修	1 単位
-----	-----------	--------------------------	------	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期	曜日・時限	火曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法についての基礎を学ぶ。特に統計モデルに重点を置く。各モデルの仮定を理解し、仮定が満たされているかの確認方法、仮定が満たされない場合の対処方法を学ぶ。交互作用、変数選択、モデルの当てはまり、結果の解釈などについて、医学論文でどのように報告されるかなど、実例を中心として学習する。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 医学研究で頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法に関する基本的な知識を修得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 医学研究で統計解析手法を応用することができる。
2. 臨床試験や医学研究において頻繁に用いられる応用的で高度な統計解析手法の基本について説明できる。
3. 統計モデルについて理解し、その特性について説明でき、解析結果を正しく解釈できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 講義・演習の課題・レポート(70点)
 - (2) 参加態度 (30点)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・新版ロジスティック回帰分析. 丹後俊郎、山岡和枝、高木晴良 朝倉書店、2013
- ・統計モデル入門. 丹後俊郎 医学統計学シリーズNo.2、朝倉書店、2000
- ・Cox比例ハザードモデル. 中村剛. 医学統計学シリーズ No.3、朝倉書店、2001

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・講義までに一度テキストの内容を読んでおくこと。
- ・2回目以降は前回の復習として、関連するテキストの例題を自分で解くなどの自習を行い、前回までの内容について不明な点は質問し理解すること。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

応用生物統計学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/19(火)	1	根本明日香 講師	統計モデル入門
2	9/26(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(基礎)
3	10/3(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(理論)
4	10/10(火)	1	根本明日香 講師	線形モデル(応用)
5	10/17(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(基礎)
6	10/24(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(理論)
7	10/31(火)	1	山岡 和枝 教授	ロジスティック回帰モデル(応用)
8	11/7(火)	1	松浦 正明 教授	コックス比例ハザードモデル(基礎・理論)
9	11/14(火)	1	松浦 正明 教授	コックス比例ハザードモデル(応用)
10	11/21(火)	1	山岡 和枝 教授	関連性の分析
11	11/28(火)	1	丹後 俊郎 教授(客)	空間集積性
12	12/5(火)	1	根本明日香 講師	ポアソン回帰モデル
13	12/12(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(基礎)
14	12/19(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(理論)
15	12/26(火)	1	山岡 和枝 教授	母数効果モデル・混合効果モデル(応用)

科目名	統計モデル特論	code number : BIO 601	選択	1 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	松浦 正明 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

医学研究で用いられる回帰型の分析など、応用的で高度な統計解析手法に関する専門的な知識を修得する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 医学研究における試験(実験)デザインと統計解析が密接な関係があることを理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 回帰分析の基本的特徴が説明できる。
2. 回帰分析の代表的な解析法としての分散分析モデル(線形モデル)の考え方である研究デザインとデータの性質(母数モデル、変量モデル、バランス型、アンバランス型など)を説明できる。
3. 生存時間データに対する特徴を理解し、Cox型の回帰分析を行うことができる。
4. 検定の多重性について理解し、多重性を調整する多重比較の方法について説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

下記により判定する。
 (1) 演習の課題・レポート(60%)
 (2) 発表、参加態度、議論(40%)

4. 教科書・テキスト

・適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・新版ロジスティック回帰分析 ―SASを利用した統計解析の実際― 丹後俊郎・山岡和枝・高木晴良(朝倉書店)。
- ・Applied Longitudinal Analysis 2nd Edn. Fitzmaurice GM, Laird NM, Ware JH. New Jersey: John Wiley & Sons.
- ・統計モデル入門. 丹後俊郎(朝倉書店)。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。
- 指定した課題について、レポートの提出または授業中の発表を求めることがある。
- ・講義ごとに1時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

統計モデル特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/11(火)	4	根本 明日香 講師	一般線形モデル、一般化線形モデル
2	4/18(火)	4	根本 明日香 講師	分散分析
3	4/25(火)	4	松浦 正明 教授	生存時間データ解析(理論)
4	5/2(火)	4	松浦 正明 教授	生存時間データ解析(応用)
5	5/9(火)	4	山岡 和枝 教授	混合効果モデル(理論)
6	5/16(火)	4	山岡 和枝 教授	混合効果モデル(経時データ)
7	5/23(火)	4	山岡 和枝 教授	混合効果モデル(グループデータ)
8	5/30(火)	4	山岡 和枝 教授	混合効果モデル(階層構造データ)

科目名	データ解析特別演習	code number : BIO 301	選択	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	松浦 正明 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期	曜日・時限	火曜 2時限	授業方法	演習

1. 授業の概要

グループ演習を通じて、実際のデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、(1)解析計画の立案、(2)解析の実施と解析報告の作成、および(3)発表を行うことができる。
実際の医学研究で行われる、患者背景の集計、主要解析、探索的解析など一連の解析を行うことができる。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 実際の医学研究におけるデータを用いて、統計解析ソフトウェアを利用し、研究デザインやデータの特性に応じた解析計画の立案・解析の実施・結果の報告について学習し、データハンドリングについての基本的能力を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 各種統計手法を用いて、交絡要因の調整を含むデータ解析演習およびコンペティションにより理解を深めることができる。
2. 基礎的データ(I)から複雑なデータ(III)に関して演習を行い、実践に即した技術として、欠損値等を含むデータハンドリングを行うことができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 演習の課題・レポート(60%)
- (2) 発表、議論・参加態度、議論(40%)

4. 教科書・テキスト

・適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・臨床試験ハンドブック. 丹後俊朗・上坂浩之編(朝倉書店)
- ・臨床試験の計画と解析. 上坂浩之(朝倉書店)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・全15コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時はどの講義を受講するかを事前に科目責任者とよく相談をすること
- ・グループ演習に際して次回の授業までに解析および発表資料作成を行ってくるなど、授業時間外の取り組みを求める。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・解析案やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

データ解析特別演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/19(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅰ(1) 第1回目解析用データの説明、解析計画立案
2	9/26(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅰ(2) 解析計画案の発表(各グループ)とディスカッション
3	10/3(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅰ(3) データ解析の実施
4	10/10(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅰ(4) 解析の継続と発表資料の作成
5	10/17(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅰ(5) 解析結果の発表(各グループ)
6	10/24(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅱ(1) 第2回目解析用データの説明、解析計画立案
7	10/31(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅱ(2) 解析計画案の発表(各グループ)とディスカッション
8	11/7(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅱ(3) データ解析の実施
9	11/14(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅱ(4) 解析の継続と発表資料の作成
10	11/21(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅱ(5) 解析結果の発表(各グループ)
11	11/28(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅲ(1) 第3回目解析用データの説明、解析計画立案
12	12/5(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅲ(2) 解析計画案の発表(各グループ)とディスカッション
13	12/12(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅲ(3) データ解析の実施
14	12/19(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅲ(4) 解析の継続と発表資料の作成
15	12/26(火)	2	山岡 和枝 松浦 正明 根本明日香 教授 教授 講師	データ解析演習Ⅲ(5) 解析結果の発表(各グループ)

科目名	臨床試験デザイン特論	code number : BIO 612	選択	1 単位
-----	------------	--------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 3時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

臨床的同等性・非劣性試験の評価、グループ逐次デザイン、ブリッジング試験、クロスオーバー試験、クラスター無作為化試験、主要評価項目の測定誤差の評価するための知識・技能を修得する。
最近の臨床試験のトピックスを合わせながら学習し、試験統計家という立場に必要な薬物動態・薬物力学解析について修得する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 臨床試験の試験実施計画書および解析計画書の内容等の臨床試験の計画、実施、解析および報告を行う際の理論的および実践的両側面と、最高のエビデンスレベルが期待される無作為化比較試験(randomized controlled trials)の統計学的デザインと評価に必要な統計学の基礎知識といった臨床試験に関する専門的な内容について修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 臨床的同等性・非劣性試験の評価、グループ逐次デザイン、ブリッジング試験、クロスオーバー試験、クラスター無作為化試験、主要評価項目の測定誤差を評価するための方法について説明できる。
2. 最近の臨床試験のトピックスを合わせながら、試験統計家という立場に必要な薬物動態・薬物力学解析について説明することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 講義への積極的な参加(50点)
- (2) 課題(50点)

4. 教科書・テキスト

・適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・無作為化比較試験：デザインと統計解析. 丹後俊郎(朝倉書店)
- ・臨床試験のデザインと解析. J.L.プライス著, KR研究会(関西臨床データ解析研究会)訳(株アーム)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。
- ・指定した課題について、レポートの提出または授業中の発表を求めることがある。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

臨床試験デザイン特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/13(火)	3	根本明日香 講師	倫理・利益相反
2	6/20(火)	3	松浦 正明 教授	非劣性・同等性試験
3	6/27(火)	3	松浦 正明 教授	グループ逐次デザイン、ブリッジング試験、クロスオーバー試験
4	7/4(火)	3	松浦 正明 教授	トランスレーショナルリサーチ
5	7/11(火)	3	松浦 正明 教授	がんの臨床試験
6	7/18(火)	3	山岡 和枝 教授	臨床試験概論
7	7/25(火)	3	山岡 和枝 教授	無作為化比較試験・クラスター無作為化比較試験
8	8/1(火)	3	根本明日香 講師	臨床薬理試験、薬物動態・薬物力学解析

科目名	カテゴリカルデータ解析特論	code number : BIO 611	選択	1 単位
-----	---------------	--------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	月曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

疫学研究で収集されたデータの性質に応じて、カテゴリカルデータからいかに情報を引き出すかということに焦点をあて、そのために必要な多次元データ解析を実際にSASを利用したデータ解析を行いながら修得することを目標とする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. この講義を通してカテゴリカルデータの基本的なまとめ方および解析方法について、解析方針を決め、また、実際にSASを利用して自分で解析し、その結果をまとめることができるための知識を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 疫学研究で収集されたデータの性質に応じた分析が説明できる。
2. 交互作用、変数選択、モデルの当てはまり、結果の解釈などについて、保健医療分野の論文でどのように報告されるかなどを説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 講義・演習の課題・レポート(70点)
 - (2) 参加態度 (30点)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・適宜資料を配布する。

5. 参考書

- ・新版 ロジスティック回帰分析. 丹後俊郎・山岡和枝・高木晴良(朝倉書店)
- ・Alan Agresti. An Introduction to Categorical Data Analysis (Second Edition), WILEY-interscience, 2007.
- ・記述的多変量解析法 大隅 昇 他 日科技連

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・基礎生物統計および応用生物統計学を履修済みか、同程度の基礎能力をもっていることを前提として講義を行う。
- ・2回目以降は前回の復習をし、提出した課題についてその意味を理解し、同じ問題が出たときに対処できるようにしておくこと。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

カテゴリカルデータ解析特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/13(月)	3	山岡 和枝 教授	カテゴリカルデータのまとめ方:クロス表と多重クロス表
2	11/13(月)	4	山岡 和枝 教授	多次元データ解析:多重ロジスティックモデル (対応のないデザイン)
3	11/20(月)	4	山岡 和枝 教授	多次元データ解析:多重ロジスティックモデル (対応のあるデザイン)
4	11/27(月)	4	山岡 和枝 教授	多次元データ解析:比例オッズモデル
5	12/4(月)	4	山岡 和枝 教授	多次元データ解析:対数線形モデル(理論)
6	12/11(月)	4	山岡 和枝 教授	多次元データ解析:ポアソン回帰モデル(カウントデータの分析)
7	12/18(月)	4	山岡 和枝 教授	多次元データ解析:一般化非線形混合効果モデル
8	12/25(月)	4	山岡 和枝 教授	多次元データ解析:数量化3類とコレスポンデンス・アナリシス

科目名	社会調査データ解析特論	code number : BIO 241	選択	1 単位
-----	-------------	--------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 5時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

社会調査データの解析に必要な最小限の内容について、実際の解析例に基づきながら分析していく過程として、調査項目の策定から連関分析、構造分析、信頼性・妥当性の評価を概観し、実際にSASを用いて分析する手順を講義・演習を交えて講義・演習を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 社会調査のデータ解析を行う際に必要な統計学的解析方法や図表現を行うための基礎を修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 社会調査研究で用いる主な統計学的解析手法について説明できる。
2. 社会調査研究の解析で用いる統計モデルについて理解し、実際のデータを用いて解析することができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 講義・演習の課題・レポート(70点)
 - (2) 参加態度 (30点)
- 注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

- ・適宜資料やデータを配布する。

5. 参考書

- ・調査の実際 不完全なデータから何を読みとるか 林 文・山岡和枝 著(朝倉書店)
- ・社会調査事典 社会調査協会編 丸善出版
- ・国際比較データの解析 意識調査の実践と活用 吉野諒三・林 文・山岡和枝 著(朝倉書店)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・基礎生物統計学、応用生物統計学を履修済みあるいは同等の能力をもつことを前提とする。
- ・事前資料の配布があった場合には事前に内容を読んでおくこと。グループ討論の場で発表すること。
- ・SASを用いたデータ解析を行うので、その準備をしておくこと。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

社会調査データ解析特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	5	山岡 和枝 教授	統計的調査の方法
2	4/25(火)	5	山岡 和枝 教授	社会調査データの測定と集計、信頼性・妥当性の分析
3	5/2(火)	5	山岡 和枝 教授	調査票の作り方と構造分析
4	5/9(火)	5	山岡 和枝 教授	項目の連関分析
5	5/16(火)	5	山岡 和枝 教授	欠測値の取り扱い
6	5/23(火)	5	山岡 和枝 教授	質問票の構造分析： 林の数量化法
7	5/30(火)	5	山岡 和枝 教授	質問票の構造分析： 主成分分析と因子分析
8	6/6(火)	5	山岡 和枝 教授	質問票の構造分析： その他の分析法

科目名	社会調査データ解析特別演習	code number : BIO 321	選択	1 単位
-----	---------------	--------------------------	----	------

科目責任者	山岡 和枝 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 6時限	授業方法	演習

1. 授業の概要

社会調査データの解析に必要な最小限の内容について、実際の解析例に基づきながら分析していく過程として、調査項目の策定から連関分析、構造分析、信頼性・妥当性の評価を概観し、実際にSASを用いて分析する手順について演習を行う。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 社会調査データの解析に必要な解析における応用的能力を修得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 実際のデータを用いて分析していく過程での様々な問題点を把握することができる。
2. 主として調査項目の策定過程での分析、データ獲得後の情報を要約し、そこから新しい知見を導きだすための分析を、実際にSASを用いて分析することができる。

3. 成績評価の方法および基準

(1) 講義・演習の課題・レポート(70点)
(2) 参加態度 (30点)
注意) 課題、レポートを再提出または期限に遅れて提出の場合は減点の対象とする。

4. 教科書・テキスト

・適宜資料やデータを配布する。

5. 参考書

・調査の実際 不完全なデータから何を読みとるか 林 文・山岡和枝 著(朝倉書店)
・社会調査事典 社会調査協会編 丸善出版
・国際比較データの解析 意識調査の実践と活用 吉野諒三・林 文・山岡和枝 著(朝倉書店)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

・社会調査法および基礎生物統計学、応用生物統計学を履修済みあるいは同等の能力をもつことを前提とする。
・事前資料の配布があった場合には事前に内容を読んでおくこと。グループ討論の場で発表すること。
・SASを用いたデータ解析を行うので、その準備をしておくこと。
・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを適宜行う。
・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

社会調査データ解析特別演習

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	4/18(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 社会調査における調査票と質問項目の確定過程における分析
2	4/25(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 調査票の構造分析: 主成分分析、因子分析、数量化3類
3	5/2(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 関連性の分析
4	5/9(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 健康意識と関連要因の分析
5	5/16(火)	6	山岡 和枝 教授	日本のデータ: 欠測値の取り扱いと感度分析
6	5/23(火)	6	山岡 和枝 教授	国際比較調査データの分析: 国別質問票の構造分析
7	5/30(火)	6	山岡 和枝 教授	国際比較調査データの分析: 国別関連性の分析
8	6/6(火)	6	山岡 和枝 教授	国際比較調査データの分析: 階層構造を取り入れた分析

科目名	特別講義(疫学の展開Ⅰ～Ⅲ)	code number : EPI 401～403	選択	1 単位
-----	----------------	------------------------------	----	------

科目責任者	Murry Mittleman 客員教授(※)						
配当年次	1年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

取り上げる主な主題には次のようなものがある。考え方は生物医学的・公衆衛生学的論文の批判的精読を通して論じられる。

- ・疫学研究の解釈: 関連性と因果性の概念; a研究結果の別の角度からの説明(偶然、バイアス、交絡を含む); 因果成立の条件
- ・疫学研究デザインの方法: 各方法の特徴、長所、限界。記述研究、観察研究(症例対照研究、コホート研究) 無作為化臨床試験
- ・疾病頻度の指標、関連の指標: 疾病頻度指標(有病率、累積発生率、罹患率)と関連指標(相対危険度、寄与危険度)の特徴及び指標の利用法・解釈・相互関係。
- ・スクリーニング: スクリーニングテストの有効性(感度、特異度); スクリーニング事業の有用性(適中度); スクリーニング事業の解釈におけるバイアスの原因

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 疫学は臨床や公衆衛生上の問題への量的な対処法を示す公衆衛生と臨床医学の基礎となる科学であることを理解し、基礎的な疫学の理論と方法を理解する。
2. 疫学を公衆衛生学的課題評価にどう適用するか理解する。
3. 疫学的臨床論文の批判的精読の進め方を学ぶ。

【行動目標(SBO)】

1. 疾病のリスク要因である可能性のあるものを見つけ、検証するために疫学的な結果を解釈できる。
2. 疾患(アウトカム)の指標、関連の指標、研究デザインの選択、バイアス、交絡、効果の修飾などの疫学の基礎理論と方法を説明できる。
3. 公衆衛生や医学の論文を批判的に読み、現場での実務に利用できる。
4. 公衆衛生や臨床上の問題に取り組む有効で効果的な手順を立案することができる。

3. 成績評価の方法および基準

最終試験の点数で評価し、60%以上を合格とするが、授業への積極的な関与で10%程度加算する。

4. 教科書・テキスト

Hennekens CH, Buring JE. Epidemiology in Medicine. Boston; Little, Brown and Company. 1987.

5. 参考書

講義で紹介する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

＜授業計画＞

特別講義(疫学の展開Ⅰ～Ⅲ)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/15(月)	1	Murry Mittleman 教授(客)	導入と授業の目的 疫学研究の解釈: 関連と因果
2	1/15(月)	2	Murry Mittleman 教授(客)	疫学研究のデザイン法: 記述研究と分析研究の概要
3	1/16(火)	1	Murry Mittleman 教授(客)	疾患頻度の指標
4	1/16(火)	2	Murry Mittleman 教授(客)	関連の指標
5	1/17(水)	1	Murry Mittleman 教授(客)	介入研究: 無作為化臨床試験
6	1/17(水)	2	Murry Mittleman 教授(客)	特論 ・信頼区間 / ・効果修飾
7	1/18(木)	1	Murry Mittleman 教授(客)	疾患対策のためのスクリーニング
8	1/18(木)	2	Murry Mittleman 教授(客)	疫学研究の批判的検討

科目名	特別講義(生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ)	code number : BIO 401～403	選択	1 単位
-----	-------------------	------------------------------	----	------

科目責任者	Garrett Fitzmaurice 客員教授(※)						
配当年次	1年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

この講義では、具体例を用いて縦断的データの基礎概念および混合効果モデルによる解析を理解する。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 解析目的に応じて縦断的データのモデルの構築と解析結果に対する解釈の仕方に関して習得する。

【行動目標 (SBO)】

1. 定量的方法、特に推測・検定の基本原理を学び、公衆衛生及び医学文献を理解できる。
2. 研究課題に対処するために、研究デザイン・モデルを検討でき、有効かつ効率的に研究を分析できる。
3. 確率変数、測定スケール、記述統計、確率分布、サンプリングの使用を説明できる。
4. 確率論の基礎を応用できる。
5. 推論が行なえ、仮説を構築し、信頼区間を構成し、研究結果と説明要因を定義できサンプルサイズの計算ができる。
6. 表形式と離散データ(分割表)の解析のための方法を解釈し適用できる。
7. 線形回帰分析のための方法を説明できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)筆記試験100%
コース終了後に筆記試験を行う。

4. 教科書・テキスト

事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。

5. 参考書

・Applied Longitudinal Analysis, 2nd Edition. G.M. Fitzmaurice, N.M. Laird, J.H. Ware, Wiley. (2011)

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・カイ2乗検定や回帰分析などの統計学的手法の基礎に関する事前知識を前提とする。
- ・参考書程度の事前知識を前提とする。
- ・講義ごとに1時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(生物統計学の展開Ⅰ～Ⅲ)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/10(水)	1	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	イントロ: 基本的概念、関連データ
2	1/10(水)	2	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	平均のモデル化: 反応プロファイルの解析
3	1/11(木)	1	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	平均のモデル化: 反応プロファイルの解析 パラメトリック&ノンパラメトリックなトレンド
4	1/11(木)	2	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	共分散のモデル化: 平均と共分散のモデル化の方法
5	1/12(金)	1	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	経時的データの線形混合効果モデル
6	1/12(金)	2	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	継時的データに対する一般化線形混合モデルの概観
7	1/13(土)	1	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	経時的データのマージナルモデル: 一般化推定方程式
8	1/13(土)	2	Garrett Fitzmaurice 教授(客)	一般化線形混合モデル

科目名	特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ)	code number : HBS 401～403	選択	1 単位
-----	--------------------	------------------------------	----	------

科目責任者	Ichiro Kawachi 客員教授(※)						
配当年次	1年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

人々の健康状態を評価しその理論モデルを構造化するための基本知識を網羅する講義を行う。疫学研究を実証的に進めるために必要な概念や手法を学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.社会階級、性別、貧困、収入格差、ソーシャルネットワーク/サポート、コミュニティの結束、心理社会的な仕事環境、近隣関係など社会的要因が人々の健康に及ぼす影響について理解する。

【行動目標(SBO)】

1.上記の考え方をを用いながらハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを説明し、コミュニティレベルの健康決定要因、ソーシャルキャピタル、職場ストレスモデルなどに基づいた人々の健康問題への介入方法を提言できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

(1)筆記試験(100%)

4つのショートエッセイ形式の問題を含めた2時間の筆記試験を行う。

4. 教科書・テキスト

Berkman LF & Kawachi I (eds). Social Epidemiology. New York: Oxford University Press, 2000.

5. 参考書

講義で紹介する。

カワチ イチロー. 命の格差は止められるか: ハーバード日本人教授の、世界が注目する授業, 小学館101新書, 2013年

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前にテキストや講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

<授業計画>

特別講義(社会行動科学の展開Ⅰ～Ⅲ)

回数	日付	時限	担当者		授業内容
1	1/6(土)	1	Ichiro Kawachi	教授(客)	健康の社会決定要因の概説
2	1/6(土)	2	Ichiro Kawachi	教授(客)	社会経済状態、測定と原因とみなせるエビデンス
3	1/7(日)	1	Ichiro Kawachi	教授(客)	収入格差と健康
4	1/7(日)	2	Ichiro Kawachi	教授(客)	ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポートと健康
5	1/8(月)	1	Ichiro Kawachi	教授(客)	ソーシャルキャピタル、社会の結束と健康
6	1/8(月)	2	Ichiro Kawachi	教授(客)	心理社会的な仕事環境と健康
7	1/9(火)	1	Ichiro Kawachi	教授(客)	行動経済学と公衆衛生
8	1/9(火)	2	Ichiro Kawachi	教授(客)	健康格差の是正:政策の観点から

科目名	疫学・生物統計学特殊研究	code number : BIO 510	選択必修	12 単位
-----	--------------	--------------------------	------	-------

科目責任者	各指導教員						
配当年次	1～3年次	配当学期	通年	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

1. 授業の概要

論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。
(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)

2. 授業の到達目標

疫学・生物統計分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。
尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。

3. 成績評価の方法および基準

最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。
(詳細については、別途予定されている学位論文に関するガイダンスで説明する)

4. 教科書・テキスト

・適宜提示する。

5. 参考書

・適宜提示する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。
その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的に行っていく。
- ・研究内容や時期によって研究に使う時間は変動するものであるが、継続的に研究時間を確保することが重要である。

7. その他履修上の注意事項

- ・学位申請の手引き等により、計画審査、中間審査および学位審査に至る流れを理解し、数年間の長期計画を立案し実行する。
- ・毎月末、1か月間の学習や研究活動などについて、指導教員に報告する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
【概要】 疫学や生物統計学の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。 【研究指導教員と主な指導内容】 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の研究指導教員から指名される。指導日程については当該研究指導教員と相談し別途定める。 (山岡和枝) メタアナリシス、無作為化比較試験、社会調査研究、質問票の信頼性研究、QOL研究、その他臨床研究など (中尾睦宏) 行動科学的研究、精神保健に関する社会疫学的研究など (松浦正明) 臨床疫学的研究、トランスレーショナル研究、遺伝情報学的研究、統計学的モデルに関する研究など (福田吉治) 健康の社会的決定要因、健康の社会的格差、健康増進施策に関する疫学研究など 尚、以下の教員は、研究指導補助教員である。 (根本明日香) 臨床試験、治験の研究デザインや実施に関する研究、薬剤疫学的研究など (桑原恵介) 疫学的研究など				

科目名	産業保健学特論	code number : OEH 231	選択必修	1 単位
-----	---------	--------------------------	------	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	月曜 1,2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

労働を取り巻く環境に対する社会の要求がより厳しくなるなか、事業者の期待に応えられるだけの高い能力を持った産業医・産業看護職・産業衛生技術職等の必要性が高まっている一方で、特に実務能力に関して高度な教育・訓練を受ける機会を提供できる機関は絶対的に不足している。そこでこうした社会的要請に応えられるだけの実践的な専門知識を持った産業医・産業看護職・産業衛生技術職を育成するためのカリキュラムを提供する。ケースを踏まえた議論も行い、労働衛生関連法規並びに国の指針・通達についての専門的な知識と理解、労働衛生管理体制の確立、労働衛生マネジメントシステムの構築と運用、有害業務の自主的な管理の方法、健診の実施と事後措置、職場改善を含めた作業管理実務、より効果的な衛生教育の実施のための方法等を学ぶ。選任産業医のみならず専属産業医としてはもちろん、労働衛生コンサルタントとしても活躍できる人材、あるいは自立した産業保健活動ができる高度な産業看護職、産業衛生技術職としての人材育成を目指す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 産業医・産業看護職・産業衛生技術職など産業保健(労働衛生)を専門とする者が、当該領域の経験や知識を体系化し、より高度な専門実務能力を身につけ、産業現場の問題を解決できる。

【行動目標(SBO)】

1. 労働基準法・労働安全衛生法を中心とする労働法の重要な考え方を理解し、活用できる。
2. 産業保健の5管理:作業環境管理、作業管理、健康管理、教育管理、総括管理を理解し、管理方法を適用できる。
3. 健康診断結果等のデータを解析し、職場の産業保健活動に活用できる。
4. 産業医、産業看護職、産業衛生技術職等の職務を理解し、共同して産業保健活動ができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(60%)
- (2) 発表(30%)
- (3) 議論への参加(10%)

4. 教科書・テキスト

・毎回授業開始時に資料として配布する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2017.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』を通読する。
- ・前回までに学んだ5管理からなる産業保健の内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。
- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。

＜授業計画＞

産業保健学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/22(金)	1	原 邦夫 教授	産業保健学とは何か ・安全配慮義務／労働安全衛生法令と5管理／産業保健専門職の役割
2	9/22(金)	2	谷原 真一 教授	総括管理 労働衛生スタッフとの連携
3	9/25(月)	1	谷原 真一 教授	職場のデータ管理・分析 (健康診断データなどの具体的なデータの取り扱い)
4	9/25(月)	2	谷原 真一 教授	レセプト分析の基礎と応用1
5	10/2(月)	1	谷原 真一 教授	レセプト分析の基礎と応用2
6	10/2(月)	2	谷原 真一 教授	健康管理1 (休職者復職支援)
7	10/13(金)	1	小木 和孝 教授(客)	産業保健の世界動向
8	10/13(金)	2	吉川 徹 准教授(客)	自主対応型労働安全衛生活動 人間工学を利用したメンタルヘルスの一次予防対策の「職場ドック」方法による職場の良好事例に学ぶ取り組み
9	10/16(月)	1	福田 吉治 教授	健康管理2
10	10/16(月)	2	福田 吉治 教授	職場巡視・安全衛生委員会
11	10/23(月)	1	福田 吉治 教授	メンタルヘルス対策
12	10/23(月)	2	福田 吉治 教授	各種専門職の役割 (産業保健専門職のマネジメント能力、産業看護職の役割)
13	10/30(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生法令の体系 作業環境管理(労働衛生工学)
14	10/30(月)	2	中原 浩彦 講師(非)	作業管理
15	11/6(月)	1	原 邦夫 教授	労働安全衛生マネジメントシステムとリスク判定 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度など様々な基準

科目名	産業環境工学特論	code number : OEH 232	選択必修	1 単位
-----	----------	--------------------------	------	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

作業環境および一般環境から人を守るためには、環境からの有害影響をその要因から理解するとともに、それらの測定・評価・対策を実施することが重要である。作業環境に存在する様々な有害要因の測定・評価を理解した上で、具体的なケースに基づいて、選択すべき環境制御技術について学習する。一般環境管理につながる産業工学分野の方法として、作業環境管理・作業管理で用いられる物質の代替、局所排気装置や全体換気装置等の工学的対策、作業方法、ならびに保護具の使用等について学習する。さらに国際的な化学物質の有害性とラベルの調和システム(国連GHS勧告)に基づくリスク管理方法についても学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 作業環境の有害要因の測定および管理で現在行われている作業環境測定および曝露測定の仕組みや排気システム、作業管理として行われている作業時間の管理や作業方法の改善、さらに国際的な化学物質の有害性とラベルの調和システムに基づく管理方法について学習することを通して、作業環境管理および作業管理のために選択すべきリスク管理方法を決定できる。

【行動目標(SBO)】

1. 作業環境の測定および評価について理解し、活用できる。
2. 有害要因の個人ばく露測定について理解し、活用できる。
3. 局所排気装置の原理を理解し、基礎的な事項についてアドバイスできる。
4. 化学物質の有害性分類の国連GHS勧告の内容を理解し、化学物質のリスク管理のための有害性情報を入手できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 発表等の主体的学習態度(20%)

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

・中央労働災害防止協会. 労働衛生のしおり、中央労働災害防止協会、2017.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・中央労働災害防止協会の『労働衛生のしおり』を事前に読んでおく。
- ・当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・講義とグループワーク、討論を適宜組み合わせる。
- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業環境工学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	4	原 邦夫 教授	日本式産業保健(労働衛生)の3管理・作業環境管理と管理区分および対策の手順 ・作業環境管理／・作業管理／・健康管理／／・代替／・工学的対策／・保護具
2	9/27(水)	4	原 邦夫 教授	暴露推定モデルの活用方法 局所排気装置I(局所排気装置の概要, 計算演習, 風量測定・評価)
3	10/4(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方(ハザード情報の収集, 国連GHS勧告によるハザード分類)
4	10/11(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方(コントロールバンディング)
5	10/18(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	化学物質リスクアセスメントの考え方(ばく露測定, ばく露とばく露限界値との比較, LOAELなどからばく露限界値の推定方法等)
6	10/25(水)	4	橋本 晴男 講師(非)	産業保健(労働衛生)の専門職のあり方
7	11/1(水)	4	原 邦夫 教授	局所排気装置(局所排気装置の概要, 計算演習, 風量測定・評価)
8	11/8(水)	4	中原 浩彦 講師(非)	保護具・人間工学的対策

科目名	産業中毒学特論	code number : OEH 251	選択	1 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	矢野 榮二 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

産業現場でひとが有害要因に曝露することにより特異的、非特異的な健康障害が引き起こされることがある。このコースでは代表的な産業有害要因について現場での曝露態様、管理、規制および新規の問題の発見と研究について考える。受講にあたっては一定の基礎知識と能力および毎回の事前準備が必要であるので、履修しようとする者は科目責任者と事前の話し合いを持つこと。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 有機溶剤、重金属など代表的な産業有害要因による健康障害について、医・生物学的な基礎からその機序を理解する。
2. 産業有害要因による健康障害の毒性学的な機序の理解に立ってその診断・検査・管理を考えることができる。
3. 産業現場における新たな健康障害発見の事例を学び、法律制度を超えた有害要因への対応ができる専門職能力の養成を目指す。

【行動目標(SBO)】

1. 代表的な産業有害要因による健康障害について、医・生物学的な基礎からその機序を説明できる。
2. 産業有害要因による健康障害の診断・検査・管理を毒性学的な機序と関連付けて説明できる。
3. 産業現場における新規の健康障害事例に対し、その原因同定や対策のために行うべき調査研究を立案できる。
4. 産業有害要因の許容濃度、管理指針作成のために考慮すべきことを列挙できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(60%)
- (2) 発表(30%)
- (3) 議論への参加(10%)

4. 教科書・テキスト

- ・Peter J Baxter, et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.
- ・中央災害防止協会. 労働衛生のしおり.

5. 参考書

- ・中央災害防止協会. 目で見える職業病と労働環境
- ・Peter J Baxter, et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・Peter J Baxter, et al.. Hunter's Disease of Occupations. Hodder Arnold. の該当箇所を事前に読んでおく。
- ・講義日ごとに6時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

産業中毒学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/15(水)	3	矢野 榮二 教授	許容濃度、管理濃度、IARC発がん分類 (総論)
2	11/15(水)	4	矢野 榮二 教授	許容濃度、管理濃度、IARC発がん分類 (事例研究)
3	11/22(水)	3	中原 浩彦 講師(非)	環境因子による健康障害の評価と管理 (総論)
4	11/22(水)	4	中原 浩彦 講師(非)	環境因子による健康障害の評価と管理 (事例研究)
5	11/29(水)	3	矢野 榮二 教授	現場見学(日産横浜工場を予定) (総論)
6	11/29(水)	4	矢野 榮二 教授	現場見学(日産横浜工場を予定) (事例研究)
7	12/6(水)	3	矢野 榮二 教授	金属、発がん物質 (総論)
8	12/6(水)	4	矢野 榮二 教授	金属、発がん物質 (事例研究)
9	12/13(水)	3	宮川 宗之 教授	生殖毒性 (総論) (宮川・医療技術学部スポーツ医療学科/教授)
10	12/13(水)	4	宮川 宗之 教授	生殖毒性 (事例研究) (宮川・医療技術学部スポーツ医療学科/教授)
11	12/20(水)	3	熊谷 信二 講師(非)	石綿工場周辺住民の中皮腫 (総論)
12	12/20(水)	4	熊谷 信二 講師(非)	石綿工場周辺住民の中皮腫 (事例研究)
13	12/27(水)	3	村田 勝敬 講師(非)	ベンチマークドース (総論)
14	12/27(水)	4	村田 勝敬 講師(非)	ベンチマークドース (事例研究)
15	2/7(水)	3	矢野 榮二 教授	まとめ

科目名	環境保健学特論Ⅰ	code number : OEH 212	選択	1 単位
-----	----------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	水曜 1時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

人は様々な環境からの影響を制御して健康を保っている。とくに産業革命以降は自ら作り出した有害な環境をも制御し、健康を維持せざるをえなくなっている。現在、地球自身の限界も踏まえた世界的な取り組みも進められている。環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から理解し、対策を検討することを目的としている。環境リスク論をベースに環境保健学を体系的に理解し、環境問題とそのマネジメントを俯瞰しつつ、環境からの有害影響別に対策とともに詳しく理解することを狙いとする。また、日本の経験である公害から学び、公害健康被害補償法、発生者負担原則(PPP原則)や環境基本法と関連法令についても体系的に理解することも狙いとする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 人間の健康と環境の関係、とくに物理的、化学的、生物学的有害要因と疾病との関係を理解し、それらへの対策を含めて例を挙げて説明することができる。

【行動目標(SBO)】

1. 米国NRC(全米研究評議会)が提示したリスクアセスメント・リスクマネジメントの手順と各ステップを理解し、環境リスク管理に活用できる。
2. 有害性の特定、曝露評価、量反応関係およびリスク判定の基本的な考え方を理解し、活用できる。
3. リスクコミュニケーション方法について理解し、活用できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

- ・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－、コロナ社、2011.
- ・中西準子、他. 演習 環境リスクを計算する. 岩波書店、2003.
- ・その他、講義の中で紹介する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・森澤眞輔の『環境の汚染とヒトの健康－健康のリスクをどう防ぐ－』を事前に通読し、環境リスク管理の考え方を大まかに理解しておく。
- ・前回までに学んだ環境リスク管理のステップ内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

環境保健学特論Ⅰ

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/20(水)	1	原 邦夫 教授	環境保健学とは ・環境有害因子と健康／・健康影響メカニズム／基準値／・疫学・毒性学・リスク学との関連
2	9/27(水)	1	原 邦夫 教授	リスク管理の考え方 ・有害性特定・量反応関係評価・曝露評価・リスク判定・リスク管理・リスクコミュニケーション ・1983年の米国科学アカデミー／EPA白書 ・化審法／・良好事例(化学物質管理のCOSH Essentialsなど)
3	10/4(水)	1	中原 浩彦 講師(非)	有害性の特定 ・物理的・化学的・生物的・社会心理的な危険性・有害性 ・GHS(分類とラベル化)・SDS(ハザード・コミュニケーションツール)
4	10/11(水)	1	原 邦夫 教授	量反応関係評価 ・量反応関係と疫学・動物実験 ・外挿法(Benchmark dose),安全係数,不確実係数,NOAEL,LOAEL
5	10/18(水)	1	中原 浩彦 講師(非)	曝露評価 ・曝露とは何か 環境曝露と職業性ばく露、曝露の評価と測定／・大気汚染、室内汚染／・曝露評価モデル
6	10/25(水)	1	原 邦夫 教授	リスク判定__産業衛生学会・許容濃度委員会 ・リスクの概念／・判定指標／・許容濃度、管理濃度、環境基準など様々な基準
7	11/1(水)	1	原 邦夫 教授	環境疫学 ・環境疫学の基本的事項の解説 ・環境疫学の適用例の紹介
8	11/8(水)	1	原 邦夫 教授	リスクコミュニケーション ・ラベル化とSDS／・ファシリテーター論

科目名	環境保健学特論Ⅱ	code number : OEH 213	選択	1 単位
-----	----------	--------------------------	----	------

科目責任者	原 邦夫 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 1時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

人は様々な環境からの影響を制御して健康を保っている。とくに産業革命以降は自ら作り出した有害な環境をも制御し、健康を維持せざるをえなくなっている。現在、地球自身の限界も踏まえた世界的な取り組みも進められている。環境保健学は、環境からの有害影響をその要因から理解し、対策を検討することを目的としている。「環境保健学特論Ⅰ」で学んだ環境リスク論を踏まえ、現在注目されている環境有害要因への詳細な対策事例を紹介することで、環境保健に対する深い理解を促し、他の環境有害要因への対策検討ができるようになることを狙いとする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 人間の健康と環境の関係、とくに物理的、化学的、生物学的有害要因と疾病との関係を理解し、それらへの対策を検討できる。

【行動目標(SBO)】

1. 米国NRC(全米研究評議会)が提示したリスクアセスメント・リスクマネジメントの手順と各ステップを環境リスク管理に活用できる。
2. 環境マネジメントシステムについて理解し、活用できる。
3. 産業保健および環境保健上の大きな問題になっているアスベスト(石綿)について深い理解を得て、対策に活用できる。
4. 神経毒性(含発達神経毒性・生殖毒性)の評価について詳しく学び、毒性学の考え方を活用できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) レポート(80%)
- (2) 議論への参加(20%)

4. 教科書・テキスト

・原則として講義資料を使用する。

5. 参考書

- ・森澤眞輔. 環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ—、コロナ社、2011.
- ・中西準子、他. 演習 環境リスクを計算する. 岩波書店、2003.
- ・その他、講義の中で紹介する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・森澤眞輔の『環境の汚染とヒトの健康—健康のリスクをどう防ぐ—』を事前に通読し、環境リスク管理の考え方を大まかに理解しておく。
- ・前回までに学んだ環境リスク管理のステップ内容を復習し、当日の講義のキーワードについての予習が望まれる。
- ・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・レポートに対し、講義の中あるいは個別に解説等のフィードバックを行い、再提出を求める場合がある。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

環境保健学特論Ⅱ

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/15(水)	1	原 邦夫 教授	一般環境管理論 ・環境影響評価とその課題／・環境法体系、環境基準、排出基準、条例
2	11/22(水)	1	原 邦夫 教授	環境マネジメントシステム ・マネジメントシステムの規格化の流れ／・ISO規格／・環境アセスメント法 ・一般環境管理の実際、排ガス処理・管理__公害管理者／・環境計量士
3	11/29(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅰ ・戦後の最大規模の労災／・分析から対策まで
4	12/6(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅱ ・石綿のリスクと対策
5	12/13(水)	1	神山 宣彦 講師(非)	化学的有害因子__石綿Ⅲ ・国の豊かさと対策の関係性
6	12/20(水)	1	宮川 宗之 教授	毒性学Ⅰ ・国連GHS文書の分類基準と実際の分類作業の紹介 ・栄養と毒性／・摂取、分布、代謝、排泄；解毒代謝／・PBPKモデル
7	12/27(水)	1	宮川 宗之 教授	毒性学Ⅱ ・神経毒性(含発達神経毒性・生殖毒性)の評価(OECDガイダンス文書等に記載された生物試験法・行動試験の紹介)
8	2/7(水)	1	原 邦夫 教授	現在の環境問題のまとめ

科目名	特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ)	code number : OEH 401～403	選択	1 単位
-----	---------------------	------------------------------	----	------

科目責任者	Rose Goldman	客員教授(※)					
配当年次	1年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

エネルギー消費量の増大により地球温暖化が進むなど、ヒトの健康への環境の影響が大きくなっている。環境保健の基本的コースとして、毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題について、評価し政策決定できることを目指す。

事前に教科書の関連する章を読む予習を前提に、ケースを用いてグループ討論をする。また、参加者自身の国および居住地域の環境相互関係や、他の要因(年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙など)の修飾影響について理解を促す。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 環境保健の基本的な考え方および方法を学び、その考え方や方法を実際の環境問題に適用できる。

【行動目標(SBO)】

1. 環境有害要因のヒトの健康への影響を理解し、説明できる。

2. 環境保健の基礎として毒性学、曝露評価、環境疫学、リスクアセスメント・リスクマネジメント、環境影響予測評価、ライフサイクルアセスメント、および災害分析を理解し、説明できる。

3. 大気汚染、飲料水、産業有害要因、労働災害、建造環境、エネルギーの選択、および地球温暖化などの課題に対して対策案を検討できる。

4. 環境有害要因によるヒトへの健康有害影響に対する、年齢、不均等な有害要因ばく露、社会経済的な要因、たばこ煙などの修飾要因の影響を評価できる。

3. 成績評価の方法および基準

最終試験の点数で評価し、60%以上を合格とするが、グループ討議・発表等への積極的参加で10%程度加算する。

4. 教科書・テキスト

・Frumkin H, Editor. Environmental Health: From Global to Local. San Francisco: Jossey-Bass, 2016

5. 参考書

・関連する読むべき資料を専用ホームページに掲載する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

・事前にテキスト「Frumkin H, Editor. Environmental Health: From Global to Local. San Francisco: Jossey-Bass, 2016」や、専用HP上に公開される講義用資料を授業前に読んでおく。

・当日の講義内容に関連するキーワードの概念を理解して講義に臨む。

・当該期間に8時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。

・積極的なグループ討論への参加を求める。

・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。

・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

(※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。

(※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。

(※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

＜授業計画＞

特別講義(産業環境保健学の展開Ⅰ～Ⅲ)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/25(木)	1	Rose Goldman 教授(客)	環境保健学入門(ケース1:妊婦はツナ缶を食べるべきか?)
2	1/25(木)	2	Rose Goldman 教授(客)	中毒学(基本的な中毒学、ケース2:妊婦はツナ缶を食べるべきか?(継続))
3	1/26(金)	1	Rose Goldman 教授(客)	環境疫学と大気汚染(ケース3:各地のPM2.5濃度と死亡率への影響、その発生源および対策)
4	1/26(金)	2	Rose Goldman 教授(客)	リスクアセスメントと政策決定(ケース4:妊婦はツナ缶を食べるべきか?水銀の影響と魚摂取の効果 (継続))
5	1/27(土)	1	Rose Goldman 教授(客)	産業保健:災害防止(ケース5:Haddon Matrixを用いた災害分析)
6	1/27(土)	2	Rose Goldman 教授(客)	水と衛生(ケース6:飲料水と健康—バングラデッシュの経験)
7	1/28(日)	1	Rose Goldman 教授(客)	建造環境とエネルギー選択(ケース7:エネルギー選択のためのライフサイクルアセスメントと健康影響予測評価アプローチ、エコロジカル・フットプリント)
8	1/28(日)	2	Rose Goldman 教授(客)	地球温暖化(ケース8:地球温暖化と健康)

科目名	産業環境保健学特殊研究	code number : OEH 510	選択必修	12 単位
-----	-------------	--------------------------	------	-------

科目責任者	各指導教員						
配当年次	1～3年次	配当学期	通年	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

1. 授業の概要

論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。
(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)

2. 授業の到達目標

産業保健・環境保健分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。
尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。

3. 成績評価の方法および基準

最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。
(詳細については、別途予定されている学位論文に関するガイダンスで説明する)

4. 教科書・テキスト

・適宜提示する。

5. 参考書

・適宜提示する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。
その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的に行っていく。
- ・研究内容や時期によって研究に使う時間は変動するものであるが、継続的に研究時間を確保することが重要である。

7. その他履修上の注意事項

- ・学位申請の手引き等により、計画審査、中間審査および学位審査に至る流れを理解し、数年間の長期計画を立案し実行する。
- ・毎月末、1か月間の学習や研究活動などについて、指導教員に報告する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
【概要】 産業保健や環境保健の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。 【研究指導教員と主な指導内容】 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の研究指導教員から指名される。指導日程については当該研究指導教員と相談し別途定める。 (矢野榮二) 産業・環境要因による健康障害の原因、作用様式、対策等について医学的疫学的に調査研究し、問題解決につながる学術的研究を指導する。 (谷原真一) 労働衛生における三管理(作業環境管理、作業管理及び健康管理)等を通じて集積される各種データを有効活用する調査研究手法について学び、産業現場の問題解決につながる学術的研究を指導する。 (原邦夫) 健康障害の原因となる産業・環境要因の測定・評価および対策等について調査研究し、問題解決につながる学術的研究を指導する。 (福田吉治) データヘルズ計画、健康経営、ストレスチェック制度等に関する健康管理および統括管理について学び、産業現場の健康増進および執権管理につながる学術的研究を指導する。				

科目名	保健政策学特論	code number : HPM 201	選択必修	1 単位
-----	---------	--------------------------	------	------

科目責任者	福田 吉治 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(前半)	曜日・時限	火曜 3,4時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

保健政策とは、国民が健康な生活を維持する上で必要としているニーズと課題に対応するために、あるべき姿と有効な戦略を立案し、有限な保健医療資源を適正かつ公平に配分してこれを実現するための指針と行動計画を策定するものである。本講義では、具体的な保健政策を例に、保健政策（ヘルスポリシー）の基本的な理論を学び、政策の分析と立案ができる能力を獲得する。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. ヘルスポリシーの基本的な考え方と理論、現在行われている健康政策を理解し、その課題を抽出し、課題解決のために必要な政策を提言し、実施できるための知識と技術を習得する。

【行動目標(SBO)】

1. 公衆衛生における政策分析の重要性を説明できる。
2. 政策分析トライアングルを説明できる。
3. アジェンダ設定と政策決定モデルを概説できる。
4. 保健政策におけるステークホルダー分析ができる。
5. 保健政策における研究者の役割とエビデンスの活用について概説できる。
6. 保健政策の評価方法と評価計画を説明できる。
7. 学習した理論等を活用し、具体的な保健政策の立案ができる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業内での発言・発表・討議参加(50%)
- (2) 課題レポート(50%)

4. 教科書・テキスト

適宜提示する。

5. 参考書

Buse K, Mays N, Walt G. Making Health Policy (2nd edition). Open University Press. 2012.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・指定する文献・資料等を事前に読んで理解すること。
- ・1コマにつき2時間程度の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

保健政策学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	9/26(火)	3	福田 吉治 教授	保健政策学入門
2	9/26(火)	4	福田 吉治 教授	政策分析トライアングル
3	10/10(火)	3	福田 吉治 教授	アジェンダ設定と政策決定モデル
4	10/10(火)	4	福田 吉治 教授	保健政策のモデル
5	10/24(火)	3	福田 吉治 教授	保健政策におけるステークホルダー分析
6	10/24(火)	4	福田 吉治 教授	保健政策における研究者の役割とエビデンス
7	10/31(火)	3	福田 吉治 教授	保健政策の実施と評価
8	10/31(火)	4	福田 吉治 教授	まとめ・総合討議

科目名	医療経済・経営学特論	code number : HPM 211	選択必修	1 単位
-----	------------	--------------------------	------	------

科目責任者	中田 善規	教授					
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半) 後期(前半)	曜日・時限	月曜 3,4時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

医療は大きな社会システムの一部である。その医療を正確に分析するには社会システム分析ツールである経済学が必要である。特にミクロ経済学は絶対不可欠な分析ツールである。また医療経済学で語られる言葉も大半は厳密な経済学的定義があり、それを正確に理解しておくことが有意義な議論の第一歩となる。本講ではすべての基礎となるこの古典的ミクロ経済学を初歩から徹底的に理解し、それを医療に的確に応用できるようになることを目標とする。具体的には初級ミクロ経済学を医療者向けにアレンジして解りやすく時間をかけて講義する。さらに現在社会問題となっている医療問題を取り上げて、ミクロ経済学的分析を応用して問題の経済学的原因を議論する。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 経済学的思考を公衆衛生学に応用する。

【行動目標 (SBO)】

1. ミクロ経済学的ツールを用いて医療問題を分析する。
2. 現在日本が直面する医療に関する問題を経済学的視点から理解し、解決方法を提示する。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 積極的な授業参加、討論の論点の把握と対応力: 50%
- (2) 講義内でのテスト: 50%

4. 教科書・テキスト

- ・Mankiw NG. Principles of microeconomics. 5th Ed. Cengage Learning, Mason, OH. 2008 (訳本: マンキュー経済学第2版Iミクロ編、東洋経済新報社)
- ・Folland S, Goodman AC, Stano M. The economics of health and health care. 7th Ed. Pearson, Upper saddle River, NJ. 2013

5. 参考書

- ・マンキュー経済学第2版Iミクロ編、東洋経済新報社
- ・橋本英樹、泉田信行: 医療経済学講義 東京大学出版会 2011

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・全30コマの講義のうち8コマ以上を受講すればよいが、履修時は事前にどの講義を受講するかを科目責任者とよく相談をすること。
- ・教科書の各章を当該授業までに熟読し、授業中に行う議論の準備をする。
(①②などは教科書の予習すべき章を示す。)
- ・1回の授業あたり予習2時間、復習2時間が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/12(月)	3	中田 善規 教授	導入:医療と経済学①
2	6/12(月)	4	中田 善規 教授	経済学的思考・相互依存と交易の利益②③
3	6/19(月)	3	中田 善規 教授	医療の需要・供給と平衡④⑥
4	6/19(月)	4	中田 善規 教授	医療の弾力性⑤
5	6/26(月)	3	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険1
6	6/26(月)	4	小林 廉毅 講師(非)	不確実性と保険2
7	7/3(月)	3	中田 善規 教授	医療消費者・医療生産者と市場効率⑦
8	7/3(月)	4	中田 善規 教授	税のコスト⑥⑧
9	7/10(月)	3	中田 善規 教授	外部性・公共財と共有資源⑩⑪
10	7/10(月)	4	中田 善規 教授	患者の需要理論(消費者選択理論)⑫
11	7/24(月)	3	中田 善規 教授	医療の生産理論・生産費用⑬
12	7/24(月)	4	中田 善規 教授	完全競争市場での医療の価格と生産⑭
13	7/31(月)	3	中田 善規 教授	独占での医療の価格と生産⑮
14	7/31(月)	4	中田 善規 教授	独占的競争と寡占の下での医療の価格と生産⑯⑰
15	7/31(月)	5	中田 善規 教授	まとめとテスト
16	9/25(月)	3	中田 善規 教授	導入・解説・輪読分担決定(第1章)
17	9/25(月)	4	中田 善規 教授	医療経済学のためのミクロ経済学ツール(第2章)
18	9/25(月)	5	中田 善規 教授	健康の生産(第5章)
19	10/2(月)	3	中田 善規 教授	医療の生産・費用・技術(第6章)
20	10/2(月)	4	中田 善規 教授	健康資本の需要(第7章)
21	10/2(月)	5	中澤 達 講師(非)	DPCに関する諸問題
22	10/16(月)	3	中田 善規 教授	健康保険の需要と供給(第8章)
23	10/16(月)	4	中田 善規 教授	消費者選択と需要(第9章)
24	10/16(月)	5	中田 善規 教授	非対称情報とエージェンシー(第10章)
25	10/30(月)	3	中田 善規 教授	健康保険市場の構成(第11章)
26	10/30(月)	4	中田 善規 教授	マネージド・ケア(第12章)
27	10/30(月)	5	中田 善規 教授	非営利会社(第13章)
28	11/6(月)	3	中田 善規 教授	病院と長期ケア(第14章)
29	11/6(月)	4	中田 善規 教授	医師開業(第15章)
30	11/6(月)	5	大嶽 浩司 教授(客)	医療を取りまく経済と経営

科目名	医療経済分析特論	code number : HPM 601	選択	1 単位
-----	----------	--------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1年次	配当学期	後期(後半)	曜日・時限	水曜 2時限	授業方法	講義

1. 授業の概要

効率性・生産性の定量的分析は医療管理の要諦であると同時に、医療政策・経済上も極めて重要な意味を持つ。他産業における効率性・生産性の科学的測定は、経済学・経営学・工学分野で2000年以降急速に発展してきた。すでに確立された手法としてはデータ包絡分析や確率的フロンティア分析などが存在し、その応用発展型も盛んに研究されている。こうした手法は海外では企業経営・公共政策・教育・国防などに応用され、それをもとに制度設計や経営方針が決定されている。本講義ではこのフロンティア分析法を身に着けて、自身の研究課題に応用できるようになることを目標とする。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1.科学的効率性測定方法を理解する。

【行動目標(SBO)】

1.オペレーションズ・リサーチの基本的分析ツールとしてのフロンティア分析法を理解できる。

2.特にデータ包絡分析法を実際のデータに応用できる。

3. 成績評価の方法および基準

- (1)プレゼンテーション (40%)
- (2)積極的な授業参加 (30%)
- (3)討論の論点の把握と対応力 (30%)

4. 教科書・テキスト

Ozcan YA: Health Care Benchmarking and Performance Evaluation: An Assessment using Data Envelopment Analysis (DEA)、2nd ed. Springer. 2014

5. 参考書

Hollingsworth B, Peacock SJ. Efficiency Measurement in Health and Health Care. Routledge. 2008

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・下記教科書・参考書を輪読形式で学生が報告する。それに対して教員は相互討論を促し、補足コメントする。同時にコンピュータソフト DEA Solver Proの使用を体験する。自身で効率性を測りたい題材を用意してくることが望ましい。
- ・当該期間に16時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

医療経済分析特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	11/15(水)	2	中田 善規 教授	講義概略・医療の評価(第1章)
2	11/22(水)	2	中田 善規 教授	データ包絡分析法(第2章)
3	11/29(水)	2	中田 善規 教授	規模の収穫モデル(第3章)
4	12/6(水)	2	中田 善規 教授	加重制限モデル(第4章)
5	12/13(水)	2	中田 善規 教授	無方向モデル(第5章)
6	12/20(水)	2	中田 善規 教授	パネルデータ(第6章)
7	12/27(水)	2	中田 善規 教授	医療の質(第7章)
8	2/7(水)	2	中田 善規 教授	先進モデル(第8章)

科目名	地域保健学特論	code number : HPM 603	選択	1 単位
-----	---------	--------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造	准教授					
配当年次	1年次	配当学期	前期(後半)	曜日・時限	火曜 1,2時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

地域における保健医療に関する課題の発見と問題解決を、地域のステークホルダーと協働で行える能力を養成することを基本目標とする。その際、1) 医療の利用や健康づくりに関する住民の視点、2) 保健医療活動を行う提供者の視点、3) 地域社会における両者の協働の視点から多角的に捉える力を養う。そのため、本授業では、演習または講師および受講生同士でディスカッションを通して、理論と手法を学ぶ。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 知識習得型の座学ではなく、地域保健に関わっていく上で、解決策、実践案を案出し得る能力・ツールを修得する。

【行動目標(SBO)】

1. 地域における健康と保健・医療に関する課題の発見、コミュニティづくり、ステークホルダーと協働した問題解決を行うことができる。
2. コミュニティ・コーディネートの手法について説明できる。
3. プロジェクト・サイクル・マネージメントを活用した問題分析、活動案案出を行うことが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業への積極的な参加 (40%)
- (2) レポート提出評価 (60%)

4. 教科書・テキスト

1. 開発援助のためのプロジェクト・サイクル・マネジメント: 参加型計画編
http://www.fasid.or.jp/publication/6_index_detail.shtml

5. 参考書

1. Where There is No Doctor: Village Health Care Handbook David Warner
2. 医療人類学入門: 波平恵美子 著 朝日選書
3. 援助とエンパワーメント: 佐藤寛 編 アジア経済研究所

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・履修学生に事前に配布する。
- ・当該期間に12時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

＜授業計画＞

地域保健学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/27(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(講義/実習)
2	6/27(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習1)
3	7/4(火)	1	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習2)
4	7/4(火)	2	高橋 謙造 准教授	プロジェクトサイクルマネジメントを用いた活動計画の立案(実習3)
5	7/11(火)	1	石崎 達郎 講師(非)	高齢社会における地域保健医療と研究事例
6	7/11(火)	2	石崎 達郎 講師(非)	高齢社会における地域保健医療と研究事例
7	7/18(火)	1	山本 真 講師(非)	これからのコミュニティと地域保健:コミュニティ・コーディネートについて
8	7/18(火)	2	山本 真 講師(非)	コミュニティ・コーディネートについての実践ワークショップ

科目名	国際保健政策学特論	code number : HPM 401	選択	1 単位
-----	-----------	--------------------------	----	------

科目責任者	高橋 謙造	准教授					
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	火曜 5・6時限	授業方法	講義・演習

1. 授業の概要

- ・国際保健分野・母子保健分野の課題を理解するための視座を獲得し、数多い政策課題を理解できる能力を身につける。
- ・そのための視点、ツールを習得する。

2. 授業の到達目標

【一般目標 (GIO)】

1. 国際保健に関する政策課題を俯瞰して、世界的な母子保健政策に関する知見を備えた実務家となることを目標とする。

【行動目標 (SBO)】

1. 先進国、途上国の母子保健医療政策の現状・課題を把握し、制度や課題について説明出来る。
2. 国際的な視点から、政策を相対化し、評価出来る。
3. 実務に従事する際に、学びを活かすことが出来る。

3. 成績評価の方法および基準

- ・プレゼンテーション資料(70%)、講義における議論の参加度(30%)で総合評価する。
- ・毎回の講義の担当者を決定し、資料を配布するので、その内容に関してプレゼンテーションできる準備をして臨むこと。発表されたプレゼンテーション資料が評価の対象となる。
- ・ただし、無断欠席に関しては、減点の対象となる。

4. 教科書・テキスト

- ・特に指定しない

5. 参考書

- ・講義前にLMSに参考文献を掲載するので、熟読して参加すること。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・本コースでは、受講生の間での討論を重視するので、指示された資料・参考書・文献は、担当者以外も事前に熟読しておくこと。
- ・指定された授業用テキスト等を読み、授業内での議論に備える。
- ・当該期間に12時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

<授業計画>

国際保健政策学特論

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	6/13(火)	6	高橋 謙造 准教授	世界的母子保健政策のOverview (データで観る母子保健課題)
2	6/20(火)	6	高橋 謙造 准教授	日本における母子保健課題1 (少子化対策、待機児童の現状)
3	6/27(火)	6	高橋 謙造 准教授	日本における母子保健課題2 (小児の貧困、児童虐待の現状)
4	7/4(火)	6	高橋 謙造 准教授	Midwifery trend
5	7/11(火)	5	高橋 謙造 准教授 野村真利香 講師(非)	Newborn health
6	7/18(火)	5	高橋 謙造 准教授	Continuum of Careについて考える (母子健康手帳が担保するサービス)
7	8/1(火)	4	高橋 謙造 准教授	災害対応とChild Protection
8	8/1(火)	5	高橋 謙造 准教授	総合討論、発表

科目名	Seminar on Healthcare Management	code number : HPM 421	選択	1 単位
-----	----------------------------------	--------------------------	----	------

科目責任者	中田 善規 教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要 Course Overview

This course will introduce you to the basic principles of organizational behavior. These principles have become increasingly important in research, practice and policy making in the public health sector. The course is composed of three parts: a) individual in the organization, b) groups in the organization, and c) organization system. The course will cover the standard topics studied in introductory organizational behavior, but will emphasize issues of particular relevance to public health sector, and will use examples and problems taken from the public health sector.

2. 授業の到達目標 Objective of the course

This course is designed to meet the following GIOs and SBOs.

General Instructive Objectives (GIOs)

1. The main objective of the course is to familiarize the students with the basic concepts and tools of organizational behavior used in research and in practice, and to serve as an introduction to more advanced courses in public health leadership.

Specific Behavioral Objectives (SBOs): Participants can

1. apply theory of organizational behavior to health care and public health.
2. manage health care organization based on scientific evidence.

3. 成績評価の方法および基準 Evaluation

Participation in class discussion (50%), Oral examination (50%)

4. 教科書・テキスト Textbook

The course textbook is: Robbins SP, Judge TA. Essentials of Organizational Behavior, 13th ed. Pearson, 2015. The students are required to read the designated chapters before each class. 8 sessions x 90 min each.

5. 参考書 Recommended readings

Suggested readings:Healthcare Management

- 1 Walshe K, Smith J. (eds): Healthcare Management, Open University Press, London, 2006.
- 2 Kovner AR, McAlearney AS, Neuhauser D: Health Services Management, Cases Readings and Commentary, 9th ed., Health Administration Press, Chicago, 2009
- 3 Lombardi DM, Schermerhorn JR: Health Care Management, John Wiley & Sons, Hoboken, 2007
- 4 Buchbinder SB, Shanks NH: Introduction to Health Care Management, Jones and Bartlett Publishers, Sudbury, 2007
- 5 Dunn RT: Haimann's Healthcare Management, 8th ed., Health Administration Press, Chicago, 2007
- 6 Ozcan YA: Quantitative Methods in Health Care Management, 2nd ed., Jossey-Bass, San Francisco, 2009

Leadership

- 7 Leadership Berry LL, Seltman KD: Management Lessons from Mayo Clinic, McGraw-Hill, New York, 2008
- 8 Bass BM: The Bass Handbook of Leadership, 4th ed., Free Press, New York, 2008

Healthcare System

- 9 Brown ER: Rockefeller Medicine Men, University of California Press, Berkeley, 1979
- 10 Reid TR: The Healing of America, The Penguin Press, New York, 2009
- 11 Herzlinger R: Who Killed Health Care?, McGraw-Hill, New York, 2007
- 12 Porter ME, Teisberg EO: Redefining Health Care, Harvard Business Press, Boston, 2006

General Management

- 13 Milgrom P, Roberts J: Economics, Organization and Management, Prentice Hall, Englewood Cliff, 1992
- 14 Jacobs CS: Management Rewired, Penguin Group, New York, 2009
- 15 Lundin SC, Paul H, Christensen J: Fish!, Hodder and Stoughton, London, 2000
- 16 van Vugt M, Ahuja A. Naturally Selected, HarperCollins, New York, 2011
- 17 Martin R. The Responsibility Virus, Basic Books, New York, 2002

- 18 Dixit AK, Nalebuff BJ. Thinking Strategically: The Competitive Edge in Business, Politics, and Everyday Life. W W Norton, 1993
 19 Levy S. In the Plex: How Google Thinks, Works, and Shapes Our Lives. Simon & Schuster, New York, 2011
 20 Gonzales L. Deep Survival. Norton, New York, 2003
 21 Christensen CM. The Innovator's Dilemma. Harper Business, New York, 1997
 22 Burrough B, Helyar J. Barbarians at the Gate. Harper Business, 1988
 23 Covey SR. The Seven Habits of Highly Effective People. Free Press, 1989
 24 Peter LJ, Hull R. The Peter Principle. Harper Business, 2009
 25 Robbins SP, Judge TA. Essentials of Organizational Behavior, 12th ed. Pearson Education Limited, 2012
 26 Slywotzky A, Wise R. How to Grow When Markets Don't. Warner Books, 2003
 Ethics and Legal Issues
 27 Showalter JS: The Law of Healthcare Administration, 5th ed., Health Administration Press, Chicago, 2008
 28 Gawande A. The Checklist Manifesto, Metropolitan Books, New York, 2009
 29 Miller GW. King of Hearts: The True Story of the Maverick Who Pioneered Open Heart Surgery. Crown Publishers, New York, 2000
 30 Harbin T. Waking Up Blind. Langdon Street Press, 2009
 31 Marx D. Whack-a-Mole: The Price We Pay for Expecting Perfection. By Your Side Studios, 2009
 32 Marx D. Dave's Subs. By Your Side Studios, 2015.
 33 Woodford M. Exposure: Inside the Olympus Scandal. Penguin, 2012.

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間 Expected time to accomplish homework assignments

- Study technical terminology before class.
- Sixteen hour preparation will be necessary for all the sessions.

7. その他履修上の注意事項 Others

- May give feedbacks on exams in class.
- Must understand the relation between this class and overall curriculum policy.

<授業計画>

Seminar on Healthcare Management

回数	日付	時限	担当者		授業内容
1	8/12(土)	1	Yoshinori Nakata	Professor	Introduction (Ch1)
2	8/12(土)	2	Yoshinori Nakata	Professor	Individual Perception and Decision Making (Ch6)
3	8/13(日)	1	Yoshinori Nakata	Professor	Motivation I and II (Ch7+8)
4	8/13(日)	2	Yoshinori Nakata	Professor	Communication Process (Ch11)
5	8/14(月)	1	Yoshinori Nakata	Professor	Leadership (Ch12)
6	8/14(月)	2	Yoshinori Nakata	Professor	Power and Politics (Ch13)
7	8/15(火)	1	Yoshinori Nakata	Professor	Conflict and Negotiation (Ch14)
8	8/15(火)	2	Yoshinori Nakata	Professor	Organizational Change (Ch17)

科目名	Seminar on Universal Health Coverage & Aging Society	code number : HPM 421	選択	1 単位
-----	--	--------------------------	----	------

科目責任者	井上まり子 准教授						
配当年次	1・2年次	配当学期	夏季(8-9月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要 Course Overview

Universal Health Coverage (UHC) is an important element of the global health agenda in ensuring that all people obtain necessary health services without financial hardship. Moreover, ageing of the population is a continuing problem around the world regardless of the each individual country's level of development. This means that UHC must be achieved in a world facing both demographic and epidemiological transitions. With regard to discussions on UHC in ageing societies, a simple focus on the elderly population is insufficient. We need a grand social design to promote the reforms necessary to overcome changes related to the ageing population. A wide range of public health skills and knowledge is required to support a cross-spectral approach to achieving UHC through a better understanding of good practices.

The purpose of this course is to provide students with an understanding of the global health agenda in terms of Universal Health Coverage, particularly in an ageing society. Japan is one of the countries experiencing a rapid growth in the elderly population. Through a combination of in-class lectures, discussions, and site visits, we would like to use the situation in Japan as a case study of how UHC can be achieved in an ageing society.

2. 授業の到達目標 Objective of the course

This course is designed to meet the following GIOs and SBOs.

General Instructive Objectives (GIOs)

- (1) To understand the current state of UHC and population ageing in Japan and around the world
- (2) To use statistical data analysis to describe the current ageing and epidemiological transition
- (2) To identify the stakeholders and their role in achieving UHC
- (3) To develop effective strategies for achieving UHC in an ageing society

Specific Behavioral Objectives (SBOs): Participants can

- (1) Describe the background and trends to setting the global agenda on UHC
- (2) Understand the statistical data related to demographic and epidemiological transitions.
- (3) Define and provide an overview of UHC in Japan and around the world.
- (4) Perform stakeholder analysis and explain each stakeholder's role in achieving UHC, particularly in a local setting.
- (5) Understand the policies and projects related to UHC in Japan from multiple perspectives, such as the health insurance system, health human resources, health financing, regulation, social welfare, community development, and other relevant areas.
- (6) Develop effective alternative strategies for achieving UHC in an ageing society in their own region or countries.

3. 成績評価の方法および基準 Evaluation

In-class discussion 70%, Final report/presentation 30%

4. 教科書・テキスト Textbook

Textbooks and reading materials will be announced on the first day of the class.

5. 参考書 Recommended readings

- (1) World Health Organization. *World report on ageing and health*. Geneva: WHO; 2015

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間 Expected time to accomplish homework assignments

- Study technical terminology before class.
- Five hour preparation will be necessary for all the sessions.

7. その他履修上の注意事項 Others

- May give feedbacks on exams in class.
- Must understand the relation between this class and overall curriculum policy.

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	8/21(月)	3	Mariko Inoue Associate Professor	Introduction
2	8/21(月)	4	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 1. Universal Health Coverage
3	8/22(火)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 2. Ageing in Japan
4	8/22(火)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 3. Japan Vision Health Care 2035
5	8/22(火)	3	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 4. Role of local government in Japan
6	8/22(火)	4	Mariko Inoue Associate Professor	Lecture and discussion 5. The power of innovation
7	8/23(水)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Case 1 Health policy for ageing society in Japan
8	8/23(水)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Site visit 1.
9	8/23(水)	3	Mariko Inoue Associate Professor	
10	8/23(水)	4	Mariko Inoue Associate Professor	
11	8/24(木)	1	Mariko Inoue Associate Professor	Case 2 Good practices to achieve UHC of Japanese local government
12	8/24(木)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Site visit 2
13	8/24(木)	3	Mariko Inoue Associate Professor	
14	8/24(木)	4	Mariko Inoue Associate Professor	
15	8/25(金)	2	Mariko Inoue Associate Professor	Wrap up

科目名	特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ)	code number : HPM 401～403	選択	1 単位
-----	------------------------	------------------------------	----	------

科目責任者	Alastair Gray	客員教授(※)					
配当年次	1年次	配当学期	冬季(1-2月)	曜日・時限	4日間	授業方法	集中講義

1. 授業の概要

経済学とは、また医療経済学とは何か。本講義ではコストを軸とした健康と豊かさの評価、費用対効果の概念を中心に、公衆衛生の経済学的側面の基礎を身につける。

2. 授業の到達目標

【一般目標(GIO)】

1. 医療経済学をコスト・効果の対比で理解する。

【行動目標(SBO)】

1. 保健と医療の文脈における経済学および経済学的手法について説明できる
2. コストの概念を説明できる
3. クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)を測定し、評価するための技術を説明できる
4. 費用対効果分析の概念を理解できる

3. 成績評価の方法および基準

- (1) 授業における議論への参加度(50%)
- (2) 最終の口頭試験(50%)

4. 教科書・テキスト

・特に指定しない。

5. 参考書

・講義で紹介。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・事前に講義用資料が専用HP上に公開される。
- ・当該期間に16時間以上の予復習が必要。

7. その他履修上の注意事項

- ・各回終了後には、日本人教員による補講が行われる。
- ・試験やレポートに対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。
- (※)年度により開講内容が異なる場合があり、Ⅰ～Ⅲのいずれかを開講する。
- (※)担当教員については変更となる場合があるが、その場合は記載がある予定教員と同等レベルの教員が任命される。
- (※)また、具体的な授業日時、授業内容については毎年9月-10月頃に設定され、決まり次第学生に対して通知する。

＜授業計画＞

特別講義(保健政策・医療管理学の展開Ⅰ～Ⅲ)

回数	日付	時限	担当者	授業内容
1	1/20(土)	1	Alastair Gray 教授(客)	経済、医療、そして医療経済学
2	1/20(土)	2	Alastair Gray 教授(客)	経済学の手法を医療分野に適用する
3	1/21(日)	1	Alastair Gray 教授(客)	コスト
4	1/21(日)	2	Alastair Gray 教授(客)	疾病のコストと負担
5	1/22(月)	1	Alastair Gray 教授(客)	クオリティ・オブ・ライフの測定と評価
6	1/22(月)	2	Alastair Gray 教授(客)	疾病のモデリングと意思決定モデル
7	1/23(火)	1	Alastair Gray 教授(客)	優先順位決定のための費用対効果分析の導入
8	1/23(火)	2	Alastair Gray 教授(客)	還付決定のための費用対効果の導入(英国のNICEを例に)

科目名	保健政策・医療管理学特殊研究	code number : HPM 510	選択必修	12 単位
-----	----------------	--------------------------	------	-------

科目責任者	各指導教員						
配当年次	1～3年次	配当学期	通年	曜日・時限	(個別設定)	授業方法	演習

1. 授業の概要

論文作成能力に加えて、保健医療システムの変革者(Change Agent)として具体的な成果を生み出すことができる。
(より具体的な行動目標については、別途予定されている合同ガイダンスや研究指導教員との個別面談を通じて学生ごとに設定する)

2. 授業の到達目標

保健政策・医療管理学分野の研究テーマにおいて、公衆衛生学の研究者として必要とされる調査研究方法や論文作成をはじめとする研究手法について指導を実施する一方、学生自らが自立して研究テーマを模索し、結果をまとめ、情報を発信する実践者としてのコンピテンス(成果達成のために求められる能力)を身に付けることを基本目標とする。
尚、個々の学生のこれまでのキャリア、能力、進路希望等を踏まえた適切な指導を実施する。

3. 成績評価の方法および基準

最終成果物としての研究発表だけでなく最終成果にいたるプロセスも評価対象とする。
(詳細については、別途予定されている学位論文に関するガイダンスで説明する)

4. 教科書・テキスト

・適宜提示する。

5. 参考書

・適宜提示する。

6. 準備学修の内容およびそれに必要な時間

- ・まずは学生各自の本分野における高い問題意識が重要である。
その上で、研究指導教員との議論を通じて問題解決に向けた研究能力・実践能力の能力開発を継続的に行っていく。
- ・研究内容や時期によって研究に使う時間は変動するものであるが、継続的に研究時間を確保することが重要である。

7. その他履修上の注意事項

- ・学位申請の手引き等により、計画審査、中間審査および学位審査に至る流れを理解し、数年間の長期計画を立案し実行する。
- ・毎月末、1か月間の学習や研究活動などについて、指導教員に報告する。
- ・この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

回数	日付	時限	担当者	授業内容
【概要】 保健政策や医療管理学の分野の研究で特に必要とされる研究手法について、深く追求する。特に理論面を重視して、現実社会への応用を評価してゆく。具体的内容は各研究課題に合わせて柔軟に対応する。 【研究指導教員と主な指導内容】 研究指導教員は個々の学生の研究テーマに応じて以下の研究指導教員から指名される。指導日程については当該研究指導教員と相談し別途定める。 (中田善規) 医療管理学の実務に活かされるような現場でのデータ収集と分析方法などを研究指導する。 (福田吉治) 国内外の保健医療政策に必要なヘルスポリシーの計画、実施および評価の手法に関する研究指導をする。 (矢野榮二) エビデンスベースの公衆衛生学を指導する。 (高橋謙造) 地域保健や国際母子保健、プライマリ・ヘルス・ケア等に資する政策分析の研究指導をする。 (井上まり子) 国内外の保健医療政策の科学的根拠になるような疫学研究などを研究指導する。 (崎坂香屋子) 国際保健政策の観点から途上国等での医療政策、健康格差等フィールドベースの疫学研究の指導を行う。				

平成29年度 公衆衛生学研究科 履修届

博士後期課程

提出日 平成 年 月 日

学籍番号

研究指導教員

学生氏名 ㊞

職位 氏名 ㊞

科目区分等	Code	numoher	科目名	単位数	登録	登録単位	特記事項
共通科目	HPM	214	リーダーシップ・マネジメント特論	必修	1	0	
	EPI	201	基礎疫学特論	選択必修	2	0	
	BIO	201	基礎生物統計学特論		2	0	
	HBS	201	健康行動科学特論		2	0	
	HPM	201	保健政策・医療管理学特論		1	0	
	OEH	211	産業環境保健学特論		1	0	
	ID	201	公衆衛生倫理学特論		1	0	
	ID	101	医学基礎・臨床医学特論		2	0	
専門科目	疫学・生物統計学分野	EPI	221	選択必修	1	0	
		BIO	211		1	0	
		BIO	510		12	0	
		EPI	251	選択	1	0	
		BIO	601		1	0	
		BIO	301		1	0	
		BIO	612		1	0	
		BIO	611		1	0	
		BIO	241		1	0	
		BIO	321		1	0	
		EPI	401～403		1	0	
		BIO	401～403		1	0	
		HBS	401～403		1	0	
	産業環境保健学分野	OEH	231	選択必修	1	0	
		OEH	510		12	0	
		OEH	232		1	0	
		OEH	251	選択	1	0	
		OEH	212		1	0	
		OEH	213		1	0	
		OEH	401～403		1	0	
	保健政策・医療管理学分野	HPM	201	選択必修	1	0	
		HPM	211		1	0	
		HPM	510		12	0	
		HPM	601	選択	1	0	
		HPM	603		1	0	
		HPM	401		1	0	
		HPM	411		1	0	
		HPM	421		1	0	
		HPM	401～403		1	0	

※提出は4月20日(木)まで【提出ボックス№39】

総単位数 0

研究科長	教務部長

履修科目変更届(願)

平成 年 月 日

公衆衛生学研究科長 殿

学籍番号 _____

学生氏名 _____ (印)

研究指導教員

職 位 _____

氏 名 _____ (印)

下記のとおり履修科目の変更を申請いたします。

	科目区分	科目名称	単位数	変更後(該当に○印)
1				履修 ・ 取り消し
2				履修 ・ 取り消し
3				履修 ・ 取り消し
4				履修 ・ 取り消し
5				履修 ・ 取り消し
6				履修 ・ 取り消し
7				履修 ・ 取り消し
8				履修 ・ 取り消し

事務部記入欄

受付日:

処理日:

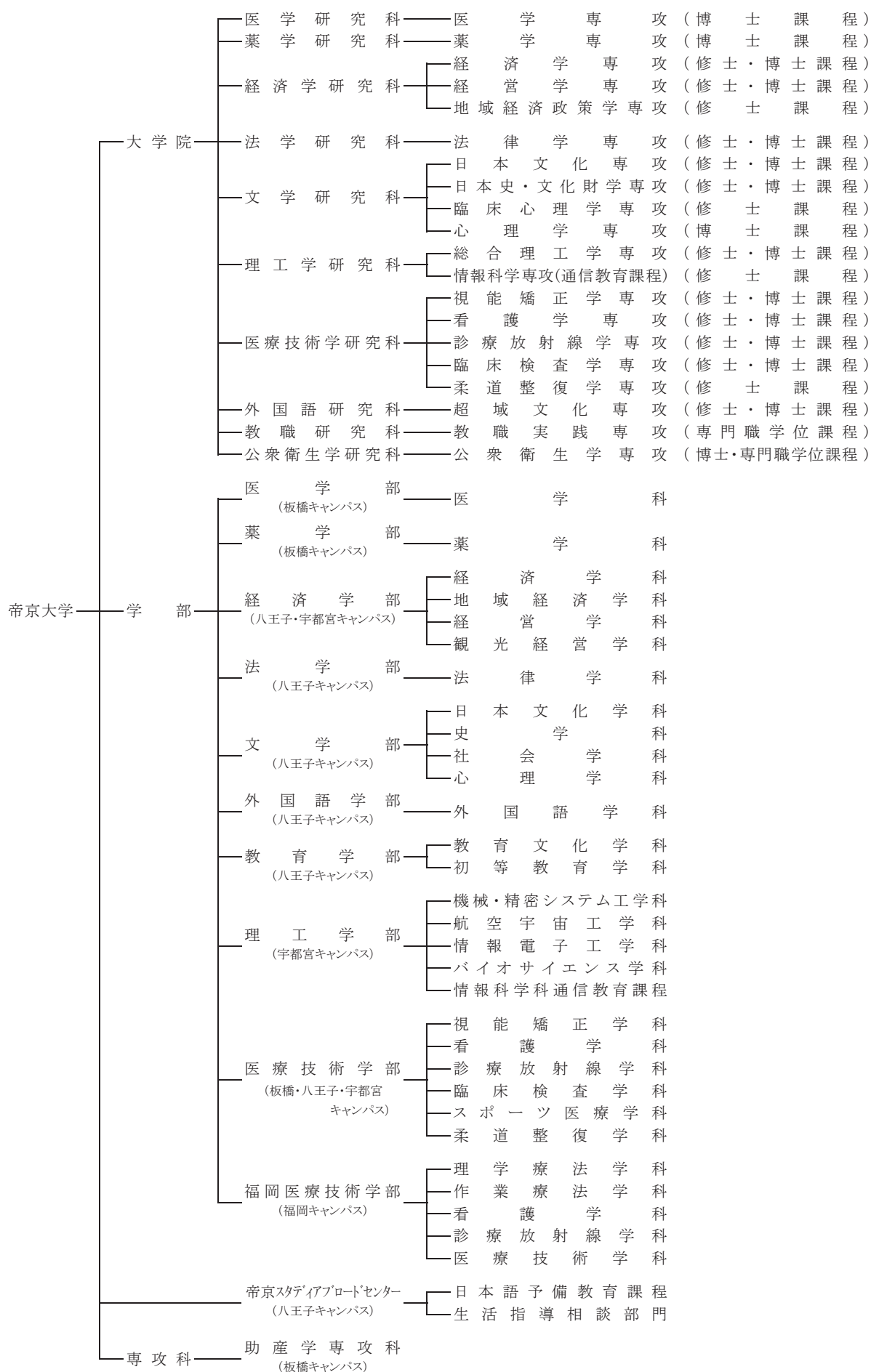
--	--

公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 博士後期課程

帝京大学 組織図・規程関係

1. 帝京大学組織図	263
2. 帝京大学大学院学則	264
3. 帝京大学学位規程	270
4. 帝京大学大学院 博士後期課程学位運用規程	272
5. 帝京大学大学院 博士論文公表に関する施行細則 ..	279
6. 早期修了に関する運用規程	281

帝京大学組織図



共

通

帝京大学大学院学則

(公衆衛生学研究科抜粋)

第1章 総則

第1条 本大学院は、「努力をすべての基とし 偏見を排し 幅広い知識を身につけ 国際的視野に立って判断ができ 実学を通して創造力および人間味豊かな専門性ある人材の養成を目的とする」という建学の精神に則り、学部の基礎の上に、さらに次のことをそれぞれの目的とする。

(1) 本大学院博士課程は、研究者養成を主眼とし、専門分野について研究者として自立して研究活動を行い、またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(2) (省 略)

(3) 本大学院専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した実践的能力を培うものとする。

第2条 本大学院の課程は、博士課程、修士課程及び専門職学位課程とする。

第3条 博士課程は、医学研究科、薬学研究科を除き前期及び後期に区分し、前期の課程を博士前期課程、後期の課程を博士後期課程という。

2、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱う。

第4条 本大学院に、医学研究科、文学研究科、薬学研究科、経済学研究科、法学研究科、理工学研究科、理工学研究科(通信教育課程)、医療技術学研究科、外国語研究科、教職研究科及び公衆衛生学研究科をおく。

第5条 本大学院の各研究科の目的は次のとおりとする。

(1) ～ (10) (省 略)

(11) 公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するために、様々な公衆衛生上の諸課題に対して指導的立場で且つ科学的判断に基づく問題解決型の対処ができる高度専門職業人と、その活動を統括指導できる公衆衛生の高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ上級管理者・上級指導者としての人材の養成を目的とする。

第2章 専門課程

第6条 本大学院のそれぞれの研究科に、次の表の中欄に掲げる専攻及び右欄に掲げる課程の区分をおく。

研究科名	専 攻	課程の区分
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻	専門職学位課程 博士後期課程

第3章 学生定員

第7条 本大学院の学生定員は次のとおりとする。

研究科名	専攻名		入学定員	総定員
公衆衛生学研究科	専門職学位課程	公衆衛生学専攻 2年コース	10	20
		1年コース	10	10
		計	20	30
	博士後期課程	公衆衛生学専攻	6	18

第4章 修業年限及び学年・学期

第8条 1～3（省略）

4、公衆衛生学研究科(専門職学位課程)2年コースの標準修業年限は、2年とし、同1年コースの標準修業年限は、1年とする。

第9条 在学期間は、公衆衛生学研究科の博士後期課程は6年をそれぞれ超えることはできない。
（一部省略）

2、公衆衛生学研究科(専門職学位課程)の在学期間は、2年コースは4年、1年コースは2年をそれぞれ超えることはできない。

第10条 入学の時期は、各学期の始めとする。

2、学年は、原則毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

3、学期は、次のとおりとする。ただし、事情によって多少異なる場合がある。

前期または春学期 4月1日より9月30日まで

後期または秋学期 10月1日より翌年3月31日まで

4、休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日でも特に授業を行いまたは試験を行うことがある。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する日

(3) 本大学創立記念日(6月29日)

(4) 春期休業

(5) 夏期休業

(6) 冬期休業

(7) 臨時の休業日及びその他の変更については、その都度これを定める。

第5章 学科目及び履修方法

第11条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用による多様な方法により行うものとする。

- 2、前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- 3、第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。
- 4、第1項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

第12条 1、2 （ 省 略 ）

- 3、本博士後期課程の修了の要件は、3年以上在学し、各研究科の定めるところにより、所要の研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。なお、修士課程、博士前期課程または専門職学位課程の在学期間とあわせ、3年以上在学していなければならない。
- 4、5 （ 省 略 ）

- 6、公衆衛生学研究科の専門職学位課程の2年コースは、2年以上在学し、30単位以上を修得することを修了の要件とし、同1年コースは、1年以上在学し、30単位以上を修得することを修了の要件とする。

第13条 （ 省 略 ）

第14条 指導教授が教育上有益と認めたときは、研究科委員会の議を経て、他の大学院等において、その授業科目を履修させることができる。

- 2、前項の規定により修得した単位は、10単位を限度に課程修了の要件となる単位として取り扱うことができる。
- 3、指導教授が教育上有益と認めたときは、研究科委員会の議を経て、他の大学院等において、その研究指導を受けさせることができる。

第14条の2 指導教授が教育上有益と認めたときは、研究科委員会の議を経て、入学する前に他の大学院等において修得した単位について、入学後の当該研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2、前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、前条第一項の規定により当該研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて、10単位を限度に課程修了の要件となる単位として取り扱うことができる。

第15条 学生の教育研究を指導するため、各学生ごとに研究指導教員を定める。

第16条 学生は、研究指導教員の指示によって授業科目を履修するものとする。

- 2、学生は、履修しようとする授業科目を、学年または学期の始めの指定する期日までに所定の様式により届出なければならない。

第17条 学生は、学位論文の作成等に関し、研究指導教員の指示により必要な研究指導を受けなければならない。

第6章 課程修了の認定

第18条 (省 略)

第7章 学位

第19条 本学各研究科の博士課程または博士後期課程において、第12条に定めるところにより、所定の期間在学し、所定の単位を修得の上、学位論文の審査及び試験(最終試験)に合格した者には、下記の学位を授与する。

研究科名	専 攻	課程の区分	授与学位
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻	博士後期課程	博士(公衆衛生学)

2、前項の規定により学位を授与される者の学位論文と同等またはそれ以上の内容を有し、かつ、専攻学術に関し同様に広い学識を有することが試問により確認された者は、前項の規定によらず論文提出により学位を授与することができる。

3、(省 略)

4、本学各研究科の専門職学位課程において、第12条に定めるところにより、所定の期間在学し、所定の単位を修得した者には、下記の学位を授与する。

研究科名	専 攻	課程の区分	授与学位
公衆衛生学研究科	公衆衛生学専攻	専門職学位課程	公衆衛生学修士(専門職)

第8章 入学、休学、転学及び退学

第20条 ～ 第24条 (省 略)

第25条 病気その他やむを得ない事由のため休学または退学しようとする者は、その事由を証明する書類を添え、保証人と連署で休学願、または退学願を提出して学長の許可を受けなければならない。

2、休学期間は、1年以内とするが、その事情によっては2年以内まで認めることがある。ただし、在学期間に算入しない。

3、一旦退学した者が再入学しようとする場合には、事情によって許可することがある。詳細については別に定める。

第26条 次の各号の1に該当する者に対しては、退学を命ずることがある。

- (1) 学力劣等で成業の見込がないと認められた者
- (2) 正当の理由がなく出席常でない者

第27条 次の各号の1に該当する者は除籍とする。

- (1) 第9条に定める在学年限を超えた者
- (2) 学費を所定の期日までに納入しなかった者

- (3) 長期にわたり音信不通の者
- (4) 在学中に死亡した者
- 2、 除籍された者は、退学願を提出することができない。
- 3、 第1項第2号により除籍となった者で復籍を希望する場合は、第25条第3項を準用する。
詳細については別に定める。

第9章 学費

第28条 (省 略)

第29条 本大学院に入学を許可された者は、所定の入学金及び学費を納めなければならない。
(一部省略)

第30条 すでに納めた授業料その他の学費及び学位論文審査料は、原則としてこれを返還しない。

第31条 学年の途中で退学した者でも、その期の学費は納めなければならない。

第10章 特別聴講学生、科目等履修生、特別研究学生、 研究生、委託生及び外国人留学生

第32条 国内の他の大学の大学院学生が、本大学院の専攻に関する授業科目を履修し、単位を修得しようとするときは、当該大学と本学との協議に基づき、特別聴講学生として授業科目を履修させることができる。

2、外国の大学の大学院学生が、本大学院の専攻に関する授業科目を履修し、単位を修得しようとするときは、前項の規定を準用する。

3、特別聴講の許可及び単位認定等については、別に定める。

第33条 本学生以外の者で本大学院が開設する一または複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障がない限り選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2、科目等履修生に関する規則は、別に定める。

第34条 (省 略)

第35条 本大学院の研究生及び外国人留学生の受け入れについては、大学学則の規定を準用する。
(一部省略)

第11章 教員並びに運営

第36条 ～ 第39条 (省 略)

第12章 賞罰

第40条 人物及び学業優秀な者は、これを表彰することがある。

第41条 学生が、本大学院の規則若しくは、命令に背き、または学生の本分に反する行為があったときは、懲戒処分に付することができる。

2、懲戒には、譴責・停学・退学の3種がある。処分の手続等については、別に定める。

第42条 前条の懲戒は、次の各号の1に該当する者に対して行うことができる。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められた者。
- (2) 学業を怠り、成業の見込がないと認められた者。
- (3) 学内の秩序を乱した者。
- (4) 本学の体面をけがした者。
- (5) その他本大学院生としての本分に反する行為のあった者。

第43条 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学位を取り消すものとする。
また、学位を得た者がその名誉を汚辱する行為をしたときは、その授与した学位を取り消すことがある。

第13章 雑則

第44条 この学則に定めるもののほか、医学研究科、文学研究科、薬学研究科、経済学研究科、法学研究科、理工学研究科、理工学研究科(通信教育課程)、医療技術学研究科、外国語研究科、教職研究科及び公衆衛生学研究科の学生に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

(省 略)

帝 京 大 学 学 位 規 程

(公衆衛生学研究科抜粋)

(目 的)

第1条 この規程は、帝京大学 学則および帝京大学大学院 学則に定めるもののほか、学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）に基づき、帝京大学（以下「本学」という）が授与する学位について、必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士、教職修士、公衆衛生学修士および博士とする。

2～4 (省 略)

5 公衆衛生学修士の種類は、次のとおりとする。

公衆衛生学修士（専門職）

6 博士の種類は、次のとおりとする。

(一部省略)

博 士（公衆衛生学）

(学位授与の要件)

第3条 本学の学部を卒業した者および大学院各研究科の課程を修了した者には、本学学則および大学院学則の定めるところにより、前条の学位を授与する。

2 (省 略)

(学位の申請)

第4条～第14条 (省 略)

(学位の授与)

第15条 学長は、研究科委員会の議決に基づいて、第3条第1項の規定による者については大学院当該課程の修了の可否、第3条第2項の規定による者については、その論文の可否を決定し、合格者には学位を授与する。不合格者には、その旨を通知する。

(学位論文の要旨等の公表)

第16条 本学は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3ヶ月以内に、その学位論文の内容の要旨および審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

(学位論文の公表)

第17条 博士の学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その学位論文を公表しなければならない。ただし、すでに公表している場合にはこの限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない事由がある場合には、研究科委員会の委員長の承認を得て、当該論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合、当該研究科は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定により学位論文を公表する場合には、帝京大学審査学位論文である旨を明記し、インターネットの利用により行うものとする。

(学位授与の取り消し)

第18条 学士、修士、教職修士、公衆衛生学修士または博士の学位を授与された者が、その名誉を汚す行為をしたとき、または不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、研究科委員会の議を経て、学位の授与を取り消し、学位記を返却させ、かつ、その旨を公表する。

2 研究科委員会において前項の議決をする場合には、第13条第2項の規定を準用する。

(学位記の再交付)

第19条 学位記の再交付は原則として行わない。ただし、やむを得ない事由があり、学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を記載した申請書に再交付手数料を添えて、学長に願い出なければならない。

2 学位記再交付手数料は別に定める。

(登 録)

第20条 本学において学位を授与したときは、学長は学位簿に登録し、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3ヶ月以内に、その旨を文部科学大臣に報告するものとする。

(学位記および関係書類の様式)

第21条 学位記の様式は、別表のとおりとする。

2 学位申請関係書類の様式は、研究科委員会の定めるところによる。

第22条 この規程の改正には、教授会または研究科委員会の意見を聞いて学長が行う。但し、学長は理事長の承認を受けるものとする。

附 則

(省 略)

帝京大学大学院公衆衛生学研究科博士後期課程学位運用規程

(目 的)

第1条 この規程は、帝京大学（以下、「本学」という）学位規程に基づき、本学大学院公衆衛生学研究科（以下、「本研究科」という）博士後期課程（以下、「本課程」という）において授与する学位の種類、学位授与の考え方、学位の申請、審査の方法、その他学位に関する必要な事項を定めることを目的とする。

(学位の種類)

第2条 本課程において授与する学位は、博士（公衆衛生学）とする。

(学位授与の目的)

第3条 本課程における学位授与の目的は、本学大学院学則（以下、「学則」という）第5条第11項の教育目的に則り、患者や地域住民の健康回復・増進と、社会全体の健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上に寄与するという基本理念を実現するために、変動発展する社会と科学技術に対応し、新規の問題に対して科学的な分析を行い、その結果と解決策を科学的根拠に基づいて提示・実践し、評価できる能力に加えて、そのような成果を達成するために求められるリーダーシップ、マネジメント能力、コミュニケーション能力等を併せ持つ上級管理職・上級指導者を養成することである。

(学位授与の要件)

第4条 本課程は、前条の目的に沿って、現実の保健医療問題の改善・解決や人々の健康水準の向上を図るという公衆衛生課題に対する具体的な成果を達成し、また、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有すると認められた者に学位を授与する。

(学位の申請資格)

第5条 学位を申請できる者は、以下の各号をすべて満たす者とする。

- (1) 学位申請日に、本課程の第3年学年に在学している者。
 - (2) 本課程修了の要件として規定する所要の授業科目について、必要とする単位を修得している者（見込みを含む）。
 - (3) 学位論文の作成に対して研究指導教員より必要な研究指導を受けている者。
 - (4) 本研究科の教授3名以上から構成される内部審査会による計画審査（公衆衛生課題の対策に向けた計画（以下、「プロジェクト」という）の審査）によりプロジェクト開始の承認を得、かつ中間審査（プロジェクト開始後の中間成果物の審査）により学位の申請資格があると認められた者。
- 2 本課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得したのみで退学した者については、単位修得退学後3年以内であれば、前項に則り学位を申請することができる。
- 3 学則第12条3項により、優れた研究業績をあげた者については、本条第1項第1号の

在学年限に関わらず学位を申請することができる。

(学位の申請)

第6条 学位を申請する者は、学位論文に加えて第10条に規定される学位申請に必要な提出書類一式（以下、「学位申請書類」という）を、学位論文の指導教員を経て学長に提出しなければならない。

2 学位申請とは、学位申請書類が、大学事務局に提出された状態をいい、提出が完了した日を学位申請日とする。

(学位論文)

第7条 前条の規定により提出する学位論文とは、プロジェクトの策定ならびにこれについての調査・研究、さらに可能な場合は部分的な対策実施を行い、これら全ての活動の結果をまとめた成果報告書をいう。

2 学位申請者の単独論文でなければならない。

3 審査のため必要があるときは、学位論文の一部としてプロジェクトの成果に関連する参考論文、さらに学位論文とは別に参考資料を提出させることができる。

(参考論文)

第8条 参考論文は、印刷公表されたものであることを原則とする。ただし、印刷公表されることが確かな場合には、この限りではない。

2 参考論文が掲載される学術定期刊行物はレフェリー制度を備えたものでなければならない。

3 学位申請者が筆頭著者もしくは主要筆者（コレスポンディングオーサー）であること。

(参考資料)

第9条 参考資料は、学位申請者が著作に係わった著述業績のうち、原著の研究論文またはそれに準ずる内容を持ったものを指す。

2 参考資料は、学術定期刊行物等に掲載されたもの、プロジェクトの活動に関する報道により公開された情報、または、プロジェクトやその実施の成果を示した公的な報告書の類などをいう。

(学位申請書類)

第10条 学位を申請する者は、以下の各号の書類を提出し、所定の手数料を納入しなければならない。

- | | |
|---------------|--------------------|
| (1) 学位論文審査申請書 | 1 通 |
| (2) 学位論文 | 5 通 |
| (3) 参考論文 | 各 5 通（該当しない場合は除く。） |
| (4) 参考資料 | 各 5 通（該当しない場合は除く。） |

- (5) 学位論文要旨 3 通
- (6) 参考論文・参考資料目録 3 通
- (7) 履歴書 1 通
- (8) 写真 1 葉
- (9) 戸籍抄本または個人事項証明書 1 通
- (10) 最終学歴校の卒業証明書 1 通
- (11) 学位論文全文のインターネット公表確認書 1 通
- (12) その他、本研究科委員会が必要と認めたもの
- (13) 審査料
- (14) 倫理委員会からの審査結果通知書の写し 1 通（該当しない場合は除く。）

2 前項の規定により提出した書類および納付した審査料などは、還付しない。

3 本条第1項第5号に規定される学位論文要旨は、以下の各号によるものとする。

- (1) 冒頭に論文題名、著者名が、明記されていること。
- (2) 学位論文の内容を2000字から2500字程度に要約したものであること。
- (3) 用紙の大きさは、日本工業規格A4版とする。

4 学位申請者が参考論文や参考資料に該当する業績を持たない場合は、本条第1項第3号、第4号、第6号に規定される書類の提出を要しない。

5 本条第1項第7号に規定される履歴書は所定の様式によるものとする。ただし、記載項目のうち学会発表については、一覧表を添付することで代えても良い。

6 本条第1項第7号に規定される履歴書に記載する学会発表は、演者全員の氏名、発表題名、発表した学会名称および開催回数、発表年月日を記載するものとする。

7 本条第1項第7号に規定される履歴書に記載する学歴、職歴に、休学、休職の期間がある場合には、その期間を明示しなければならない。

8 本条第1項第8号に規定される写真は、以下の各号を満たすものとする。

- (1) 縦4cm×横3cmの大きさであること。
- (2) 証明用写真として不適切な写真は、不可とする。
- (3) 履歴書の所定欄に貼付すること。

9 本条第1項第9号に規定される戸籍抄本または個人事項証明書は、学位申請日の3ヵ月前の日以後に発行されたものであること。

10 本条第1項第13号に規定される審査料の金額および納入については、別に定める。

第11条 第5条第2項の申請資格で学位を申請する者については、第10条に規定される提出書類のほか、本課程の単位修得証明書を提出しなければならない。

(学位申請の時期)

第12条 第5条第1項の該当者は、第3学年に在学する年度の4月1日以後随時学位申請を行うことができる。

2 第5条第2項の該当者は、退学日から3年以内に随時学位申請を行うことができる。

- 3 第5条第3項の該当者のうち第1学年もしくは第2学年に在学する者については、当該学年に在学する年度の11月1日以後随時学位申請を行うことができる。

(学位申請の受理)

- 第13条 第6条の規定により学位の申請があったとき、本研究科委員会は、提出書類をもとに、学位申請者の申請資格と手続きの妥当性を確認する。
- 2 第5条第3項の申請資格で学位申請した者については、申請者が本課程在学中に上げた研究業績が、学則第12条第3項に規定される優れた研究業績に該当することを、本研究科委員会によって承認されなければならない。
 - 3 本研究科委員会によって学位申請者の申請資格および手続きに問題ないことが確認された場合、学長は学位申請をすべて受理する。
 - 4 学位申請者が申請資格を満たしていることおよび手続きに不備がないことが確認された本研究科委員会の開催日を、学位申請の受理日とする。

(研究科委員会付託)

- 第14条 学長は、前条の規定により受理することに決定した学位申請について、その審査を本研究科委員会に付託する。

(審査委員会および審査委員)

- 第15条 前条の規定により審査を付託された本研究科委員会は、審査委員会を設ける。
- 2 審査委員会は、3名以上5名以下の委員で構成するものとする。
 - 3 審査委員は、審査する学位論文に関連ある分野を専門領域とする本研究科委員会委員の教授から2名以上、本研究科所属以外の本学教授または他大学の大学院教授（必要に応じて海外提携校の教員を含む）や研究所等の教員または実務家から1名以上を選ぶことを原則とする。
 - 4 本研究科委員会が必要と認めたときは、前項の規定にかかわらず、本研究科所属の准教授または講師を審査委員会に加えることができる。
 - 5 学位論文の研究指導教員は審査委員には含めない。
 - 6 審査委員のうち1名を主査とし、他を副査とする。主査は、委員長として審査委員会を主催する。
 - 7 審査委員は、本学研究科委員会の承認に基づき、学長が任命する。
 - 8 審査委員会は、委員全員の出席がなければ成立しない。

(審査内容と審査期間)

- 第16条 審査委員会は、審査として学位論文の審査および最終試験を実施する。
- 2 審査委員会は、学位申請の受理日から3ヵ月以内に審査を終了しなければならない。ただし、特別な事由があるときは、本研究科委員会の議を経て、その期間を1年以内に限り延長することができる。

(学位論文の審査)

第17条 学位論文の審査は、学位申請者がその専攻分野において、プロジェクトと具体的な成果をまとめた成果報告書が、学位申請者自らの計画と調査・研究、対策実施に基づいたものであることを確認するとともに、本学が博士（公衆衛生学）の学位を授与するにふさわしい、成果の達成状況や、それを達成するための能力（コンピテンシー）を有することを確認するものである。

- 2 論文審査における口答発表は原則公開することとする。ただし、審査委員以外の者は委員長の許可なく発言することはできない。

(最終試験)

第18条 審査委員会は、論文審査終了後すみやかに最終試験を実施するものとする。ただし、論文審査の結果、審査委員会が、学位論文の内容が著しく不良であると認めたときは、最終試験を行わないことができる。

- 2 最終試験は、学位論文を中心とし、審査委員全員により原則として口答で行い、必要に応じて筆答にて行う。

(審査委員会の結果報告)

第19条 審査委員会は、論文審査の結果および最終試験の結果を文書で本研究科委員会に提出する。ただし、第18条第1項ただし書きの規定により、最終試験を行わなかった場合は、最終試験に係る報告を要しない。

- 2 提出する書類は、以下の各号のとおりとする。

- (1) 審査報告書
- (2) 審査委員会の論文審査要旨
- (3) 各審査委員の論文審査要旨

- 3 本条第2項第1号の審査報告書は、以下の各号について報告するものとする。

- (1) 論文審査の判定
- (2) 最終試験の結果確認された専攻学術の判定
- (3) 学位授与の可否

- 4 本条第3項第1号の論文審査の判定は、可または否のいずれかとする。

- 5 本条第3項第2号の最終試験の結果確認された専攻学術は、可または否のいずれかとする。

- 6 本条第3項第3号の学位授与の可否は、可または否のいずれかとする。

- 7 主査および副査は、以下の各号の内容または意見を中心とした審査の要旨を文書にまとめ、本条第2項第3号の報告書に記載する。

- (1) 学位論文の大意
- (2) 学位論文の公衆衛生学上の成果
- (3) 前号の成果を達成するための能力（コンピテンシー）

(4) 公衆衛生課題に対する問題解決能力

(5) 最終試験の結果

8 主査は、審査委員会全体の審査の要旨を文書にまとめ、本条第2項第2号の報告書に記載する。中心となる報告事項は前項の各号に準ずる。

9 審査委員会は、論文審査および最終試験の成績により学位授与の可否について最終意見を述べる。

(研究科委員会の審議)

第20条 本研究科委員会は、提出された審査委員会からの審査報告書、審査要旨および審査委員会主査の説明に基づいて、審査結果を審議する。ただし、公務または出張もしくは病気などのやむを得ない理由により主査が説明できない場合には、副査が代行するものとする。

2 本研究科委員会は、前項の審議に基づき学位授与の可否を議決するものとする。

3 学位授与の可否の議決は、本研究科委員会委員全員の2分の1以上が出席し、出席者の3分の2以上の賛成により決定する。ただし、公務または出張、休職中などのやむを得ない理由のため出席することができない委員は委員の数に算入しない。

4 本研究科科长は、本条第2項の議決の結果を、文書で学長に報告しなくてはならない。

(学位の授与)

第21条 学長は、本研究科委員会の審議に基づいて、学位を申請した者に審査の可否を決定し、合格者には学位を授与する。

2 不合格者には、その旨を通知する。

(学位論文要旨ならびに学位論文全文の公表)

第22条 本学が博士の学位を授与したときは、本学学位規程第16条および第17条に則りその学位論文をインターネットの利用により公表する。

2 施行細則は別に定める。

(学位の名称の使用)

第23条 博士（公衆衛生学）の学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、帝京大学博士（公衆衛生学）とする。

(学位授与の取り消し)

第24条 博士（公衆衛生学）の学位を授与された者が、その名誉を汚す行為をしたとき、または不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は本研究科委員会の議を経て博士（公衆衛生学）の学位の授与を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表する。

2 本研究科委員会において前項の議決を行うには、委員会構成員の3分の2以上の出席を必要とし、かつ出席委員の4分の3以上の賛成がなければならない。

(学位記の再交付)

第25条 学位記の再交付は原則として行わない。ただしやむを得ない事由があり、かつ、再交付することが可能な場合に限り交付することがある。

2 学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を記載した申請書に再交付手数料を添えて、学長に願い出なければならない。

3 学位記再交付手数料は、別に定める。

(登録ならびに文部科学大臣への報告)

第26条 本学において博士（公衆衛生学）の学位を授与したとき、学長は、学位簿に登録し、学位を授与した日から3ヵ月以内にその旨を文部科学大臣に報告する。

(学位記)

第27条 学位記の様式は別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成26年4月1日より施行する。

2 この規程は、平成28年10月1日より施行する。

**帝京大学大学院医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科
博士論文公表に関する施行細則**

(目的)

第1条 この規程は、帝京大学（以下「本学」という）大学院医学研究科、薬学研究科、医療技術学研究科、公衆衛生学研究科（以下「研究科」という）において、本学学位規程（以下「学位規程」という）に基づき学位論文の公表について必要な事項を定める。

(公表の方法)

第2条 学位規程第16条ならびに第17条に定めるインターネットの利用による公表は本学学術機関リポジトリ（以下「機関リポジトリ」という）により公表することをいう。

(論文要旨等の公表)

第3条 本学において博士の学位を申請する者は、学位論文要旨を電子ファイルにより板橋キャンパス事務部に提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により提出された書類を受理し、機関リポジトリにおいて当該博士の学位を授与した日から3ヶ月以内に学位論文要旨および審査の結果の要旨を公表する。

(論文全文の公表)

第4条 本学において博士の学位を申請する者は、学位論文全文の電子ファイルおよび博士論文全文のインターネット公表確認書（所定の用紙）を板橋キャンパス事務部に提出しなければならない。

2 学長は、前項の規定により提出された書類を受理し、機関リポジトリにおいて当該博士の学位を授与した日から1年以内に博士論文全文を公表する。

3 学位論文を機関リポジトリにより公表できないやむを得ない事由がある者は、当該研究科の承認を得て、当該博士論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。

4 研究科は前項により、学位論文の要約が提出された場合は、当該博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

5 第3項に定めるやむを得ない事由とは以下のものをいう。

- (1) 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合。
- (2) 博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合。
- (3) 出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士の学位を授与された日から1年を超えて生じる場合。
- (4) その他相当の事由がある場合。

6 第3項に該当する場合において、やむを得ない事由がなくなったときは、すみやかに学位論文全文の電子ファイルおよび博士論文全文のインターネット公表確認書（所定の用紙）を板橋キャンパス事務部に提出しなければならない。

附則

1 この細則は、平成25年4月1日から施行する。

帝京大学大学院公衆衛生学研究科博士後期課程早期修了に関する運用規程

(目 的)

第1条 この規程は、帝京大学大学院学則第12条第3項に基づき、大学院公衆衛生学研究科博士後期課程の在学年限の特例に関する取扱いについて定めることを目的とする。

(適用条件)

第2条 在学年限の特例の適用を受けて博士後期課程を修了すべく学位論文を提出できる者は、次のすべてに該当している場合とする。

- (1) 早期修了予定の学年末に、修了に必要な所定の単位を修得する見込みのある者。
- (2) 研究指導教員から推薦された者。
- (3) 帝京大学大学院公衆衛生学研究科博士後期課程学位運用規程（以下「学位運用規程」という）第7条第1項に関連した業績について、学位申請者が学位運用規程第4条の学位授与の要件（コンピテンシー）を満たし、以下のいずれかに該当する場合。
 - (ア) 学位申請者が単独であるいは中心となり作成した公衆衛生に関連した事業計画書やガイドラインが全国的、国際的な基準として導入された場合。あるいは実際に立法化、政策化、実施された場合。
 - (イ) 学位申請者が単独であるいは中心となり実施したプロジェクトの報告書が国内外で評価の高い専門職団体・学術団体で表彰・受賞を受けた場合。
 - (ウ) 学位申請者が単独であるいは中心となり実施した取組を執筆した論文が公衆衛生領域の学術定期刊行誌に掲載された場合。あるいはこれらの取組が特許として認められた場合。

- 2 前項第3号の基準に関わらず、公衆衛生学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）が種々の事情を考慮し、特に必要と認めた場合に限り、特例として前項の基準を満たすものとして適用することができる。

(修了の時期)

第3条 この規程による博士後期課程修了の時期は、修士課程、博士前期課程または専門職学位課程と博士後期課程あわせた在学年数が3年目以降の学年末とする。なお、在学年数については、本学公衆衛生学専門職学位課程以外の在籍期間は個別に審議する。

(必要手続)

第4条 在学年限の特例の適用を受けようとする者は、第3条で定める早期修了予定年次の11月14日（日曜・祝日の場合は翌日）までに、学位運用規程第10条に定められている必要書類に加え、研究指導教員による早期学位申請に関する推薦書および研究業績一覧の提出を必要とする。

(資格審査)

第5条 在学年限の特例の適用を受けようとする者の資格審査は、前条の申請後、速やかに研究科委員会にて個別に審査し、承認されなければならない。

(決定通知)

第6条 在学年限の特例の適用を受けようとする者の申請が許可された場合には、速やかに当該申請者に通知し、所定の学位論文審査手続きを行うものとする。

(学位審査)

第7条 学位運用規程に則り、学位論文審査を行い、学位申請受理日から3ヵ月以内に、研究科委員会で審査の結果を報告しなければならない。

(学位授与)

第8条 学位授与については、原則として修了年度の帝京グループ卒業式で行うこととする。

(学納金)

第9条 早期修了が決定した場合は、その後の学納金は納付を要しない。

(改正)

第10条 この規程は、研究科委員会を経て、理事長の承認を受けて改正することができる。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。